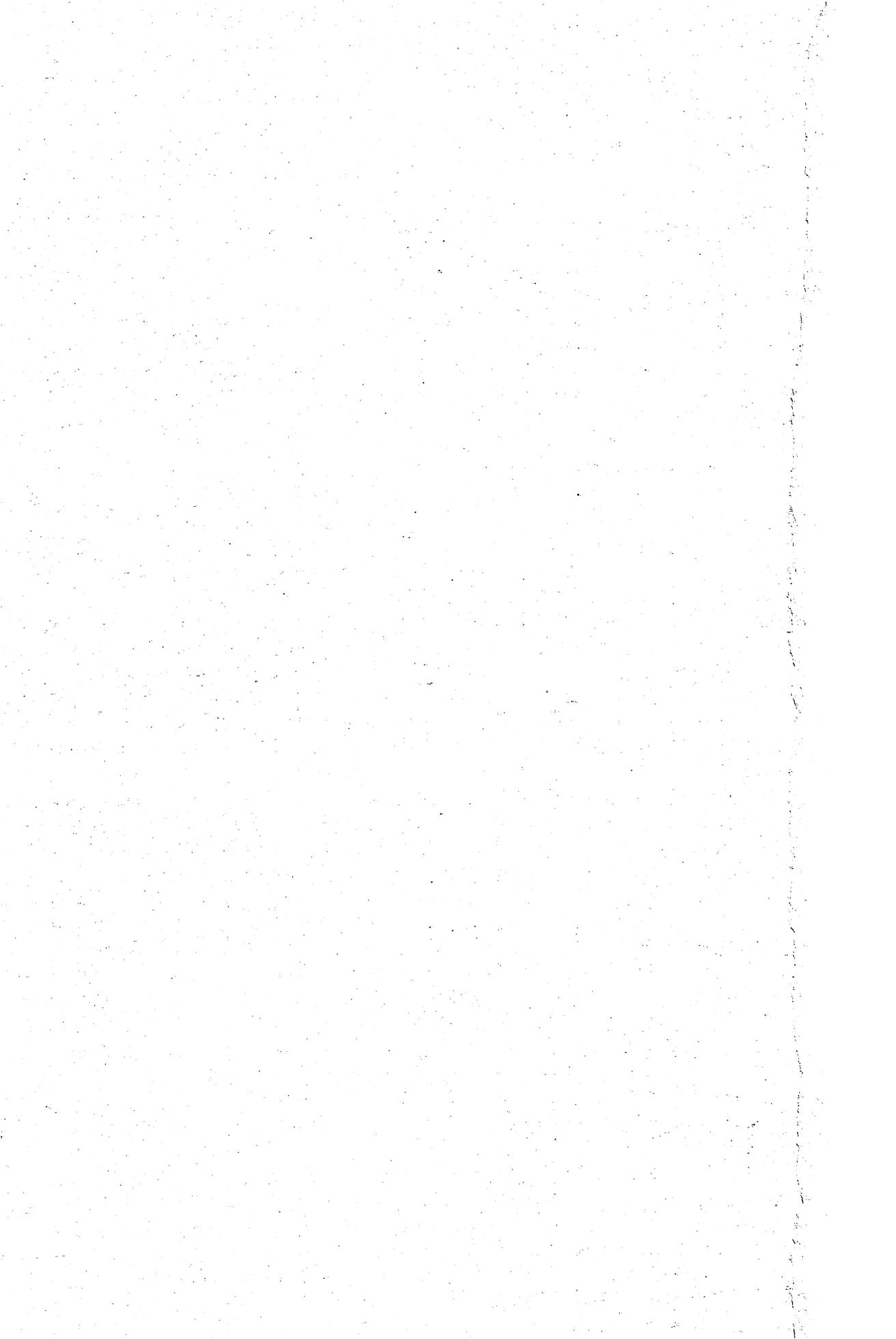


平成五年三月
津山郷土博物館紀要第五号

津山松平藩町奉行日記二

津山郷土博物館



はじめに

津山郷土博物館紀要第五号として、昨年につづき『津山松平藩町奉行日記二』を刊行いたします。

江戸時代、全国各地に城下町が形成されました。そして今日、近世の城下町のおもかげをとどめた町は各地に残されています。しかし、江戸時代にそこに住んだ人々の生活の様子を長期間にわたって書き記した資料は僅かしか残されていません。さいわい津山では、松平氏治世期の大半が『町奉行日記』として残っており、津山城下町に住んだ人々の生活全般にわたって記しています。

当日記は、これまで一部の歴史研究者の方には利用されていましたが、本来多くの方々に利用されるべきものであります。しかし、虫損等によって損傷も甚だしく、保存上から自由に閲覧出来る状態ではありません。したがって、活字化することによって、ごく一時期ではありますが、より多くの方々に利用され、美作地域の近世社会の解明に寄与できるよう願います。

平成五年三月

津山市教育委員会教育長

藤原修己

解 説

町の支配を、藩の方針によって行政と司法面にわたって担当するものが町奉行である。江戸時代の津山城下町は三三の町人町があり、そこには、最多期には一万六五〇〇余人、最少期には六五〇〇余人の人々が生活していた。城下におこる事柄は公私にわたり日常多種多様に及ぶ。本書に収録した宝暦六（一七五六）～八年では、屋敷の質入れ・売買、金銭支払いの滞納、不審火、他所からの商品販売、人別出入、米価の変動等に関する記載が多い。

元禄十一年（一六九八）津山に入封した松平氏の城下町行政は、先藩森氏の組織をそのまま受け継いだと考えられ、町の支配組織にも大きな変化はない。

表①は松平氏治政期の町奉行一覧表である（渡部武『津山町奉行』より）。町奉行は当初二人制であるが、享保八年五月に財政緊縮政策によって一人制となり、さらに宝暦四年からは財政難のために郡代や勘定奉行などの役職と兼任するようになる。幕末には専任の時期もあるが、担任者の老齢・病氣により「受持」という名目で郡代が兼務することも度々であった。

町奉行所は、江戸時代中期では概ね担任者の自宅を役宅としており、奉行が変われば前任者が後任者に書役・同心組や役所の諸道具を引き渡している。

担任者の家禄は不定で役高が付加され、支配下に書役・足軽（後には同心）等が付けられて奉行所の組織を構成している。表②は担任者の禄高・役料等の一例で、表③は奉行支配下の同心人数・扶持高等である。

町奉行の職務や権限については、当資料集『津山藩町奉行日記一』の解説でも述べているように、かなり些細な事柄までも藩の御用所へ報告し、また伺いをたてた後に決定している。つぎはその一例である。

大年寄・御用達・御蔵元の年始挨拶のため登城につき

町人の逐電行方不明につき

酒値段の変更につき

在方医師の城下引越につき

津山城堀沿いの町人屋敷修復のために、堀に足場を設けるにつき

寺院内での芝居興行につき

川渡船通行・船止につき

繰綿不法売買の処罰につき

馬持共例年の大豆拝借につき

造酒株譲渡につき

御用所は、津山城本丸内にあった。概ね三・八・一三・一八・廿三・廿八日を御用日と定め、家老・年寄・大目付や勘定・町奉行・郡代その他主だった役職の者が集まり、諸事協議した。

町奉行統治下で町人町を管理するものが大年寄である。町人の代表として三名が選ばれ、月番制で公務にあたっている。森藩時代から蔵合屋（山口↓蔵合）・油屋（斎藤）・笹屋（佐々木）の三家が世襲しており、元文二年（一七三七）から笹屋に代って太布屋（玉置）が勤める。また、宝暦九年（一七五九）には大年寄の補佐役として諸吟味役設けられる。有力な町人から選ばれ、当初四名後に三名となる。藩からの触れ達しや、町政に必要な事柄等を各町に伝達する役として大保頭がいる。六名が三三か町を六組に分けて担当した。各町においても、一〜二名の町年寄や数名の組頭がおり、日常の公務にあたっている。

表① 津山藩町奉行一覧表

町奉行名	任	免	備考
馬場縫殿右衛門	元禄 一年 二月二日	宝永 六年 一月三日	
植木園右衛門	一年 二月二日	元禄 一年 一月二六日	
入江吉左衛門	一年 二月三日	一年 七月二五日	
植木惣左衛門	一年 七月二五日	宝永 七年 六月二三日	
神谷庄左衛門	宝永 七年 六月二三日	享保 四年 正月二八日	
石丸仙右衛門	七年 六月二三日	八年 四月二五日	
松島儀左衛門	享保 四年 二月朔日	六年 二月一〇日	
馬場喜内	七年 正月一日	一年 九月二六日	
川村源内	一年 九月二六日	二年 閏正月 三日	
村山左仲	二年 閏正月 三日	一年 三月三日	
和田仁左衛門	一四年 閏九月二三日	一五年 三月三日	仮役
馬場縫殿右衛門	一五年 三月三日	元文 四年 二月二日	
江口勘太夫	元文 四年 二月二日	延享 元年 七月朔日	
山田与市	延享 元年 七月朔日	二年 一〇月二八日	
市村番右衛門	二年 一〇月二八日	四年 六月九日	
鈴木喜右衛門	四年 六月九日	四年 一〇月三日	仮役
太田定右衛門	四年 一〇月三日	寛延 三年 七月朔日	
鈴木喜右衛門	寛延 三年 七月朔日	宝曆 四年 七月二八日	
井上弥三兵衛	宝曆 四年 七月二八日	九年 四月三日	
服部弥左衛門	九年 四月三日	一〇年 一〇月五日	仮役

町奉行名	任	免	備考
上原彦市	宝曆 九年 四月三日	宝曆 一〇年 一〇月五日	
佐々木九郎左衛門	九年 四月三日	一年 三月晦日	
大橋源右衛門	一〇年 一〇月五日	一年 八月二五日	
大沢三平	一〇年 一〇月五日	明和 四年 三月九日	
平井半平	明和 四年 三月九日	四年 四月朔日	
井上弥三兵衛	四年 四月朔日	五年 一月二七日	
永井甚大夫	五年 一月二七日	七年 六月二五日	
大沢三平	七年 六月二五日	七年 七月二二日	
栗田唯治	七年 七月二二日	七年 一月一〇日	
平井半平	七年 七月二二日	七年 一月一〇日	
山岡与左衛門	七年 七月二二日	七年 一月一〇日	
清水多橘	七年 七月二二日	七年 一月一〇日	
栗原新五兵衛	七年 七月二二日	九年 六月二一日	仮役
大沢三平	九年 六月二一日	安永 九年 二月二五日	
後藤守助	安永 九年 二月二六日	寛政 四年 六月二二日	
松岡治部助	寛政 四年 三月九日	四年 六月二二日	仮役
増児右門	四年 六月二二日	文化 元年 六月八日	
松岡治部助	五年 六月二九日	寛政 五年 一月晦日	仮役
松岡治部助	六年 八月二八日	二年 八月八日	仮役
三浦十郎左衛門	二年 七月二六日	文化 五年 六月朔日	
江口勘大夫	文化 元年 六月八日		

町奉行名	任	免	備考
三浦十郎左衛門	文化五年正月八日	文化五年六月朔日	仮役
近藤伊左衛門	五年六月朔日	九年五月二六日	
田中 蓑助	九年五月二六日	一一年五月二二日	
小島清介	一一年五月二二日	文政元年一〇月三日	
小島定人	文政元年一〇月三日	六年正月二六日	
大村成夫	六年正月二六日	一一年七月三日	
野条縫殿助	一一年七月三日	天保二年正月二二日	
田 渕 守 助	天保二年正月二〇日	二年正月二五日	受持
増 兒 里 見	二年正月二五日	一三年六月朔日	
稲垣武十郎	一三年六月朔日	一四年一〇月一八日	
内 山 洞 藏	一四年一〇月一八日	一五年正月二三日	受持
馬場五郎平	一五年正月二三日	弘化三年一〇月二二日	
鈴木 仁 作	弘化三年一〇月二二日	嘉永七年八月八日	
三浦十郎左衛門	嘉永七年八月八日	万延元年四月二三日	
北 島 唯 介	安政七年正月八日	元年四月二三日	受持
西尾源右衛門	万延元年四月二三日	文久元年一〇月四日	
山本恭二郎	文久元年八月二三日	元年八月二四日	受持
山本恭二郎	元久元年八月二三日	元年一〇月七日	受持
大村 斐 夫	元年一〇月七日	元治元年八月一四日	
北 島 唯 介	二年一月二八日	文久二年二月二日	受持
増 兒 伊 妻	元治元年八月一四日	慶応二年九月二四日	

町奉行名	任	免	備考
本郷恒右衛門	慶応二年九月一五日	慶応三年三月二日	受持
中 沢 広 江	三年正月二日	四年正月二〇日	
細川唯右衛門	四年正月二〇日	四年正月二日	受持
佐々木勘右衛門	四年正月二日	四年二月八日	
大村 斐 文	四年二月八日	四年四月二八日	受持
大村 斐 夫	四年四月二八日	明治元年二月一八日	

渡部武著『津山町奉行』より

表② 町奉行の俸禄と役料

年号	人名	俸禄	役料	足米
宝永年中	馬場縫右衛門	一三〇石	金一〇両	
文化一〇年	田中 蓑助	一五人扶持	米八俵二斗一升	
文政二年	小嶋 定人	八五石	米二五俵	八俵一斗六升
嘉永七年	鈴木 仁 作	一七〇石		

表③ 町奉行支配下の役名と扶持

役名	文化一〇年	文政二年
書 役	一人 米八俵二斗一升	一人 米六石三人扶持
同心組小頭	一人 米四石二人扶持	一名 米四石二人扶持
同心組	九人 米三石五斗二人扶持づつ	一二名 米三石五斗二人扶持づつ
三軒屋番	二人 米七俵二人扶持づつ	二人 米七俵二人扶持づつ
牢 番	二人 米三石五斗二人扶持づつ	二人 米三石五斗二人扶持づつ

凡 例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫の中から、「町奉行日記」宝暦六年七月〜十二月および同七・八年分を収録した。

一、本文の表記法は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として当用漢字および現行活字体に改めた。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに(ママ)と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

躰 てい ひかえ あつかう か けんか 喧嘩 いんもつ 音物 きびしく 稠敷 またぞろ 又候 やと 与風

5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而(て)、江(え)、者(は)、茂(も)、与(と)は、小活字で示した。

ㄱ(より)は、例外として残した。

6 虫損・破損は、「」でその状態を示した。

7 日記の表紙・奥書等は、その部分を□□で囲み、(表紙)のように注記した。

8 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

津山松平藩町奉行日記二

宝曆六丙子年正月の十二月の至

御用日記

七 井上弥兵衛

七月朔日

御用番 伊達与兵衛殿

大目附 廣瀬半助

町大年寄

斎藤孫右衛門

七月二日 大雨

七月三日 御出席有之候

一馬持共例年通大豆拜借願書差出候但式拾五人老人付大豆式俵宛八月の十一月迄月々御扶持大豆ニ而返納可仕之旨

一京町塩屋新兵衛宿切手出ス大坂北浜大川町錢屋七郎右衛門手代善

五郎小間物懸取罷越候旨

一正米川留之儀先達而申付候最早指免可然哉と勘定奉行中の御用所

へも申上候町奉行申談候様被仰疫候付及相談候処先日大年寄共へも内々承合見申候処下方差支も有之間敷旨申候故今月の指免候旨廻状差出候様ニと以書付大年寄へ相達候

一新魚町村元屋治助先達追込申付置候処内々借米方も筋立候様ニ相聞候付今日指免可申旨相伺候上指免ス

一大目付中廻状来ル殿様御痲瘡ニ 睨之御調不被遊候ニ付御帰城之儀来ル九月中迄御滞府被成度之旨御用番本多伯耆守殿江御願書被

指出候処去月十六日御聞届相濟候而此段為相知候様ニと御用所御差図之旨

一牢屋表門脇堀長三間斗崩倒申候旨番人の注進依之のリ付候様御作事方へ被仰付可被下旨御届申出之

七月四日

一惣町江触書差出ス町方道筋併溝平生念入掃除致候様兼々申付先頃見分為致候得共此間大雨町々溝水拔差支家々へ水入難相聞候溝筋随分念入度々浚可致候尤町内年寄心付水拔悪敷所へ他町ニ而も其段先方へ年寄申通シ町内一統申合不差支候様浚可申候石橋有之所ハ是又又直可申候大溝有之町人ニより溝之内に垣等いたし置候様相聞候ハ、満水ち」あつく懸り差滞候趣ニ候間左様成故障無之様常々心附浚置可申候

一町々道筋近来不掃除相聞候道窪成所へ置石いたし心懸候様町々年寄心付可申候

一家々店有来候外猥に仕出し往来傘杯に当り」之様相聞候右体不埒有之候ハ、咎可申候間右様成義不仕様可申付候

一町方年若者共夜分友達同道いたし町筋徘徊道幅立並と往来之者へ失口成儀有之其上侍屋敷前ニ而大声杯」外成体相見へ候兼々申触候通刀をも指候人江於途中慮外仕間敷候縦百姓町人たりとも相互に道のき可相通候大勢同道いたし法外成体有之申分於候ハ、出来者急度可申付候事とも有之者」得可申聞候

一他国へ罷越候儀願上可罷越候所近来屋号等有之者無願罷出候様相聞候後日相知候ハ、可為越度候

一 先前奉行所^方申触候諸法度之趣申^レ候得^者令荒脚候様ニ相見候前々之^レ申触候趣諸事相背申間敷候事右之通以書付惣町へ相触可申旨申渡ス

七月五日

一 坪井町桔梗屋忠左衛門宿切手出ス京四条通富小路西入町大和屋五兵衛手代治助小間物掛銀取ニ罷越候旨書付出ス

七月六日

七月七日

一 三丁目重屋忠六山城村新平江滯銀及出入大坂御番所^方訴訟相廻り候先月廿一日銀子相渡出入内々相濟申候旨書付差出ス御用所江申上ル大坂御役人中へ右相濟申趣申出ス

一 泉屋伝藏林田治右衛門播州揖東郡新宮町松屋甚藏へ借銀三百五拾匁有之甚藏^方大坂御番所へ訴訟差出候ニ付申来先達而病氣断申出置候へ共内々扱相濟出入相濟之旨書付差出申候御用席へ申上ル大坂御役人中江書状ニ而其旨^レ」

一 新魚町出雲屋治助願備前和氣郡印部紺屋伊三郎と申者当子五十三歳妻五十才右両人私内縁者ニ付引請住宅為仕度旨吟味候上承届ル本證文出ル

一 安岡町作人弥兵衛借屋藤四郎当三月不図罷出罷帰不申候方々相尋候様被仰付候得共行衛相知不申候何方ニ而如何義可致出来難斗奉存候間人別御差除奉願旨御用所へ申上ル

一 牢屋御繕書付番人^方差出候御用所へ申上ル

七月八日 御出席有之候

一来十三日御出席無之旨大目付所^方為知有之候

一盆中拙者町廻り儀御伺申上ル人馬之義大目付中へ申達ス

七月九日

一盆中触書大年寄へ相渡ス

一米相場 御藏米七拾八匁 書付出ス
町米 七拾五匁

一 船持借米古證文差出印形消之候

一 馬持式拾五人拝借米足五拾俵證文奥書致印形遣ス

一 舟持五拾四人拝借米百六拾式俵老人ニ付三俵宛御登米賃米相渡候迄拝借也右奥書致印形遣ス

七月十日

一米相場 御藏米七拾七匁 書附遣ス
町米 七拾四匁

一 茅町作人瀧右衛門願新田村平四郎母のと四六歳罷在候私方へ引請町内人別仕度奉願旨在分承合願之通申付ル瀧右衛門書付出ス

一 戸川町妙願寺家守多助断書出ス私借家へ罷在候作人文六父子式人今度野田玄寿長屋へ引越申度旨

一 安岡町川口屋藤右衛門組合之者^方願出候藤右衛門儀去ル酉歳御断申上江戸表江罷越居申候其後両度追願御断申上候当五月罷帰候筈ニ御座候処今老々年逗留仕度旨奉願度旨申越候願之趣承届ル

一 安岡町作人六太郎願私借屋居申候作人伝七家内四人西々条郡古川村六助方へ由緒御座候付引越申度旨

七月十一日

一米相場 御蔵米七拾五匁 中買書付出ス
町 米七拾貳匁

一元魚町ニ而伊丹屋理□衛門家守八幡屋借屋七兵衛母断出候私忝七兵衛去二月廿九日大坂江罷越行方相知不申候ニ付当月御断申上候相尋候様被仰付方々相尋候得共今以行衛相知不申節早百日ニ相成申候先達申上通之者御座候得ハ何方ニ而如何様之義出来可仕難斗奉存候町内人別御除被成下候様奉願候

七月十二日

一米相場 御蔵米七拾三匁 書付出ス
町 米七拾匁

七月十三日

一例年之通御用席無之候

七月十四日

一例年之通惣町致見分候暮時ニ罷出桶屋町戸川町福渡町宮脇町夫々西安岡町迄帰り坪井町三丁目二丁目元魚町美濃職人町鍛冶町上紺屋町細工町下紺屋町二階町堺町京町東新町迄帰り河原町小性町舟頭町吹屋町新魚町五時ニ罷帰ル供人組者三人揚灯燈持□人御かし人差人牢番非番中間召連其外御貸人出ル翌朝以手紙御用番大目付月番江御案内申遣ス

七月十五日

七月十六日

七月十七日

七月十八日

御出席有之候

一西大番所脇宮脇町西ノ関貫柱腐折候旨断書差出候御用所指上御作事見分候様申上ル

一西今町山手屋長次郎就用事大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ往来廿五日斗逗留罷越申度旨願書出ル

七月十九日

七月廿日

一美濃職人町三好屋三郎兵衛借屋長右衛門伊介与申者不宜沙汰有之ニ付町内預申付候処去十七日長右衛門大家存寄ニ相叶不申義有之請人細工町善左衛門へ長右衛門引越申候旨申出候ゆへ長右衛門義其分伊助義引戻シ三郎兵衛組合ニ番人付置可申旨申渡候所伊助義善左衛門方ニ致逐電相見不申旨申出候尋出シ候様ニ三郎兵衛へ組合ニ申渡ス

七月廿一日

七月廿二日

一錢相場壹匁七拾壹文通用立替申旨申出ル

一宮脇町辻番ニ而昨夜仮番被雇相勤候福渡町すみ屋甚右衛門役介人仁兵衛申者今曉道括り相果申候旨断出候付為検使部屋頭川端又六差出候処弥首括り申ニ相違無之吟味相濟申候ニ付御用番大目付月番江御届申上ル葬勝手次第申付ル

一西新町谷屋庄右衛門当月七日東在つ家方へ罷越罷帰不申所々相尋申候得共行方相知不申猶又所々相尋申旨断書庄右衛門妻ゆき方差出之相尋追而申出候様申渡ス

一林田三町願出候上ノ町悪水抜大溝埋、町方銘々床上へ水上り難義

仕候溝凌之義願出之

一久世広原弁右衛門先達而遣置候舟頭共方筏川下難成趣願書小右衛門殿死去ニ付村々難申渡返却候旨ニ而書付戻ル下方へ相渡ス

一 下紺屋町原田屋助左衛門断書差出ス父理助義大坂江罷越候処不快ニ罷在候而用事相濟不申付今卅日斗日延願出ル

一 小性町西川屋重三郎宿切手出ス備前岡山平野町小嶋屋与右衛門手代長右衛門醬油代取参申候宿仕候旨

一 材木町南側ニ而米屋市太郎家屋敷表式間半裏行拾七間御役半役也西隣大工長七東隣作人与吉右五人組相談之上代銀式百目相極大工太兵衛へ壳渡申度旨本證文出ル

一 米相場 御藏米七拾四勿五分
町 米七拾壹勿五分

一 古道具取壳共願出候私共儀古道具取壳株商売仕候所々株無御座候者共取壳仕候此儀者兼而御停止ニ被仰付候ニ付見懸次第ニ指留候様挨拶仕候得共相止不申迷惑仕候何卒御憐愍之上取壳相止申様御触流奉願之旨書付出ス遂吟味候処先達延年中ニ人数相極請人等取之無左者古道具取壳不致筈ニ相極置候処獲に相成申様ニ存候付願之趣承届候上触書差出ス尤道具屋共へも申渡書付出ス

林田上町 勘七 同宮ノ町 次兵衛 中野町藤原屋 庄兵衛

勝間田町 弥助かし 林田町升見屋 平兵衛 伏見町清助

新魚町嘉助 戸川町助十郎 右者共内々ニ而取壳いたし相止不申旨書付出ス

触書覚

一 古道具屋并取壳先年人数相極請人等申付右中間之外取壳致不申筈申付置候近来心得違右人数之外取壳致候者有之旨相聞候已後古道具取壳商之義堅致間敷候

一 今般中間之外取壳致候者有之難義趣断出候ニ付外々者取壳商不致様申付之粗承候得ハ中間者預り候道具早速代物本主へ相渡不申其品も差戻シ不申数日滯不埒成者有之趣粗相聞候右体之義有之候ハ中間之外へ諸人買壳相頼申様相成義候間已後左様成不埒無之様相互ニ中間へ可致吟味候其上不届成者有之候ハ、可訴出候遂吟味急度可申付候以上 右之通中間者へ申渡ス惣町へも申触ル

一 美濃職人町善七家屋敷同町□右衛門壳渡之願出之裏行拾壹間有之外ニハ拾七間ニ而候所六間ハ内々ニ而先年元魚町方へ譲り申候様と粗相聞候ニ付以絵図両町致吟味申処元来拾壹間ノ裏行相違無之趣相極ル

一 京町福井友節後家断出候先達御断申上候友節宮部村与兵衛方へ罷越居申盆前ニ病氣ニ付罷帰り昨廿一日相果申候旨断出ル

七月廿三日

御出席有之候

一 美濃職人町七右衛門粹不将風聞御座候遂吟味申処去十七日逐電致候由申出之相守候様申付置候旨御用所へ申上ル

七月廿四日

一 三軒屋番人申出候今日番所御繕有之由申出候

一 米相場 御藏米七拾五勿五分 書付出ス
町 米七拾壹勿五分

一 堺町吉田屋喜八二丁目尻馬屋宇吉兵衛右両人往来之諸家中泊宿申

付苦相極ル依之為手当宿屋株差免候是近来旗籠及困窮待中宿勤候様成者無之每度差支出來此節御物入之義も難申立依之吟味之上右兩人左之通申付之

近来雲州其外往來之諸家中當町一宿之節旗籠屋差支每度町々江申

付候処平生右宿差支候砌諸士之分其方共兩人方ニ而相勤候様可致候右ニ付宿屋株兩人江為「」差免申候尤宿屋頭江も此段申付候旨帳面ニ印形相調差出可申候此後其方共宅替致候共馬借近辺離不申様ニ相心得可申候已來念入無滞相勤可申候右大年寄斎藤孫右衛門宅ニ而申渡ス

七月廿五日

一 小性町西川屋重三郎宿切手出ス備前岡山片山町大和屋清右衛門代徳三郎老人例之通醬油懸取ニ罷越宿仕候旨

七月廿六日

一 橋本町西田屋平七と申旗籠屋へ元西新町升屋市郎右衛門借屋居申候左助と申者去二月ニ罷出無宿様罷在候処去ル十八日ニ平七方ニ罷在候旅僧持参候草物帶かり早速返し不申依之右僧役所へ訴出候依之遂吟味申候所不埒義共ニ付西田屋平七追込申付候左助義ハ御領分追込申候於拙宅申渡シ手鎖懸院庄御境同心組見届罷歸ル平七ハ六年寄宅ニ而小頭差出以書付申渡ス

惣旗籠江茂兼々申渡候通旗人二夜泊堅為致申間敷旨申渡ス尤頭々申渡ス

七月廿七日

一 在分人牢者牢家ニ而吟味有之ニ付同心老人指出ス

一 東新町橋本屋甚左衛門三輪屋文助大坂榎木町玉子屋九兵衛方へ罷越三十日逗留願出ル

一 中ノ町乙子屋重治大坂大川町金岡屋伊兵衛へ三十日逗留罷越度旨

七月廿八日

御出席有之候

一 橋本町西田屋平七無宿左助取斗委細御用所ニ申上ル

一 新魚町塩田屋孫三郎願私借屋居申候「」粉屋文六与申者当子四拾歳妻娘妹家内四人西々条郡円宗寺村助兵衛申者方江引請可申旨申候付町内人別御差除可被下旨

一 京町岩佐孝順断出候私借屋御使組草苅清内借申度旨申候付借申度旨

一 東新町茶屋五郎兵衛借屋市右衛門今度林田村文右衛門借屋江引越申度旨町内人別御差除可被下候閏十一月十三日願之通申付ル

一 桶屋町社男信濃儀去ル十三日ニ近在江罷越罷歸り不申所々相尋候得共行方相知不申候御断申上候尤寺社御奉行所へ御断申上候養母土佐後家方書付差出ス尋候而追而断出可申旨申渡ス

七月廿九日

一 米相場 御蔵米七拾七匁 中買書付出ス
町 米七拾四匁

七月晦日

一 類族宗門改帳差出ス

一 美濃職人町三好屋三郎兵衛借屋ニ罷申候長右衛門粹伊助義去ル十七日ニ長右衛門細工町江吉二郎方江引越候節方伊助相見不申所同廿日ニ町内江御預被遊候ニ付其節右之段申上候所尋遣候様ニ被仰

付奉畏此間方々相尋候得共行衛相知不申候此上弥相尋可申候今日迄相知不申ニ付御断申上候旨申出ル永々尋ニ申付候間年経候共居所相知候ハ、可申出候旨申渡ス

一 美濃職人町ニ而福永屋加右衛門借屋塗師長右衛門義去ル四月八日不斗罷出帰不申候付御断申上相尋候様ニ被仰付所々相尋候得共今以行衛相知不申候町内人別御除可被下旨申出ル御用所へ申上ル

一 上紺屋町西川屋嘉助西々条郡大町村惣右衛門娘さの廿七歳私内縁者御座候ニ付引請申度奉願旨

八月朔日

御用番佐々木内膳殿

大目付鈴木喜右衛門

町大年寄月番

藏合孫左衛門

一 桶屋町源六与申者町内割方去十二月分未差出不申依之年寄方呼今夕中指出可申旨申渡候得者段々対年寄法外不礼成義共有之付無扨以書付断出之依之御用所御伺申上候而今日手鎖申付組合ニ預ル

八月二日

八月三日

御用席有之候

一 橋本町西田屋平七追込申付置候今日指免之旨大年寄へ申遣ス兼而不宜趣相聞候已後随分詫可申候母江孝行可致之旨申渡候様申遣ス御用番大目附所御届申達候

一 昨夜廻り笹井全内罷出申聞候鍛次町五郎兵衛宅表ニ而而笹太鼓ニ而はやし申候付大勢見物等も有之候間相止可然旨申聞候由断出ル

一 牢番共罷出申聞候趣小頭平兵衛が申聞候

一 宗門改帳磯野平太宅へ為持遣之案詞帳戻ス

八月四日

一 昨夜二階町三保屋十右衛門借屋者病氣ニ而表さき往来人立留り致見物候故廻り組者ら追払わせ申候灯燈し罷出候様申付ル

一 西今町紺屋太兵衛伯州三朝へ入湯廿日斗願出ル

一 同心組神田権兵衛倅無御座ニ付勝部村百姓治兵衛与申者養子仕度旨年廿八歳罷成候

一 吹屋町中市屋善七太坂浜屋橋梶木町安倉屋長兵衛方迄廿日逗留罷越度旨

一 宮脇町徳守宮地子居多津屋重吉願出候大坂順慶町四丁目銭屋三郎兵衛方江当子ノ八月が来ル丑八月迄手代奉公ニ罷越度旨承届ル

八月五日

八月六日

一 堺町米屋七郎右衛門大坂江往来廿日逗留罷越候

八月十二日 罷越候旨断出ル

一 美濃職人町ニ而二丁目福永屋加右衛門借屋居申候善兵衛与申者去ル六月廿八日罷出行衛相知不申旨断書出ス尋候様申付ル

一 美濃職人町ニ而三丁目草津屋茂市借屋居申候河内重兵衛と申者七月廿九日罷出行衛相知不申候旨断書出ス尋候様ニ申付ル

一 元魚町伊舟屋理右衛門弟安右衛門入湯断書出ス

八月七日

一 材木町仕立屋清八大坂江罷越候断書出ス

八月八日

御用席有之候

一 桶屋町源六手錠差免可申旨御伺申上候今日大年寄宅ニ而川端文六

藤森権六差出已後万端相詫申様ニと申聞手錠指免ス尤御届手紙遣

ス指免シ申渡ハ九日也

八月九日

一 米相場 七十五匆 書付出ス

七十式文

一 二階町山手屋弥右衛門赤穂森和泉守殿御家来辻庄内与申者罷越八

日程逗留届ケ申出ル

一 新魚町方ふきや町通筋土橋及破損候之旨書付出ス差懸候趣ニ相聞

候間大目付中へ先申遣ス

八月十日

八月十一日

一 西今町住屋新兵衛大坂江罷越候願書出ル

一 坪井町長門屋惣兵衛京都罷登候断書出ス

一 米相場 七十匆 中買書付出ス

六十七匆

八月十二日

一 龜菊様押入辺江被遊御出之旨隅田族申来候京橋御門方町通り御先

払差出候町分掃除申付候暮時迄御帰被遊候

八月十三日

御用席有之候

一 米相場 御蔵米六拾八匆 中買書付出ス

町 米六拾五匆

一 八幡宮万人講世話焼新魚町河本屋文四郎同町平田屋伝治右両人方断書出ス御用所へ及御沙汰候

一 戸川町天川屋助七郎願出ル元魚町久本屋平七只今迄古道具取売仕候処不勝手ニ付右商売相止メ申候右ノ跡私古道具屋取売仕度奉存候遂吟味願之通申付ル

一 安岡町神月屋九郎兵衛持午病死取拾候願申出ル

一 勝間田町福永屋藤左衛門家屋敷南側表口五間裡行拾七間御役本役東隣苧田屋孫七西隣八桶屋勘六ニ而御座候右家五人組相談仕代札四百目相極町内苧田屋源右衛門江売渡申度旨式丁目福永屋藤左衛門願之通申付ル本證文出ス

八月十四日

一 下紺屋町山形屋惣兵衛願出候真嶋郡郷原村福本屋利兵衛忪惣右衛門年三十才同妻廿六歳同人粹二歳以上三人私内縁之者ニ御座候ニ付此度私引請御当地ニ住宅為仕申度候旨請人町内米屋九兵衛罷立候由承届ル

八月十五日

一 東新町小兵衛断出候私娘しな拾六歳罷成候去五月六日一家共罷越罷帰不申方々相尋候得共行方相知不申候ニ付御断申上候猶々相尋候様申渡ス

八月十六日

一 二階町嶋屋藤吉例年之通播州加古川市右衛門申者老人細工手伝ニ

呼越十二月中頃迄差置申度旨

八月十七日

一 小性町西川屋重三郎宿切手出ス勢州白子村形屋仁左衛門手代庄右衛門形完罷越宿仕候旨

一 河合友益弟三益此度京都中立売西洞院中道端方江当八月六寅歳迄三年之間逗留為仕度旨

一 西新町樽屋勘右衛門断出候悴和助先達身延山并千ヶ寺參詣仕年月相續候付度々御断申上候処昨夜罷帰候付断書出ス

八月十八日

御出席有之

八月十九日

一 三丁目濱野屋宗助大坂本町小橋本四郎兵衛方へ商売体ニ付廿日斗逗留ニ罷越申度旨

一 大目付所々廻状到来大納言様御簾中様今般御出生之姫君様千代姫君様与奉唱候之旨為御知有之町方相觸候様以書付大年寄へ申渡ス
一 万人講割合相認ちらし書付差出之

八月十九日

一 安岡町米屋重右衛門願出候此度上田邑安養寺見世物私世話相頼申ニ付世話仕度旨申出候

八月廿日

八月廿一日

八月廿二日

一新魚町わら屋茂兵衛同町北側家屋敷表四間裏行拾貳間但し本役也
東隣者海田屋伊助西隣者かと屋七左衛門五人組相談之上町内うを

屋次郎左衛門取次ニ而質物書入銀札貳百目来丑ノ三月切月貳歩ノ利足ニ而借用仕度奉願候旨承届本證文出候

一 小性町田戸屋惣十郎宿切手出ス筑前遠賀郡柏原浦小平治手代金次郎例年之通茶碗類風売ニ罷越候旨

八月廿三日 御出席有之候

一 御年貢町払外払御停止之御触書渡候則写大年寄へ相觸候様申渡ス
一 西新町ニ而佐和屋儀右衛門借屋ニ居申候吉井屋権八と申者家内三人林田村源助借屋江引越申度旨願出ル廿八日願之通申付ル

一 安岡町久米屋清八持牛相果之取捨之義断出候勝手次第ニ申付ル

八月廿四日

一 安岡町市場屋六兵衛願出候私悴八左衛門与申者當子貳拾七歳ニ罷成候兼而不所存者ニ御座候付親類打寄異見加へ候得共相用不申我俣働不届者ニ御座候七月廿八日ニ罷出只今ニ至迄居所相知不申候於何方「」様義出来可仕難斗奉存候此度一家者共義絶勘当仕候度奉存候奉願候通被為遊聞召御許容奉願候旨親類鳥屋利兵衛生錦屋藤助加印

一 米相場 御蔵米七十匆 中買書付出ス
町米六拾七匆

八月廿五日 御出席有之候

一 今般御出生被遊候千代姫君様御名若殿様仙千代江差合候付御改号被遊光丸様与御付被遊候依之為御祝今日御帳付諸士登城候尤御用席有之候

一 於御列座御用番佐々木内膳殿被仰聞候者町方裏通り御堀有之町家

者裏崩崩不申様致若不沙汰ニ捨置候得ハ右家屋敷御取上被成候御立ニ候間兼而存候而も可有哉申聞候由被仰聞候其内安樂院居申候塀及大破申様相見候間心付候様ニと被仰聞之

一 大年寄ニ申渡候安樂院裏ニ竹植置申候先達取捨申候様ニ被申付候弥取捨申候哉承可申候塀大分痛相見申候直様各々氣を付申聞可然候惣休御堀請居申候家屋敷右之趣触守可申候得とも先安樂院へハ申渡為直可然旨申聞ル

一 京町丸屋才吉御当地之人別離大坂高麗橋筋岡田植元方引越申度旨先日相願引越之本證文差出ス

一 若殿様御改号之差合名光ノ処三つと申名相止申様町々年寄江自大年寄申達候様申付ル急度触書ハ出不申事先格ニ相見候間右之通申渡ス

一 米中買共願出候者御切手大小豆外方之者罷出口入不仕候様先年御歎申上御聞届御触流被遊被下候処近来猥に罷成馬持式步中買共罷出御切手類商内仕迷惑仕候一切取扱不申候様被仰付被下候様奉願候并正米他所參候者宿々口銭取置候而馬持共相願買取申候見附次第ニ口銭取申候得共拔多難義仕候林田出米他所舟持參正米と塩と替事ニいたし申候是迂も難義仕候馬持式步者一切御切手類ハ取扱不申様被仰附被下候ハ、難有旨願書出ス依之大年寄得遂吟味申候処米類ハ馬持式步取扱不申筈之由先年人数相極候節申渡候節も正米切手大小豆ハ免し不申儀故中買共願之通差留遣候而可然義と別紙之通馬持式步者共并米買問屋共へ以書付申渡ス中買共も惣身重ニノ口入之世話も不働候処右之通事と被存候間此已後ハ隨

分身輕ニいたし米調候者難義相成不申様可致之旨申聞候様申渡ス
九月八日ニ申渡書付ハ同所有

八月廿六日

八月廿七日

八月廿八日 御用席有之候

一 田部村万福寺来歳二月開帳致候付東西橋ニ建札願出候間為建候様御用所被仰渡之

一 於對談間御用番内膳殿江御窺申上候林田三好平右衛門元屋敷并組屋敷五軒此分御払地被仰付可被下候旨ニ付山本屋与左衛門と申者相望申候勘定奉行中へも對談仕候不免地仕町分江相渡申義ニ付為念御窺申上候旨申上ル先達而御評義濟居申候間町分江引渡候様被仰付与左衛門願之通ニ承届ル代米百五拾俵当十一月中村替切手ニ而致上納申筈ニ候相願候

一 伏見町栖卷屋平助正銀四拾老勿六分致通用候之旨先例之通過料之上追込可申付旨於御列座被仰渡候大年寄へ申渡ス尤申渡相濟候段御届申追ス

一 新魚町かと屋源助大坂本町光好四郎兵衛方江当子ノ歳方己之歳迄六年切ニ奉公相勤申度奉存候私所持之家屋敷ハかと屋喜ハ方町用之儀相勤申候旨承届ル

一 船頭町片田屋武助方源六江取替銀滯返濟申付相濟候旨斷書差出ス
一 桶屋町作人伝八家屋敷西側ニ而表口式間裏行拾老間半御役半役也
一 北隣箱屋次兵衛南隣ハ作人金十郎ニ而御座候右家屋敷代銀札百目相極元魚町藤野屋半次江売渡申度と奉存候尤右家屋敷何之故障無

之旨承届ル

一京町塩屋新兵衛宿切手大坂北浜銭屋七郎右衛門手代庄兵衛老人例
之通小間物懸取ニ罷越宿仕候旨

九月朔日

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目附 市村番右衛門

町大年寄月番

玉置忠兵衛

一玉置忠兵衛願戸川与一郎殿領分備中国都宇郡早嶋之庄前波村油屋
惠左衛門娘つな当子十七歳罷成候少々由緒御座候付私親源五兵衛
養女貫請私妻仕度奉存候旨願書出之先格之通承届勝手次第ニ申渡
ス

九月二日

一 米相場 御蔵米七拾式匆
町 米六拾九匆

九月三日 御用席有之

一雲州大原郡南加茂村次郎右衛門与申者西国巡礼罷出候処道中ハ病
気元魚町ニ而病氣重り歩行難成国元江村送り仕呉候様相頼申候付
遂吟味申処雲州方等も名面申之村所庄屋名面も申付無相違義故送
り遣候様申渡ス右昨二日相送り候旨御用所へ委細申上ル尤昨日手
紙而御届申上候

一 成道寺万人講被仰付候ニ付建札之義願候ハ、勝手次第ニ為建可申
旨御用所ニ而被仰渡候東西橋へ建可申旨大年寄へ申渡ス

一 伏見町栖卷屋平助追込差免候義願御親申上相済

一 新魚町平田屋伝治河本屋文四郎今度八幡宮万人講世話焼致候ニ付
先達願書願書差出承届之依之一札差出ス文言ハ諸願留之候

九月四日

一 万人講場所引渡郡代下代罷出候付小頭石名平兵衛部屋目附川端又
六差出役所場所等之義見膳候様申付ル

九月五日

一 伏見町栖卷屋平助追込今日指免ス大年寄へ申渡ス御用番大目付月
番江御届手紙遣ス

一 玉置忠兵衛親源五兵衛養女願承届候而同役蔵合孫左衛門へ申遣之

九月六日

九月七日

一 美濃職人町ニ而三丁目草津屋茂市借屋罷在候河内屋重兵衛先達七
月廿九日ニ与風罷出相帰不申旨断書差出申候処参宮仕罷帰度断書
出ス町内年寄ハ呵候様ニと申渡ス

一 二階町三保屋十右衛門借屋へ安藤鞠負殿下屋敷ニ居申候森広安兵
衛借請役介人志げと申女差置申度旨断書出ス

一 伏見町作人太郎兵衛借屋へ御使組菱川伊右衛門借り申候付用立申
度旨

九月八日 御用席有之候

一 宗門帳直出来磯野平太江為持遣ス

一米相場 御蔵米六拾六匁
町 米六拾三匁

一 式步中買馬持共へ申渡之覺

其方共商壳体取扱之品先達而相極有之候処近来御蔵切手并正米
取次候様粗相聞候前々方米中買共致来り之義其方共可致筋ニ無
之候此已後米切手正米之類弥以取次致間敷候万一定り候義相背
族有之候ハ、可為越度候間旨可得相知候以上

米買問屋へ申渡ス

御蔵切手并正米取次之義前々方米中買共取次致来り候事候然所近
来式步中買馬持共取扱様ニ粗相聞候ニ付取扱不致候様申付置之其
方共義米買宿屋致候義候間不筋之義無之様取斗米買売之義ハ米中
買取次ヲ以商売可致候此段相定り候事候得共為念申渡候其旨可得
相知候

米中買共江申渡ス

一米大豆売買口入之義外者共取扱申候付難儀之趣断出候間今般馬持
式步者共へ取扱不申様申渡候并米買問屋へも右訳申渡候其方共近
来身持重り口入不働成所方外方者諸人相頼申様粗相聞候此已後随
分身輕かけ走り米調者共之差支ニ相成不申様相勤可申候方一指支
筋於出来者吟味之上外方之者へ可申付候間申合出精相務可申候以
上

九月九日

一 大隅宮祭礼例年通同心組四人差出ス

一 福渡町南側羽織屋藤左衛門家屋敷表口四軒裏行拾七間但本役之東

隣中村屋忠三郎西隣者井口屋庄助ニ御座候代札百式拾匁相極同町
井口屋庄助江売渡申度旨本證文出ル

九月十日

一 宮脇町福松屋吉郎兵衛家屋敷去七月升屋喜兵衛取次ニ而質物書入
申候処元利返済家請返シ申候旨断書出ス尤喜兵衛印形有之候本證
文戻シ追ス

一 牢番中間定平病身ニ付番代相願申候代り一方村文四郎と申者差出
ス尤願書ハ御中間頭へ為相願人之義ハ此方ニ而遂吟味申付ル今日
文四郎罷出初而達申候諸事念入相勤可申旨申聞候

九月十一日

一 式丁目三輪屋源兵衛北側家屋敷表口三間裏行拾七間御役半役之西
隣粟屋我助東隣ハ松岡屋与惣ニ而御座候代札三百五拾目相極同町
作人権七江売渡申度旨承届ル本證文出ス

九月十二日

一 小性町田戸屋宗十郎宿切手紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代彦
三郎新吉庄吉以上三人桝折敷おろし売參候致宿候旨

九月十三日 御出席有之候

一米相場 御蔵米六拾七匁五分 中買書付出ス
町 米六拾四匁五分

一 安岡町栗原屋長右衛門家屋敷打穴屋右助質物ニ書入候処今度返済
家請戻シ申候旨断書差出ス本證文戻ス

一 安岡町久米屋藤七願出候寺元村勘兵衛方清兵衛三十三歳罷成候私
養子貫引取申度ニ付在中承合願之通聞届ル

九月十四日

一 藤堂斧千代様与右衛門様与御改名被成候付指合名相改可申旨大目付中方廻状申来則大年寄へ申渡惣町へ相觸候右御名ニ指合申者相改申旨申遣候

九月十五日

九月十六日 大風 末中刻方北風吹

一 鍛冶場前舟渡留申候旨断出御届申上ル

一 堺町古金屋長兵衛倅平助与申者同町藤屋孫市と申者ニ打擲ニ逢申候旨断書差出候孫市為致吟味口書大年寄方出ス

一 宮脇町福松屋吉郎兵衛北側家屋敷表口六間裏行拾老間御役五歩之所西隣高平屋文右衛門東隣者阿賀屋助兵衛ニ而御座候右屋敷裏有来ノ立物共ニ質物書入来丑ノ五月切老貫六百目借用老月式步宛相極福渡町升屋喜兵衛取次ヲ以借用仕候度旨承届ル本證文出ル

一 安岡町栗原屋長右衛門南側家屋敷表口式間半裏行拾式間半御役半役也東隣ハ扇子屋惣右衛門西隣ハ取鳥屋和兵衛石家屋敷銀札式百四拾目相極茅町江庄右衛門江壳渡申度旨承届ル本證文出ス

一 茅町吹屋甚左衛門持牛相果申候付取拾度断出候間勝手次第申付ル
九月十七日

九月十八日 御用席有之

一 鍛冶場舟渡致通舟旨申出候御届申上ル

一 徳守宮就祭礼平兵衛権六孫八左五兵衛罷出ル

一 玉置忠兵衛材木屋市右衛門家守組屋平七出雲屋次助觀寿院右者裏

通り御堀江足代下ケ申度旨断出ル御用所へ申上ル大目付所へ申達ス

一 牢屋所々塀倒申候旨断書牢番方差出ス御用所ニ申上ル

一 牢番人居宅屋根痛断書是又差上ル

一 同心組神田権兵衛室井作右衛門家潰申候ニ付大目付所へ申達ス

一 御列座ニ而被仰渡候唐抜荷物之儀於公儀御吟味有之候町方へ相觸

遂吟味候而疑義有之候ハ、可申上旨依之以書付大年寄へ申渡ス尤町々々書付差出候様申渡

一 内方鉄五郎殿方御家老申書状江大年寄方届有之候

九月十九日

一 徳守宮祭礼警固小頭平組四人差出ス無滞相濟大目付月番へ手紙ニ而届申遣ス

一 勝間田町元三屋小左衛門就出事播州姫路廿日斗逗留罷越度旨

九月廿日

一 三丁目浜野屋宗助父彦江大坂松屋甚兵衛方へ廿日斗逗留罷越度旨願出ス

九月廿一日

一 二階町鳥屋左助宿切手越中富山河原町松井屋左兵衛手代和兵衛江丹売参候旨

九月廿二日

一 堺町藤屋孫市へ申渡ス

其方儀同町古金屋長兵衛倅早助へ米代致不埒催促ヲ請悪口申ニ付世上江濟致理詰及喧嘩早助ヲ致打江右難濟義ハ訴出可得裁許

「無其義以私意理無尽ニ令打擲候段事工候致方重々不届至極候
依之手錠申付者也

九月廿七日
九月廿八日 御用席有之

右大年寄王置忠兵衛宅ニ而小頭石名重兵衛差出廻り平組兩人罷
越手錠申付ル尤御用席へ先達而御伺申上置今日御届申遣ス大目
付中へ申達ス

一 諸月番登城当春御借被成候上米分当十月御免被成候旨御用番被仰
渡候為御礼御用番斗江廻ル
一 万人講拝借道具

一 相手塚町古金屋長兵衛俸早助義追込申付ル申渡右同所
九月廿三日 御出席有之候

高灯燈 大文字三ツ はつひ 式十
付
台共ニ

一 於御列座被仰渡候来月十五日「万人講致奥行先格之通諸事」
警固者差出可申旨被仰渡「鈴木喜右衛門吞込罷在候旨

寄棒 三拾本 箱番所 三組

一 京町「屋平兵衛裏御堀江足代下シ申」御用所江申上ル大目付
所申達ス

早繩手「是ハ大目付所へ不申達之
右之通大目付中へ書付指出ス

一 橋本町断出候宮川橋「十五六枚」取上置申候旨御作事方へ申達
候

一 大笹東「人潰家難儀趣申達ス
一同心石名左五兵衛拝領屋敷半潰罷成候」崩置申度旨大目付中へ
申達ス追而挨拶可有之旨

一 米相場 御蔵米六拾六匁 中買書付「
町 米六拾三匁
九月廿四日

一 西新町山伏吉祥と申者村立切手「捨申旨米老倭子納」十四吉原
子九月廿四日

一 西大番所脇宮脇町貫拔倒申候之旨申出候
一 元魚町海老屋長右衛門宿切手出ス京四条通烏丸東入町ニ文字屋清
兵衛手代治兵衛嘉兵衛倒之通呉服并扇子嵐壳參候旨

一 西新町西屋又右衛門願小沢又右衛門家来福田五郎右衛門申者ニ借
屋賃申度旨尤出入奉公相勤申者之由遂吟味申候処家内共ニ小沢又
右衛門家来候由申候付承届ル

九月廿五日

一 備中笠岡作州之内御預り御代官内方鉄五郎殿廻村ニ而御城下通行
御先払「町方掃除申付候

一 東新町坂口屋長助家屋敷北側ニ而表口三間裏行拾七間御役五步役
東隣ハ加治屋善右衛門西隣者加治屋勘四郎ニ而御座「五人組相談
之上代札六百目相極同「高原屋甚七江壳渡申度旨承

九月廿六日

一 右御同人東都方罷帰候付御先「

一 西新町吉祥ひろい切手古川村左平「落申旨郡代所ニ断出候卯相違

無之付定之通遣請取渡様申渡ス

一舟頭町今津屋伊右衛門醬油古瓶拾「」主林田町かとや太郎右衛門
右備前西大寺川下ケ申度旨願出承届ル

一小性町西川屋重三郎宿切手備前岡山「」町中嶋屋久六元詰売参宿
致候旨

九月廿九日

一米相場 御蔵米六拾五匁 中買書付出ス
町 米六拾式匁

十月朔日

御用番 伊達与兵衛殿

大目附 広瀬半助

十月二日

十月三日 御用席有之候

一鍛冶場舟渡就満水留り候旨申来御届

十月四日

一倉敷御代官藤本甚助殿御城通行町分掃除申付先払兩人差出ス

一西川大久保出羽守殿代官カ十月米相場「」頼来ル相応之返書ス

一大目付市村番右衛門被申渡候御書付「」

今般寺社万人講被仰付候然所先「」万人講有之節も入用多建立

之「」に不相成趣ニ候間今般者随分心を付遺物等一切不仕候様

ニ寺社「」申渡候間正物者不及申酒肴ニ而も受納仕間敷旨兼而

被仰出候得者猶又此已後共ニ左様之義無様に同心組且又下代足
軽とも江可被申渡候

九月

一万人講ニ付伏見町材木町辺ニ銀札小売場申付被下候様ニ致度旨願
書差出候勘定奉行中江其旨申達ス

一細工町新六家守藤右衛門願出候私借屋作人太助大坂梶木町天王寺

屋儀右衛門方へ当子カ已迄六ケ年間奉公罷越母召連罷登り申度旨
承届ル

一小性町西川屋重三郎宿切手江州神崎郡新堂村嶋屋新平きせる墨筆

おろし売に罷越宿仕候旨

一右同人宿切手備前岡山野田屋町石出屋清右衛門元結おろし売参宿

仕候旨

十月五日

一鍛冶場舟渡致往来候旨申出届「」

十月六日

一上紺屋町南側東角中津屋伊右衛門家屋敷表口六間裏行五間御役四

歩西隣「」今屋伝助南隣者商人喜兵衛ニ而御座候代銀札八百目相極

坪井町桔梗屋「」江売渡申度候旨本證文出ル

一東新町米屋伝七借屋江林田村弥三「」借屋ニ居申候茂八と申者家

内式人私借屋へ差置申度旨

十月七日

十月八日 御用席有之候

拙者不快不能出候

一 万人講拝借道具今日受取溝元へ相渡候

御幕 三張 御使者中より受取拙者手形出ス

三ツ道具老組 大文字付木綿法皮式十

寄棟 三拾本 高灯燈 三組台共

右之通小勤者中へ申達シ小頭受取書出ル

箱番所 三ツ 御作事方ニ而小頭手形出ス

一 万人講当日銀札小売場講元「」勘定奉行中申談候所今日材本町三

家屋孫三郎江申付候旨銀札場奉行中より為知有之候尤前日方

一 町方漬家之書付船頭町作人与三郎福渡町大工忠右衛門

一 倉敷御代官藤本勘助殿手代長谷川「」十月十五日方晦日迄之米相

場書頼来

一 橋本町朝本屋兵助すみや文助紺屋町清水屋甚右衛門橋本町難波屋

嘉七右四人先達而借物出入返濟方大年寄より日切申付置之不埒ニ付

元來町内ニ而割合いたし趣而以大年寄而申付筋旁以不届候依之今

日於大年寄宅小頭差「」急度呵申渡当月廿日迄不埒明へハ廿二日ニ

御呼出遂吟味申上候而稠敷咎可申付之旨申付ル

十月九日

一 万人講非人加廻り十四日十五日相廻シ候様ニ申付ル十五日昼御家

中屋敷前も「」端ニ相廻り候様申付ル

一 十四日十五日夜町々申合廻り可致旨申渡ス昼八年寄式三町宛申合

相廻り可申候旨申渡ス

十月十日

一 船頭町土手勝南郡飯岡之者三十年已前より徘徊いたし候処当時親類

宿「」昨夜相果居申候旨注進申出候ニ付組者川端又六為檢使差出遂

吟味申処疵等無之弥無宿行倒病死相違無之候一札差出候依之非人

小屋より取捨申候様大年寄ニ申付尤御用番大目付所御届手紙遣ス

一 坪井町桔梗屋忠左衛門宿切手紀州高野山万生院使僧快尊と申僧上

下式人例之通罷越宿仕候旨

一 橋本町朝本屋藤治願御使組尾崎「」内縁御座候付役介致呉可申旨

申候付私老人罷越申度旨家屋敷ハ弟十五郎諸役相勤させ度旨承届

ル

十月十一日

十月十二日

一 御藏米相渡ル書役川端田六只今迄老人ふち遣来候処来丑正月ふち

より老人増式人ふち可遣旨申渡ス尤只今迄右之分組者手当遣有之候

一 万人講来十五日視川原而有之候其節「」ハ申不及下々迄不參様御

用所思召候旨廻状小頭へ申渡夫々申達候様申付ル

十月十三日 御用席相延ル

一 詰場役所為見分小頭石名平兵衛差出ス郡代下代日下左助罷出ル

一米相場 御藏米六拾三匆 書付出ス

一 勝間田町元三屋小左衛門先達而姫路「」願罷越候処今十二三日斗

留断出ス

一 福渡町中村忠三郎借屋居申候勘「」并神崎猪助殿長屋引越申度旨

承届

十月十三日

一 堺町孫市手錠申付置候処「古金屋早助」体ニ相聞候付今日伺之上阿差免ス於大年寄小頭差出申渡ス平組老人差出ス

十月十四日 御用席有之

一 牢舎人仕着之儀相伺候而相調遣「小頭江申渡ス

一 東部千代姫君様御誕生之御祝儀「仕度旨座頭共申出ル御用所カ申上」可被下旨被仰渡候

一 中ノ町乙後屋幸助明後十六日大坂大川町金岡屋伊兵衛方へ罷越度旨仕来十五日逗留願書出ス

一 入牢乱心女仕着之義先達願候町内美濃職人町江相調遣候様ニと申付ル

十月十五日

一 於靚河原八幡宮万人講興行依之五時過町奉行郡代兼役井上弥三兵右仮役勘定奉行天野郡太寺社取次磯野平太御徒「三浦十郎右衛門下目付小頭安井左助平組之者老人郡代下代日下左助警固同心」九人外小頭老人平組之内式人御使粗「人大年寄老人一宮触中庄屋老人庄屋老人右面々罷出ル寄札老万式千四百貳拾老枚」六十番割突読人高尾屋藤助福「九時カ勘定九過ひひる壳留ル八時カ突始ル七ツ時迄ニ廿六七番迄突暮」相濟婦懸ケ御用番へ御届申罷「宮川橋脇ニ而承届ケ夫カ罷帰候大目付中月番へ手紙ニ而届ル罷帰少シテ日暮ル銀札渡場へ同心兩人差出ス

一 石原小左衛門殿元御代官所御銀納御銀荷物「町一宿先払町々保頭出ル宿前大文字高灯燈燃し候

十月十六日

一 残申候札主相知不申処為相渡「前格之通小頭老人郡代下代差遣ス

一 銀札渡場へ同心組兩人差出ス

十月十七日

一 龜菊様杉山江被為入候御先払「組兩人差出ス暮時前ニ御帰」

一 東新町小兵衛断出候私娘しか当三月不斗罷出相見へ不申候御断申上候処所々相尋候様被仰付候処播州辺ニ奉公望候而罷越居申候今度召連罷帰申候ニ付御断申上候旨

一 舟頭町今津屋伊左衛門宿切手「阿那賀浦平五郎平三郎播州」浦字右衛門喜右衛門右四人米買罷越宿仕候旨

十月十八日 御用席有之

一 宮脇町大工治兵衛悴去六月義絶勘当相願御許容被仰付候処近在罷在行跡心底相直リ申候付勘当差免申旨奉願候旨御用席へ御伺申上候年月も「候得者為上不屈筋ニも無之旨勝手」被仰出候ニ付指免候旨申渡ス

十月十九日

一 千代姫君様御誕生之御祝義座頭「被下候今日配當場江小頭部屋目付兩人罷出相渡左之通

一百貳拾五匁 衆分座頭百五人老人五匁宛

一四拾目 打掛座頭拾六人老人貳匁

一九拾老匁式分五厘初身座頭七十三人 老人ニ付老匁「五厘

一四拾八匁 寿名替女三十式人 老人「一

一六匁式分五厘小替女五人 老人老匁式分五厘

ノ七百拾五五分

外ニ式拾匆 配當場役料

拾匆 書役筆墨

都合七百四拾目五分

人別ノ式百三拾老人

一米相場 御蔵米六拾老匆五分
町 米五拾八匆五分

一戸河町屋根屋忠右衛門伯母横山村土橋□流死罷在候旨注進申出ニ

付郡代下代同心組三船猪八差出見改申候処疵等無之□「落相果申
趣ニ付取置候様申渡ス尤御用番并大目付月番江御届申出ス

十月廿日

一米相場 御蔵米六拾匆
町 米五拾七匆

十月廿一日

一伏見町正木屋八右衛門大坂江罷越度願□三十日斗逗留

一堺町稲野屋徳左衛門願京都上御霊表ニ階町住居仕候歩案与申者十

日斗私方逗留為仕度旨十日斗止願出ル

一米相場 御蔵米五拾九匆
町 米五拾六匆

十月廿二日

一御子様方ニ宮江被為入ニ付先払出ス

十月廿三日 御用席有之

一玉置忠兵衛用事ニ付備中早嶋油屋惣左衛門方へ罷越申度旨往来十

日斗願出ル御用席へ御沙汰申上ル大目付中申達ス廿四日ニ出立

一橋本町すみ屋文助朝本屋兵助難波屋嘉七借米返済方申付置候処段々不埒仕候付弥相済不申候得ハ追込申付候上家財為相渡申旨及御沙汰候

一來月朔日下御用場へ御出席有之旨大目付中を為知有之候

十月廿四日

一米相場 御蔵米六拾匆
町 米五拾七匆 書付出ス

一上紺屋町福渡屋七兵衛願出候先年舟頭町町米屋平兵衛引請人定七不調法御座候□追払被仰付候其後平兵衛御申上徘徊候義御救免被遊候近来大戸村□「折々御当地江罷越候私内縁者御座候□「御当住宅之儀御免被仰付被下候ハ、私引請世話仕渡世仕り旨申度□「定七身持之義万端相慎可申候右□先達而徘徊御願申上候付此度御請人罷在申候旨右願書再三遂吟味申候而□不埒筋無之旨候付及御沙汰候

十月廿五日

一二階町筆屋伊八断出ス御廐御中間藤七妻さなと申女私由緒御座候処今度離縁仕申候故外一家も無御座候付私方へ引請役介仕遣し申度奉存候町内人別御入可被下旨承届ル

一西新町谷屋庄右衛門妻ゆき断出候□「去七月七日不凶罷出行衛相知不申候所々相尋候得共以今相見不申候今五十日斗相尋見申度旨断出候付随分尋可申旨申渡ス

一桶屋町大坂屋伊左衛門願出候福渡町□「次助借屋勘六と申者去

申歲「作畑耆ヶ所質物書入銀札七拾目用達候処段々不埒仕候別紙證文写差上申通御座候右銀札相濟」渡候様被仰付可被下候

式百三拾勿山北分町作畑下畑耆反六畝九步高耆石七斗九升三合

西今町岩屋藤七ヶ勘六江質入流證文佐左衛門方へ預り候処外添

證文是ハ庄屋裡書卯形無之候右両通写出ス

一右評義之上福渡町年寄大年寄方へ呼出シ十一月晦日迄ニ急度筋立

可申候旨申渡候様齋藤孫右衛門申渡ス

十月廿六日

一於江戸表 殿様益御機嫌能被成御座候乍然御庖瘡以後睨と御調不

申義「当九月迄御滞府先達而御願通被仰出候処今以御出来不出

来も御座候ニ付当冬中迄御滞府御養生被成度旨去月廿三日酒井左

衛門尉殿江御願書久世忠右衛門殿ヲ以御指出被成候御願之通御

滞府可被成御座旨被仰出候右之趣「右之通惣町へ相触可申旨書

付申遣ス

一米相場 御蔵米六拾壹勿
町 米五拾八勿

十月廿七日

十月廿八日 御用席有之

一御滞府御機嫌為窺御帳付諸士登城御帳斗外ニ不相勤候

一大年寄内山下例之通相勤可申之旨及差図候御用達町医師御目見江

ハ例之通相勤可申哉聞合候ニ付先達而御庖瘡之節勤候ハ、相勤可

申旨申聞ル町惣年寄共我等江罷出候義不及出候旨申渡ス町医師

御用達ハ不相勤候

一橋本町難波屋加七昨晚追込候付「是借物日限之通不相濟不埒候付右之通御用番大目付所へ御届申上ル

一惣町年寄共一統ニ歎書ヲ以内意申出候町方就困窮渡世無御座候難

義仕候御預り地も御座候得ハ町方成とも罷「書付差出候ニ付勤

定奉役中大目付所江も及内談候上於対談間御用番与兵衛殿へ御内

意申上候御願書御内見可被成旨ニ付指上置候

一上紺屋町福渡屋七兵衛願出候先年舟頭町平兵衛引請人定七婦住御

免之儀願書差出候尤平兵衛「加印願出候今日御窺申上候処」次

第承届可申旨被仰渡候大目付へ申達ス右大年寄へ申渡ス

一十月中米相場書所々役所ヲ頼来候付差遣申候段申上ル

十月廿九日

一舟頭町和泉屋清助宿切手播州龍野千草屋庄助同権兵衛例之通米買

罷越仕候旨

一成道寺万人講講元世話焼致度之旨願書出ス下紺屋町龜屋五郎兵衛

戸川町高尾屋藤助同町玉津屋勘左衛門上紺屋町今屋伝助中ノ町福

田屋喜右衛門

一伏見町三家屋孫三郎去秋造酒「米下直ニ付今年相止申度旨断出ス

一中之町藤原屋庄兵衛断出候御使組松尾養八私内縁ニ付来丑三月迄

私方ニ差置申度承届ル

十一月三日申渡ス

一元魚町藤野屋喜助訴訟出候者式步中買喜兵衛又六取次ニ而舟頭町

片田屋武助小麦拾石五斗代四百式拾目相極去申「西四月切ニ

延売仕候処式百目相払十二「八拾勿相払残り百五拾七勿六歩相

滞仕候旨願出ル依之遂吟味候上證文写「喜兵衛文六宛之證文ニ付喜助申渡候ハ喜兵衛文六ヲ受取候様申渡ス喜兵衛文六兩人」兼而申付候通武步中買取次不埒無之筋申付候処不届ニ候兩人ハ急度喜助方へ「可申旨申渡ス及不埒候ハ、惣中間ハ筋立」可申旨申渡ス舟頭町年寄俵屋六「請合手紙有之候而差出候間六兵衛年寄役ニ而請合候義急度筋立可申旨申渡ス武助遂吟味候処片田屋源六入用ニ而借受申由申候付源六相尋申候処相違無之」買證文又ハ武助證文故武助ハ筋立可申旨申渡ス源六義猶以急度筋立可申候度々不埒義相聞不届候已後出入訴出候ハ、家財引渡急度咎可申付間左様相心得可申旨申渡ス

十一月朔日

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目付 市村番右衛門

町大年寄月番 藏合孫左衛門

一今日下御用場江始而御出席就御吉事付例之通御赤飯致頂載候尤裏附上下御普代ニて出仕

一御用場初ニ付御酒被下候大目付所へ罷出御礼申上ル

一御用番与兵衛殿被仰聞候者先日内意申達候

惣町ハ御預リ所願候義令内見候町方ニ而尤事ニ候得共御用所御

油断ハ無之乍「御願被仰達候義ハ公辺重き事故甚以六ヶ敷事ニ

候随分致何様取統商売候様可申聞旨被仰聞右大年寄へ申聞ル

十一月二日

十一月三日 御出席有之

一十月五日ハ同晦日迄上中下米相場書出来差出候倉敷御代官所手代ハ右書付頼来飛脚參候付則相認差遣ス乃井野役人中ハ申来候則返書遣ス尤致奥印

一右平均相場大久保出羽守殿役人中頼「右相認差遣ス無奥印

一成道寺万人講元願候町人共一札差出ス

一坪井町大堀和屋伝右衛門願私娘千賀義久米南条郡福渡村善三郎方

へ養女買申候ニ付遣申度候町内人別差除度旨承届ル

一堺町米屋七郎左衛門吉川平弥様御長屋居申候作人伝兵衛同妻倅娘

倅妻家内五人私内縁御座候付私借屋へ差置申度旨

一舟頭町片田屋源六借銀出入ニ付為申渡大年寄宅小頭平兵衛差出立

会申渡「委細前段有之

一牢番所水なかし痛断書差出候ニ付御用所ニ差上ル

十一月四日

一玉置忠兵衛昨日備中ハ罷帰候旨案内有之候

十一月五日

一米相場 御藏米六拾目
町 米五拾七匁

十一月六日

一錢相場七拾文通用立替候旨大年寄申出候

一新魚町平田屋源右衛門就病氣年寄役免願申出候老人と申ニも無之

候間致養生相動可申候当分駈「用向倅差出名代為相動可申候旨

申渡ス願書戻ス

十一月七日

一 下紺屋町作人権太郎借屋居申候彦三郎家内三人岡辰之丞屋敷江引越申度旨承届ル

一 美濃職人町大工文蔵願出候悴伝七病身ニ付私養育之方便相見不申間町内五人組相談伝七江も相談之上後妻悴嘉助出生ニ階町御座候今度養子仕私家屋敷表口四間半裏行拾七間之内表口式間裏行十七間裏子伝七江相讓残ニ間半裏行拾七間并諸道具養子嘉助へ相讓申度奉願旨吟味之上承届ル本證文出ス

十一月八日 御用場有之

一 桶屋町土佐後家断出候私養子信濃義七月十三日ニ不図罷出行衛相知不申候方々相尋候得共今以行衛不相知人別御差除被遊可被下候旨神社」申合町内人別除可申旨奉伺候相濟

一 御触書御徒目付持参

御鷹場において殺生御停止之儀兼々被仰出毎度相触候処近来猥に相聞候目付之者并殺生方在方之もの共々無用捨申出候様に申付候以後弥相慎可申候右之趣同役支配方へ可被相達候
右御触書惣町へ申触候様大年寄へ相渡ス

十一月九日

一 京町虎屋源兵衛大坂淡路町酢屋庄兵衛方江三十日斗逗留ニ而罷越度旨

十一月十日

一 於宮尾村相撲有之由候間自分不及申役介下々迄不参様可申付旨廻

状相廻候小頭江申渡ス

一 二丁目尾高屋宇兵衛先達而宿屋ニ申付候義願出候肥前長崎浜野町湊屋藤兵衛と申者櫛笄おろし売仕申候毎」出雲并久世高田迄参申候儘成者御座候御当地ニ参おろし商売仕度旨申越候私宿仕度奉存候旨承届ル已後新株罷成候事

一 牢番罷出申候入牢源六此間不快之由申出候ニ付町医師申付遣候様大年寄へ申遣ス

十一月十一日

一 銭相場老勿六拾九文ニ立替申候申出ル

十一月十二日

一 先日万人講ひゝる売場にて正銀銭断相濟不申内取納之者咎可申付之旨御用所被仰渡候今日大年寄於宅小頭石名平兵衛立会呵追込ニ申付ル且又褒美銀札相渡候致方不宜」粗相聞候付先今度致用捨置候旨申渡候平田屋伝治河元屋文四郎田部屋治助かま屋太七かまや安右衛門かまや勘六魚屋六郎治未屋長右衛門わか屋宗七郎右九人江申渡ス

一 橋本町難波屋嘉七追込差免嘉七」同町福嶋屋長十郎江相渡ス右双方江以書付申渡ス委細申渡帳ニ有之候

一 町奉行所御用儘鈴木氏ニ預り置申候今日手前へ取寄候数四ツ

十一月十三日 御用場有之

一 来十六日十七日 惠態院様五十五廻忌ニ付一夜別時於泰安寺御供養被仰付大役人以上参拜被仰付旨

一 大年寄先格之通参拜仕度旨」窺候処先格之通ニ被仰付候

一來ル廿日廿一日之内関播摩守殿御城下通行先触至来之旨大年寄写
書出ス御用席へ申上ル大目付中へ申達ス

一夜中御城内足輕中間通り札式枚中奥目附中へ返納先役鈴木喜右衛
門手形戻ル

一備中小坂郡水谷信濃守殿家来鈴木甚太夫中嶋幸右衛門の書状来当
時米相場書頼来候御代官所「則夫々遣ス相応ニ返書遣ス

一西新町箕作丈庵願出候林田上ノ町地子居申候与惣兵衛家内三人私
借屋指置申度旨在分々断出候双方承届ル

十一月十四日

十一月十五日

十一月十六日

一入牢盗人無宿太助市太郎□□村穢多□落宿六郎次死罪難逢者候得
共今般惠態院様御年廻ニ付助命御領分追払申付於牢屋五時迄小頭
部屋目付書役差出以書付申渡ス古城御「送り遣見届組者兩人差
出ス六郎」郡代所手代罷出申渡ス右御用番大目付所へ御届申出
ス

一万人講之砌正錢取候付追込申付置候九人者今日追込差免ス大年寄
ニ而申渡ス尤御届申遣ス

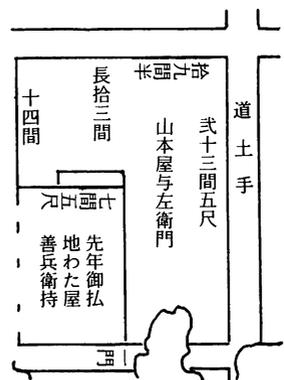
一近日関播摩守殿通行ニ付触書差出ス

一昨十五日林田土手三好□右衛門元屋敷「御払地今日郡代下代渡
部友七中庄屋」同心小頭部屋目付罷出受取買主山本屋与左衛門
へ引渡尤以給相渡ス西東江式拾三間五尺横丁角々西屋敷角迄東方
南北江長拾九間半西北ノ角先年御払

地相成今度除之橋本町間ノ道ハ今般

橋本町江構候様預申候事

代米百五拾俵



一京町塩屋新兵衛宿切手勢州朝熊「明王院使僧休可坊悦忠坊宝藏坊
上下六人例之通宿仕候旨

一右同人雲州杵築多久十太夫上下式人宿仕候旨

一今昼時々明十七日中町々自身番仕候様申渡ス

一同心組式人西大番所脇へ御法事ニ付相詰ル

一玉置忠兵衛断出候備中早嶋油屋恵「罷越四五日逗留仕候由申出ル

十一月十七日

一惠態院様五十廻御忌御法事於泰安寺有之大年寄参拜仕候
一同心組兩人大番所脇へ相詰ル

一倉敷藤本甚助殿当分御預り所廻米役平尾順七当町出役ニ案内書状
来ル

一惠態院様御年廻座頭共へ御布施「且又来正月梅香院様御一周忌之

「今度式割引ニ一所頂載仕度旨先達而願今日一所被下候事

一銀札拾九匁三分五厘 四度座頭老人

一同 老貫百九拾七匁 (衆分座頭百三拾三人
但老人ニ付九匁宛

一同 八拾壹匁
〔打懸座頭十八人
但老人ニ付四匁五分宛〕

一同 百七拾五匁五分
〔初身座頭七十八人
但老人ニ付式匁式分五厘〕

一同 百五匁三分
〔寿名警女三十九人
老人ニ付式匁七分宛〕

一同 九拾匁
〔小警女四人
老人ニ付式拾式匁五厘宛〕

〆壹貫五百八拾七匁分五厘
人別合式百七拾三人

外四拾目 配當場兩人役料
式拾目 書役筆墨

都合壹貫六百四拾七匁分五厘

四度座頭近年參不申ニ付前々帳「」
本句当ハ式拾壹匁五分銀半枚積リ「」

句当ハ拾匁七分五厘宛卜前格相見申候ニ付右積リニ而相渡ス

十一月十八日 御用場有之

一 錢相場六拾八文通用立替申候旨申出ル

一 二階町惣次郎先年大御所様御他界之砌致殺生ニ付御領分追払被仰付今度愛染寺願ニ付歸住御免被成候由

一 牢番中間牢拔之砌追払被仰付「」仁兵衛と申者清眼寺願ニ付今度徘徊御免被成候由

一 材木町宇助宿切手高野山宝連院使僧円徳房上下式人宿仕候

一 船頭町田原屋六兵衛宿切手播州賀古郡古宮村李兵衛善八郎米買ニ
參例之通宿仕候旨

十一月十九日

一 東新町岩屋文四郎下原村市右衛門九兵衛を正米式俵受取候旨依之
「」申付ル昨日御用所ニ而被仰渡勘定奉行相談之上今日大年寄宅
ニ而申渡

一 林田鍛冶町馬形文平野介代村武左衛門を米式俵外払取次いたし候
ニ付追込申付ル訳右同断

一 戸川町とうふ屋市右衛門と申者亥三月江戸表江罷越候当三五月罷帰
度申出ル大年寄申聞ル

一 新魚町野田屋借屋多兵衛願「」私伴文助儀當子ニ三拾壹歳ニ罷成
不所存者色々異見加候得とも一切聞入不申候「」去ル八月不斗罷出行
衛相知不申候何方おいていか様之義仕出可申難「」候義絶勘當仕
度奉願候兄弟「」願出候廿三日御用席申上相濟「」方へ申渡ス

十一月廿日

一 関播摩守殿御城下通行町分掃除御先扨同心兩人差出ス御使者宿斎
藤孫右衛門相勤ル馬式十七疋人足拾五人先触之通差出候様申付ル

町馬廿五疋 在中寄馬七疋

都合三十式疋之内

廿七疋入用

五疋ハ用意残馬

御城下無滞通行之旨御用番大目付中へ手紙ニ而御届申遣ス

一 馬駅江同心組式人差出ス

一 船頭町今岡屋淺右衛門宿切手阿州板野郡成瀬村曾右衛門藍玉亮ニ
昨日參候旨

一 中ノ町斧屋清助後家私借屋林田上ノ町中野円藏長屋居申候伊助と
者家内老人差置申度旨承届ル

一 中ノ町川口屋与市私借屋林田上町富沢藤右衛門長屋ニ居申候幸七
家内式人差置申度旨承届ル

一 元魚町とうふ屋市右衛門新魚町借宅相極申候処村本屋治助差障り
申上候付内意大年寄へ申聞ル不構引越させ候様及差図候

十一月廿一日

十一月廿二日

一 美濃職人町南側ニ而豆腐屋忠右衛門家屋敷表口式間半裏拾七間但
本役也西隣ハ油屋伊助東隣者畳屋源右衛門家ニ而御座候代札式百
三拾目相極同町吉田屋彦兵衛江壳渡申度旨 本證文出ル

十一月廿三日 御用場有之候

一 虚無僧組頭三角良甫外形方断出候当国虚無僧取計去成歳私江被仰
□本寺表相濟美作一國弓削村龜跳外形兩人ニ而取計候様罷成居申
所龜跳相果申候ニ付今般跡役代り備前林伊兵衛江可申付之旨御座
候左様候得ハ備前備中之虚無僧三百人余御座候当国江入込可申候
私義只今迄当国虚無僧六十人計入込取計物入多漸相勤候処大勢者
入込候而ハ申分等出来私取計難仕御座候依之近日伴僧罷下り候ニ
付当国同役之義国中□被申付候敷無左候ハ、私老人ニ被申□候
様可申奉存候自然相濟不申候得ハ京都へ罷越達而相願可申候左候
ハ八道中入用御座候付自力難斗旨断出候依之大年寄手前遂吟味申

候処急度□ 間敷取ニも無御座無抛筋と相聞候ニ付右之段御
用所へも申上右入用被下置候而も京都差遣不申而ハ虚無僧大勢御
城下江入込申候而ハ氣毒存候間路用被下置候様申上ル

十一月廿四日

一 美濃職人町南側ニ而乘柄屋伝七家屋敷表口式間裏行拾七間但御役
四步役也西隣吉田屋平吉東隣者大工文藏家ニ而御座候代札式百五
拾目相極吉田屋平吉へ壳渡申度旨本證文出ル

十一月廿五日

一 書役川端円六妻今朝出産血忌引込候

一 米相場 御藏米六拾老匆
町 米五拾八匆

一 倉敷御代官預り所御廻米中須賀と今晚舟積候旨番人之義大年寄へ
申遣ス

十一月廿六日

一 林田土手御払屋敷間数違有之再見同心小頭石名平太兵衛渡部友七
差出相改前々繪圖ニ境相立渡之

十一月廿七日

一 東新町岩屋文四郎馬形文平正米外払受取ニ付去ル十九日ニ追込ニ
申付置候今日差免ス

一 組三船孫八妻縁願申出承届ル松岡屋与惣役介之女候由
一 猶村川岸御廻米舟積明日有之由ニ付人足大年寄へ申付ル

十一月廿八日 御用場有之

一 唐船抜荷物之義享保年中江戸従公儀被仰渡之御書付之写役筋ニ而

見置可申旨御用席を御渡被成候付写置大目付中へ返納仕候

一京町今出屋半兵衛宿切手阿州桑嶋村武右衛門手代与一兵衛源兵衛
藍玉壳罷越候旨

一同人断阿州中富村兵助手代平兵衛清右衛門藍玉置罷越宿仕候旨

一京町北側ニ而福井友節後家家屋敷表口五間裏行拾七間御役老間役
東隣ハ鍵屋与平治西ハ加茂屋伊右衛門右家屋敷伏見町正木屋八右
衛門取次ニ而質物書入銀札三百目当子ノ二月を来丑ノ十月切式利
足ニ而借用仕候旨願出承届ル

一酒直段之義願出ル去亥冬米高直ニ付米相場七拾五匁位式分上ケニ

相願申候処當時米下直罷成申ニ付式分下ケ商売仕度旨願書并直段
出ス勝手次第ニ申付ル御用席及御沙汰候當時米相場六拾壹匁

名酒壹升付只今迄壹匁七分此後壹匁五分

上酒 壹匁四分此後壹匁式分

中酒 壹匁式分此後壹匁

下酒 壹匁 此後八分

下々酒 八分 此後六分

一林田土手筋御弘地山本屋与左衛門相求候右代米村替切手百五拾俵
大年寄を相納候付則勘定奉行栗田辰右衛門へ相渡請取手形取之則
右手形山本屋へ相渡ス

十一月廿九日

一廻状到来去ル廿三日夜寅刻林大学頭殿屋敷出火此方様御屋敷被成
御類焼被成候旨江戸表をハ不申来大坂飛脚屋を為知候旨大坂役人
を申来此段為相知候町方諸事相慎火元等念入候様可被申付之旨大

年寄へ申渡ス

一右御類焼ニ付為伺御機嫌御帳付「御用場へ出仕大年寄御用達町
医内山下明日相勤候様申達ル

一頭分江御用番被仰渡候殿様若殿様久松様御機嫌能高田御屋敷へ御
退被成候「銘々念入鳴物等相慎可申旨被仰渡候

一町方自身番可申付哉事伺申上ル

一町方申渡候此節町々火元念入「相勤可申候且又鳴物音曲相慎可
申旨以書付申渡ス

閏十一月

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目附 鈴木喜右衛門

朔月 町大年寄 玉置忠兵衛

一二階町堀屋伊右衛門願出候播州姫路「珠数屋全七私由緒御座候

ニ付引請住「為仕度奉願候全七当子ニ四拾才妻き「罷成再三遂

吟味願之通申付ル

一中ノ町日笠屋喜助願出候坪井町大「屋七郎右衛門所持之他国売酒
株三年已前西歳御断申上寅歳迄六年切ニ借用仕候今度町内佐渡屋

平四郎借屋ニ居申候作人平兵衛と申者右切之内当子才寅歳迄三

ケ年借用仕商売仕度旨本主大「屋「願出候故承届ル

一「町小山屋与三右衛門宿切手播州綱干余陸屋惣五郎八百屋物売
参宿仕候旨

一 二階町烏屋左助宿切手山城国愛宕山「房使僧坪全常意上下三人例之通」仕候旨

閏十一月二日

一米相場 御蔵米六拾貳匁
町 米五拾九匁

閏十一月三日 御用場有之

一 東新町種屋善四郎正木屋伊右衛門去ル「正銀ヲ以米買取候之旨不届ニ付咎可申付旨被仰渡候間勘定奉行中及相談」追込ニ申付候尤御届「遣ス

一 「町元三屋小左衛門南側家屋敷表口拾間半裏行拾七間但式軒役并南」裏ニ東西拾五間南北拾壹間半之明「相添元魚町河内屋安兵衛取次ニ而」来丑ノ正月切一ヶ月老歩半之利足「度旨承届ル

閏十一月四日

一 「野屋喜助片田屋武助出入濟口一札出ス

壬十一月五日

壬十一月六日

壬十一月七日

一 西大番所前土橋南方「渡長三間斗西今町江預居申旨断出候間大目付中へ」達ル

壬十一月八日 御用場有之

一 御幕三張預り手形御使番中へ「受取相渡ス

一 今日不快ニ付当病断不能出之

一 講場為受取小頭平太兵衛指出ス郡代「罷出ル
一中奥目付中申来候来ル十二日

「院様御牌泰安寺江為入候ニ」小嶋此母「西大番所湯田町掃除候旨申来ル則大年寄申付ル

一 右御先払ニ付大目付中申来候由小頭江申渡ス

一 東新町正木屋伊右衛門追込指免可申旨伺相濟候ニ付明九日指免候様大」

壬十一月九日

一 「追込差免旨御用番大目付御届」

一 公領錦織村興禪寺来丑二月廿四日三月五日迄延命地藏開帳土」

加持祈禱修行候旨東西橋へ建札いたし度旨大年寄迄願出候付為建

可申旨御用所江申上候而勝手次第ニ申候付大目付中へ申届ル

一 万人講勘定為知候太鼓町中打廻り申度旨講元申出候付御用番へ

御窺申上勝手次第ニ申渡ス

一 梅香院様御一周忌御取越來十「日於泰安寺一夜別時之御法事有之

「廻状届ル

一 吹屋町沢屋惣左衛門宿切手出ス阿州板野郡霧嶋村藍屋理右衛門罷

越宿仕候旨

壬十一月十日

一 雨天ニ而万人講延引候

一 建札式枚 郡代所申渡ス

一 野交御幕三張御使番中申渡ス

一 大文字高灯笼三張大納戸申渡ス

台共

一 三ツ道具 一組 右同断

一 寄棒 三十本同断

一 法皮 貳拾 右同断

右之通拜借物受取相渡ス

壬十一月十一日

一 成道寺万人講於靦河原昨日相延今日致興行候明六時々諸役人罷出同心組拾人内式人御使組々取人小頭老人郡代下代老人下目付小頭老人平組御徒目付老人大年寄老人横山村「」老人庄屋老人町奉行郡代兼「」井上弥三兵衛右仮役栗田辰右衛門勘定奉行五時迄ニ罷出ル寄札高老万六千貳百三十匆暮前時無滞相濟帰り御用番兵右衛門殿御届罷越候大目付所へ手紙ニ而届「」講世話焼亀屋五郎兵衛玉津屋勘左衛門高尾屋藤助金屋伝助福田屋吉右衛門銀札場所成覚寺同心組兩人夜ニ入「」場へ差出ス残りきり致封印小頭郡代下代翌日立会相渡ス

壬十一月十二日

一 梅香院様御位牌今日泰安寺へ被為人候御先弘同心組兩人差出ス町分掃除申付ル中奥目付中々申来ル
一來ル十三日々十四日江御法事ニ付町方自身番火本念人可申旨触書出ス

一 成道寺講銀札渡場へ同心組兩人差出ス無滞相濟

一 上り札人主無之五拾壹番五拾三番式「」紙袋懸ケ成道寺へ預ケ置之

壬十一月十三日 御用場有之

一 東新町種屋善四郎正銀通用義ニ付「」追込ニ申付置之其上打続不屈

筋有之候間日数差置候今日伺之上指免ス

一 錢相場老勿ニ付六拾九文通用立替候

一 京町江戸屋文六先年御領分追払ニ被仰付候処今般梅香院様御法事

ニ付寺方願ニ付徘徊御救免被成候旨大目付中々被申聞候右京町江申聞候様大年寄へ申渡ス

壬十一月十四日

一 御法事ニ付同心組兩人今町橋詰へ差出ス
一 桶屋町大坂屋伊右衛門福渡町勘六々質入畑借銀返濟滞ニ付先達願出候通返濟日切申付知ス返濟相濟候旨濟口證文伊右衛門々指出ス
一 堺町山北屋伊兵衛京都祇園成就院使僧三位と申僧上下三人例年土佐屋庄三郎宿仕来り申処庄三郎先達而願申上大坂表罷越居申ニ付右宿私相「」置申ニ付私宿仕度旨願出庄三郎儀宿屋ニ而無之候得共名染ニ而参来り申由候右承届ケ申候庄三郎罷帰迄「」斗宿仕度旨庄三郎罷帰次第相渡可申候

一 東新町美濃屋九郎兵衛私悴新治当子ニ廿三歳ニ罷成候倉敷御代官藤本甚助殿ニ雇罷越申度之御当人別御差除可被下旨

一 東新町美濃屋九郎兵衛家屋敷北側表口拾間裏行拾七間御役老軒役東隣宿屋文四郎西隣ハ横町右之内東方表口四間裏行拾七間御役四歩役西新町とも屋利右衛門江銀札老貫相極売渡申度旨承届ル本證文出ル

一 西新町乙一屋又兵衛家屋敷南側表口三間裏行拾七間但六歩役納屋一ヶ所右代銀札六百目相極同町飯網屋源兵衛売渡申候旨承届ル本證文出ス

壬十一月十五日

一東新町山本屋和助去十一月二日正銀四拾壹匁七分加茂青木甚右衛門江為米代相渡候旨右同人々才谷忠兵衛江為米代正銀四拾三匁分相渡候旨右不届ニ付追込過料申付ル尤御用所被渡候明十六日朝大年寄宅ニ而申渡ス様申付ル

一東新町あわい屋伊右衛門去ル三日小淵村善四郎へ茂右衛門米代として正銀貳百七匁拾四匁相渡候旨右不届ニ付追込過料申付ル右同断

一西今町久保田屋利右衛門去ル四日南ノ庄九平江米代として正銀三拾六匁相渡候旨右不届ニ付追込過料申渡ス右同断

壬十一月十六日

一東新町西今町答者申渡相濟御用番大目付月番へ御届申遣ス

一万人講上リ札主無之今今日合□持参付小頭郡代下代立会相改相渡遣之勝北郡中嶋村松右衛門与申者札主宿菊松屋茂右衛門

壬十一月十七日

一坪井町桔梗屋忠左衛門宿切手出雲大社□西村神太夫与申者御師上下五人例年之通壇那廻り罷越候宿仕候旨

一右同人断出ル京四条通富小路西へ入ル町大和屋五兵衛手代兵助並人小間物懸銀取罷越候宿仕候旨

壬十一月十八日 御用場有之候

一酒直段定外間々ニ直段商売仕候付直段味々吟味も難致御座候付間々直段向後相止させ定直段外御酒売不申様可申付与存候趣御用所申上ル大目付中へ□

一万人講拜借道具不残返納濟小勤者中相頼夫々江相戻ス

一細工町大工市郎兵衛当月上旬ニ神戸村江正米貳俵受取申候ニ付廻リ目付断出候趣御勘定奉行御用所江申上候咎之儀被仰渡候右市郎兵衛御手大工ニ而御救扶持給も御作事ニ而被下候旨依而横切手所持いたし引替申積ニ而正米受□旨申訳も廻り者ニ相聞候由ニ付一通り町人□追込ニ申付候而も全右心得と□申□候へハ悪

心ニ仕兼ニも無之様被存候付急度呵横切手式俵差出候而神戸村右御代官所相納可申旨申渡相濟可然哉と勘定奉行中相談大目付中江も及内談御用所江も御内意申上候而以書付今日申渡答ニ大年寄へ申渡ス然処市郎兵衛儀町人別無之御作事御支配之者候由町役所罷

出候義難仕之旨申候段々人別違無之趣ヲ申聞候得とも兎角不致承知旨左之書付指出候様ニ申候得ハ右役書付指出当春相改候人別帳遂吟味申処大工市郎兵衛名も帳面ニ有之弥人別違無之候御手大工共義ハ前々方町人別者ニ御座候然上町役所へ呼出不能出候而者町方御政事も難相濟候ニ付不得止事御用番兵右衛門殿大目付中江も右委細申上候来廿三日委細被仰付之旨候

壬十一月十九日

壬十一月廿日

一伏見町さやし平左衛門家屋敷質入元利相払相濟申旨断出候付質入證文差戻ス

一上紺屋町清水屋十兵衛南側家敷表口式間裏行拾五間但御役四歩役西隣ハ久世屋弥助東隣ハ私居宅ニ而御座候代札八拾目ニ相極作人伴助へ売渡申度之旨承届ル本證文出ル

一京町鍵屋与平治宿切手出ス奈良今井岡嶋忠兵衛手代源助老人例之
通墨壳参候付宿仕候旨

壬十一月廿一日

壬十一月廿二日

一酒直段米下直ニ付式分宛引下ケ商売致度旨先日願出承届候然処風
味悪敷致し壳候様風聞有之候間不埒無様手代共可申付候事

一近年定直段之外間々直段ニ而商売致し候者有之候右之通ニ而者風
味「」難成事ニ候向後者定直段之外間々直段買主方相望候共決而
壳申間敷候定直段ニ而酒風味相応ニいたし候者可致商売候折々忍
之買手相廻し直段相違候歟味不宜儀も有之候得「」酒株取上候間兼
々左様相心得可申候売場手代酒斗共主人申付背水杯差加へ末之者
江壳遣候様相聞候不届ニ候左様之族相知候ハ、急度可申付候夏ニ
至リ下酒壳切候杯と申立直段高直致し候ハ、発起者致證議稠敷可
申付候万事正路ニ商売可致右之趣酒屋へ申渡酒改之者無油断吟味
可致候致鹿略候ハ、越度可申付候事

附り定直段之内引下ケ申度者ハ、銘々其訳断出可申候承届候上直
段相極可申付候事

壬十一月廿三日 御用場有之候

一町大年寄三人歳暮之御祝儀来年始之御祝義并惣町ニ而指上物例年
之通取計可仕哉之旨御用席江申上ル江戸御奏者番中以書簡申遣ス
大勘者へも頼遣ス

一先達正銀通用追込申付者指免可申之旨御伺申上ル差免之旨大年寄

江申渡候

一豆腐直段只今迄拾式文致商売候処大豆高直ニ相成候付拾三文壳申
度旨願出候承届ル御用所江申上ル大目付江申達ス大豆六拾四五割
位之直段

一細工町大工市郎兵衛大年寄宅江就御「」呼出申候処心得違之義申之
不罷出候右不届ニ付御窺申上戸ノ申付候猶我等宅以書付申渡ス小
頭部屋目付罷出ル大年寄兩人罷出ル戸ノ板式丁釘杯ハ御作事方取
寄候尤大目付中先達申達置大工老人大年寄方申付差出ス為見届組
者老人差出ス右相済御届申遣ス

壬十一月廿四日

壬十一月廿五日

一堺町山北屋伊兵衛宿切手京都祇園成就院使僧三位例之通罷越宿仕
候旨先達土佐屋方罷越先日願出候通承届ル

一西今町福場屋利兵衛家屋敷成八月永田屋伝七取次ニ而元老ノ三百
目家質ニ借受候処今度請返シ申度旨断書出ス尤永田屋加印書付「」
承届ル本證文戻ス

一小性町作人利助家屋敷南側表口式間裏行拾五間大溝切御役四歩也
東隣肥池屋彦市西ハ、田原屋太「」御座候同町米屋取次ニ而銀札式百
目当子ノ間十一月来丑ノ十一月切月式歩之利足質入借用仕度旨
一林田町かまや勘七家屋敷北側表口四間裏行拾五間五尺御役本役東
隣者松井宗南西隣ハ、嶋屋善五郎ニ而御座候中ノ町藤屋安右衛門取
次ニ而銀札八百目来丑ノ十二月切借用仕度旨承届ル本證文出ス

壬十一月廿六日

一中ノ町非人行倒有之候付川端円六為檢使差出之相改候義庇も無之

ニ付「江申付取捨候様申付候尤御用番大目付中へ御届申遣ス

一米相場 御蔵米六拾老匆 書付出ス
町 米五拾八匆

壬十一月廿七日

一牢舎人扶持米仕切證文致印形候平太兵衛相渡ス五拾八俵式升「

楊屋賄料三百五拾五匆七分八厘

壬十一月廿八日 御用場有之

一福渡町重屋弥右衛門願醬油古桶大小十「古台五つ川下願出候両御
番所」致裏印遣ス

一京町東新町西新町類族共無之御届罷在候旨例年之通届書指出ス

一中ノ町重屋平藏家守善助願出候御家老組村瀬伝兵衛与申仁私借屋
貸り申候付差置申度旨承届ル

一安岡町久米屋清兵衛借屋十助断出候四年已前西ノ五月御断申上候

大庭郡上河内村円融寺隱居順法義庇「ニ付私方差置介抱仕度」

願申上候戌十一月亥十一月再願申上候今度快気円融寺へ罷帰リ申
候ニ付御断申上候旨

一安岡町作人源兵衛家屋敷表口式間裏行拾四間但シ式歩五厘役東隣

橋留屋四平西者筋違橋御敷際ニ而承届候右之内東ノ方表口老間裏
行拾四間御役老歩式厘代銀札百五拾匆相極同町橋留屋四平江壳渡
申度旨「

一西今町福場屋利兵衛北側家屋敷表口五間裏行拾五間建物不残但本
役東隣岩見屋善四郎西隣ハ中「屋和右衛門代札老ノ八百目相極町

内永田屋伝七江壳渡申度旨承届ル本證文出ル

一室井作右衛門急症ニ而今夕相果申候

十二月

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目附 広瀬半助

町大年寄月番 斎藤孫左衛門

朔日

一京町鍵屋与平治宿切手大坂北浜式丁目柴守屋新右衛門手代源兵衛
申者老人木綿染地類おろし壳参宿仕候旨

十二月二日

十二月三日 御用場有之

十二月四日

一西川大久保出羽守殿代官中ノ寒氣見廻書状紙千枚到来相応ニ返書
遣ス使カ、屋へ申付昼賄申付ル

一京町虎屋源左衛門断書兄源兵衛儀先達願大坂江罷越候淡路町「

屋庄兵衛方江当子歳カ来午歳迄七カ年間奉公ニ罷出申度旨

一材木町東番所協関貫損申候明立不仕之旨断書出ス

一二階町筆屋伊八借屋文助先月廿四日之夕罷出罷帰不申所々相尋候
得共行方相知不申旨申出ル猶又相尋候様申渡ス

一九町方例年通種粗三斗以下質物取申度旨願書出ス勘定奉行中へ及
相談候御用所へ申上差免ス

一豆腐屋共願出候大豆高直罷成候付拾四文宛ニ商売いたし申度旨願

出候直段七十四五匆致候由猶又吟味申付置之

十二月五日

一 材木町年寄三家屋孫三郎病氣之処昨夜相果候旨斷書出ス

一 新職人町年寄ぬし屋孫三郎江年寄役今日申付ル大年寄宅ニ而申渡ス

十二月六日

一 御年貢不埒人神戸村才三郎同村孫右衛門吉原村太兵衛同村伊八右四人於郡代所人牢被申付候同心組老人差遣百姓牢舎入ル賄村方のいたし候

十二月七日

十二月八日 御用場有之

一 非人加廻り町方小頭時風申候付申付相廻し可申旨御窺申上ル大年寄申付ル

一 牢屋中門戸明建難成ニ付御作事へ被仰付可被下旨大目付所へ申達「」先達御修復申達置「」

一 古道具共夜さやし致申度旨願出差出候得とも不宜敷筋故願書戻ス
一 勝間田町かと屋太郎右衛門宿切手播州網干平松屋九郎晒臘經節売
参宿仕候旨

十二月九日

一 細工町大工市郎兵衛去月廿三日不届有之戸ノ申付候今朝差免候尤大年寄宅江細工町年寄呼出右之儀大工老人差出シ戸ノ明させ其上ニ而市郎兵衛儀大年寄宅江呼出シ申渡ス市郎兵衛不快ニ付忝小市へ申渡ス

一 出羽守様御息女様御名五百姫様与申候依之右御名ニ指合候名可相改候旨被仰出候右惣町へ触書出ス

十二月十日

一 綾部村市助勘四郎御年貢之義入牢於郡代所被申付候同心組老人指遣ス

一 京町福山屋ぬい私所持仕候自国請酒株五年已前申歳御断当了歳迄同町浜辺屋勘兵衛貸置申候処年数相済私方へ相戻シ申候付御断申上候

一 馬持共例年通大豆拝借願書差出ス人数廿五人老人大豆三俵宛来丑二月の七月迄ニ毎月返納可仕旨御用所申上御聞届相済十三日ニ申渡ス

一 新魚町かと屋伊助断出候私兄源助儀当八月御断大坂光好四郎兵衛方へ奉公罷出申候処去ル廿七日病死仕候申越候断書出候

一 勝間田町かとや太郎右衛門播州元「」また町甚七郎經売例年来申処当夏相果申候依之甚七甥大坂本町三丁目小法師理兵衛と申者墨筆商売仕申候右甚七跡相談御当地参私方宿仕候様奉願旨段々大年寄方遂吟味申候処外故障ニも罷成「」申出候故願之通承届ル

一 京町屋根屋平兵衛家屋敷北側表口三間半裏行拾七間御堀限御役半役東隣ハ豊屋次郎右衛門西隣ハ味噌屋「」三郎同町多賀屋新三郎取次ニ而質物書入銀札百五拾匆当子ノ十一月の来丑四月迄式割之利足借用仕度旨本證文出ル

一 上紺屋町南側西屋文六家屋敷表口三間裏行拾七間但半役西隣「」十兵衛東ハ作人庄兵衛代銀百五拾目宮脇町尾野屋七右衛門江売渡

申度旨本證文出ル

一 林田町北側門屋文七家屋敷表口四間裏行拾五間但本役也同町米屋伊右衛門代札式百五拾目ニ売渡申度旨本證文出ル

一 林田町南側米屋伊右衛門家屋敷表口式間半裏行拾七間式尺但半役代札式百五十匆かとや又七江売渡申本證文出ル

一 福渡町北側ニ而式丁目福永屋藤左衛門家屋敷表口三間半裏行拾七間但老軒役代札三百目同町畳屋太次兵衛売渡申候旨承届候本證文出ス

十二月十一日

十二月十二日

一 今七時安岡町奥町出火有之火本江罷出町分ニ而小右衛門李太夫類火掃懸御用番江御届申上ル

一 大目付広瀬半助方手紙小嶋此母屋敷横往来ニ女野伏非人行倒相果候御徒目付下目付見分申付相済申候先格之通取捨可申付旨申来ル則□□非人江申付取捨候様大年寄へ遣ス尤見分不相済内非人番申付置候事

一 錢相場老勿六拾八文通用立替候旨申出ル

十二月十三日 御用場有之

一 安岡奥町類火小右衛門李太夫御救米之義奉伺候処町分へハ先例無之ニ付不被下旨被仰渡候

一 勝間田町かとや太郎右衛門宿切手出ス

一 播州大坂本町三丁目小法師利兵衛老人墨筆売罷越宿仕候旨先日願書差出甚七代り承届之

十二月十四日

一 京町今出屋半兵衛宿切手阿州桑嶋村平治兵衛手代政右衛門吉兵衛例年藍玉売ニ罷越候旨

十二月十五日 御用場有之

一 去ル朔日若殿様御袴着御召初久松様御髮置御祝義首尾能相済候為御歎帳帳付ク

一 世上附火有之由粗相聞候付当町ニ而も致用心町々申合夜廻り致候様ニと以書付申渡候

一 加廻り三組申付相廻ス非人四人程目明しニ差添所々野伏なともり居申候様成場所相廻り申様申付ル

一 出火之節非人共三四人宛火本近辺之道筋盜賊諸道具盜持退居成筋ニ候見合造候様申付候

一 桶屋町付火道具義遂吟味申候急度火付候業と相見へ不申ニ付猶又廻り念入様申付候事

一 新職人町瀧本屋平四郎操木綿老本美濃職人町助左衛門買取下紺屋町山形屋惣兵衛へ売渡候由右ニ付代銀不埒之趣平四郎断出候間遂吟味候処助左衛門父馬持堺町七郎左衛門と申者由依之七郎左衛門

助左衛門呼出シ大晦日迄急度代銀相済候様大年寄へ申渡ス

一 小性町ひち屋彦市借屋居申候助六断願出候東新町三輪屋善兵衛所持之他国請酒株去ル亥年相願来卯歳迄借用仕候勝手ニ付相返シ申度旨断出ル

一 京町藤田屋惣右衛門願出候町内福山屋ぬい所持仕候他国請酒株当子歳方来ル辰歳迄五ヶ年間私借請商売仕度旨承届ル

一馬持拝借大豆七拾五俵式拾五人江二月の七月迄返納證文差出候ニ付令奥印相渡ス

一東新町坂口屋長助家屋敷南側ニ而表口式間裏行拾七間御役式歩五厘東隣ハ嘉治屋忠右衛門西隣ハ佐治屋後家ニ而御座候代札四百目相極同町加治屋忠右衛門へ壳渡申度旨本證文出ル

一安岡町作人勘兵衛家屋敷北側ニ而表口四間壹尺裏行拾七間但半役東隣ハ庄野屋権七西隣ハ神目屋九郎兵衛代五百目相極同町磯屋重助江壳渡申度旨

一二階町筆屋伊八妹善六母私悴六年已前未歳山北村住居仕候節私存相叶不申勘当御願申上候処江戸罷越近年心入直り申候旨承知仕候ニ付義絶勘当差免申度奉存候御慈悲上願之通被仰付候ハ、難有旨一例年通町方へ自廻ニ付触書差出之

一三丁目年寄重屋忠六年寄役退度旨願書差出ス承届ル跡役草津屋茂市郎へ申遣候付申付ル廿日申渡濟

十二月十六日

十二月十七日

一非人扶持代銀仕切致奥書印形遣ス三百八拾四匆三分三厘八毛

一目明し扶持代式百七匆六厘六毛奥書遣ス

一非人扶持内貸四百目目明し内貸四百目右證文奥書印形遣ス

一京町塩屋新兵衛宿切手大坂大川町錢屋七郎右衛門手代善三郎懸銀取参宿仕候旨

一勝間田町かや太郎右衛門宿切手播州網干えひす屋甚次郎塩物鯉

一節嵐壳参候宿仕候旨

十二月十八日 御用場有之

一西今町ハ願出候例年之通端米在方ハ請取申度旨申出候付勘定奉行中江及相談御用所へ申上ル勝手次第第二差免ス

一非人加廻り目明し相廻候事町方夜廻桶屋町付火沙汰事御用所及御沙汰候

一若殿様御袴着御召初之御祝義座頭共頂戴候義申出候付御用所ニ御窺申上ル可被下之旨被仰渡候

一牢舎人服薬代遣候様大年寄書付相渡ス式勿渡部玄林三匆山口東水三匆中嶋宗元三匆片山淡水八匆川崎道廓八匆有本玄信八匆渡部休庵六匆北山修斎ノ四十壹匆□葉数大概之積リ五分壹服之積リヲ以増減有之

一二丁目松岡屋与惣家屋敷北側ニ而表口四間裏行拾七間但壹軒役西隣蛭子屋権七東隣ハ福永屋藤左衛門右之家五人組相談之上代錢壹貫目相極町内福永屋藤左衛門へ壳渡申度旨本證文出ス

一堺町七郎左衛門悴助左衛門木綿代滞義申付候処先達不行跡ニ付義絶勘当仕候願可申上候処原田屋利助養子貫候付無抛御願及延行候得ハ助左衛門私方江ハ一切出入不仕候式步中買商売自弘為仕義ニハ無御座候當時助左衛門別宅罷在候右濟方之義御救免被下度旨願申出候付相□申処別宅事公辺ニ懸リ申義ニも無之弘方滞事故七郎左衛門ハ返濟ハ指免シ助左衛門ハ急度弘候様申渡ス

十二月十九日

十二月廿日

一倉敷代官藤本甚助殿今日久世陣屋引越御城下致通行候ニ付町掃除

先弘同心組兩人差出ス

一三丁目年寄京屋忠六願之通役差免シ跡役草津屋茂一郎へ今日申付ル

十二月廿一日

一戸川町長右衛門持馬相果候旨断書出ス

十二月廿二日

一御用有之付廻状来リ広瀬半助宅へ罷越候役料付人引当之借米被仰付旨被申渡之

一若殿様御袴着御召初之御祝義座頭へ被下置候今日小頭部屋目付兩人罷出相渡ス員数左之通人別八十七人
銀札三百四拾七勿役料筆墨共ニ

十二月廿三日 御用場有之候

一若松屋善右衛門醬油問屋願書口上書今日御用番御内意申上ル御用席指上ル

一京町加茂伊右衛門願出候私役介人くめ儀六十歳罷成候出生公料大庭郡目木村助右衛門娘ニ而御座候然処私義老袁仕候付渡世無御座候右くめ儀助左衛門方へ相返シ申度双方納得之上御座候町内人別御差除可申候付願出候間宗旨奉行中へも及挨拶候尤くめ義ハ類族ニ而無御座候得共伊右衛門類族故承合願之通申付ル本證文

一林田町辰屋重助願書去ル酉歳私所持之他国請酒株東新町橋本屋甚左衛門方へ当子歳迄借用罷有処今度甚左衛門へ右酒株相譲リ申度奉願旨承届ル

一京町加茂屋伊右衛門私家屋敷北側表口五間裏行拾七間御堀切但志

軒役東ハ福井友節後家西ハ作人忠四郎銀札五百五拾目相極伏見町作人捨藏江壳渡申度奉願旨承届ル

一町医野間宗順先達久世御代官石黒小右衛門殿病氣砌奉行所江頼来候ニ付申付遣候然ル処先方ハ礼杯無之ニ付今日右之訳大目付所へ申達御用席へ御沙汰も有之候得とも上ノ御取計被成筋ニも無之候拙者場ニ而宜取計可然旨ニ付牢屋療治薬代受取申候□書入受取可申大目付中被申候ニ付右之通ニ取計銀札十五勿請取金百足宗順へ遣候様ニ大年寄へ相渡ス

一ニ階町筆屋伊八妹ハ相願候悴善六六年已前勘当致候今度差免申度旨願趣御用席へ申上ル吟味致方可申付旨被仰渡候願之通承届候旨大年寄へ申渡ス尤山北村ハ善六御追放者ニ候得ハ帰住徘徊之義ハ重而相願相濟迄ハ不相成候心得違無之様ニ申渡ス

一□□□非人御家中へ廻リ三味線杯行申候事は迄差留置候差免可申□旨申上ル勝手次第之事被仰聞候町方へ達之候

一ニ階町文助先月廿四日ニ逐電断出候付御定法之通尋申付置候処今度大庄屋万助ハ操綿八本二步中買伊兵衛取次文助壳渡候分代銀相払不申欠落右わたハ山手屋弥右衛門へ質物ニ置申候由万助ハ願出候付伊兵衛逐吟味返答書差出候様申渡ス依之文助妻義ハ町内預ケニ申付ル家財諸道具年寄五人組大家立会相改年寄へ預リ置様申渡ス文助義正月十五日迄ニ組合請人大家ハ急度尋出可申尤有無義可申出旨申渡ス質取主山手屋弥右衛門是又文助尋出候様ニ申付ル

十二月廿四日

一米相場 六十式勿五分御蔵米
五十九勿五分町米

十二月廿五日

十二月廿六日

一西新町鉄屋伝蔵私所持之自国請酒株此度伏見町袋屋伊右衛門方へ
来丑年々卯歳迄三年間預ケ置申度願之通承届ル

一船頭町片田屋源六家屋敷南側ニ而表口式間半裏行七間老尺五寸但
老軒役東ハ爪生原屋善助西ハ作人清兵衛ニ而御座候代札三百拾勿
相極同町爪生原屋善助江壳渡申度旨承届ル

一小性町南側ニ而戸田屋八兵衛娘かん家屋敷表口老間五尺裏行四間
町並但式歩八厘役南ハ中谷屋助右衛門北ハひび屋彦市家御座候右
かん儀私先妻ニ而先達罷越候節右之家屋敷私引請世話仕町内家
役等相勤罷在候尤かん義縁類者も無御座候付五人組相談之上此度
私名代ニ書替申度奉存候勿論右家屋敷付町内其外何之儀も無御座
候旨願出候故再三遂吟味申処先格も有之趣ゆへ願之通承届ル

一出羽守様来ル四月御帰国之御先触參候旨指出ス丑六月三日四日勝
間田御泊リ四日五日久世御泊リ

十二月廿七日

十二月廿八日 御用場有之

一召捕盗人之義及御沙汰御書趣申上ル

一町医師野間宗順へ金百疋為持遣候様御年寄へ申渡ス

一目明し太兵衛へ銀札五匁遣候様小頭へ申渡ス

一船頭町高松屋次左衛門願私所持仕候宿屋株二階町堺屋兵吉へ相讓
リ申度旨吟味之上承届ル一札差遣ス

一京町鍵屋与平治願大坂江戸堀老町日較屋金兵衛申者小間物類売私

宿仕来り候近年不勝手商売不仕罷越不申候右金兵衛棹菊屋治兵衛
与改号仕御当地江罷越申度罷越私宿仕候様被仰付被下助成ニも相
成候旨願出之外小間物屋共邪摩ニも相成不申旨遂吟味候趣相届之
間小売義決而致間敷旨願出候故宿仕候申付候

十二月廿九日

宝曆七丁丑年

町奉行御用日記

從正月
至十二月 井上弥三兵衛

丑正月

御用番 伊達与兵衛殿

大目付 市村番右衛門

町大年寄月番

藏合孫右衛門

元日

一辰上刻諸士登城御帳右早而勘定奉行申合御用席江罷出年頭御祝儀
申上ル御奏者所大目付所及挨拶候其後御表ニ而一統御家中江御面謁
罷出ル

正月二日

一御用始日參御役人新御用場江罷出ル例之通御用席江勘定奉行郡代
御藏奉行御金奉行一統罷出御祝儀申上ル右早而御吸物御酒頂戴大
目付所江右御礼申上ル

一京町若松屋善左衛門醬油問屋願書御用所江旧冬差上置候今日願通
承届可申旨被仰渡候年数五ヶ年之間問屋指免可申旨被仰渡之右願

承届趣大年寄江申渡ス

一大年寄三人年頭為祝義我等宅江罷越致盃事候

一米相場 御藏米六十三匁 書附出ス
町米六十匁

正月三日 例年之通御用場無之候

一大年寄宅江為年頭嘉儀朝飯後罷越三ヶ所盃事有之

一大久保出羽守殿代官年始書状来ル致返書候

一倉敷御代官飯塚伊兵衛殿手代石井甚藏年年始書状来ル致返事候

正月四日

一坪井町年寄濱屋源右衛門去ル二日致病死届出ル

一坪井内藤金一郎殿代官曾郷忠右衛門年年始状来ル

正月五日

一醬油座申付候付惣町触書出ス

一若松屋善左衛門醬油座申付候付一札取之候

一京町若松屋善左衛門岡山醬油取次座致度由願候ニ付当丑歳已歳迄五ヶ年之間右取次可致之旨申付候然上者向後岡山醬油取寄申度者善左衛門江右之段申達善左衛門取計為致可申候勿論銘々只今迄取来り候醬油屋ニ而も又者新規之醬油屋ニ而も相望候通差支無之様申付置候委細之儀善左衛門承合可申候右取次座相極候上者他国他領醬油直ニ取寄候儀堅致問敷候此旨惣町江相触可被申候以上

正月六日

一例年通惣町触書差出ス

一 上山牛頭天王素戔鳴尊正遷宮地祭三月十五日と四月朔日迄致執行
候旨東西橋江建札いたし度旨大年寄迄神主横部主殿と頼来候付申
出候明日及御沙汰勝手次第申付ル

一 米相場 御蔵米六拾式匁 書付出ス
町米五拾九匁

一 京町若松屋善左衛門岡山罷越度旨願出ル

一 錢相場書四通相認差出ス致奥書頼来候所差遣ス

一 西今町山手屋長四郎大坂江用事ニ付罷越申度旨書付出ス

一 小性町西川屋重三郎宿切手岡山醬油屋小嶋屋与右衛門手代長右衛
門懸取参候付宿仕候旨

一 林田町年寄福地屋八兵衛相果候旨断出ル

正月八日 御用場有之

一 下紺屋町小紋字屋八十右衛門願私悴伊助儀当丑十五歳ニ罷成候平
正心入悪敷候ニ付町内組合其外一家共打寄度々異見仕候へ共一円
相用不申難儀仕候夫ニ付思懸り候親類共相談之上義絶勘当御願申
上候御慈悲迄奉願被仰付候被為下候様難有奉存候実父安岡町桶屋
与次右衛門加判願出候間及御沙汰候願通承届候様被仰渡大目付所
中達ス

一 御用達直屋六郎左衛門福永屋藤右衛門嶋屋三右衛門御蔵元態野屋
理右衛門罷出年始盃事致候

一 惣町々々寄為年頭嘉儀罷出逢申候大年寄名面披露申聞候

一 来十二日大年寄江御用所御逢被下候義御伺申上ル例年之通取斗可
申旨

一 来十四日御用達三人御蔵元江御逢被下候義相伺申上ル是又相済

一 右御門出入之義書付中奥目付と御達ス

一 来十二日西川江飛脚老人被仰付被下様大目付所申達ス

正月九日

一 組者并三軒屋番人牢番組中間相扣候而例之通盃事いたし料理出之
候

正月十日

正月十一日

一 倉敷飯塚伊兵衛殿手代石井甚蔵と書状子歳中錢相場書頼来候則返
書相場書差遣ス尤拙者致奥書印形候

一 乃井野と年始書状来ル致返書候

正月十二日

一 西川大久保出羽守殿代官中へ年始書状并旧冬返礼旁塩鱈一折ニ為
持遣ス飛脚御中間老入受取遣ス十三日飛脚罷帰ル

一 御具足御祝儀諸士登城御祝義頂載相済御用所へ例之通罷出

一 町大年寄三人御用席御逢被成候御退出之刻中ノ口ニ而我等披露い
たし尤御家老中御年寄中両度御下り

一 諸月番居残り大目付中被申達候者殿様当春中御滞府御願旧冬相済
候付為知候旨

一 年始ハ朔之諸士登城五ツ時罷出可申筈ニ前々被仰出候心得違之者
有之遅参候面々有之候已後五時罷出候様被仰渡候

一 不宜手遊等不致様兼而被仰出候得とも此節猶又左様無之様ニ下々
へも可申聞旨御用所被仰出候旨

正月十三日 御出席無之

一内方鉄五郎殿高田陣屋手代関蔵カ書状来ル川築瀬運上致吟味申候付前々請負当町姫路屋甚五郎来十五日ニ罷越候様申付候様頼来ル則大年寄江申渡ス

一元魚町海老屋長右衛門宿切手京二文字屋清兵衛手代次兵衛嘉七罷越宿仕候旨

一明十四日大般若相延明後十五日罷成候付御用達町人登城之義大年寄へ申達ス

正月十四日

一中町西屋治右衛門願出娘すい英田郡猶原村小右衛門と申者内縁御座候付養女ニ遣申度旨町人別御差除可申旨承届ル

正月十五日

一先達而御願申上候通京都僧西国カ去冬十一月罷掃備前カ当地江罷越申候右申上通岡部元隣跡役義何方江可被申付所存候哉と相尋申私存付も有之被申候得者番僧被申者何分致上京住職了簡上可申越御座候是者当地備前所之存付別々ニ候間早速不申付候様相聞申候就夫其後早々本寺江書状ヲ以存付候義申入同所住職返書ニ何分正月寄合ニ可致許義問左様相心得候様被申越候故当月廿八日於京都許義之上相定り申儀ニ御座候左候得ハ其刻寄合ニ罷登備前ノ兼帯ニ申付候ハ諸方触出し不申内断申差替度奉存候何卒当月廿日頃出立仕上京仕度且又近年寄合義断申不相勤候付当年杯者相勤可然様存候由寺役之者噂いたし承得候旁以上京仕候得ハ以後宗門取計心儘致候様相成申候依之先達御願申上通上京入用御座候ニ付

此段自力ニ叶不申候迷惑仕候御聞届之上右入用被下置候様被仰上被為下候者難有可奉存旨

正月十六日

一舟頭町惣船持共願出候者京町若松屋善左衛門江令度他領カ小樽カ艇ニ而も直取寄候儀者仕問敷旨奉畏候醬油舟積義者カ只今カ

一大般若御修行ニ付御用席御出仕御用達御蔵元於中ノ口御逢被成候例之通拙者披露

直屋市郎左衛門

当病断

御用達嶋屋三右衛門

御蔵元

姫路屋甚五郎

福永屋藤左衛門

熊野屋理左衛門

一虚無僧組頭三角良甫カ願出候当国内ノ弓削村元粹去年因果申候付諸役備前林伊兵衛申仁江申付候由相相聞候左様相成候而ハ三百人余之者とも入込申候而御城下之メリ不宜ニ付今度致上京本寺江相願当国内ニ而同役出来候様致度旨乍去路用自力難叶旨願出候段々遂吟味候処無抛趣故御用所申上候路用遣候而成共不ノリ無之様致可然乍去用席承候而及差凶候事ニ有之召寄候間大年寄共宜取計候様可申付候旨被仰渡候左候ハ勘定奉行へ相談可仕旨申上置候

一舟頭町惣舟持共願京町若松屋善右衛門醬油取次座被仰付候向後他領カ直取寄義仕問敷旨奉畏候醬油舟積之義者只今カ惣舟持不殘願番ニ舟積支度奉願候左候得者少々ニ而も無滞何程ニ而も早々舟出し手支無御座様仕可申候左様仕候得ハ荷物少も間違無御座候様相成取次座ニ而も勝手ニ相成申候若船老艘式艘限り舟積仕候而ハ船頭共甚難儀仕候尤運賃只今迄之通ニ而積可申間奉願候通被仰付被下候

ハ、難有可奉存旨

一乃井野^ニ錢相場書頼来り則返書遣^ス

一米相場 御蔵米六拾四匁
町米 六拾老匁

一日上村百姓孫右衛門平七郡代所^ニ而不届有之入牢被申付候同心組

老人差出^ス

一先達^ニ座頭共立被下候御祝儀銀子受取證文差出候付致奥書遣^ス

一勝間田町元三屋小左衛門家屋敷質入今度請返し申候旨断書差出^ス
本證文戻^ス

一元三屋小左衛門家屋敷南側^ニ而表口拾間半裏行拾七間御役式軒役

一東^ハ紙屋茂右衛門西^者横町^ニ而御座候土蔵式^ケ所四軒式間半長家老
軒南之外裏^ニ東西拾五間南北西ノ方^ニ而拾式間東ノ方^ニ而拾老間半
之明地相添右家屋敷代銀五貫五百目相極元魚町河内屋善右衛門へ
壳渡申度奉存候承届^ル

正月十七日

正月十八日 御用場有之

一京町類族かめ儀病氣大切之旨断出^ル

一右かめ致病死候旨断出^ル為檢使御使番渡部惣馬宗旨奉行伊達与右
衛門被罷越先格之通見分相濟候旨申出^ル尤此方御届不申上候

正月十九日

一江戸御奏者番^方歳暮御祝儀大年寄三人^方御着一種宛指上遂披露候

処御喜色^ニ思召候旨書状来^ル大年寄へ申渡^ス

一福合と申手遊町方へ絵図壳參所々^ニ而調申候由不宜博奕之筋と申

事目明申出候間町方停止之触書出^ス委細御触書帳有之

一御駕籠之者御用^ニ付被召抱町方望人被申出候様可申付之旨大目付
所^方被申聞之中奥目付中及相談廿六日迄^ニ申出候様相触可申旨大
年寄^ニ申渡^ス

一勝間田町年寄元三屋小左衛門不勝手罷成当分渡世も難儀仕^ニ而町
役之義難相勤御被免之願申上候旨願之通承届^ル

一牢舍人宇七昼刻^方急症病氣重リ相見申候番人断出之川嶋桃庵罷越
正氣無御座様相見候所夜入少々快方^ニ而服薬等申付候右御用番大
目付中へ御届申遣候

正月廿日

一字七今朝少々快旨申出候

一大年寄三人歳暮御祝儀相濟候御礼罷出候

若松屋善左衛門醬油座請一札

一今般他領他国^方御当町江入込候醬油取次座仕度旨御願申上候処当

丑歳^方来^ル已歳迄五年之間右取次座可仕候旨被仰付難有仕合奉存
候然上者御当町醬油屋江只今迄取次来候岡山問屋向之買手望次方

注文私方江取之岡山望之屋号問屋江自私申遣取寄候而相渡可申候

直段之儀其時之相場^方高直^ニ無御座様可仕候尤醬油風味随分入念
させ不埒無之様^ニ可申遣候若時相場^方高直^ニ致候歟亦者風味悪數
仕越度^ニ可被仰付候先達^而申上候通時相場内卷升^ニ付五厘宛下直

仕呉候様岡山問屋江申談候左候得^者御当地故障相成候義少^度無御
座候自然壳懸出来仕候共御訴訟申上間敷候右年数相濟候者御断可

申上候万一外^ニ差支^ニ相成候儀出来仕候者何時^ニ而茂御差図次第相

止可申候尤右年数之内為冥加銀銀式枚宛差上可申候為後日御請一札如件 右之通指出候

正月廿一日

一 牢舎人宇七病氣昼後方大切罷成候旨断出候間御用番大目付中へ御届申出ス 暮時相果候旨申出候間療治之医師川嶋桃庵見届候様之大年寄へ申遣ス御用番大目付江御届申遣ス

正月廿二日

一 六半時宇七死骸為見分御徒目附三浦十郎左衛門下目付長谷川文助牢屋江罷越此方方小頭部屋目付罷出候様申付小頭不快ニ付部屋目付川端又六罷出ル無滞檢使相濟候間取捨申付候様ニと市村番右衛門方申來候間御用番江取捨候旨御届申上兼田河原江失格之通堀埋可申旨牢番江中遣ス尤取捨之刻御組者不罷出候

一 美濃職人町助左衛門去十一月新職人町瀧本屋平四郎方ニ而留主ニ罷越母と相對操木綿老本代九十匁相調内十匁相渡残不相渡押而わたり取歸り候段平四郎方訴出候旨逐吟味日切等申付代相渡候様追々申付候へ共不埒相濟不申ニ付此間御用席同上候通今日大年寄宅江川端又六平組老人指出手鏡申付候追而家材等平四郎江相渡させ可申事尤御届申上ル

一 勝北郡植月中村又左衛門娘かつ十六歳罷成私内縁御座候付同町菓屋与六肝煎ニ而養女貴申度奉願旨承届ル

一 小性町西川屋重三郎岡山下片上町大和屋清右衛門代徳三郎と申者醬油懸取ニ昨日参宿仕候旨

一 中ノ町河内屋藤三郎阿州高原村直兵衛手代栄治郎幸次郎上下三人

藍玉壳罷越宿仕候旨

一 二階町堺屋多吉願出候備前岡山岩田町くり屋長太夫元詰懸銀取ニ前々参來候所近年不勝手付得不参上依之長太夫甥金屋理兵衛与申者大坂南久宝寺町壹丁目大工道具商売仕候此以後利兵衛儀長太夫代りニ御当地江差越申度旨申越候右奉願旨申出ル

此願外菓種屋共故障ニ相成由相聞候付願書差戻ス書付

一 甫人願出候木坂某神橋筋南河原町三丁目菓屋新七与申者前々和中散売参候所近年不勝手相成得参上不仕依之右代大坂会所町松屋又兵衛与申者菓種風売仕申候御当地江出入仕せ度旨願出ル

一米相場 御蔵米六拾五匁 中買書付出ス
町米 六拾式匁

一 小性町西川屋重三郎宿切手勢州口子村形屋仁左衛門手代庄右衛門例年之通形壳罷越宿仕申候旨

正月廿三日 御用場有之候

正月廿四日

一 西新町友屋理右衛門願林田上町治助申者家内三人私借屋江差置申度旨在分承合可申付事

一 西新町山田屋文六願私所持之家屋敷北側表口式間半裏行拾七間但大溝切式步半役也東隣大坂屋宇兵衛西隣八桶屋助右衛門ニ而御座候代札四拾目相極同町仲屋藤助江壳渡し申度旨

正月廿五日

一 入牢日上村百姓孫右衛門平七今日出牢同心同老人指出ス触内追払ニ相成候由

一御中間弥六御領分追払被仰付候旨御中間頭ニ而申渡依之追払見届者同心兩人差出候様ニ大目付被申聞候間指出ス

正月廿六日

一東新町三輪屋善兵衛所持自国請酒株当丑年より来ル已歳迄五年之間私方へ預リ商売仕度奉存候然上者右年数之内善兵衛手前ニ而請酒商売相止申候旨願之通承届ル

一勝間田町元三屋小左衛門私儀近年不勝手付渡世難儀仕候就夫御当国内真嶋郡三家村長左衛門方江引越申度奉願候家内三人悴八女郎かん御当地人別相離申度奉存候旨承届ル及御沙汰候

一小性町南側ニ而二階町嶋屋藤吉家屋敷表口老間五尺裏行四間町並但シ御役者式歩八厘南隣ハ中谷屋助右衛門北ハ肥田屋彦市借屋ニ而御座候町内五人組相談申上候以小性町浜田屋助三郎と申者私由緒御座候付相譲り申度奉存候願之通被為仰付被下候ハ、難有之旨段々念入遂吟味申由緒格別無拗訳ニ而相讓申趣ニ候間勝手次第ニ承御座候乍去已後之例相成不申様申渡ス

一勝間田町元三屋八重郎家屋敷北側ニ而表口式間裏行拾老間御役半役東隣ハ作人太郎兵衛西隣ハ作人左吉右家屋敷代札八拾匁ニ相究町内福市屋忠次郎へ売渡申度奉存候旨承届ル

正月廿七日

正月廿八日 御用場有之候

一伏見町栖巻屋平助断出候雲州御抱相撲雷電為五郎与申者上方江罷越度道中足病仕候付十日斗私方ニ逗留養生為仕度旨承届ケ及御沙汰置

一小性町西川屋重三郎宿切手備前岡山野田屋町出岩屋清右衛門同所下市町中嶋屋久六例年通元結おろし売参宿仕旨

一伏見町作人甚之丞願私伯父忠助去ル戊歳二月御願申上子八月迄備前岡山ニ而紙屋町并筒屋宇兵衛方へ奉公罷越候所又々当丑二月より来卯ノ十月迄三ヶ年之間相勤させ度旨願出承届ル

一江戸大勘者菅沼藤右衛門方町大年寄三人并惣町方歳暮年頭之差上物代之義申来ル

銀拾六匁五分塩引三尺 三年前歳暮献上
式拾式匁五分鯉節三十 同年始献上

拾六匁五分 塩引鮭 惣町年始ニ献上

五十五匁五分

右之通書付来ル大年寄ニ相渡ス

正月廿九日

正月晦日

一元魚町紙屋善十郎大坂本屋甚兵衛方罷越申度旨願出ル

一米相場 御蔵米六拾三匁
町米 六拾匁

一銭相場六拾九文ニ立替候旨申出ル

一勝間田町年寄元三屋小左衛門跡役苅田屋孫七年寄役申付ル

一林田町年寄福地屋八兵衛義相果跡役若屋四郎へ申付ル

二月

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目付 鈴木喜右衛門

町大年寄月番

玉置忠兵衛

朔日

一 京町かまや与兵次宿切手大坂江之堀一丁目菊屋治兵衛手代与兵衛と申者老人小間物おろし売昨日罷越候旨

一 玉置忠兵衛甥備中油屋多左衛門罷越逗留四五日仕候旨届申聞候

一 美濃職人町助左衛門先日手錠申付置候処今日指免家財諸道具新職人町瀧本屋平四郎へ相渡候様申付

二月二日

二月三日 御用場有之候

一 御触書来ル御家中之面々衣類櫛笄之義兼而被仰出候通弥堅相守候且又下代足輕召不仕下女揃置近来猥ニ相成絹帶籠甲櫛笄相用候様相聞候此已後堅相守候様可被申付候右御書付同心組三軒屋番人牢番人江可申渡旨小頭江申渡ス

一 小性町田戸屋宗十郎宿切手筑前遠賀郡山鹿浦伝重郎手代金次郎茶碗おろし売ニ昨日参候旨

二月四日

一 町方絹衣類櫛笄之義兼々相触候通相守可申候近来絹帶籠甲櫛笄相用候者有之様粗相聞候不届候此已後弥堅前々申付候通相守可申候妻子召仕至迄得与可申聞候若相背候ハ、急度可申付候

一 町方者諸士者不及申御扶持人へたいし不礼慮外仕間敷候高あした

はき申間敷候召仕之者けた一切はかせ申間敷候右之段相背候ハ、

急度可申付候廻り者共見合次第ニ吟味致候様申付置候右之通触書

指出候

二月五日

二月六日

一 江戸御奏者番中町大年寄三人年頭御祝儀肴一種宛并惣町ニ肴一種指上遂披露候処御喜色ニ思召之旨書状来ル大年寄江中渡ス

一 元魚町福吉屋善六願出候私弟伊助儀去戌十二月真嶋郡高田村清左衛門方江去十二月切ニ差遣申候所又々当丑歳方来已歳迄指置申度奉願候旨承届ル

一 舟頭町渡舟御繕断書差出ス

一 西新町土手非人女行到相果居申旨断出候ニ付部屋目付川端亦六為見分指出候処弥野伏非人相違無之惣身疵等も相見不申何之疑敷儀も無御座旨取捨候様申付候右之段御用番大目付御届申出ル

二月七日

二月八日 御用場有之

一 安岡町中ノ横丁ニ西方北側裏通し道東西五拾間余右道幅狭往来難相仕候今度銘々裏通土手藪際迄切均シ候而道大概老間程ニ而仕度作場仕来勝手ニ宜御座候旨町内一統相願申旨申出之間大目付所及内談御用席江申上候処吟味行方ニ可申付之旨被仰渡之依之為念新田村之方へも大庄屋へ以下代承合申候上見分組者差出候而外故障無之趣ニ付勝手次第ニ申付ル

一美濃職人町年寄藤兵衛不勝手付役義相願候無抛訊ニ相聞候間願之
通候承届跡役三好屋三郎兵衛江年寄役申付ル

一坪井町年寄浜屋源右衛門去冬相果候跡役同町浜屋佐右衛門江申付
ル

一安岡町年寄坪屋和助去冬相果候跡役坪屋多吉へ年寄役申付ル

二月九日

一安岡町三嶋屋利助借屋次助願出之藤本甚助殿御代官所西々条郡井
村戸平次与申者私甥ニ御座候不勝手ニ付私方へ引請相応之渡世為
仕度戸平次五十四歳妻かね五十歳伴友治式拾五十歳人別以上三人
住宅儀奉願旨承届ル

一勝間田町苅田屋孫七願出候久米北条郡宮尾村岡本屋次左衛門娘い
よ十七歳罷成私伴源右衛門妻ニ貫申候ニ付引取申度旨承届ル

一牢舎人日は病氣旨申出候町医師明日早朝遣候様大年寄へ申遣ス有
本宗伯罷越之

二月十日

一虚無僧三角良甫京都へ帰候備前之組頭当国兼帯之義本寺聞届断申
達候而追而当国ニ而同役江申付管ニ相極ル由忠兵衛罷出申聞ル当分良
甫老人ニ而当国取斗致候様申旨

二月十一日

一米相場 御蔵米六拾貳匁 書付出ス
町米 五拾九匁

二月十二日

一米相場 六十老匁 書付出ス
五十八匁

一元魚町大庭屋万助拾わた八本二階町文助福渡町角屋伊兵衛取次ヲ
以売渡候所去十一月廿四日二階町山手屋弥右衛門質物指置銀札七
百廿匁かり取逃致久落候依之大庄屋□助へ角屋伊兵衛懸り合訴訟
差出候付双方遂吟味候上文助妻子同町組合預ケ申付訴人大屋質取
主へ文助□出候様申渡候正月十五日切申付候処相見不申旨断出候
依之伊兵衛江弁濟候様申付候得共相濟不申候付御用所江委細御伺
申上候而今日左之通ニ及裁許候

銀高七百廿匁之内内拾三匁四分四厘 文助闕所物払代引
残七百六匁五分六厘 三ッ割

貨物ニ而候ハ、
式百三拾五匁五分式厘 山手屋弥右衛門損銀申付ル

綿売主

同断

大庭屋万助同断

伊兵衛請人

九匁六厘

二十目大河屋喜兵衛

ノ式百廿六匁四分六厘 二步中買惣仲間江弁濟申付ル

二步株并家材相渡候様申付ル 福渡町角屋伊兵衛

追込文助店請人

福渡町いそや六兵衛
新魚町いそや伊助

右之通今日大年寄宅ニ而小頭立会之上以書付申渡ス妻子町内ニ預置
候得共一件相濟候間一類者ハ妻子引取候様申付ル

二月十三日 御用場有之

一蔵合孫左衛門就用事備前岡山和田屋八右衛門へ罷越申度旨同役加判ニ願書差出候旨御用所及御沙汰勝手次第ニ申付ル

一桶屋町八杉如留願出候私義眼病ニ而神用相務難申候付久米南条郡高尾村社家因米采女俸權之進与申者私養子引取神用相勤させ申度旨願書差出ス寺社奉行中江茂願書差出候旨取次中承合申候処何方被申付候由故承届是坂手信濃跡之義ニ而候

一日は病氣趣御用所大目付所申達ス

一福渡町北側ニ而坪井町香々美屋市郎右衛門家屋敷表口三間裏行拾七間但シ七歩五厘役也東隣ハ作人長兵衛西隣作人勘吉ニ而御座候右家代銀札百目ニ相極同町作人六助江充渡申度旨

一中之町藁屋与六私借屋へ居申候治郎兵衛申者家内三人林田上町六兵衛借家へ引越申度旨在分承合承届ル

一東新町倉敷屋七郎右衛門私弟治郎兵衛儀林田村孫兵衛借屋へ居申候処此度私方へ一所能成申度申候私家内人別御入被遊可被下旨在分承合廿八日ニ申付ル

一伏見町辻屋六右衛門大坂へ罷越候願承届ル

一同心組室井作右衛門去冬致病死候付番代俸政次当丑ニ拾六才ニ罷成候惣仲間ノ番代被仰付被下様相願候尤未若年ニ御座候而未熟内ハ何奉公ニ而茂仲間江相勤可申旨願書差出候依之願之通今日番代ニ申付候尤大目付月番へ右之訶噂申置之急度届ニハ無之未熟候得とも仲間方も達而相願二三年間候義候間番代ニ申付故御咄申候万一思召も御座候ハ被仰聞可被下旨及挨拶候処同役共も咄可申候存

寄も無之御挨拶ハ申間敷旨去ル八日ニ被申聞之今日迄何之沙汰も無之付今日小頭へ申渡ス

二月十四日

一武步中買二階町大和屋市郎右衛門願出候私所持武步中買私不勝手ニ付此度下紺屋町中谷屋文七江相讓申度奉存候左候得者新職人町家持豆腐屋忠右衛門請人相立申候御定法ニ相守右商賣念入相勤可申候然之上者已後私手前ニ而武步中買相止可申候旨双方印形願書出候先格段々遂吟味申候処是迄追々讓候者多相見申候付承届ル

一上紺屋町灰屋善右衛門借屋作人長七願出候古川村半七私從弟ニ而當丑三十式歳相成候今度私引請渡世為仕度奉願旨在分承合候以上

二月十五日

一同心組室井作右衛門去冬相果候右番代俸政治江作日番代申付候今日罷出致目見候

二月十六日

一下紺屋町原田屋利助大坂新斎橋京屋源三郎方廿日斗逗留ニ而罷越申度旨

一吹屋町釜屋孫十郎熊野屋理左衛門家質返済方当月十五日切ニ申付置候処来月中旬迄日延断書指出申候付当月晦日迄日延申付候夫迄相済筋立可申旨申渡ス

一細工町伊左衛門家守借屋新右衛門千ヶ寺江參詣往来百十日斗逗留願出候

一東新町作人伊兵衛俸平七西国巡礼罷出申度往来八十日斗逗留願出候

一 福渡町草津屋茂市借屋市兵衛西国三十三所順礼ニ往来八十日斗逗留願出候

一 安岡町真嶋屋勘七願久米北条郡堺和谷村九郎右衛門私親類ニ而御座候不勝手ニ付今度私方引請相応之渡世為仕度奉存候九右衛門三十歳同人妻つや式十四歳以上式人御当地住宅奉願旨及御沙汰候

二月十七日

一 新魚町かと屋伊助福渡町いと屋六兵衛追込今朝差免申渡

一 林田御弘地入札廻状差出候様大年寄申渡候

二月十八日 御用場有之候

一 三軒屋番所及大破候付御修覆断書指出御用所へ申上ル

一 牢番所疊四疊半大損ニ付被仰付被下様去歳申達置候未出来不申旨

大目付所江達ス

一 二階町觀寿院裏通り御堀江足代下シ申度旨以書付断出候御用所申上ル大目付所江達候勝手次第ニ申渡ス

一 三木甚左衛門今日被召大目附格式吟味役并地方御勝手吞込ニ被仰付候右之通大目付所を為知有之

一 下紺屋町小紋字屋八十右衛門平野丹下下代池上多助私借屋借申度申候付用達申度旨

一 京町石井屋弁四郎借屋河原町菓子屋庄兵衛千ヶ寺江參詣廿日出立百五十日逗留願出ル

二月十九日

二月廿日

一 藏合孫左衛門岡山を罷歸申候

一 舟頭町今津屋伊勢參詣願出之

二月廿一日

二月廿二日

一 小性町高嶋屋家守太兵衛願出候私借屋へ罷在候茂兵衛夫婦西北条郡惣社市郎右衛門方へ引越申度旨存分承合

一 新魚町平田屋勘太郎大坂江用事付廿日斗逗留罷越候旨

二月廿三日 御用場有之候

一 西今町紺屋七郎右衛門大坂用事罷越候願

一 京町戸屋岩右衛門大坂江罷越候願

一 元魚町伊丹屋理右衛門私祖父伊七郎撰州久代江參詣仕度旨

二月廿四日

二月廿五日

一 東新町米屋伝三郎私伯父弥吉只今迄伊達与兵衛殿江相勤候処此度暇出申候付町内人別江御入可被下旨承届ル

一 河原町ニ而不動屋家屋敷南側表口四間裏行拾三間御役本役

一 右同人家屋敷表口式間裏行拾壹間三尺御段式歩五厘右家屋敷東隣へ福田屋半兵衛西隣へ作人喜兵衛代銀札式百五拾匁相極同町作人長八江売渡申度旨承届本證文出ス

一 西新町濱本屋喜兵衛願出候妹尾権八拜領屋敷居候長助与申者家内式人私方へ引請申度奉存町内人別へ御加可被下旨承届之

一 小性町為屋長助後家願出候私所持仕候米買宿屋株去ル丑十一月方亥十一月迄十一年間同町福永屋庄兵衛江預ヶ置候処四年已前ニ庄兵衛相果申候右預置候株故取戻し船頭町高松屋利助江相讓申度奉

存候旨遂吟味候処庄兵衛相果年数切候砌可断出候処無之義此段、
不念ニ候得とも庄兵衛家相続人も無之右株年切預候義も相違無之
旨大年寄申付願之通承届勝手次第ニ申付ル

一 塩口銭問屋福永屋源右衛門林田屋藤吉材木屋庄右衛門米屋嘉助
願出候

一 塩舟積為登候儀先達奉願上候通小桁御番所御通り手形被下置候者
御手形裏書仕其舟江相渡シ御番所へ指上させ申候然処他領宮尾村
江積登せ申候塩御当地へ積候旨紛敷義共御座候付此度銘々林田
土手わくなけの所江人出シ置地舟下舟共ニ御当地へ積込候塩相改
候而改印仕度奉存候今度御番所へ御断申上人出シ置候処舟こも延
なと懸置候而舟頭共改させ不申候其似ニ致置候得ハ猥ニ相成難儀仕
候此度林田わくなけの辺江相改候様被為仰付被下置様奉願候猶又
宮尾村江積登せ候由御番所江申上勝手次第船頭町上置追而宮尾村
へ積登申積族も御座候是等之儀疑敷奉存候此後者宮尾村行之分ハ
当御地中ケ不仕改候而直ニ積登せ候様と被為仰付被為下様奉願候下
方登り候舟林田わくなけ之辺迄ハ川向ヲ引上ケ申候夫方土手方へ
舟ニ寄林田土手筋追廻し川原之方へ引上ケ申候左候ハ、わくなけ
之辺ニ而向方土手之方へ舟ヲ付候節相改候得ハ舟取申儀無御座右之
段被為遊御聞届奉願之通被為仰付被下候様奉願候旨
右之通願出候間遂吟味候処無趣ニ相聞候間左之通舟頭共江申渡
ス
一 先達而申渡候通塩口銭問屋申付候ニ付登込候塩舟員数小桁御番所
ニ而改有之様申付候得共猶又今度林田土手わくなけ之辺江右問屋

共方人差出塩員数改候様申付候間舟頭共無異儀舟中相改候様致可
申候且又他領江積登塩御領分川岸江中積いたし候様相聞候縦他領
分江積登せ候塩ニ而も暫も楊置候得ハ口銭指出可申筋ニ候間他領江
差登候旨御番所へ相断申間敷候若他領方被頼積登せ候ハ、決而中
上ケいたし申間敷候若紛敷事有之候得者吟味上急度越度可申付候
右之通申渡候様大年寄江以書付申渡ス

二月廿七日

一 京町阿賀屋弥五郎伯州根留米屋弥三郎方へ罷越申度旨願出承留ル
二月廿八日 御用場有之候

一 来月五日更山院様二十三廻御忌於泰安寺一夜別時御法事被仰付候
旨廻状候

一 右ニ付町方自身番儀御伺申上ル

一 公領綿織村ニテ見世物有之候兼而他領江参間敷旨被仰出候得共猶又
右之場所自分妻者不及申下々迄堅不参様可申付候旨右支配組者中
渡ス

一 元魚町油屋与一郎撰州久代江参詣仕廿九日出立往来三十日逗留願
承届ル

一 下紺屋町作人嘉吉願出候岡辰之丞長屋居申候幸助同妻同仲忠吉以
上三人私借屋ニ差置申度候承届ル

一 安岡町ひかさ屋甚兵衛願私娘さい今度田邑村武右衛門妻貫申候付
遣申度旨在分承合

一 豆腐屋共願候大豆高直ニ付只今迄拾三文壳申候得共拾五文商壳致
申度旨願出候吟味申付候只今迄前々拾五文壳申事無御座候由乍

去大豆直段去冬も相統高直故右之通願出申旨尤前々大豆八十匁位

いたし申事候得とも夏分秋迄当分義ニ御座候得とも今年ハ長々高

直ニ付甚難義候段願出候間無抛趣ニ付願之通申付候追而御用所ニも

御沙汰申上ル

壹匁五分壹厘 大豆三升八合

貳分五厘 薪代

メ壹匁七分六厘

右者拾挺分元入拾五文売立式匁壹分七厘

内

壹匁七分六厘 元入り

残テ四分壹厘 手間代

右之通願出之大年寄存寄ニも拾四文ニ申付可然ニ付申出候間拾

四文ニ申付ル

二月廿九日

一 二階町嶋屋藤吉播州溝口村四五右衛門方用事御座候付廿一日逗留

ニ而罷越度旨

一 播州姫路領在中醫師意齋と申者妻子三十日斗逗留為仕旨願出ル

三月

御用番 伊達与兵衛殿

大目附 廣瀬半助

大年寄月番

朔日 齋藤孫右衛門

二日

三月三日 御用場無之候

三月四日

三月五日

一 更山院様二十三廻御忌御法事泰安寺ニ而之町方昨昼日自身番申

付ル例之通組者兩人西大番所へ相詰ル

三月六日

一 式步中買惣代西新町備前屋太兵衛中ノ町住屋喜七元魚町米屋伊助

福渡町皆木屋甚兵衛同町升屋喜兵衛安岡町古川屋太兵衛ノ願出候

先達而私共江被為下置候門屋伊兵衛式步中買株此度美濃職人町備

中屋甚七仕度旨奉願候御許容被為仰付被下候ハ、慥成請人為相立

御定法通相守商売入念相勤可申候旨遂吟味外之者願ハ今度相勤候

者ノ願出候様申付是ハ先達仲間へ遣候故仲間願ニ而承届ル請人桶屋

町家持六兵衛

一 昨五日更山院様二十三廻御忌ニ付座頭共銀札相渡候小頭部屋目付

罷出ル

人数メ貳百七十七人

銀札合八百七拾五匁七分五厘

右之通配當場城保城意ノ書付差出候重而御用所可被申上候事

一 福渡町木屋長右衛門借屋勘助家内三人

一 同町土佐屋金十郎借屋作人仁助家内式人右者共伴岩次郎長屋江引

越申候旨人別除之

一 新職人町晝屋作右衛門借屋作人喜助家内式人村田孫之丞長屋へ引越候旨願出人別除ク

一 茅町市郎兵衛私娘今度久米北条郡神代村佐五郎妻貫申候付遣申度旨

一 一米相場 御蔵米六拾目 町米五十七匁

一 無宿盜人平三郎山北村小原村へ度々這入致盜候山北村盜賊番穢多召捕出候旨郡代所ニ而詮議廻状ニ付今日入牢申来同心組耆人指出ス 賄牢賄申付ル

一 笹井全内三軒屋番中尾藤助近ニ五七日逗留罷越候旨口上願出承届ル

一 一元魚町分堀端西今町作人長助(津田屋与平治借屋) 家守嵐屋伊兵衛

一 福渡町(木屋長右衛門借屋作人仁助) 家守中村屋忠三郎

一 右兩人之者共盜人平三郎盜物取次質物置候ニ付詮議之間町内江預ル

三月七日

一 町方触書出候他領たりとも帯刃致し候者無礼慮外致申聞敷候事

一 近來夜中於途中女子共帯引とき懷中之物紛失致し候様粗相聞不届至極候若輩之者とも左様之義無之様親々可申聞候此已後於町内男女立会法外之儀共有之候ハ、其近辺之者へ出会承札面体等見届早速可申出候捨置後日ニ相知候ハ、其町々可為越度右之通惣町末々

一 迄念入可申渡旨以書付申渡ス

一 玉置忠兵衛臍臘問屋仕度旨願出候付去冬再三遂吟味申処御城下町指支ニ相成候事少無之網干着持參候得とも是町方之故障ニハ成不成候旨被仰渡候尤運上ニ者不及旨被仰渡之冥加銀指上可申旨申上置候年数拾ケ年切申渡ス大目付所へ申達ス勘定奉行中も為知申候右月番齋藤孫右衛門へ申渡ス

一 牢舎人日は病氣大切之趣申出候ニ付河井友益指遣ス御用所大目付所へ相届ル

三月九日

一 日は病殊外差重り申旨申出候ニ付御届申上ル大目付所へ申達ス

一 日は相果申候旨断出候早速御届申上ル大目付中へ届ル檢使候義申遣ス

一 御用番与兵衛殿へ罷越御伺申上ル日は取拾致方申上ル

一 日は死骸見改御徒目付藤田弥八郎下目附広瀬玄藏罷出ル此方方小頭石名平太兵衛部屋頭神田権兵衛差出ス無滯見分相濟大目付広瀬半助方右相濟取捨候様申来之

一 惣町役ニ而三人雇先差出ス桶ニ入候得而横山河原惣墓所へ取捨堀埋申付ル右相濟御用番大目付所へ御届申遣ス

一 伊達与兵衛殿家臣方申聞候先達而追払被致候家来山平と申者今般徘徊仕候処被指免候旨先達同心組者共被相頼遣追払申候付右之段為知有之候則小頭へ其旨申聞候

三月十日

一京町若松屋善左衛門私母儀先達御願申上候大坂天神橋筋近江町山本治兵衛方ニ罷越当二月逗留御断申上候処猶又来秋迄逗留仕度旨申越候旨断書出ス

一河原市右衛門北側ニ而私家屋敷表口三間裏行式間半御役半役之東隣ハ作人佐吉西八作人勘八ニ而御座候代銀五十匁相極同町作人国助ニ壳渡申度奉願旨聞届ル

一 下紺屋町大工仁右衛門借屋居申候桶屋文四郎西国巡礼ニ罷出申度往来八十日逗留罷帰申度旨

一 小性町年寄屋根屋伊兵衛致病死候旨届ル

一 浜野屋文五郎大坂表ニ明十一日罷越往来五十日逗留罷帰申度旨

三月十一日

三月十二日

三月十三日 御用場有之

一 大目付鈴木喜右衛門ニ申渡之近来稲荷宮へ鳥散者共泊り申候様相聞候三軒屋番人方夜々心付追払申様可申付候間右之段小頭へ申渡三軒屋番人へ申付ル

一 安岡町米屋伊兵衛甲州身延江參詣仕度旨往来百五十日逗留願承届ル

一 中ノ町笹本屋助右衛門西国巡礼罷出申度往来六十日逗留願承届ル

三月十五日

一 鍛冶場土橋流落申旨申来ニ付引取ニ間無之間舟渡申付ル御届申遣ス

一 川端門六方小田中村兵作役介ニ引請候旨断出ル小頭方書付出候

一 鍛冶場舟御繕出来不申ニ付広瀬舟相用ル尤御作事へ断申遣ス

一 御城東三軒屋谷ノ通り堺式間半斗倒申候旨三軒屋番断出候大目付所申達ス御作事方相届ル

三月十六日

一 「一」非人乙八久米助作二郎源右衛門七兵衛右五人者共盗人平三郎度々出入不埒趣相聞候間手錠申付候様大年寄江申渡ス大年寄方ニ而手錠申付ル此方組者ハ不出候手錠ハかし遣ス

一 美濃職人町ニ而福住屋藤兵衛家屋敷南側ニ而表口四間半裏行拾七間但シ本役之東隣団屋次右衛門西隣ハ桶屋「一」衛門御座候右之内東ノ方表口式間半裏行拾七間御役六步代銀札百三拾匁相極則団屋次右衛門江壳渡申度奉存候旨承届ル

一 安岡町北側作人文太郎家屋敷表口四間半但御役者本役也東久米屋全七郎西隣ハ作人六太郎御座候町内打穴屋忠助取次質物書入当丑三月方当九月切利足式割相定銀札百六拾匁借用仕度奉存候旨承届ル

一 馬持共宿馬廿五疋外先年方五疋之分大豆御扶持被下候処馬入用残銀分取り入用ハ願出様ニも相聞申候ニ付吟味申付候前々ハ大年寄方残銀預り置取斗来候へ共先「一」方馬持方ニ而取斗申様相成候依之今度馬持共ニ一札申付可然旨差函申渡ス大年寄方一札有之候

一 右残錢之内落馬有之節其者へ百匁斗「一」宛手当ニ遣可然候残銀惣仲間々々わけ取申候而も少分事何之益ニも相成申間數候死馬有之者ハ甚難義之筋候得ハ馬入用残物ヲ以右之通ニ手当取斗可然候此旨惣仲間へ得申渡可然旨大年寄申談ル書付申渡帳ニ有之

三月十七日

三月十八日 御用場有之

一神宮寺為見物役者付建札建申度旨大年寄申出之勝手次第ニ及差因之

三月十九日

一中ノ町佐渡屋平四郎借屋久左衛門西国巡札罷出断書出ス

一東新町作人仁兵衛紺屋長次郎借屋罷在候所今度林田上町長助家屋敷へ引越申度旨

一西新町箕作丈庵借屋与三兵衛家内三人林田上ノ町へ引越申度旨

一二宮神宮寺南京操芝居世話焼儀二階町堺屋太吉下紺屋町原田屋馬七引請世話仕度旨願書出候尤例通メリ一札差出ス

一二階町大和屋市郎左衛門仕来り式步中買今度相止申候付右之跡下紺屋町中谷屋文七式步中買致度旨請人新職人町家持豆腐屋忠右衛門相立申候願之通承届ル只今迄式步中買讓願無之ニ付今度改相断出候様極ル尤株譲り相極候ニ付新ニ入候者も願書出候様及差因候ニ付今度指出候此已後此格ニ願可申事

一美濃職人町南側大工文藏家屋敷表口式間半裏行拾七間但六步役西隣ハ吉田屋平吉東作人市兵衛右屋敷式百八拾目相極作人市兵衛へ

賣渡申度旨

一美濃職人町広岡宗慶家屋敷北側ニ而表口四間半裏行拾七間御役本役也西杉屋市郎兵衛東ハ元魚町美濃屋仁兵衛家御座候代三百目ニ

相極大工文藏へ売渡申度旨

一京町宮嶋屋源助私親分仕罷在候茶屋加左衛門家屋敷去□十一月表口五間裏行十七間同町塗師屋甚七取次質物ニ書入銀札四百五拾目

借用仕候処此度私受返し申度旨願出候遂吟味候処加左衛門子分先達而相成居申義ハ相違無之候故願之通承届ル

三月廿日

三月廿一日

三月廿二日

三月廿三日 御用場有之候

一公料塚角村上山ニおいて見世物有之由相聞申候他領ニ無断猥ニ不參様兼而被仰渡候猶又不參様下々迄可申渡旨廻状来ル

一米相場 御藏米五拾九匁 書付出ス
町米五十六匁

一二丁目林田屋惣右衛門京都本國寺へ參詣申度旨断出ル
一西川屋重三郎宿切手出ス江州神崎郡新堂村嶋屋新平例ノ通させる
墨筆売ニ參宿仕候旨

一中ノ町小山屋与三右衛門宿切手播州網干鍛冶屋惣十郎手代善十郎
鯉節風売參候旨

一同人宿切手播州網干余陸屋惣五郎八百屋物売參候致宿申旨

三月廿四日

三月廿五日

一東新町紙屋源七家屋敷北側ニ而表口式間裏行拾七間御役三步三厘
三毛東隣者かた木屋清七西隣者加治屋甚四郎右家屋敷代三百五拾
匁ニ相究加治屋甚四郎へ売渡申度旨

一安岡町作人六太郎家屋敷北側ニ而表口五間裏行拾四間半御役耆軒
役之処東隣者作人西隣者作人新七御座候右家屋敷同町久米屋

弥次兵衛方江質物書入当丑ノ三月方来十月切式割利足相定銀札三
百目借用仕度旨

一 福渡町八兵衛家内四人伴岩次郎屋敷江引越申度旨人別除

一 二丁目松田屋五郎左衛門悻孫市參宮為致度旨断出ル

三月廿六日

一 宿馬為見分小頭差出之部屋目付申出ル改帳面大年寄方差出ス

三月廿七日

三月廿八日 御用場有之

一 御用番与兵衛殿被仰渡候二階町御門方田町御門迄之御堀定渡ニ先
年御伺相濟候大分埋リ申候ニ付当春夫步ニ而渡被仰付候而其後町分
ハ毎月渡可被仰付旨去歲被仰出候得とも先今年ハ渡被相止候依之
掃除草等取捨其上人夫余リ有之候ハ、少々宛ニ而も土取上ケ可申
候惣町々方毎月老人宛人夫指出可申旨被仰渡候町方甚困窮其上
永々人夫差出候様ニ而ハ甚難義仕候旨申上候委細市村番右衛門方
吞込ニ被仰付之ニ付何「」老人七合五夕之御ふち米被下置候様致
度旨番右衛門被申達置候先渡被仰付候迄町方人差出させ可申旨
被仰渡之

一 二階町御堀ノ裏に堀有之候者共居屋敷堀及大破候得ハ修覆仕可申
候若致不沙汰堀懸不申候得ハ屋敷御取上ケ被成候旨被仰渡候旨大
目付月番広瀬半助方被仰渡候右沢大年寄へ申渡此節宜敷堀も出来
兼可申候間相廉成堀ニ而も懸ケ可申旨可申渡旨孫右衛門江申渡ス

一 二宮神宮為見物役者今日着船明後日始申度旨世話焼方申出ル御用
番大目付所へ御届申遣ス

一 見世物場所へ參間敷旨御触書御徒目付中持參右之趣牢番三軒家へ
申渡候様小頭へ申付ル

一 去御歲暮当年始町大年寄并惣町指上物代銀五拾五匁五分今日相納
候書状相認江戸表菅沼藤右衛門へ差遣ス

一 船頭町熊野屋理右衛門相願吹屋町釜屋孫十郎家質相滞候ニ付先達
而返済方日切等追々申付之元利相濟シ請取申候旨理右衛門方濟口
書付差遣ス

一 西新町久輪屋伝兵衛私借屋居申候半兵衛家内四人林田村方申正月
罷越申処今度林田上町へ罷歸り申度旨人別除ル

一 西新町木賊屋磯右衛門願林田上町三右衛門悻清助と申者私借屋へ
差置申度旨在分承合候上

一 西新町鉄屋伝藏私儀今度撰州大坂平野町三丁目塚本屋吉兵衛と申
者内縁御座候ニ付当丑歳方来ル已歳迄五ヶ年間奉公罷越申度奉願
候私家屋敷之儀ハ並屋三郎兵衛へ家守相勤させ申候旨承届ル

一 自国他国請酒株改申付之帳面指出ス御用筆筒ニ入置候自国株前々
ハ拾三軒有之候処右之内老軒他国株ニ転シ申旨他国請酒株前々ハ
五軒有之所ニ其後相増シ当時九軒有之候

三月廿九日

一 大目付中が被相尋候者広瀬鍛冶場舟渡不浄乗せ不申由先ニハ乗候
様ニも沙汰も有之候川水深ク作人共致難義候由相聞候いつ頃方乗
不申様相成申哉粗見可申旨被申聞候遂吟味申候処森家時代方渡舟
ニ不浄ハ為乗不申候由申聞候依之舟頭町御制札写改見申処ニ渡舟
不浄石砂乗せ申間敷旨有之候右之趣大目付中へ嚮申置之

三月晦日

四月

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目附 市村番右衛門

町大年寄

藏合孫左衛門

一原筋見世物今日方はうらく明日方本狂言仕候旨勸進本断出ル

一竹子抜取申間敷旨例年之通触書相認大年寄へ相渡ス柳土手へも差出ス

一林田瓦屋町畑溝古あわせ古草物着物并蔵かき拾有之心懸り候儀申出候様ニ触書出ス

一久世藤本甚助殿御代官所木綿実運上請負中川筋当町菊屋清左衛門当丑方戌迄拾ケ年李中付候旨且又清右衛門倅和助江東川筋運上請負当丑方巳迄五年間申付候旨届申来ル相応ニ返書申遣ス

四月二日

一為見物今日本狂言初申候付同心組兩人例之通差出候

一京町塩屋新兵衛宿切手尾州智多郡嶋崎之内寺元村陰陽師高橋伊豆弟子五兵衛式人例之通且那廻り罷越宿仕候旨

一鍛冶町から屋伝左衛門弓削村出職致罷在候処家来新助と申者致打擲候ニ付手疵も有之候間引取候様ニと弓削村庄屋方鍛冶町年寄へ申越候旨伺い出ニ付職人別者ニ相違無之間罷越召連參候様と申

渡ス尤新助義も当所人別之者と相聞申候付是又引取申候今四時ニ罷帰候付為見分部屋頭川端又六差出之手疵相改申処月代内へ式ケ所式寸斗疵有之候左腕はれ居申候旨書付指出ス

四月三日 御用場有之

一齊藤孫右衛門痰積難儀仕候付湯原江入湯仕度四日出立往来十五六日之逗留ニ而罷帰申度旨御用席へ申上ル大目付所へ申達ス願之通承届ル

一舟頭町舟大工李次郎去々年女打擲いたし候義ニ付町追払申付候処今般妙法寺に就願ニ付可被差免哉と御尋有之候上江懸り追払も無御座候旨申上候得ハ今日帰住居御救免被成旨被仰渡候其段町内へ申渡ス

一林田町升旗屋新助家屋敷去ル亥歳同町山形屋伝左衛門江質物入銀札百目借用仕候処今度元利相濟家請戻申候旨断出本證文戻ス

一京町宮嶋屋源助家屋敷南側ニ而表口五間裏行拾七間但御役五歩東隣今津屋半兵衛西隣者味噌屋利左衛門御座候右家代銀札八百目相極同町平野屋次兵衛へ売渡申度旨

四月四日

一今日為見物道悪敷ニ付延引仕旨断出ル

一から伝左衛門口書指出ス

四月五日

一伝左衛門罷来新助為詮義神田権平衛平組三船孫八差出之書役円六差出之

一為見物場へ同心兩人指出ス

一坪井町福得屋文七家屋敷北側表口四間裏行拾七間但老軒御役并土蔵一ヶ所西隣ハ大津屋七郎右衛門東隣ハ福得屋文七御座候右家屋敷代札式貫五百目相極則桔梗屋忠左衛門売渡申度旨本證文出ル
一盜物質物に取次候福渡町仁助元魚町作人長助町内預ケ申付置候処今日指免候

四月六日

四月七日

一細工町大工源助三年已前ハ相煩居申処近来氣上り難捨置体ニ御座候付家内かこひ仕入置申度旨兄藤兵衛ハ断書差出ス承届候

四月八日 御用場有之

一二階町御門ハ田町御門迄之間御堀凌候儀当春可被仰付候処先御延引被成候ニ付来春迄草取掃除候義惣町被仰付候老町ハ人老宛毎月差出可申候旨被仰渡右之段大年寄ニ申渡ス

一為見物同心組差出ス尤日々差出事

一銭相場七拾文通用立替候旨申来ル

一勝間田町茶屋善七郎用事ニ付備後福山上蔭中町村山屋夫助方へ往

来六十日逗留ニ而罷越申度旨断書出ス

一中ノ町重屋平蔵伯州三朝へ入湯願三十日逗留断書出ス

四月九日

四月十日

四月十一日

一為見物雨天ニ付延引

一堺町根田屋庄兵衛家屋輔表口拾老間裏行拾七間并土蔵四ヶ所但御

役式間役東方横町通西ハ土佐屋庄三郎右家屋敷中市屋惣助取次ニ而銀札六貫目但シ老月老步半利足来ル十月切ニ而借用仕度旨願出ル本證文出ス

一東新町茶屋五郎兵衛家屋敷南側ニ而表口式間裏行拾老間御役三步三厘三毛西隣ハ鍋屋甚右衛門東隣ハ私宅ニ而御座候今度同町大嶋屋権三郎へ銀札五百匁相極売渡申度旨本證文出ル

四月十三日 御用場有之

一御堀浚人夫町々ハ三十三人正人差出可申候御作事方ハ浚差図有之様被仰付候節大年寄方御作事ハ申前か様ニと大目付月番市村氏申達ス

一神宮寺為見物加日被仰付之

一牢家御修覆書御用席へ差上ケメリ場所御修覆出来仕様申上ル

一召捕者三人之儀小頭江委細申渡ス

一林田町升屋新助袋町北側家屋敷表口式間式尺裏行六間老尺五寸御

役三步西隣作人孫兵衛東隣者私居宅右家代銀札百目相極同町福吉

屋儀助江売渡申度旨承届ル本證文出ル

一雨天為見物無之候

一中ノ町有元立節後家願出候林田上町道懸り中間半兵衛私借屋貸申度旨願出承届ル

一同人願出候林田上ノ町道懸り中間半兵衛借屋只今迄居申候作人長助後家ふく同人娘志け同人娘とめ同人悻孫七同人孫ろく以上家内五人私借屋貸申度旨承届ル在分申合ル

四月十四日

一美濃職人町ニ罷在候長右衛門伴伊助与申者先達不埒之義共有之致
逐電其上風聞も不宜敷候処此度目明し与捕出申候付急度盗人と申
慥成沙汰も不相知候付御用番兵右衛門殿江御同申上候而相改御領
分追払申付候則古城村御堺目江組者兩人差添追払申候

四月十五日

四月十六日

一京町かき屋与平治宿切手出々奈良今井岡嶋忠兵衛手代源助与申者
墨壳参候例年通宿仕候旨

四月十七日

四月十八日 御用場有之候

一橋本町ハ出屋六兵衛一宮市町ニ付大坂上町代五郎与申者力持仕六
人連見世物私せわ仕申度旨

一例年通一宮市町ニ付惣町江触書出ル文言例之通

一市町御触書御徒目付中持参候

一戸川町市右衛門私借屋居申候作人市左衛門家内三人伴岩次郎屋敷

江引越申度旨承届ル

四月十九日

四月廿日

一米相場 御蔵米五拾八匁 書付出々
町米五拾五匁

一中ノ町乙波屋重次用事付大坂大川町金岡屋伊兵衛方へ往来四十日
之逗留罷越度旨

四月廿一日

一元魚町えひ屋長右衛門京都二文字屋清兵衛手代次兵衛嘉七吉三郎
呉服物売宿仕候旨

一安岡町米屋十右衛門願出候一宮市町参懸り南京操拾三人連見世物
神主中頼候付私世話焼仕度之旨

一先達而惣馬持共申渡候五疋分餘扶持大豆取計方之儀請一札差出之
文言ハ前段有之付略之候

一御触書到来江戸表於西九千代姫君様去ル十二日御逝去被遊候自是
今日方明後廿三日迄三日内鳴物高声御停止に候尤普請ハ不苦候右
之通大年寄申出ル小頭申渡々

一宮市町田植祭ニ付同心組兩人指出々

四月廿二日

一米相場 御蔵米五拾七匁
町米五拾四匁

一盗人平三郎在中ニ而盗取質物差置申候郡代所詮義相濟質屋方取上
郡代所江相渡々

四月廿三日 御用場有之

一福渡町重屋次右衛門万人講世話焼之願次御用番兵右衛門殿江御内
意申上候処兼々相濟申間敷御聞入置成候由願書御戻

四月廿四日

一鍛冶場舟渡昨廿三日方満水ニ而渡留り候今朝方川水干落舟渡相始
候旨断出候御届申遣々

四月廿五日

一夜九時前大円寺方出火場所相詰ル夜明罷帰ル御用番へ御届申上ル

一宮脇町福松屋吉郎兵衛当月十五日之夕致欠落申候旨斷書差出ス先格之通尋候様と申渡ス

一林田東新町かみ屋源七願出候林田村甚兵衛と申者家私相讓申候ニ付今度家内四人林田村へ引越申度旨承届ル五月廿一日申付ル

四月廿六日

一鍛冶町から屋伝左衛門先年弓削村出職仕罷在候処去月廿九日夕家来新助を相擲いたし疵有之由弓削村より引取申様ニと鍛冶町年寄へ庄屋申越候旨斷出候旨弥当所人別相違無之出職者事故早速引戻しから町預置之妻ハ京町古金屋喜兵衛娘ニ付喜兵衛預置候家来新助義ハ新職人町作人平兵衛妻悴ニ付平兵衛預候先達而追々大年寄宅ニ而致詮議口書取之置之新助手疵療治之義ハ主人伝右衛門へ申付置之疵平癒之由断出候間今日不残呼出遂吟味申処口上書も相聞候間夫々対決申付之処ニ輩勘太郎と申者も手伝申候様相聞候委細詮義趣以書付御用所へ相伺御仕置方申上置之

主人伝左衛門弓削村出職引戻し暫追込家来利助義ハ脇指等さし主人方へ参不届ニ付御領分追込ニ輩勘太郎義町分追込ニ申付候様奉伺之委細吟味一件袋入置候事

四月廿七日

四月廿八日 御用場有之

一鍛冶場舟渡満水ニ付留り申候旨申出御届申上ル

一桶屋町金十郎願出候市町中大坂嶋之内大谷大蔵かるわざ五人連為

見物世話焼神主頼候付仕度旨

一伏見町大工宇兵衛娘屋敷裏御堀江塀覆直申候付足代下申度旨及御

沙汰大目付中へ申達

一寺社取次中より被申聞之出火之節寿光寺へ町人足両三人宛罷越申答此間之出火出不申旨被申聞大年寄遂吟味候処

四月廿九日

一鍛冶場舟渡今朝方水落通舟旨申出之御届被遣

一京町かまや与平治宿切手出ス大坂北浜式丁目葉守屋新左衛門手代

源兵衛木綿染地売参宿仕候旨

一盗物質物取候町人共質請込之手代共呼出シ呵可申旨大年寄申渡ス

一出火之節町々より罷出候人数或ハ印斗持参人足不罷出候様も相見申

候已後引取候節人数見届可申間左様兼々申渡置候様ニ大年寄申渡

ス

一茅町吹屋甚左衛門此間大円寺出火時分「」出シ家内出精ニ付呼

出シ褒美申渡候様大年寄へ申渡ス

一奉行所参候人足遅滞候間早々罷出申様可申付旨申渡ス

一林田中町平岡屋忠右衛門去ル廿一日公料百姓方為売物代正錢五分

五厘受取候旨廻り錢目付者より断出候旨先格之通追込過料可申付之

旨御用番被仰渡候付栗田辰右衛門江委細承合今夜入於大年寄宅

追込過料申渡候様申付ル右相済御用番并大目付中へ御届申遣ス

四月晦日

五月

御用番 佐々木内膳殿

大月附 鈴木喜右衛門

町大年寄月番

朔月 玉置忠兵衛

二月

一細川忠右衛門家来御藏切手式俵壹俵自分名宛今朝受取落し申候由頼来候旨ひろい候ハ、申出候様相触申候

五月三日 御用場有之

一鍛冶町かち屋伝左衛門今朝呼出し候而以書付申渡追込ニ申付ル

一相手元家来新助御領分追込申付ル

一伝左衛門家来勘太郎是又町分追込申付候尤兩人共ニ組者見届差出ス

一右之趣御用番并大目付所へ御届申上ル

一御列座江御老中御出席前内膳殿与兵衛殿御兩人ニ而拙者罷出候様被仰候ニ付罷出申出候鍛冶町取斗相濟申哉と御尋故今朝取計相濟申候旨申候処内膳殿被仰聞候者今般之義かち伝左衛門之家来新助同罪ニ可致筋ニハ有之間敷候先年嶋屋俸家来手打ニいたし申出候其後於江戸表御留主居方町奉行所与力へ承合申出町人手打いたし候義ハ無事主人ニ而も喧嘩ニ相立下死人をも被仰付候様相聞候旨岡村多仲咄申旨此義も一旦暇出し候得ハ主人とハ難申候然ハ同罪可致哉と被仰聞候何分今朝申渡相濟伝左衛門義ハ追込ニ申付置旨申上候処已後左如得相考可申上之旨被仰聞候嶋屋俸義何分下死人御沙汰も無之相濟申候ニ付左様義不奉存候三月十三日ニ暇出候得ハ末間も無御座事故暇遣候得とも無間事外主取もいたし不申旨先古主之

義主人同様ニも可有御座候様奉存候ニ付右御仕置方奉伺候義御座候旨申上候為已後跡迄相考追而可申上旨被仰渡候大目付所も右之旨申達ス

一入牢源六儀病氣旨申候ニ付針医本道申付遣候様大年寄へ申渡ス

五月四日

一中ノ町平岡屋忠右衛門正錢遣し不届追込ニ申付置候処昨日伺之上今朝指免候

一小性町とみ屋太郎右衛門家屋敷南側ニ而表口四間裏行拾四間御役式歩五厘東隣者ひち屋彦市西隣ハ作人伝治右家屋敷内西方ニ而表口式間裏行拾四間御役式歩五厘五毛今度代札百五拾目相極作人伝治へ壳渡申度旨承届候本證文出ル

一中ノ町福谷屋清助俸儀助此度御飛脚杉山助ハ番代ニ差出し度旨町内人別御除可被下之旨

五月六日

一橋本町畳屋方ニ而旅人打擲いたし候由相聞候ニ付いか様訳ニ而候哉年寄逐吟味申出候様申渡ス

五月七日

一米相場 御藏米五俵八匁五分
町米 五拾五匁五分

一京町鍵屋与平治宿切手越中富山松井屋源兵衛手代善五郎通魂丹壳参候宿仕候

一二階町堺屋伊右衛門宿切手大坂金田町金屋半兵衛手代理兵衛大工道具壳参申候宿仕候旨

五月八日 御用場有之候

一大目付所^方被申渡候御用番思召候旨御堀端通り裏堀覆痛申所其分
ニ差置候得^ハ御取上ケ被成候御立候間左様可致修覆様被仰渡候旨
喜右衛門江申聞候

一東新町茶屋五郎兵衛家屋敷大嶋屋権三郎^ハ質入致置候右之内西方
権三郎^ハ壳渡申候付請込願書指上申候而壳願書可差上候処間違断
書指上不申不調法迷惑仕候段書付差出之断書差出候様申付ル

一南側ニ而表口六間裏行拾七間土蔵三ヶ所長屋老ヶ所四年已前戊歳
ニ大嶋屋権三郎^ハ質物書入銀札式貫百匁借用仕候今度家請返ニ申
旨断書出ル本證文戻ス

一西新町大坂屋宇兵衛西国巡礼罷出申度旨往来七十日逗留願出ル
一東新町か治屋六右衛門願私母同弟文六西国順礼ニ罷出申度十二日
罷立往来七十日逗留仕度旨

一上紺屋町片岡屋彦十郎三月十八日与風罷出行衛相知不申旨断書指
出ス尋候様ニと申付ル

五月九日
五月十日
一米相場 御蔵米五拾九匁五分
町米 五拾六匁五分

出火節町分詰所
遂吟味書付差出候
一御制札左へ預ル 西ハ西今町預リ

今町出火節^ハ
宮脇町^方勤ル

東^ハ橋本町預リ
林田出火之節^ハ
材木町^方勤ル

舟頭町御制札ハ舟頭町預リ
一川戸御蔵詰林田町 林田出火刻ハ京町^方出ル
一詰米御蔵 中ノ町 宮川^方東出火刻式丁目三丁目出ル

一銀札場 二階町 二階町出火刻ハ京町出ル
一郷蔵近火之節ハ桶屋町^方詰
一御作事江大工式人伏見町^方出ル

一御船蔵 船頭町^方人足八人出ル
一町御奉行所へ出人 新魚町 戸川町
桶屋町 新職人町
福渡町 右老^人宛
以上五人

一泰安寺 西今町^方今町出火ニハ安岡町^方出ル
一妙願寺 茅町 茅町出火ニハ下紺屋町^方出ル
一寿光寺

一牢屋詰メ 河原町 人足式人 戸川町
小性町 添式人(新魚町 戸川町)

一本源寺 宮脇町

西今町出火節ハ御制札預ル
宮脇町出火節ハ安岡町方出ル

一 鋸二挺 材木町方火本へ出ス橋本町出火ニハ御制札預ル

一 廿六人 京町 廿式人 中之町

四十卷人舟頭町 九人 勝間田町

内四人ハ御舟藏へ

廿五人 林田町 拾九人 西新町

廿三人 東新町 十三人 伏見町

七人 橋本町 九人 材木町

四十人 元魚町 三十八人新魚町

廿五人 二丁目 十三人 さかい町

廿卷人 吹屋町 七人 美濃職人町

拾五人 桶屋町 拾六人 新職人町

三十人 坪井町 五人 宮脇町

四十卷人安岡町 廿人 福渡町

三十人 戸川町 廿人 西今町

十五人 上紺屋町 十一人 下紺屋町

七人 細工町 十三人 鍛冶町

八人 茅町

外ニ

牢屋へ出ル 牢屋へ出ル
廿人 小性町 十八人 河原町

廿三人 二階町
銀札場へ出ル

五月十一日

一 小性町年寄ひちや彦十郎今日申付候段案内有之

一 舟頭町和泉屋伝藏大仙へ参詣仕度旨断書出候

五月十二日

五月十三日 御用場有之

一 玉置忠兵衛屋敷裏御堀江足代おろし申度旨預書出ス御用席へ申上ル
大目付所へ達ス

一 御堀端町屋敷有之者共塀修覆可仕候不埒捨置候得ハ屋敷取上ケ申
候定候旨御用所被仰渡候旨鈴木喜右衛門被申聞候而又々京町二階
町伏見町材木町申渡候様大年寄江申付ル

一 二階町觀寿院護摩堂町家敷塀及大破申候ニ付修覆申渡候処来春差
延具候様ニと申出候間難相成之旨申渡候

一 坪井町浜屋清助西今町北側ニ而所持之家屋敷表口五間裏行拾七間
但シ七步役也東隣者柳屋喜四郎西者通筋唯今迄出店仕指置申候今
般家守手代文六儀数年来相勤申候ニ付五人組相談之上ニ而右家相
譲リ申度奉願候旨承届ル

一 橋本町疊屋文右衛門倅源治郎去ル二日夕旗武兵衛と申者を打擲致
候旨旗人断出候得とも疵等も無御座候ニ付吟味難致固所之役人指
紙ニ而者取罷越可申旨中聞差戻し申候然所親共疵付申候沙汰も粗

相聞候依之其分ニも難成候間年寄共吟味申出候様ニも申渡候所親共へ疵等付候事ハ虚説ニ而武兵衛を源治郎打擲少々致申候旨委細書付指出候旗人之義左様之義も有之候ハ、早々訴申出可申処其儀も無之不屈ニ付追込申付度旨及御沙汰吟味次第ニ可申付旨被仰渡之

五月十四日

五月十五日

一新田村出火有之

五月十六日

一橋本町疊屋文左衛門同倅源次郎追込申付ル大年寄宅ニ而為申渡候

五月十七日

一例年之通橋上ニ而涼申間敷旨触書出ス

五月十八日 御用場有之

一米相場 六十疋奴

町米五拾八匁

一坪井町大はか屋伝兵衛南側家屋敷表口五間裏行拾七間但御役老軒役之并ニ土蔵老ケ所有来之家付之道具共ニ西隣ハ鍵屋清右衛門東隣ハ吉野屋六右衛門ニ御座候今度質物ニ書入町内檢物屋勘助取次ニ而銀札壹貫七百目利分老ケ月式歩ツ、ニ相極メ丑十月切借用仕度旨一下紺屋町原田屋馬七私借屋ニ居申候兵助と申者家内三人隅田族長屋へ引越申度旨承届ル

五月十九日

五月廿日

一元魚町江嶋屋市右衛門就用事大坂江罷越申度旨断書出ス

一安岡町久米屋清兵衛持牛相果申候付取捨候儀申出之勝手次第ニ申付ル

五月廿一日

一町分溝筋為見分小頭部屋目付大年寄昨今罷出ル埋申候所夫々浚申付ル

五月廿二日

一東新町茶屋五郎兵衛家屋敷表口六間大嶋屋権三郎質入元利相濟家請戻シ申候間断書出ス證文戻ス

一東新町吉武祐針倅新助儀今度山口主膳殿江出入奉公罷出度旨町内人別差添

一新魚町村本屋治助借屋甚助私義此度小坂宗三与改号針医執行仕度旨断書出ス御沙汰申上ル

一茅町土橋損申候ニ付断書出ス御作事方見分御座候様申上ル

一美濃職人町広岡宗学今般土岐美濃守殿領分英田郡猶原村治部右衛門と申者方引請可申旨申候ニ付罷越申度旨御沙汰申上ル

五月廿三日 御用場有之

一出羽守様当月十九日江戸御発駕来月八日勝間田御泊申旨泊休斗江之御先触至来之旨勝間田御本陣と為知申来候旨大年寄申出ル御届申遣ス

一米相場 御藏米六拾貳匁
町米 五拾九匁

五月廿四日

五月廿五日

大目附 市村番右衛門

一橋本町晝屋文左衛門同倅源治郎追込今日指免大年寄宅ニ而為申渡候

町年寄月番

齋藤孫右衛門

一鍛冶町かち屋伝左衛門追込今日指免ニ已後不埒之義無之様ニと申渡ス尤大年寄宅ニ而為申渡之

朔日

二日

五月廿六日

三日 御用場無之候

五月廿七日

四日

一河原町嘉兵衛借屋ニ居申候作人佐七儀家内三人小沢又右衛門長屋へ引越申度町内人別差除可被下候承届ル

一暑氣御機嫌伺之御帳付ク頭分斗出仕

五月廿八日

御用場有之候

一月番居残り被仰渡有之御家中風儀不宜候ニ付慎候儀被仰渡候文段略之候

五月廿九日

一新人町桶屋茂兵衛林田村弥三郎借屋へ家内五人引越申度旨人別御除可被下候在中申合承届ル

一二階町延寿代觀寿院断書鎮守抱瘡守護神江来ル七日方十四日迄施主御座候付燈明指上之旨断出ル

一江戸菅沼藤左衛門方書状来ル先達而遣し候大年寄惣町献上物代銀受取候旨申来ル人別請取書来ル大年寄へ渡ス

一京町菊屋清左衛門越中富山立町板屋理兵衛甥善三郎与申者例年通当十月迄請人取召抱置葉仕らせ度奉存候例年之通改承届ル

一江戸表式部少輔様御病氣之処去ル九日御卒去被成候依之今日方来

月二日迄鳴物高声御停止事候尤普請ハ不苦候

一西今町北側ニ而信濃屋弥四郎家屋敷表口式間半裏行町並拾五間但シ式歩五厘役東隣ハ土井屋左七西隣者玉屋吉左衛門家ニ而御座候右家屋敷五人組相談之上を以代銀札三百目相極安岡町出雲屋文七

江壳渡申度旨承届ル

一入牢人源六病氣快昨日棄相出申候

六月五日

一川水相増かち場舟渡留り候旨断出候届申上ル七時方渡相始申旨申出之御届申上候

六月

六月六日

御用番 伊達与兵衛殿

一出羽守様御通り継人馬御先触至来旨大年寄申出候御用番并右御用

懸り大目付御届申遣^ス尤先格之員数申来候旨人足式拾人馬廿五疋
一 寄馬五疋郡代所へ申合候御入用廿五疋外五疋ハ用心馬ニ致置候事
一 御道筋為見分六半時坪井町^方安岡町迄致見分候

六月七日

一 御道筋三丁目^方東新町へ致見分候

一 下紺屋町不働屋例之通来^ル十四日祇園御摩開申候旨断書出^ス

一 二階町さかい屋伊右衛門用事ニ付播州龍野綿屋孫二郎方へ廿日斗
往来罷越度旨

六月八日 御用場有之候

六月九日

一 出羽守様昨夜勝間田御泊^ニ而六時御供揃御立五半時過御城下御通
り

一 町奉行代り平野丹下林田町山本屋横丁へ罷出候旨

一 同心組三人丹下ニ遣^ス兩人供^テ老人注進者心当外老人御使組召連申
由

一 東大番所大目付中迄注進町分へ御入込注進中之町曲りへ御見[」]
以上兩度書付^ニ而申達^ス事

一 御先弘町分斗同心小頭石名平太兵衛平組兩人

一 馬指場へ同心兩人

御用馬式拾七疋内 式拾式疋町馬
五疋在中寄馬

外ニ町馬三疋ハ町分用心馬ニ残置候事

一 在宿渡部玄輪松井友悦

一 兼田渡場ニ罷出候者共

鳥目老ノ三百文 惣船拾老艘

藏元 甚五郎

舟年寄伝藏

一 院庄渡場ニ而

鳥目老貫文 惣舟拾老艘

四百文 御藏元利右衛門

舟年寄六兵衛

六月十日

六月十一日

一 東新町種屋後家屋敷北側ニ而表口三間裏行拾七間御役五步東隣
ハか治屋勘右衛門西ハ横町右坂口屋伝助取次ニ而質物書入銀札八百
目来寅ノ三月切月式步利足相極借用仕度旨承届^ル

一 東新町茶屋五郎兵衛家屋敷南側ニ而表口四間裏行拾七間土藏老ヶ
所御役老軒役西隣大嶋屋権三郎家東者横町右屋敷同町大嶋屋権三
郎江質物書入銀札老貫四百目借用仕度旨来十一月切老月老步利足
加へ切通元利返済可申旨

一 中ノ町重屋平藏借屋甚七悴茂七丑三十六歳去^ル二日夕不斗罷出行
方相知不申旨断出候尋候様ニと申付置之

六月十二日

六月十三日 御用場有之候

一 来^ル廿日有徳院様七廻御忌ニ付於地藏院御供養被仰付候右之段為
知有之候大目付中廻状致来

一 入牢者書付指出候様被仰付之

一 安岡町岡屋平兵衛商壳体ニ付雲州松江和田見伊野屋次郎右衛門方
へ罷越申度旨

六月十四日

六月十五日

六月十六日

一 勝部村蓮池蓮葉入札望者米ル廿六日迄ニ御代官所へ指出候様被相
触被下候様ニと頼候付右之段大年寄へ申渡ス

一米相場 御蔵米六拾三匁
町米 六拾匁

六月十七日

六月十八日 御用場有之候

一 御役替有之在分日記留ル略之候

一来ル廿日有徳院様七廻御忌ニ付町方自身番申付火元念入候様申付
ル

一 市町上り役者町方徘徊いたし候様相聞候兼々申渡候通堅宿致間敷
旨申渡様触書出ス

一 二階町堺屋伊右衛門宿切手播州今市綿屋嘉市郎具服売ニ参宿仕候
旨

一 下紺屋町作人太郎吉私借屋居申候作人八右衛門妻いよ四国通路ニ
罷出度旨往来八十日斗逗留承届

一 橋本町西側私家屋敷表口四間裏行拾式間御役本役也南隣ハ渡部玄
輪北隣ハ角屋政次右之内南方表口式間裏行拾式間御役半役之処今

度銀札八拾匁相極渡部玄輪へ壳渡申度旨承届ル

一 下紺屋町杉本屋善右衛門四国通路仕度当月十九日出立往来八十日
斗逗留ニ而罷帰度旨

六月十九日

一 徳守宮涼付去ル十四日と今日迄毎夕同心組差出候

六月廿日

一 牢屋盗人太助平三郎御領分追払今朝申渡ス於牢屋申渡小頭部屋目
付書役差出尤古城御境目江送り見届候段七五兵衛

太助義先達而追払申候処立帰り近辺徘徊候付入牢申置候得共今度
ハ盗も不致候間今度就御法夏御隣慙ノ上助命追払被仰付候尤十八
日於御用席大目付立会被仰渡候

一 座頭警女御布施被下小頭部屋目付兩人罷出相渡ス

人別式百四拾式人

銀高七百六拾九匁五分委細本帳印ス

一米相場 御蔵米六拾四匁
町米 六拾老匁

六月廿一日

六月廿二日

六月廿三日 御用場有之候

一 町方人別外女無願借屋かし候付追込ニ申付ル

船頭町水嶋屋伝八 引請借家かり差置候
其外久々右女逗留為致之

同町 組合 作人七兵衛

同町 請人 作人吉右衛門

同町 請人 同 太五郎

新職人町瀧本屋平四郎 家主

桶屋町 作人長兵衛 家守

右今日申渡ス

一就右触書差出候

六月廿四日

一 二階町堺屋伊右衛門宿切手大坂ニツ井戸高津下松屋利兵衛手代平

治郎例年之通塗物類売ニ昨日參候旨宿手形出ス

一 茅町作人和助借屋長右衛門家内五人大石半藏長屋江引越申度旨承

届ル

一 小性町為屋長助後家借屋湊屋庄七願出候勝間田町岡本屋善四郎昨

今迄古道具取売仕居申候此跡古道具取売私仕度旨願之通承届ル

六月廿五日

一 郡代所より林田上町善兵衛御年貢不埒ニ付入牢被申付同心組老人指

出ス入牢申付ル

六月廿六日

一 町方宗門改印形来月朔日二日三日 町分寺院四日五日六日在中寺

院印形取之申度旨書付指出之寺社取次中へ相渡ス

六月廿七日

六月廿八日 御用場有之候

一 大目付中より廻状来ル

御家中若年之面々鉄砲場所において致稽古候段相聞へ心懸等之義ハ

尤之事ニ候然所近所人家ニそれ玉等有之候由相聞候万一怪我等有之候而者不宜候間若輩之面々致稽古候ハ致世話候もの同道も有之様親々心を付可申候

一 御家中召仕并長屋もの差置節出所等致吟味指置候様兼而被仰出候処町在故障有之ものも差置候様族有之様相聞候向後御領分町在右指置候ハ在中大庄屋町方ハ年寄迄承合故障も無之候ハ指置可申候右之趣同役并支配方へも

一 細工町三四郎家屋敷表口巷間七分五厘裏行拾壹間但式歩五厘御役也西隣ハ作人治左衛門家東ハ木挽長兵衛ニ而御座候御札百三拾匁相極則長兵衛へ売渡し申度旨承届ル

一 古道具触頭紅屋治右衛門願出候私義近年罷寄難相勤御断申上候旨願出候承届願之通差免ス

一 古道具触頭跡役高角屋八十吉へ可申付旨大年寄申出候間八十吉へ申付同様申渡ス

六月廿九日

一 桶屋町清水友三紀州高野山江廿六日出立參詣仕度往来廿日斗逗留ニ而罷帰申度旨承届ル

一 馬指作兵衛六右衛門願出候馬持共例年通大豆拝借中間廿五人江卷人ニ付式儀宛拜借被仰付被下置候ハ難有旨願書差出御用所江及御沙汰相濟其旨申渡ス

一 惣舟持共例年通舟造作米三俵宛拜借願出候御用所へ申上ル相濟其旨申渡ス

一 上紺屋町威徳院拙僧弟子円乘院今般和州大逢へ入峯執行仕度旨来

月四五日頃出立往三十日斗之逗留罷歸申度旨斷書出ル

一京町鍵屋与平治宿切手大坂江戸堀老町目菊屋治兵衛手代与兵衛申者小間物おろし売昨日罷越宿仕候旨

一伏見町大工九八願東南条郡太田村勘助俸新八与申者私養子ニ貫申度旨

一西新町谷屋万助私父庄右衛門去ル子ノ七月不斗罷出申候付方々相尋候得共行方相知不申其節御断申上候然所此間近在一家共方へ罷歸候而申候旨数年眼病殊外及難儀候其身難絶西国四国大願望有之ニ付無何〔〕不斗罷出候由罷歸申候旨断書差出候何之故障も無之趣ニ付承届ル

一二階町山手屋弥右衛門家守平七断書御使組村上伝助申仁私借屋借申度旨承届ル

一高松屋平兵衛讚州金毘羅参詣仕彼地用事逗留願日延承届ル

一二階町さかい屋伊右衛門宿切手京都三井屋茂兵衛手代源七上下式人呉服売ニ罷越宿仕候旨

六月晦日

一雲州松江町人送り者在中日送り来り町分無滞相送り申候

一京町類族不残無事ニ罷在之届書出ル

一東新町笹屋類族相替儀無御座届出ル

一去ル廿三日追込申付之舟頭町七兵衛吉右衛門多五郎桶屋町瀧見屋平四郎家主長兵衛右追込今日指免ス御届手紙遣ス

七月朔日

御用番

大目附

大年寄月番

藏合孫左衛門

一米相場 御藏米六拾三匁 書付出ス

町米 六拾匁

一安岡町岡屋佐助南側家屋敷同町久米屋清八江去戊六月断式百目質物ニ書入置候処今度受戻シ元利相済申旨断書出ス本證文戻ス

一橋本町朝本屋兵助俸十五郎勝南郡飯岡村御番所後藤庄内与申者私内縁御座候付差遣申度候町内人別御差除可被下旨承届ル

七月二日

一米相場 六十式匁

五十九匁

一伏見町吉田屋平十郎後家私俸半三郎去ル戌六月御断申上去子十二月迄三年間大坂江戸堀五丁目湊屋平兵衛方へ奉公仕当丑四月己巳十二月迄五ケ年間奉公仕らせ申度奉願旨承届ル

七月三日 御用場有之候

一舟頭町手嶋屋伝八追込申付之処今日指免ス御届申上ル

一京町塩屋新兵衛大坂北浜大川町錢屋七郎右衛門手代善三郎小間物壳懸取罷越宿仕候旨

七月四日

七月五日

一米相場 六十匁
五十七匁

一御駕籠者被召抱候町方望者ハ早々来十二日迄ニ申出候様惣町ニ相触可申旨申遣ス尤大目付中ニ被仰越之申奥目付中へ日限等承合之

七月六日

一米相場 五十八匁五分 書付出ス
五十五匁五分

七月七日

一組神田権兵衛養子不縁ニ而離縁致候旨小頭平兵衛ニ断出候

七月八日 御用場有之

一盆中触書例年通大年寄へ相渡ス

七月九日

一林田上町善兵衛出牢於郡代所御領分追払被仰付候出牢ニ付組者老人差出ス

一元魚町古川屋与市借屋太兵衛願出ル私悴佐助儀并同人妻さよ今度久米北条郡宮尾村登助申者方へ当丑歳ニ卯歳迄三ヶ年間出職仕度奉存候年数内如何様之義出来仕候ニも登助引請世話仕御役介ニ懸

申間敷旨段々念入遂吟味候上承届ル

一橋本町徳嶋屋七十郎私方忠助備前片上町紺屋長右衛門方へ当丑才より来ル已歳迄ニ五年間紺手間細工ニ差遣申度旨遂吟味承届ル

一高野万人講講元世話焼仕度旨

京町宮嶋屋源助宮脇町倉敷屋和助願書差出ス及御沙汰候

一宮脇町福松屋吉郎兵衛去ル四月与風罷出相見へ不申処所々相尋上

州東谷村小兵衛方ニ罷在候召連罷帰候旨断書指出ス大年寄方ニ而呼出遂吟味候様申付候処口書取之差出ス

一新職人町桶屋茂兵衛空地家屋敷南側ニ而表口四間裏行拾三間但本役右之内空地東西四間南北四間但老步役西隣者三町目佐和屋十右衛門借屋東隣ハ野間宗順家ニ御座候右空地町内五人組相談之上代式百目相極同町野間宗順へ壳渡申度旨

一二階町観寿院願出候下横野村四郎右衛門母惠性申者拙僧由緒御座候付此度引請町住宅仕らせ度奉存候右惠性義御郡代所へも御願申上候旨在中承合申上承届ル十七日申渡ス

七月十日

七月十一日

七月十二日

七月十三日 御用場例之通無之候

一紀伊大納言様去ル三日御逝去被成候依之今日より来ル十九日迄鳴物高声御停止候普請者十五日迄三日内御停止候右御触書大年寄江写遣惣町相触ル組者へも申触候様小頭へ申付ル

七月十四日

一惣町廻り我等罷出候暮時罷出ル桶屋町と下戸川町福渡町宮脇町西今町茅町安岡町坪井町三丁目式丁目元魚町美濃職人町鍛冶町上紺屋町細工町と下紺屋町二階町堺町京町伏見町材木町橋本町林田町夫と東新町迄帰リ河原町小性町舟頭町吹屋町新魚町留リ四時前ニ罷帰ル供者三人全内権兵衛弾七御貸人鍵挾箱留具持高灯燈持老人老人ハ牢番中間召連申候十五日朝御用番大目付手紙ニ而御届申上

ル

一和州大峯參詣願書所々出ル略之候

七月十五日

七月十六日

七月十七日

七月十八日 御用場有之

一此間鳴物高声御停止中螺貝吹申音多相聞候ニ付遂吟味申様大目付中
 中昨日被申聞候間大年寄共呼出大峯參詣之者共并通筋町々年寄共
 遂吟味申候処所々者ニ而ハ無御座候西筋大峯之參詣他国者候由ニ相聞候
 ニ付書付等取之其旨大目付中へ申達候他国者義候得ハ往来ニ螺吹申咎候
 而もいか候間追而江戸表得と御聞合候上御差図可有之先今明日之事候旨
 差留申事ハ無用と被仰渡其旨大年寄申聞ル

一先年不受不施御詮議之御町々年寄役相勤候者とも右宗体差加り申不
 ニ付役義取上申候町々役義勤候様成者も無御座候町ハ甚指支候ニ付追々
 役義も申付度之旨奉伺候処年数も経候事ニ候間役義見斗可申付之旨御用
 番兵右衛門殿於対談間被仰渡候

一宮脇町福松屋吉郎兵衛去ル四月致欠落内々質物之義ニ付出入も有之候
 由右出入者町内年寄并親類者共筋立申候処吉郎兵衛儀尋出此間罷帰候旨
 断出申ニ付惣メリ為追込申付ル旨御伺申上ル明日申渡候様ニ大年寄へ申
 渡メ廿日ニ申渡メ

一坪井町長門屋惣兵衛就用事京都ニ明十九日罷越往来廿一日之逗留罷帰申
 度候旨

七月十九日

一米相場 御蔵米六拾目 書付出メ 町米五拾七匁

七月廿日

七月廿一日

一宮脇町福松屋吉郎兵衛今日追込申付ル

一京町江雷落申候由断出候間御注進申上ル

一清水友三高野山へ逗留日延願今廿日斗断出ル

七月廿二日

一二丁目幾屋佐右衛門大坂銭屋七郎右衛門京都大仏通り木綿屋善兵衛方へ用事買物ニ罷越申度旨

一二階町鳥屋左助越中富山松井屋左兵衛手代和助と申者老人反塊丹壳罷越宿仕候旨

七月廿三日

御用場有之

一大目付所町飛脚之義申来候承合遣メ書状来大年寄ニ為持遣メ

一東新町玉屋伊右衛門湯原江入湯之願出ル

一小性町西川屋重三郎宿切手備前岡山平野町小嶋屋与右衛門手代長右衛門例通おろし醬油懸ケ取ニ參宿仕候旨

一同人同断備前岡山片山町大和屋清右衛門手代徳三郎おろし醬油懸ケ取參候宿仕候旨

七月廿四日

一錢相場七十匁通用立替申旨申出ル

一東新町米屋弥吉撰州九代江參詣仕度旨

七月廿五日

七月廿六日

大風暮時を夜半迄

七月廿七日

一 鍛冶場川舟留り候旨申出候間御届手紙遣ス

一 小性町とうふ屋潰申候旨断出ル

七月廿八日

御用場有之

一 鍛冶場前舟渡始申候旨断出ル御届申上ル

一 京町年寄みと屋理右衛門材木町年寄河内屋藤十郎右兩人今日年寄

ニ申付ル

一 牢屋御修覆断書出ス御用所へ指上ル

一 揚りや前南東之塀覆矢きり大痛

一 御仕置場塀覆痛

一 惣牢中門矢切くつれ申候

一 穢多番所と表門之間塀覆痛事候

一 表門番所屋ね大もり

ノ

一 牢家番所式軒共大もり塀くつれ申候

七月廿九日

一 宮脇町福松屋吉郎兵衛儀追込今日指免申旨大年寄江申渡ス尤御届

申上ル

一 伏見町俵屋伊右衛門借屋福浜屋藤藏妻みよと断書出ス藤藏儀去ル

六月十六日ニ罷出罷帰り不申所々相尋候得共相見不申旨書付出ス

猶又相尋可申旨申渡ス

一 類族居所宗門改帳宗旨奉行中指出候旨奉行所へも京町西新町東新町と帳面指出ス

一 二階町嶋屋藤吉断書出ス例之通播州加古川にねちわく細工手伝五郎三郎市右衛門式人当十二月中迄逗留為仕候旨

一 鍛冶場舟渡守小屋大風吹潰申旨断書指出ス組者見分申付右書付ハ

御用所指上ル御作事御見分被仰付候様申上ル

一 西新町久輪屋伝兵衛願林田上町源右衛門家内三人私借屋へ引越申

度旨願出候間在分承合候旨願之通八月十日承届ル

八月朔日

御用番佐々木内膳殿

大目付渡部惣馬

町大年寄月番

玉置忠兵衛

一 諸士登城御帳付御家老中御達被成候

八月二日

一 町方及大破候家居相見へ修覆不仕候故修覆仕候様申付若難仕候ハ、

町内へ受取修覆之出来候様可申付候質入分ハ質座へ相渡候様申付

ル

八月三日 御用場有之

一 鍛冶場舟頭小屋大風吹潰申候断書出ス御用所へ差上ル長四間横式

間舟頭市郎兵衛三右衛門

一 二階町界屋多吉大坂金屋利兵衛手代三平大工道具売參申候今度初
而罷越旨先達願出承届候故願之通申付ル

一 坪井町ニ而三丁目草津屋茂市借屋家守本屋七郎兵衛右借屋ニ罷在
候市場屋利助当月廿一日罷出罷帰不申旨断書出ス随分相尋可申旨
申渡ス

一 江戸表御駕籠相勤居申候喜兵衛と申者江戸御屋敷致逐電候近来御
城下へ立帰罷在之由ニ候間召捕入牢可申付旨被仰渡候早速同心組
差出二階町山手屋治右衛門家守平七借屋三助と申者方ニ罷在候擲
捕逐吟味申処弥喜兵衛無相違当度江戸逐電六月中旬親三助方へ罷
帰候旨早速入牢申付ル三助義家主へ預置候

八月四日

八月五日

八月六日

一 宗門帳差出候奉行中へ為殘遣ス

一 錢相場老奴七拾文通用立替之旨申出ル

一 京町阿部屋弥五郎伯州根留米屋弥三郎方五十五日逗留ニ而罷越度
旨

一 戸川町与三兵衛借屋長兵衛家内三人岡辰之丞屋敷江罷越度旨承届
ル

一 吹屋町作人長兵衛願私娘りん鉄砲町長四郎妻貫申付遣申度旨

八月七日

一 錢相場老奴七拾文通用立替旨申出ル

八月八日 御用場有之

一 二階町ぬし屋勘平御堀江足代下ケ申度旨御用所へ申上ル

一 三軒家番所大風痛御修覆断書指出ス及御沙汰候大目付所へも申達
ス甚難義趣申出ル

一 二階町安楽院屋敷塀事御用番被仰付候大年寄申付ル来春迄ハかし
垣ニ而も可致旨来春塀覆いたし可申候無左候へハ屋敷取上申旨申
渡ス

八月九日

一 東新町なぶり屋三右衛門私所持家屋敷北側ニ而表口式間裏行拾七
間御役老步六厘七毛東隣山内屋藤右衛門西隣ハかわら屋伊右衛門
ニ而御座候代札四百目相極山内屋藤右衛門へ売渡申度候旨承届ル本
證文出ル

一 坪井町願出之御銀札小売場之義町内ニ而老ケ所被為仰付被下候様
下方度々相願出申候ニ付御願申上候何卒御慈悲之上被為仰付被
下候様願書出候尤札場奉行中江も願出候旨

一 伏見町百万遍之断申出ル

八月十日

一 浜野屋宗助父彦惣大坂江罷越候願承届ル

八月十一日

八月十二日

一 堺町三津屋忠七私弟政ハ英田郡海内村井上鹿之助方へ養子ニ貫申
付遣申度旨

一 京町二文字屋かん願出候私義二文字屋多吉跡相統仕罷在候処女之
義付此度藤田伝ハ役介丈八申者引請相統仕度町内人別ニ御入可被

下旨承届^ル

八月十三日 御用場有之

一 二階町阿わ屋徳藏組屋平七材木屋市右衛門右三人裏堀覆膳申度ニ付御堀へ足代下申度旨御用所申上^ル大目付中へ申達ス

一 町宗門帳付紙候而奉行中^レ戻^ル大年寄へ直々差出候様申付^ル

一 御年貢外私御停止之御書付於御用所御渡し惣町へ相触候様申渡ス

八月十四日

一 小性町西川屋十三郎宿切手勢州白子形屋庄右衛門宿仕候旨

八月十五日

八月十六日

一 高野宮万人講割合建札立申度旨講元^レ断出之先達而札ニ建替候様申付^ル

一 堺町太布屋伴五郎私所持仕候他国請酒株十ヶ年已前辰ノ五月新魚町榎野屋文右衛門^ニ貸置候処此度私手前へ取返し申度奉存候然者

文右衛門手前^ニ而^ハ商売相止申候旨双方印形願出^ス承届^ル

一 元魚町東側湊屋惣右衛門家屋敷表口五間裏行拾七間但御役本役也

南隣ハ伊勢屋長右衛門北者ニ階町通筋御座候右家賃物書入同町松物屋清八取次^ニ而^ハ銀札式貫目当丑八月^ニ寅十月切巻歩半利足^ニ而^ハ借用仕度旨本證文出^ル

一 舟頭町高瀬屋喜三郎北側家屋敷表口三間式尺七寸裏行六間御役半役也西隣ハ私居家屋敷東者南北^ニ江通り右家屋敷東北角^ニ而^ハ表口式間裏行六間御役三步役也右家代銀札式百目相極小性町作人助三郎売

渡申度之本證文出^ル

八月十八日 御用場有之

八月十九日

一 久世御代官藤本甚助殿御城下通行御先私兩人組者指出^ス町分掃除申付^ル

八月廿日

一 京町鍵屋与平治願大坂黒屋町式丁目和泉屋仁左衛門と申者きせる小間類売拾ヶ年已前迄罷越私宿仕候近年御当地へ御出入不仕候右

代者俾伊兵衛と申者なんきん弓張おろし売仕罷越申度私宿申度奉存旨願之通承届^ル

一 細工町大工勘六俾左助今年式拾三歳罷成候処益々不所存者御座候

付一家者共打寄色々異見仕候得共相用不申付義絶勘当之儀奉願旨本證文出^ル

一 橋本町宿屋豊屋源治不埒筋相聞候付町預ケ申付^ル

八月廿一日

一 玉置忠兵衛^レ願書私親源五兵衛儀栗井村五郎右衛門方へ為見舞先

頃罷越申候処彼地^レ俄^ニ内用ニ付大坂北浜八丁目鍵屋伊兵衛方へ往来日数五十日斗之逗留^ニ而^ハ罷越申度奉願候旨承届^ル

一 下紺屋町利兵衛願私俾文助当丑ニ式拾九才罷成候兼而不所存者ニ

御座候ニ付一家者共打寄色々異見仕候得共相用不申候去^ル七月廿六日ニ罷出方々相尋候へ共行衛相知不申候依之義絶勘当奉願之旨文助兄伊兵衛文助從弟かち町斎兵衛同從弟舟頭町与左衛門印形指出^ス本證文出^ル

一 二階町堺屋伊右衛門願書京都松原通り寺町西入町亀屋長左衛門前々

麥三味線并皮張替仕御当地江參来候所ニ近年罷越不申此度長左衛門甥三味線屋仙助与申者京都五条下ル三丁目居申候皮張替細工仕候此已後御当地出入仕度申奉願旨

一 福渡町木屋長右衛門借屋吉兵衛と申者小田中村之内南新座畑溝之内へ行倒相果居申候旨断出候吉兵衛福渡町人別ニ付郡代所双方為檢使指出同心神田権兵衛罷出疵等無之弥行倒無相違ニ付町内へ引取置可申旨申渡ス尤御用番并大目付所へ御届申遣ス

一 伏見町福浜屋藤藏儀先達致逐電断出之例之通尋候様申渡置之然処ニ伊達与兵衛殿御出入之兼田権七方と諸道具取逃ケ申候旨御家来と平兵衛迄断有之候依之難捨置候間伏見町家守袋屋伊右衛門并借屋請負人と尋出候様申付ル妻儀ハ家主へ預申付候諸道具ハ町内へ改受取預リ置可申旨申渡ス

八月廿二日

八月廿三日 御用場有之

一 二階町觀寿院裏通り塀痛申候付御堀江足代おろし申度旨及御沙汰候大目付所へ申達ス

一 舟頭町片田屋利右衛門願太布屋伴五郎所持仕候他国請酒株当丑歳と已歳迄五年切私借用仕度願之通承届ル

一米相場 御蔵米六拾目五分 書付出ス
町米 五拾七匁五分

八月廿四日

八月廿五日

一 宗門帳直出来致奥書兩判奉行中江為持遣ス

一 橋本町疊屋源治為吟味立会小頭石名平兵衛六年寄宅江指出口書取之罷帰ル

八月廿六日

一米相場 御蔵米五拾九匁
町米 五拾六匁

八月廿七日

一米相場 御蔵米五十七匁
町米 五十四匁

八月廿八日 御用場有之

一 二階町堺屋伊右衛門宿切手京都問屋町五条下ル三丁目三味線屋仙助与申者老人皮張替細工仕候先達御願申上候通私宿仕候旨宿切手指出ス

一 橋本町旗籠屋疊屋源次郎七月十八日ニ六郡廻国宿いたし吉兵衛と申廻国病氣付国本大坂表へ源治送り罷越候其砌年寄方へ届候得とも先度願も不差出候其上病人道中ニ而相果死骸同行之廻国廻順と申者ニ而駕籠者橋本町磯平材木町五助兩人相頼賃銀六十匁相極通駕籠ニ而罷登り候右候仕合ニ付同行相談之上ニ而死骸大坂天満長柄町かせ屋七兵衛と申者家来之由ニ而送り届候処七兵衛請取不申吉兵衛兄弟いなり山弥三兵衛と申者方へ相渡申旨然処兄弟と主人長兵衛へ諸入用書百五十匁有之旨申懸ケ候付御番所七兵衛と訴出候旨依之宿預源治駕籠とも被仰付候得とも申分相立罷帰候由相聞候付此間遂詮義申処少々申訳も有之候得共證據も無之申訳ニ而候ニ付依之御伺申上候而旗籠屋株取上追込ニ申付之右廻国之笈ツッ

預り居申旨是ハ町内年寄封印ニ而預り置申候様申渡ス

一年寄中屋茂市右取斗不宜ニ付役義取上候旨申渡ス右御届申上ル

八月廿九日

八月晦日

一橋本町坂倉屋源藏私借屋今度佐久間主計殿御組内田与市借り申度旨申候付用立申度旨承届ル

一 小性町田戸屋宗十郎宿切手筑前遠賀郡拍原浦小平次手代金治郎例通茶碗おろし売ニ參致宿度

一 右同人宿切手紀州海土郡日方浦池谷町善四郎手代源藏彦三郎例之通碗折數売參候付致宿度旨

一 勝間田町かとや太郎右衛門宿切手播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛例之小間物おろし売ニ參宿仕度旨

一 同人断播州網干新家村平松屋惣九郎例之通臍臘壳經壳參候宿仕候旨

一 舟頭町今津屋伊右衛門幡州古宮浦米屋平吉堺屋喜右衛門例之通米買參候付宿仕度旨

九月

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目附 市村番右衛門

朔日

町大年寄月番

二日

齋藤孫右衛門

三日 御用場有之

一 三丁目浜野屋惣助願父彦〔儀大坂へ先達御断申上罷越候逗留今月廿日頭迄逗留仕度旨断書出ス

一 小性町田戸屋宗十郎宿切手紀州在田郡箕嶋浦碗屋五兵衛手代勘右衛門権吉勘兵衛文七以上四人罷越宿仕候旨

一 京町湯原屋伝兵衛家屋敷南側ニ而表口三間半裏行拾七間但御役之間役東隣ハ若松屋善右衛門西隣ハ石井屋勘兵衛右家京町三輪屋平左衛門取次ニ而實物ニ書入銀札百五拾匁当丑九月より来寅ノ十月迄

老ケ月式歩三厘利息ニして借用仕度旨

九月四日

一 二階町山手屋弥右衛門借屋家守平七右借屋三助義当夏江戸御屋敷致欠落候御駕籠者喜兵衛父ニ而先頃喜兵衛罷婦忍罷有候付三助義家主へ願申付置候今日御領分追払可申付旨被仰渡候間追払申渡ス

一 古城村御境目へ送り遣ス見届中山市右衛門藤森権六罷越ス三助家財關所見届川端又六差遣ス家守平七追込申付ル家主弥右衛門呵申渡ス右趣御用番并大目付月番へ御届申遣ス

一 於直様於秀様二宮江被為入候旨御守衆方申来ル御先払差出町分掃除申付ル

九月五日

一 久世御代官藤本甚助殿当川筋舟ニ而被下候御先払差出ス舟頭町へ為知候様大年寄へ申遣ス右相濟御届申上ル

一夜中小風大風

九月六日

一 小性町吉六と申者先達盗ニ合申旨然処吉六隣り富屋太郎右衛門と申者右被盜候衣類質物へ差置候付目明し太兵衛承替候早速太郎右衛門指詰り候処申訳無之ニ付断出候故太郎右衛門昨五日ニ手錠申付町内江預ヶ置候処今朝自滅いたし候旨断出候外科渡部玄輪申付遣シ候得とも療治難成候相果申候右委細御用番大目付中へ御届申遣ス

一 右太郎右衛門付置候今朝之番人遂吟味御書大年寄ら指指出ス

一 盜物二階有之由ニ付是又遂吟味候様組者遣ス

一 右死骸為見改神田権太兵衛指遣ス書付取之罷帰ル

一 鍛冶場舟渡留り候旨申出候間御届申遣ス

一 申刻舟渡始申旨申出之御届申遣ス

一 錢相場老奴ニ付六拾九文通用立替申来ル

一 東新町美濃屋九郎兵衛私忤元次郎東北条郡阿波村森右衛門方へ養子遣申度旨承届ル

一 伏見町福浜屋藤藏取込落致候付尋申付置候処相見へ不申旨以書付申出候間不届者儀急度相尋出可申候当月晦日迄有無可申出候於不尋出へ過怠可申付候旨申渡ス

九月七日

一 杉山江亀菊様被遊御出候付御先払指指出ス

九月八日 御用場有之

一 米相場 御藏米五十六匁 朝書付出ス
町米 五十三匁

一 米相場 御藏米五十四匁五分 夕書付出ス
町米 五十匁五分

一 小性町太郎右衛門町預申付候処自滅右死骸取斗存寄御同申上候左之通相濟

一 死骸牢屋へ差遣ス小性町ら持人等差出ス組者中山市左衛門藤森権六差添牢屋遣ス於牢屋檢使御徒目付數見市左衛門下目付富田源七此方小頭石名平太兵衛部屋目付川端又六罷出右相濟穢多申付兼田河原へ堀埋申候

一 一家財家屋數闕所川端又六罷出ル

一 右先達而番人五人追込可申付旨伺相濟明月節句ニ付十日朝取斗

一 質物取次候者小性町長七呵申渡ス

一 質取主二丁目幾屋善兵衛かかひら式ッ指戻可申旨申渡質取方念入候義呵無之

一 衣類被盜候分本主吉六戻シ遣ス

一 国分寺村国分寺ニ而説法備中ら客僧參候付逗留右建札之儀東西橋へ致度旨願仕被仰渡大年寄へ申渡ス

一 亀菊様昨日松山へ御出被遊候節町分御先払并掃除義大目付市村番右衛門ヲ以御用所ら御尋御届ニ付前々ハ中奥目付中ら申来候得とも先年ら止其後ハ御守衆兩人ら案内御道筋申来候得ハ掃除申付御先払も指出し候御道筋不申来候得ハ不指出尤案内無御座候へハ猶又存不申旨申上ル昨日両役兼役ニ付在中へ為知申来旨御道筋義相尋申候得ハ申来候故御先払差出申候掃除指懸り問合不申早々掃除仕由申上ル

一 材木町和助伏見町平助并秋葉権現講中より願書出ス西寺町長安寺秋葉権現宿願御届ニ付当丑年より卯年迄三ヶ年尤相撲奥行仕度願書ニ付御申上候処町方故障も無之候ハレ可申付旨被仰渡之先今年斗承届之間奥行可仕候来歳之義ハ其御可相願旨申渡ス

九月九日

一 大隅宮祭礼ニ付前格之通組者四人罷出ル尤届不申達之

一 久世御代官藤本甚助殿御城下通行ニ付御先払差出ス

一 福渡町南側ニ而西今町竊田屋重右衛門家屋敷表口式間半裏行十七間但半役西隣作人伝助東隣ハ住屋甚右衛門御座候代札式百六拾目相極同町作人治兵衛ハ売渡申度候承届ル本證文出ル

一 東新町米屋伝三郎伯父弥吉大坂江罷越六月廿日迄逗留日延断書出ス

一 小性町太郎右衛門組合番人伝治権八弥兵衛惣三郎五兵衛追込申付ル

九月十日

一米相場 五十式匁 書付出ス
四十九匁

一 舟頭町和泉屋伝藏就用車播州罷越旨断出ル往来十日逗留ニ而

九月十一日

一 小性町吉六同町太郎右衛門ニ被盜候着類今日年寄持參為致吉六呼出相渡遣候惟子式ッ質座幾屋与式兵衛方差出候間是又取上ヶ相渡遣ス

一 二階町山手屋弥右衛門家守平七先達追込被仰付候今日指免ス

九月十三日 御用場有之

一 相撲奥行為知建札東西橋へ致度旨断出候間御用所へ及御沙汰候

一 橋本町豊屋源治追込指免候儀伺濟今日指免ス

一 小性町五人者共追込指免候義伺濟今日指免ス

伝次 弥兵衛 権八 五兵衛 惣三郎

九月十四日

九月十五日

一米相場 五十三匁
五十匁

九月十六日

一 二階町門屋次郎兵衛与申者之由下横野村ニ而病氣付歩行難叶依之

二 階町へ村送りニ而遣所二階町人別者ニ無御座候由ニ而送り戻シ候旨在中より申出之依之町方人別者ニ而ハ無之哉と相尋申所町人別遂吟味候得とも人別ニ無之旨大年寄申出之

一 安岡町神目屋勘兵衛持牛相果申候旨取捨候義伺書出ス勝手次第ニ取捨申付ル

一 東新町鍋屋儀右衛門北側家屋敷表口五間裏行拾七間同町鍋屋清兵衛取次銀札三貫五百目借受六年已前申三月家賃物ニ書入申所今度元利払請返し相濟申旨取次人印形加之断書差出候間本證文指戻ス

一 京間たはこ屋伝兵衛後家私家屋敷北側ニ而表口老間半裏行七間但御役老歩役也東隣ハ大工和左衛門代札四拾目ニ売渡申度旨

九月十七日

九月十八日 御用場有之

- 一入牢者四人仕着之義奉伺之相濟大目付所へ申達ス
- 一正銀錢内々通用停止之義被仰渡候勘定所へ及相談候
- 一かち場土橋出来舟渡今日と相止ル
- 一徳守祭礼ニ付警固者例之通指出ス

九月十九日

- 一徳守祭礼警固組者差出ス
 - 一河原町和田屋彦七桶屋平右衛門兩人願出候大溝之上へ用止為メ塀仕度は大橋と表へ見通し用心向悪敷御座候旨申出候間御用所及御沙汰承届ル
 - 一元魚町えひ屋長右衛門宿切手出ス京都二文字屋清兵衛手代次兵衛嘉七庄兵衛右三人罷越候旨
 - 一元魚町羽織屋伊兵衛大坂江罷越旨往来廿日斗逗留断書出ス
 - 一雲州松江出羽守様足輕老人大年寄宅へ罷越就御病氣江戸表御出府之御願被仰上相濟次第来月中旬ニ候御免駕被遊当町へ御泊被遊度之旨宿候儀聞合ニ罷越候旨申出候間早刻御用番兵右衛門殿へ御伺申上ル玉置忠兵衛へ御宿相勤可申旨申渡ス則罷越候足輕江忠兵衛宅見分為致候早刻罷立雲州罷帰ル近々有無可申越之旨
- 八月廿日
- 一乃井野岡村十左衛門岡十郎兵衛と大戸村栗子村舟頭御廻米ニ舟積之義頼来ル勘定奉行中申達ル
- 九月廿一日
- 一上紺屋町仁助并五人組年寄へ申渡候様大年寄申付ル
 - 一先年「非人小屋へ罷越候者其方ニ無断逗留為致旨不屈至極候

- 急度可被申候得共以憐愍今般被下御用捨候此已後人別外者暫も留置候ハ、本人へ家屋敷取上ケ追払組合年寄急度可申付候右申渡ス
- 一小性町太郎右衛門闕所家屋敷目あかし太兵衛遣候旨小性町申渡候様申付ル
- 一太兵衛へハ小頭平兵衛と申渡ス

- 一坪井町桔梗屋忠左衛門宿切手出ス高野山万生院使僧快尊申僧上下式人例之通宿仕候旨

- 一新魚町大坂屋喜助今度御太鼓打渡部左七養子仕度申付罷越申度候町人別御差除可被下候家屋敷悴平蔵へ諸役相勤させ申候

- 一二階町山手屋弥右衛門真賀入湯仕度旨往来十日斗逗留

- 一坪井町と銀札小売場之義願出候付勘定奉行中江及対談相濟相勤候へハ銀札場と可申付候筈ニ申合ル右之段大年寄へ申渡ス

九月廿二日

- 一錢相場六拾ハ又通用立替申旨申出ル
 - 一橋本町年寄茶屋喜七江申付候様申渡ス
- 九月廿三日 御用場有之

- 一出羽守様御泊ニ付大目付渡部惣馬請込被仰付候

- 一御小様方御守馬場喜内と手紙於直様御出候節者御前御出之通亀菊様於秀様吟之助様御出之節ハ町方御先払掃除及不申此趣拙者共と得御意候大御目付被申聞候ニ付如此旨申来ル

- 一追而亀菊様御出之節ハ為御知不申候尤時ニ候ハ、為御知可申儀も可有御座候

- 一出羽守様御本陣ニ付玉置忠兵衛宅為見分今七ツ時過罷越候大御目

付渡部惣馬鈴木喜右衛門⁶町奉行御作事方役人石垣伝太夫池部五右衛門三浦十郎左衛門棟梁小市与六罷出^ル

一 先年町方指出候懸銀御金藏へ納之證文勘定奉行中裡判無之付今日裏印取之候

一 米相場 御藏米五拾四匁五分 書付出^ス
町米 五拾匁匁五分

一 河辺村長左衛門と申百姓川戸東口納切手落申旨ニ付惣町拾候者^者申出候様旨大年寄へ申遣^ス

米拾四俵丑納^ニ 村尾伊左衛門 川辺
大瀧理左衛門

丑九月廿六日

寅正月切

九月廿四日

一 戸川町ニ而重屋忠六南側家屋敷表口六間裏行拾三間七步役右五年已前質物書入元魚町古川屋与市取次ニ而銀札⁵五百目借用仕候処今度元利返済請返し申候旨双方断出^ル本證文戻し遣^ス

一 東新町鍋屋儀右衛門家屋敷北側表口五間裏行十七間土藏式ケ所御役五步役東隣へ佐伯屋孫兵衛西へ伴国屋市右衛門御座候右家同町坂口屋伝助取次質物ニ書入銀札⁵五百匁借用來寅十月相極⁵月老步半利足右切通無滯返済可仕候旨

一 京町若松屋善左衛門大坂表へ廿六日ニ出立往來廿日逗留罷帰申度旨

九月廿五日

一 橋本町年寄茶屋喜七江今日申付^ル

一 東新町作人源七町内作人三右衛門借家居申候今度林田上町助八と申者相果跡之義頼申付私并母ふゆ兩人上町引越申度之町内人別御除被下様奉願旨在分承合承届^ル

一 銀札遣之義近來猥に相聞申候勘定奉行江申達之去ル十八日ニ於御用所正銀錢通用猥に無之様相触可申旨被仰渡候委細者勘定奉行江相談可仕旨被仰渡候右触書文言及相談今日於大年寄米中買米買問屋宿式步中買呼出申渡候様申付惣惣町へも相触^ル

一 銀札通用ニ付正金銀錢取鑑停止之旨度々相触候処内々相對^テ以正銀錢致取遣候者有之近來別而猥に相聞候兼而申付候通銀札ヲ以諸事通用致候様堅相守可申候就中米買問屋米中買式步中買別而念入紛敷義無之様可致候若於相背者急度可申付候

一 右者共正金銀錢取鑑為吟味此度五人宛組合申付候相互ニ致吟味可申候紛敷義致候者有之候ハ、早速銀札場へ断可出候組合之内不埒有之候ハ、組合不殘中買株取上急度可申付候尤訴出候者者格別之事

一 他国他領之銀札通用停止事候近來是又取遣候様相聞候弥堅相守可申候取遣致間敷候

右之趣米買問屋米中買式步中買不殘呼出可申渡尤惣町末々迄念入可被申渡候

九月廿六日 月番齋藤孫右衛門宅申渡

九月廿八日 御用場有之

一 相撲來月五日方始メ旨申上^ル町方為知太鼓打廻り候旨及御沙汰

一米相場 御蔵米五拾五匁五分 中買書付出ス
町米 五拾貳匁五分

一京町鍵屋与平治宿切手大坂黒屋町貳丁目和泉屋仁兵衛手代小兵衛
と申者例年之通量表売參宿仕候旨

一京町今出屋半兵衛宿切手出ス阿州板野郡中富村兵助手代平兵衛藍
玉売參候宿仕候旨

十月

御用番 佐々木内膳殿

大目附 鈴木喜右衛門

町大年寄月番

蔵合孫左衛門

朔日

二日

三日

一米相場 御蔵米五拾四匁五分
町米 五拾壹匁五分

一今般從公儀御尋之者惣町遂吟味候処少茂心懸リ之儀無御座候段大
年寄共證文差出手前ニ取置申候此已後万一疑敷義有之候ハ、早速
可申上候以上

宝曆七丁丑十月三日

井上弥三兵衛

大御目附中

一今般從公儀御尋者御預ケ之書役足輕遂吟味候処少茂心懸リ義無御
座候此已後万一疑敷儀有之申出候早速可申上候以上

一相撲之番付指出ス大年寄持參

一出羽守様御泊ニ付諸支割書御差込有之候委細末ニ一所留ル

一上横野村文六郡代所ト今日出牢ニ付同心組老人差出ス

十月四日

一小性町西川屋重三郎宿切手備前岡山野田屋町石出屋清右衛門元詰

おろし売申候宿仕候旨

一右同人宿切手江州神崎郡新堂村嶋屋新平墨筆おろし売參申旨

一戸川町重屋理右衛門持牛相果申候取捨候義断出承届ル

十月五日

十月六日

一錢相場六拾九文通用之旨申出ル

一米相場 御蔵米五拾三匁五分 中買書付出ス
町米 五十匁五分

十月七日

一玉置忠兵衛妻昨夜致出産之旨月番孫左衛門ト届出ル

十月八日 御用場有之

一玉置忠兵衛 出羽守様御通り前ニ付血忌指免可申旨御用席へ申上
以指紙其段申遣ス

一來十三日 戒善院様廿三廻御忌付於泰安寺一夜別時御法事被仰付
之旨大目付廻状ニ而申来ル

一座頭共御法事ニ付御布施頂戴仕度旨申出候御用所申上ル可被下旨

被仰渡候大年寄申達候

一 大年寄共十三日参拜之儀窺之通相済

一 青陣合羽組中分引替申旨小頭申出ル

一 御駕籠之者被召抱候町方届者も候ハ、来十七日ニ申出候様惣町へ相触可申旨大年寄へ申渡ス右大目付中被申聞之

一 舟頭町文吉願出候太田村和兵衛と申者家内四人私妻親ニ御座候間引請申度候町内人別ニ御入可被下旨在分承合申付ル

一 福渡町木屋長右衛門私借屋居申候平助久米南条郡下打穴村太左衛門方へ引越申度旨承届町人別除

一 元魚町古川屋惣助願出候今度村山平学供致江戸表罷越申度来三月迄逗留仕度旨承届ル

一 十三日御法事ニ付惣町自身番火用心可致旨触書出ス鳴物高声停止之義ハ大年寄申付ル

一 同心組十二日晚十三日例之通西大番所脇相詰可申旨申付ル
十月九日

一 出羽守様十一日御発駕十二日新庄村御泊リ十三日津山御泊御先触至来大御目附御用番へ御届申遣ス
十月十日

一 京町かまや与平治宿切手奈良今井町岡嶋忠兵衛手代源助例年通墨
十月十一日

売昨日参候旨

十月十二日

十月十三日

一 出羽守様御病氣付御出府被遊候旨去ル月十九日大年寄共方へ足輕

竹下円藏と申者罷越当町御泊リ被成度旨大年寄申出ル依之御用番兵右衛門殿罷越御伺申上御本陣玉置忠兵衛門へ申付候

一 右御用懸リ御用番兵右衛門殿大目付渡部惣馬
一 忠兵衛湯殿雪隠無之ニ付願申立ル右宅為見分

一 大目付渡部惣馬鈴木喜右衛門町奉行井上弥三兵衛御作事役人石垣伝太夫池部八右衛門御目付三浦十郎左衛門大工棟梁兩人罷越見分及評議候

一 廿五日松江江大年寄を飛脚遣竹下円藏方へ御普請方并日限等承合候弥御泊ニ相成可申旨書状来ル

一 御本陣向之儀中奥目付大沢三平へ御用懸リ被仰付候間御本陣難心得事ハ相談可申旨惣馬を被仰渡候三平へも申合ス

一 下宿之事京町と二町目二階町元魚町へ申付ル心用意仕様申渡ス

一 御本陣御普請御作事方を出来ル御湯殿閑所疊ニ表替へ御居間拾貳疊次拾疊替ル御玄関入口広ク申付ル

一 御本陣拝借道具書付出ス大目付所指出ス
一 十月九日御先触至来十一日松江御立十二日ニ新庄御泊リ十三日津山御泊旨申来ル

一 九日惣町御道具筋為見分罷出ル在分一所ニ見分致候

一 御泊ニ付諸事取斗之儀以書付相伺申上候御付紙ニ而戻ル文言末ニ有之

一同所ニ注進致方伺書出ス

一 御本陣十二日迄御普請済掃除相済絵図有之

一 御本陣前ニ箱番所ツ建何方足輕番所東西此方様足輕番所足輕式人宛外組相勤ル三津屋表口前ニ東向ケ所西ハ元御使者屋敷前ニ北向建ルのはせ幕高てうちん大文字付ツ三道具出ス右取斗ハ御作事ヲ町方ヲ取斗無之

一 根田屋横町竹垣ニ而メ切往来筋無之

一 御本陣前并御閑札之内往来無之様御家中ハ御触有之在中惣町ヘも御本陣前往来無用者致間敷旨相触ル

一 御着後三津屋前東ハ今出屋横町角ヲ東西御本陣前人留メ年寄保頭指出ス

一 御本陣前敷砂手長桶ひまく共指出ス

一 出羽守様子ノ半刻御着被遊之

一 町分御先弘同心組兩人小頭老人

一 掃除見分御徒目付藤田弥八郎下目付老人

一 院庄川土橋有之御召舟御供舟馬舟相廻ス御舟奉行御役人出ル

一 院庄御川越被遊之注進渡部惣馬殿申遣ス是院庄大庄屋ヲ申越弥三

兵衛郡代兼役故之

一 筋違橋ハ御本陣為御出迎罷出ル御先立仕罷帰リ亦御玄関前ニ而下座仕候旨申付ル

一 筋違橋江御懸リ被成候注進町奉行ト大目付ヘ以書付申出ス出羽守様只今筋違橋ヘ御見ハ被成御注進仕候右者供召連候同心老人出置候而申遣ス

一 町奉行立宿西今町小倉屋清右衛門

一 御徒目付下目付立宿安岡町

一 同心組御先弘立宿右同断

一 火廻り物頭本多惣大夫立右同断

一 町奉行妙法寺東ノ角江罷出候御病中ニ付御断有之御通り間下座仕罷有候御会役無之旨

一 御陣着後早速御機嫌伺御本陣役町奉行罷越世話焼人ヲ以御取次申込御勝手玄関ニ而御取次役堀田源太右衛門江挨拶御本陣ニ相詰候様被被仰付相詰候旨申上ル御手狭ニ付下宿ヘ引取罷在候御用御座候ハハ可被仰下旨申置候

一 御閑札之内足輕番所取建置之旨御断申上ル

一 御使者被進候節御進物可有之候得共稠敷御断ニ付御音物無之旨及挨拶

一 此方ヲ被差出候所々役人江被下物無之様及挨拶右者被仰渡候付申遣ス

一 火廻り物頭本多惣大夫足輕十五人右立宿安岡町申付ル

一 御本陣御着注進大目付江申遣ス御家老中御年寄立宿二階町山手屋弥右衛門宅江申遣ス

一 御家老御勤被成候時刻御案内申遣ス

一 御家老安藤鞠負殿御年寄佐久間兵右衛門殿御本陣ヘ御機嫌伺御勤被成ル御家老御同道大目付渡部惣馬御年寄以同道御使者天野野郡太右両ニ御勤候

一 右御家老御年寄大目付御使番立宿二階町山手屋弥右門中奥御目付大沢三平山手屋ヘ被相詰候由其外坊主杯罷出候旨

一 右早而御使者被進之御持頭太田舍人御進物無之

一 右早而出羽守様方御使者齋藤孫右衛門宅御取次御使番磯野平太小
從人衆支関江被相詰候御使者

一 右御口上相濟安藤勅負殿江御口上有之候旨右為御札勅負殿御本陣
江御越被成候

一 明十四日七半時御出立之旨御触出有之早速大目付申達ス

一 十四日六時御立触有之東大番所へ大目付申達ス

一 六時御発駕被遊候如先例御先手物頭本多惣太夫火廻り立宿伏見町
方御先へ相廻ル

一 御徒目付下目附立宿京町かま屋与平治御先立掃除見分

一 御先弘同心組兩人小頭老人立宿若松屋善左衛門方御先弘町分相勤
被下物無之

一 東大番所江安藤勅負殿御年寄佐久間兵右衛門殿大目付渡部惣馬中

奥目付大沢三平罷出御病中ニ而御会訊無之御断有之由

一 町奉行林田町山本屋横町へ罷出御会訊御断有之

一 御本陣玉置忠兵衛儀為御見立中ノ町曲リ江罷出ル

一 町奉行歸り懸御用番兵右衛門殿へ罷越御届申置之大目付江手紙ニ而
御届申遣ス

拙者供若党四人内式人注進物ニ召連候御貸人馬常之通外ニ挑灯

持式人箱挑灯式ツ持之候書役者召連候尤供ニ而無之別段召連候

立宿京町若松屋善左衛門自分幕打高挑灯台ニ而式ツ出ス夜中指

置之御先弘者も一所此所差置候

一 馬駅江同心組兩人指出ス箱挑灯大文字付壹ツ為持出ル新魚町村本
屋治助方ニ申付ル

馬廿六疋 町馬廿壹疋 町馬四疋殘馬 人足三拾五人
在中寄馬五疋

一 惣町自身番申付ル町々夜廻り申付ル自身番所前ニ其町高挑灯出し
置候様申付御関札之内宵方夜明迄ニ関札外西へ御着後迄東者御出
立刻挑灯燃し可申候惣家々ニハ燃し申ニおよひ不申旨申渡ス

一下宿ニハ掛あんとん尤宿札名面はり置候屋号も書置ク

一 此方様役人賄之義ハ不申付候其所ニ而支度ハ町役ニ取斗候事

一 惣町江先達而触書出ス文言触書帳有之候

一 御関札東者京町疊屋前北側西ハ式丁目西ノ端シ北側右竹ハ大竹九
寸廻式本垣竹七寸廻式本御作事方来ル先達以書付奉願之

一 出火之節御逃道二階町路次口江御退被遊候様相定ル尤御近習衆尋
有之故道筋案内ニ而為見申候

一 出火ニ候得ハ御本陣江御家老御年寄大目付御出可被成旨

一 御先手物頭被相詰候善御作事方火消人数罷出候筈

一 町奉行御退被遊候節御先乘可仕旨

一 御退場西本源寺東大信寺

一 町火消西出火候得ハ東組御本陣江東出火ニ候得ハ西組相詰可申事

一 大年寄老人火元へ老人御本陣可相詰候事

一 在中方人足五七人御本陣手明人足杯出候様申付新魚町相詰罷在候
一 御関札外江罷出所々町々口々江捨ケ所江非人式人宛申付諸道具持
出し候て通申間敷候并鳥散成者往来為致申間敷旨申渡ス

一 非人加廻り申付御家中屋敷其外端々迄夜中念入相廻り可申旨申渡
ス右ふち米例之通藏合方方受取渡候様申渡ス

一町医師在宿申付野間玄順渡部玄哲川井友益松山寿軒松井友悦志水友三

一御同勢都合七百九拾六人内四百八拾人ハ下宿三拾人ハ御本陣故九

拾人下陣宿百八拾人ほと相對宿

一献上物御本陣指上候生鯛一折御酒一樽

一拝領物白銀五枚被下之候

一町奉行江金貳百足被下候

一本陣賄献上汁まいく煮物こちにな

かう物はも 十四日朝焼物「汁

まいく平皿やきとうふ かう物
おろしせうか

一御本陣世話焼 八百屋七郎左衛門 坪屋勘助
いせや長右衛門 山本屋与左衛門

草津屋茂市郎 三宅屋宇左衛門

一御使者案内 かし屋治左衛門 吹屋八左衛門

一御本陣前人留メ 豊屋治右衛門 山形屋惣兵衛 ぬし屋八郎右衛門

門 灰屋善右衛門

一米中買式步中買御本陣働人

一下宿帳数多認置候而本陣戸口ニ而夫々読之案内人付遣メ

一下宿名面帳別有之

一大年寄藏合孫左衛門斎藤孫右衛門御本陣江御機嫌伺ニ罷出ル着用

絹服麻上下伺上御免被成之
右之通出羽守様御泊呉増如此委細別帳ニ認差置候事

十三日

一戒善院様御法事ニ付座頭共御布施被下候人数三百三人

銀高九百六拾八匁七分五厘

十四日

一今津屋伊右衛門御払米之義不届有之旨勘定奉行も申来ニ付禁足申付置之

一舟頭町田原屋六兵衛宿切手播州賀古郡古宮村勘四郎善八郎式人米買ニ参候旨書付出メ

十月十五日 御用場有之

一万人構場へ罷出候義伺候処罷出可申旨被仰渡之

十月十六日

一米相場 御藏米五拾貳匁五分
町米 四拾九匁五分

十月十七日

一万人講ニ付惣町触書差出人非人加廻リ申付候所々辻江も非人加人申付候委細触書帳印置候

一惣町自身番其外町々廻リ申付候

一大年寄老人講場へ罷出可申候詰所警固組者次間大庄屋一所ニ相詰可申候尤大年寄上座着可申候旨申渡候大庄屋共も其旨下代共申達之

一鍛冶町かし屋七郎兵衛と申者先達相果候処母跡屋敷など致世話居

申候然処七郎兵衛借銀所々ニ有之銀主方訴訟申候五六人老度ニ願書指出候依之願書不殘戻し申候出入筋ハ老人懸リ合有之候得ハ外訴訟取上不申初訴相濟候後願出可申答候処右之通一度相願ニ付願書指戻候殊ニ七郎兵衛母江対し願出候七郎兵衛跡相続人もいまた無之候間追而相続人相極次第ニ訴訟可申出之先跡断絶同前之義ニ候旨申渡ス七郎兵衛母江ハ俸借銀之義家屋敷等も有之候間内々筋立可申処左様願出候様致候段不届ニ候内談取扱相濟可申候家屋敷之義者借物不相濟候得ハ家売之義難承届候間左様心得可申候右之趣大年寄へ申渡ス

十月十八日 御用場有之

一 於御列座大御目附罷出候様ニと有之被仰渡候今般出羽守様御泊ニ付何角執斗太義ニ思召之旨御意趣被仰渡候御家老御年寄御用懸大目付へ御礼ニ罷越候

一米相場 御蔵米五十石
町米 四十八石

一 舟頭町今津屋伊右衛門儀先達而御払米九百俵買請詰米御蔵ニ而請取其後川戸御蔵ニ而右九百俵之内ニ候由申之式百三拾式俵御払米由申之請取候旨不届由御勘定奉行中より被申聞候ニ付今津屋義遂吟味申処申訳無之不調法之旨申候付御用所ニも申上追込ニ申付候久世陣屋蔵元相勤申ニ付藤本甚助殿御代官所以飛札手代中迄届書状遣ス文言状留ニ有之候

一 万人講一札指出候文言先格之通

一 相撲興行一札指出候文言先格之通

一新職人町瀧本屋かず願出私父平四郎吉野郡田殿村忠吾方ニ居申候処此度私方引請申度候町内人別ニ御入可被下旨

十月十九日

一 正銀錢取遣停止候申触ニ付申渡請書并米中買宿式步中買五人宛組合帳面指出ス御用算筒小問物入置候

一座頭ニ被下候銀札受取證文出ス印形遣ス

一 塩屋新兵衛宿切手出ス大坂大川町錢屋七郎右衛門手代善三郎小問物売を集參申旨

一 塩屋新兵衛宿切手雲州杵築大社多久十太夫上下式人罷越宿仕旨

一 右同人勢州朝態岳明王院使僧休賀坊悦忠坊宝藏坊上下六人罷越宿仕候旨

一 小性町西川屋十三郎宿切手岡山下市町中嶋屋久六元詰おろし売宿仕候旨

一 小性町富屋太郎右衛門家屋敷南側ニ而表口式間裏行拾四間御役老歩式厘五毛役也東隣ハ肥地屋彦市西隣作人伝治ニ而御座候右家屋敷今度目明し太兵衛江被下置候旨被仰渡奉畏則太兵衛江引渡申候為後日太兵衛并組合書付指上申候以上

十月廿一日

一 二宮高野宮万人講横山村視川原ニ而今日興行五時方出役町奉行郡代兼役井上弥三兵衛右当日仍役勘定奉行方平野丹下寺社取次役伊達金石衛門右三人騎馬ニ而罷出ル御徒目付下目付小頭平組老人郡代下代老人罷出ル警固同心組小頭平組九人内兩人御使組方四人町大年寄斎藤孫右衛門一方触大庄屋植月新右衛門一宮触大庄屋立石

五左衛門一方舳中庄屋横山庄屋在分穢多廿人□□非人廿人雇棒突罷出ル九半時勘定八ッ過時分突初メ申候暮前時無滯相濟帰懸御用番御届申上ル大目付手紙ニ而届ル

寄札高老万六千七拾四枚褒美六拾番同心之内兩人銀場渡江屋後方差出ス翌廿二日ニ銀札渡シ小頭郡代下人罷出ル

十月廿三日

一 残り札為渡小頭差出ス平組兩人銀札渡場へ罷出ル

十月廿三日 御用場有之候

一 材木町正木屋八右衛門宿切手紀州高野山宝連院使僧円徳房と申僧上下三人罷越例年之通宿仕候旨

十月廿四日

一 伏見町袋屋伊右衛門店福浜屋藤藏申者去ル六月欠落与兵衛殿江式人奉公相勤申候曾田権七諸道具払物預リ置申処取逃申候旨断有之ニ付藤藏追々相尋出可申旨家主袋屋伊右衛門店請人さやし政八小桜屋半兵衛右三人江尋申付稠敷申渡候得共藤藏相見不申候旨断出候付御伺申上右三人者追込申付ル藤藏諸道具ハ闕所ニ取斗候妻子ニ之道具遣之尤藤藏長々尋申付候間此已後見相次第召連可罷出候右大年寄宅ニ而申渡ス闕所ニハ定廻リ組者指遣廿五日執斗済

十月廿六日 御用場有之

一 於江戸去ル五日御上使三好勝之助殿御越御鷹鷹御拝領被遊候御祝御帳付大年寄共例之通相勤可申旨申遣ス町年寄手前ニ罷出ル

一 東新町米屋伝三郎願私伯父弥吉儀当七月廿六日京都へ罷越候処用事御座候付大坂湊橋筋丹後屋弥右衛門方ニ宿仕候而調物仕度申越

候間正二月頃迄逗留仕度旨

一 万人講三步銀式拾四ノ百拾老奴ノ内四貫八百三十七匁四分元方入用引残銀拾九貫式百七拾三匁六分神主江相渡候旨受取書写差出之

一 三丁目浜野屋宗助南側家屋敷表口五間裏行拾七間但御役老軒役也東隣者若松屋平兵衛西隣者浜野屋重郎兵衛借家ニ御座候右家屋敷土藏式ケ所共書入質物銀札式貫七百五拾目来寅八月切利足老利半相極二丁目若本屋勘兵衛取次ニ而借用仕候旨例文言承届ル

一 舟頭町今岡屋浅右衛門宿切手阿州板野郡成瀬村曾右衛門藍玉賣昨日參候付宿仕候旨

一 三丁目濱野屋宗助父彦□用事ニ付大坂過六町松屋甚兵衛方へ罷越申度旨往来三十日斗逗留願承届ル

一 下紺屋町大工仁左衛門借家願主理野郡東「」山東村平兵衛佐佐吟与申「」頭坊当丑五十八才ニ相成候今度私養ニ仕引請御町人別ニ御入可為下候旨本証文出ル

一 林田町かとや又七願林田上町榎瑞庵私借屋仕故借用度旨ニ付用立申度御願出ル

十月廿七日

一 米相場 御藏米五拾目 町米四拾七匁 書付指出ス

一 去ル六月湯原屋方備前座頭参ねたれ事申候付大年寄へ申出候間配當場へ申聞引取候様為致候後座頭不筋ニ相聞候御法事御布施頂戴ニ罷出殊公儀御法事旁以□借トシテ町方江罷越ねたれ申筋無之段配當場方先方組頭へ申達候所不調法□而誤リ一札指出申候ニ付写

取之置之文言ハ左之通

誤り證文之事

一当丑六月御当地御公儀御法度御布施被下置難有頂戴罷出申候処相
濟候後さかい町湯原屋と申方養子有之候段及承与風存付仲間共六
人替女老入申合罷越申候御「」罷出慮外成仕方可申上様無御座候
又剩「」悪後御座候而今度御吟味之上從御上茂岡山表役所江も可被
仰遣之旨至極誤リ入申候段々御断申上候処御承引無御座処新左衛
門殿与申御方御取持被下相濟申難有奉存候向後相吃急度組合江申
付候右誤リ入申候證文差出弥以御免可被下候仍而如件

備前建部村

とんか都

組頭

瀧野都

宝曆七年丑十月

津山配當場

城竟座頭坊

城保座頭坊

十一月

朔日

御用番佐久間兵右衛門殿

大目附渡部惣馬

町大年寄月番

玉置忠兵衛

一錢相場七拾文通用立替候旨申上ル

一御吉事日御普代面々出仕拙者儀不快不参当病断以勘定奉行中大目
付中へ申達ス

一今津屋伊右衛門久世表藏元差支申候ニ付追込指免申度候儀存寄御
伺申上候処不及其儀之旨ニ而御免無之候

十一月二日

一林田町正屋忠八榎山村加兵衛方与正米式俵去月廿九日請取之不届
ニ付追込申付ル尤御届申遣ス

十一月三日 御用場無之

一相撲明日与興行仕度旨申出ル御用番大目付中へ御届申遣ス

一町々所々盜賊這り申候沙汰相聞候ニ付非人式組加廻り夜半与廻り
候様申付ル

一相撲為知太鞍町方打廻り申度旨断出承届御用番大目付所ニ御届申
遣ス

一宮脇町松屋伊右衛門舟頭町今津屋伊右衛門御咎被仰付候ニ付久世
御役所御用ニ付御越候御役人中私宿当分御用相勤遣シ申度奉存候
旨願出候承届ル

十一月四日

一相撲今日与興行申候ニ付例之通同心組兩人指出ス大目付中へ御届
手紙遣ス日々相届不申旨申遣ス

十一月五日

一伏見町袋屋伊右衛門さやし政八小椋屋半兵衛追込今日指免ス尤御
用番御伺申上ル大目附中へ手紙届ル

十一月六日

一万人講残札備中阿賀郡此間村三尾寺合□弥兵衛小頭差出相渡ス

一二階町堺屋伊右衛門多賀大社修覆遷宮為入用従公儀御免被仰出諸

国村々別当不動院役僧藤寿院与申僧上下三人今般当国巡行先年与

多賀使僧宿仕付昨日参候私宿仕置旨

右御役之狭箱扱為持申由申付他領格別□御領内町内扱ニ而御持候

為持申候ハ、其訳承候上ニ而宿可申付之旨

一玉置忠兵衛願私父源五兵衛儀八月御断申上大坂北浜八丁目鍵屋伊

兵衛方へ罷越申候処用事相濟不申付来十二月廿日御引延御断申上

度旨申越候旨書付遣ス

一舟頭町山家屋甚助願下押入村伊兵衛私甥ニ而家内三人私引請町方

人別仕度奉願候旨分承合承届ル

一材木町平野屋市右衛門家南側ニ而表口式間半裏行拾七間御敷切但

シ御役半役東隣へ仕立屋清八西隣へ作人平八ニ而御座候代札式百八

十匁相極町内伏見屋七郎右衛門壳渡申度候旨承届ル本證文出ル

一東新町西新町引請類族大隅神主小原治部少輔久々病氣之処病氣大

切之旨断出候

一酉刻致病死候旨断出ル御用番大目付御届申遣ス尤宗旨奉行与委細

被申上候而一通御届申斗ニ而濟其外此方与構不申事

一豆腐直段当二月与老挺ニ付拾四文宛商売仕候様被仰付候大豆少々

下直ニ罷成申候付拾三文ニ商売仕度旨

一老奴六分老厘 拾挺分元入

一拾挺壳立老奴八分六厘

一内老奴六分老厘ニ元入引

一而式分五厘手間代

十一月七日

一米相場 御藏米四拾八匁五分

町米 四拾五匁五分

十一月八日 御用場有之

一今津屋伊右衛門追込指免可申旨於御用席被仰渡候大年寄呼出申渡

ス 一林田町政屋忠八追込指免可申旨御伺申上候今日指免ス

一柳土手御廻米明日与舟積候旨申出候由郡代所与通達ニ付例之通番

人立申付ル

一今津屋伊右衛門指免候儀久世手代并廻米役手代兩人へ連名ニ而為知

申遣ス

十一月九日

十一月十日

十一月十一日

一相撲加日一日願出候ニ付御用番兵右衛門殿へ御伺申上候処勝手次

第二被仰付候其段申渡ス

一元魚町紙屋善十郎大坂会所町松屋甚兵衛方へ就用事罷越申度旨往

来廿日逗留ニ而願出ル

十一月十二日

一一分五厘 薪代

一相撲今日迄ニ加日共相濟御用番并大目付所御届申遣々

十一月十三日 御用場有之

十一月十四日

十一月十五日

十一月十六日

一万人講残札相渡々小頭差出之因州玉川町米屋藤四郎二宮式番札

一坪井吉更屋忠左衛門雲州杵社人勘太夫罷越仕候旨宿切手指出々

一二階町湯原屋利兵衛家屋敷北側表口三間半裏行拾貳間半土藏卷々

所阿賀屋徳藏取次ニ而實物書入御切手三拾俵借用酉三月去月切

納米式割利足相極申処今度元利相濟家屋敷請返し相濟申旨断出候

間本證文指戻々

一米相場 御藏米四拾九匁五歩 書付出々
町米 四拾六匁五歩

十一月十七日

十一月十八日 御用場有之

一正米外払致候者共并町分受取候者共追込ニ可申付候旨被仰渡候

十一月十九日

安岡町 紺屋四郎兵衛 安岡町 紺屋善吉

三丁目 若松屋平兵衛 三丁目 浜野屋七郎兵衛

かち町 鍛冶屋伝右衛門 今町 小播屋

右追込

今町 上直屋市郎左衛門呵申渡々

一牢屋御修覆被仰付被下候様御用所江申上ル大目付中へ申達候断書々

先達而出置候ニ付口上ニ而申上ル

十一月十九日

十一月廿日

一中ノ町小山屋与三右衛門播州網干余陸屋惣五郎八百屋物売ニ参宿仕候旨

十一月廿一日

一林田町年寄かき屋源左衛門先達相果候付跡年寄役かとや又七江申付ル

一京町今出屋半兵衛宿切手阿州名西郡桑嶋村武右衛門手代与一兵衛

源兵衛平治兵衛手代政右衛門茂三郎右四人藍玉売昨日参申付例年

之通宿仕候旨

十一月廿二日

一米相場 御藏米五拾目五分 書付出々
町米 四拾七匁五分

十一月廿三日 御用場有之

一細工町灰屋喜平治願出候二階町西本屋新助持来候古道具取売私相

讓申度旨申付私相勤申度請人細工町作人宇兵衛相立申候念入商売

可仕之旨尤持来取売御座候旨願出之新助病人之由故親類はり半

兵衛印形も取之承届候

一小性町肥地屋多吉願出候船頭町高松屋理助所持仕候米買宿屋株当

丑歳方来ル已歳迄五年之間私かり請右商売仕度左候へハ理助手前

ニ而ハ宿仕不申候右願之通承届ル

一元魚町嶋本屋喜兵衛私仲嘉兵衛当丑ニ三十四歳ニ罷成候四年已前

御願申上備前岡山小橋町伏見屋藤右衛門方へ養子遣申候処不縁ニ
而罷帰候私家内人別差加置申度旨承届ル

一戸川町南川重屋忠六家屋敷表口六間裏行拾三間御役七步東隣ハ玉
津屋六郎兵衛西者戸河町横町ニ而御座候代札沓貫目ニ相究宮脇町土
佐屋重藏江壳渡申候奉願旨承届ル本證文出ル

十一月廿四日

一此間正米外払咎申付置之者昨日伺相濟今日指免ス大目付中へ御届
申遣ス

一大年寄歳暮献上物来年頭献上物并惣町献上物之儀御用席御窺申上
例年通被仰付候付書状相認委細状留有

十一月廿五日

一本郷村清助於郡代所吟味候間出牢組者老人差出ス

一河辺村伝次郎入牢中山市左衛門指出ス

十一月廿六日

一京町かき屋与平治宿切手大坂北浜二丁目葉守屋新右衛門手代源兵
衛木綿染地壳参候付宿仕候旨

十一月廿七日

十一月廿八日 御用場有之

一寒氣御機嫌伺御張ク

一東新町銀札小売場願書出ス勘定奉行中及相談先無用之旨ニ付指戻
ス

十一月廿九日

一上田邑百姓平助吉兵衛五郎兵衛甚六右四人御年貢不納ニ付入牢申

渡郡代所同心組差出ス

一本郷村庄屋兵助正米壳払候不届ニ付入牢申渡郡代所同心組差出ス
右四人之百姓牢入置候

一米相場 御藏米四拾九匁
町米四拾六匁

十一月晦日

一去十九日江戸高田御屋敷穴八播方出火御屋形御表長屋ハ残り中長
屋不残焼失之旨申来候付御機嫌窺御帳付諸士出仕有之候

大年寄例之通可相勤之旨申渡ス

一惣町此節火元念入諸事相慎候様可申付之旨被仰渡候間以書付大年
寄へ申渡ス

一坂手土佐与申者社男倅盲人八杉如柳与申度々社男相統之養子致申
候処祖母不和ニ而数度離縁此間權之進与申養子三度目ニ而候所又々
離縁候ニ付不埒之儀今般神職取上親類下山大膳妻へ右持来之社相
預り取斗申様申渡候旨依之主佐社男家相統無之断絶ニ相成候ニ付
八杉如柳も神職役介者ニハ無之旨今日伊達今右衛門被申聞候以後
ハ町人別斗ニ而神職江懸合無之候事

一京町東新町西新町類族無異儀罷在候旨書付例年之通指出ス

一宮脇町若狭屋助三郎持来り古道具取売之義不勝手ニ付右之跡新職
人町岩倉屋長七相勤申度旨請人宮脇町大工治兵衛相立候旨双方印
形願出候間承届ル

十二月

御用番 佐々木内膳殿

大目付 市村番右衛門

町大年寄月番

齋藤孫右衛門

一 戸川町古金屋吉右衛門持来候古道具取売吉右衛門相果候ニ付後家

ニ私江相讓申度旨候ニ付私相勤申度旨坪井町河原屋治助願出請人

新職人町瀧本屋平四郎相立候旨願之通承届ル

一 三軒谷明番所ニ罷在候中間彦兵衛与申者勝手ニ付林田上町引越申

候旨申出之代り承出候様申付置之右大目付中へ相達ス

一 江戸高田御屋敷御類焼ニ付火本念入ノ諸吏相慎可申旨大目付中ニ

廻状到来組并年番三軒屋へ申渡ス

一 中ノ町小山屋与三右衛門宿切手播州網干鍛冶屋惣十郎手代善十郎

經節嵐売参宿仕候旨

一 材木町河内屋藤三郎宿切手阿州名西郡高原村直兵衛御手代栄治郎

本次郎三人藍玉売参宿仕候旨

十二月二日

一米相場 御蔵米四拾八匁 書付出ス

町米 四拾五匁

十二月三日 御用場有之

一 種粃三斗以下質物ニ取申度之旨例年之通願出候勘定奉行中及相談

御用席御伺申上候勝手次第ニ可申付之旨被仰渡候右大年寄へ申達

ス

十二月四日

一 桶屋町八杉如柳断書指出候先達御願申上候私養子坂子権之進儀神

職為相統引請申候得共母私心底ニ相叶不申候故離縁仕候高尾村国

米采女方江婦し申度候町内人別御除可被下候旨寺社方相濟由旁以

承届ル神職被取上候訳へ前段記之候

一 吹屋町沢屋惣左衛門宿切手阿州坂野郡鶴嶋村藍屋利左衛門例年之

通昨日参宿仕候旨

一 材木町伏見屋七郎右衛門願私借屋平野屋市右衛門家内式人今度林

田村治郎兵衛借屋江引越申度旨町内人別徐ク地方承合申付ル

一 二丁目年寄松田屋五郎右衛門断出候近来病身付步行難儀仕候自然

痛等指発り申節ハ梓孫市儀名代指出申度旨承届ル

十二月五日

十二月六日

一 戸河町年寄浜野屋文五郎願私儀去戌歳年寄役二三年相勤申候様被

仰付候然処他町懸組之義取斗難儀仕候年数相立候義役御免被仰付

被下候様奉願之旨

一 戸河町ニ而林田屋惣右衛門借屋太助母願出候私梓太助儀廿才ニ罷

成候当月七月不凶罷出行衛相知不申候兼而不所存者ニ御座候ニ付

一家者者不及申近辺之者ニ相頼度々異見加へ候得共相用不申此已

後何方ニ而如何様之義出来可仕茂難斗奉存候依之一家相談乍恐儀

絶勘当仕度奉存候旨

十二月七日

一 銭相場六拾九文通用立替旨申出ル

十二月八日 御用場有之

一来正月十四日梅香院様三廻御忌ニ被為當候ニ付御取越一夜別時御
法事於泰安寺被仰付之旨廻伏相廻ル

町方十三日及十四日迄自身番申付火元念入候様申渡ス

一米相場 御藏米五拾目
町米四拾七匁

一戸河町太助母俸太助義絶勘當御願御用所申上ル大目付所へ申達ス
本證文出ス

一坪井町福谷屋伝助願出候安岡町村永屋甚右衛門持来リ古道具取売
之義甚右衛門不勝手ニ付相止右跡私勤申度請人福渡町作人六兵衛
相立候商売仕度旨願出ル承届ル

一中之町佐渡屋平四郎借屋居申候豊田屋久左衛門此度御飛脚者原田
与藏番代ニ罷越申度奉願町内人別相除旨

一小性町福永屋庄兵衛と申者五年已前相果跡相続人無之家屋敷有之
所町内と不訴出候借銀大分有之由ニ而内々ニ而分散取斗候趣相聞候
付家及大破見苦數依之遂詮議申出處不埒ニ取斗候付今日及御沙汰年
寄組合呵申付ル家屋敷御取上ケ家財ハ売払借銀へ到割府可申旨申渡
ス

一東新町紙屋幾右衛門乙後屋十次と願出候橋本町山形屋源三郎実種
手形差出二步中買友屋理右衛門取次候由殊外入組申出入ニ相聞候
得度考候所手札之商売事ニ而候乍去幾右衛門願趣手形書付等有之
ニ付此儀筋立可遣候二步中買共取遣ス頭木綿屋藤助へ申付可然筋ニ
付左之通以書付申渡様大年寄へ申渡ス

一橋本町山形屋源三郎実種手形友屋理右衛門取次差出候處相滞候ニ
付紙屋幾右衛門乙後屋十治郎願書指出候源三郎滞候義ハ於役所可
及差図候二步中買

友屋理右衛門住屋喜七江見屋伝七右者懸り合不埒相見へ藤助方ニ
而遂吟味不埒者指行急度相済可申候少々ニ而も滞候ハ其者家財
二步株取上ケ惣仲間へ可相渡候仲間割府ヲ以可相済候右相済候
ハ早々可申出候其節山形屋方へ可申渡候右之通藤助へ申渡処大
年寄へ申渡候

十二月九日

一 二步中買共願出之三吉屋三郎兵衛へ繰綿質置手札私共売渡申出
右代銀札不相済難義之趣旨訴状差出之旨大年寄申聞候付手札商売
ハ兼而停止之義三郎兵衛預り手形等も無之願ニ候得者無證拋出入無
取上候乍去無取上段申渡候而ハ下方不メリニも可有之間二步中買
頭へ申渡候者先方身上をも相孝不申売渡殊證拋書付無之候得者仲
間相談之上筋立可申候三郎兵衛儀不埒筋ニ相聞候間度々不埒無之
様申付可然候達而相願候得ハ遂詮議弥手札はた商於無相達者売手
買手ハ不及申取次者共迄急度御咎可被仰付候間此段相心得手札商
ニ候得ハ取上申問數候慎成質札等も有之捨抛ヲ以願出候類ハ遂吟
味可申付之旨大年寄へ内意申渡役所へ不差出分ニ而戻し可申旨申
渡ス

一戸河町年寄浜野屋文五郎就願役免跡役沢屋茂助へ申付ル

十二月十一日

一米相場 御蔵米五拾貳匁
町米 四拾九匁

十二月十二日

一 福渡町作人六助私娘ふさ当丑廿貳歲罷成候去ル十月廿七日与風罷
出行方相知不申候旨断書出ス随分相尋可申旨申渡ス

一 西今町幾野屋勘六家屋敷北側ニ而表口三間裏行町並拾五間但シ五
步役東隣者井口屋六右衛門西隣者岩見屋伊左衛門ニ而御座候右家屋
敷五人組相談之上代銀札四百目相極元魚町米屋伊助へ売渡申度旨
承届ル本證文出ル

一 式丁目錢屋七郎兵衛家屋敷北側ニ而表口六間裏行拾七間但シ御役
老軒役也東隣ハ元魚町堀西隣ハ元魚町米屋喜兵衛ニ而御座候右之家
屋敷之内東方表口三間裏行拾七間半役所代銀札七百五拾目相極元
魚町河内屋安兵衛江売渡申度承届ル本證文出ル

一 京町高嶋屋藤太郎京町南側ニ而私家屋敷表口五間内西之方式間者
裏行河原町分共ニ式拾三間東方三間ニ裏行河原町分共ニ式拾四間
半但御役京町分老軒三步役河原町分半役京町西隣ハ大和屋新三郎
東隣ハ石井屋弁四郎河原町西隣ハ家根屋喜助東隣ハ石井屋四郎ニ而
御座候右家屋敷并土蔵式ヶ所共ニ質物ニ書入西新町安永屋宇平治取
次銀札三貫八百日来寅ノ十月切利足老割八分ニ相極借用仕度旨願
出ル本證文出ル

右遂吟味候処河原町年寄組合印形有之両町連名願書前々宝永歲中
ニ相調申節右之通之売券ニ而相濟申由旨前々買券相添指出候間承
届ル

一 東新町亀屋本太郎私母とよ当丑ニ三十才歲此度乃并野預り所久米
北条郡錦織村勘左衛門妻遣申度旨承届ル人別除ケ

一 西今町直屋市郎左衛門私娘せう当丑廿一歲今度久世御支配所真嶋
郡赤野村伝藏妻賞申遣申度旨承届人別除本證文出ル

十二月十三日 御用場有之

一 梅香院様御法事ニ付町方自身番申付ル今日方明十四日迄

一 御法事宵詰無之由ニ而同心組今町差出候得とも罷帰ル

一 二步中買東新町友屋理右衛門不届ニ付手錠申付候段御用所へ御伺
申上ル尤近日取計候積り

一 西町九町願出候例年通端米在方ハ鍛冶紺屋売懸少々宛受取申度旨
願差出候御用所へ申上ル勘定奉行中及相談願之通差免可申旨被仰
渡候大年寄へ申渡ス

一 例年通馬持共拜借大豆式拾五人江老人ニ付三俵宛来寅二月方同七
月迄ニ上納可仕之旨願書指出ス御用書へ申上ル相濟願之通申渡ス

十二月十四日

一 御法事付例之通組兩人今町へ指出ス

一 座頭共江御布施被下候小頭部目付罷出相渡ス

銀高五百八拾六匁式分五厘

人数百六拾貳人

一 二階町堺屋伊右衛門ハ宿切手伊勢内宮藤波神主手代岩本清兵衛老
人罷越例年通宿仕候旨

一 舟頭町片田屋利右衛門ハ元魚町伊丹屋理左衛門江舟株質入ニ而銀
札借候処返済滞申候ニ付訴訟申出候遂評儀候処拾貳年已前證文ニ

付拾ヶ年以前之借銀ハ公儀ニ而も御取上無之由大坂聞合書付ニ相見申間願書指戻可申旨申渡候乍去理右衛門舟株質物書入候義ハ家屋敷諸道具と違株類質物書入申事ハ内々義表立而ハ不埒事候理右衛門呼出し急度呵可申候舟株吟味之則質物書入申抔申出候ハ急度御咎可被仰付候旨可申渡旨大年寄申渡ス

一先達申渡置候山形源三郎実種手形之義間銀等二步中買惣仲間吟味申付候处理右衛門乙後屋十治指引之儀何連方出シ候とも双方申候偽り難相知趣頭藤助申出候由付能々遂許儀申出幾右衛門願ハ質札滞之願ニ而間銀札等之義も願書無之ニ付承届ケ山形屋実種相渡申様及裁許候乙後屋十次郎願書ニハ間銀札之儀有之藤屋理右衛門ハ差次キ間銀滞申様相聞ヘ何分願書趣難心得候間間銀札之事有之願書ハ不取上候旨申渡ス

一 二階町川嶋桃庵内用ニ付岡山榎宗節方ヘ十三日逗留罷越申度旨

十二月十五日

十二月十六日

十二月十七日

十二月十八日 御用場有之

一米相場 御蔵米五十壹匁
町米 四十八匁

一 非人扶持目明しふち證文并内借銀證文以上四通到印形遣ス

一 京町阿賀屋弥五郎御徒高橋三太夫役介金井弥惣江借家かし申度旨

一 小性町為屋長助後家願小性町東側姫路屋九郎兵衛家屋敷表口三間

裏行五間五尺但シ御役老歩役也九郎兵衛相果申候後私夫長助右九

郎兵衛方ニ而御座候付外一家無御座候故右家屋敷時用諸入用相勤申候長助義も相果申付私引請只今迄相勤申候此度五人組相談之上私名代ニ付替置申度奉願候遂吟味願之通承届ル

一 西今町玉屋吉右衛門願出候橋本町神木屋源治旅籠屋株被召上候右之株私江被仰付被下置候ハ大切相勤可申旨願之通吉右衛門申付ル

十二月廿日

一 横山村土橋下ニ行倒候非人相添居申候女子十歳斗郡代所江申達候付「非人共来正月中致世話遣候様申付銀札拾匁遣之六匁御ふち米四匁ハ差物調遣候様申付ル右之大年寄ヘ申渡ス

十二月廿一日

一 昨夕新魚町市右衛門と申者家少々火燃申候屋弥老尺四方斗ニ候遂吟味申出付火之様子ニ相見ヘはふ矢ノやう成ルものニ扶付^(マゴ)ニ而謝^(マゴ)かけ申様相見申候依之非人加廻り申付惣町廻り相勤候様申付候右之趣御用番大目附所ニ相達ス

一 京町塩屋新兵衛宿切手出ス大坂火川町銭屋七郎右衛門手代善三郎小間物掛銀札集罷越候旨宿仕候旨

一 伏見町平助材木町和助勸進相撲仕候節横山村地代二百目相極候処致了簡百目相渡候様申候得共不相渡之旨横山村方郡代所ヘ訴訟差出候ニ付相廻り大年寄江申渡候来廿九日迄ニ筋立可申候旨申渡ス

一 東新町友屋理右衛門家屋敷安藤鞠負殿御家来難波十左衛門方質入ニメ銀札老メ匁致借用候旨今般理右衛門何角不埒趣とも十左衛門及承ニ付右之段小頭平太兵衛相断則質入證文写老通差出申候尤本

質入ニ而ハ無之内證ニ而書入申趣書面も相見へ住屋喜七加印仕候候
分質入ニ無之相對借物ニ而も返済方可申付筋ニ付殊家屋敷も有之候
得ハ急度筋立申様と申渡候其外理右衛門江懸り合願所々有之旨
孫右衛門申聞候

十二月廿二日

十二月廿三日 御用場有之

一新魚町抛火之吟味之趣御用所へ申上ル

一入牢先達被仰付候御駕籠相勤江戸表ニ而到欠落候嘉兵衛御領分追
払被仰付間被仰渡候大目付所へ申達ス

十二月廿四日

一川崎龍庵清水友三先達 亀菊様御用承ニ付今年方門松御免被成候
相渡可申旨被仰付候則呼出其旨申達ス尤大年寄へ差出候様申遣ス
御用懸り御礼相勤候様申談ル

一博突儀兼々停止相触候処近來致宿候者有之由相聞不届候已後ハ目
付組被相廻候并組者昼夜相廻し不音成参会有之候得ハ無用捨召捕
候様申付候兼而其旨相心得宿致間數候若相背候ハ本人家主不及
申組合年寄急度越度ニ可申付之由相触候様ニ以書付申渡候右者昨
日大目付中ハ相触候様被申聞候付如此候

一牢舎人葉代先例通孫左衛門預り之銀札ニ而葉礼遣候様大年寄へ申
渡ス

四ふく 式ふく

式奴 川嶋桃庵 式奴 河合友益

十九ふく 卷ふく

八奴 有本宗伯 式奴 村瀬幸寿

式ふく 十四ふく

式奴 岡村文水 六奴 三角良甫

十式ふく 十五ふく

六奴 黒田宜庵 七奴 山口東水

七ふく

四奴 中嶋元針

一熊野理左衛門ハかゆば屋甚右衛門家質滞銀訴訟返済方申付ル晦日
切ニ申渡ス

一福屋甚六式步中買加兵衛取次せんし茶廿俵紙屋太平治相手願太平
治方も三十奴ほと可出趣相聞候旨紛分大村源右衛門ハ可遣分之由
ニ付源右衛門先訴訟も有之間相濟次第ニ可願出候申渡置候様及差
図候

一熊野屋理左衛門ハ大村屋源右衛門米廿四俵組合加判家質證文返済
滞外ニ米切手売代銀引込式百三十奴其外ニ当分かし百目右之分證
文差添願申出候間源右衛門晦日切返済仕候様申渡ス

一新魚町ウ遣屋文四郎私所持仕候米買宿屋株小性町爪生原屋惣兵衛
相讓申度旨願之通承届ル

一小性町東側ニ而為屋長助家屋敷表口三間裏行五間五尺御役巻步役
也南隣ハ作人八兵衛北隣ハ糞屋甚兵衛右家今度町内馬持七蔵私由
緒御座候ニ付相讓申度奉存候被仰付被下候得ハ来春早々七蔵普請
仕候引越申度奉願候而遂吟味申処先達吟味大破家数之内故普請出

来方可然存候間讓候義承届ル外之例ニハ難成事

一 小性町肥地屋彦市南側家屋敷表口六間三尺裏行六間御役半役也西隣ハ作人利助東ハ土手江之通り筋右之家五人組相談之上式百八拾目相極町内米屋伝兵衛江壳渡申度旨承届ル本證文出ル

一 京都祇園成就院使僧三位与申者上下三人例年之通且那廻り罷越堺町山北屋伊兵衛宿切手差出ス

一 安岡町米屋平右衛門両親当三月身延山參詣百五十日逗留願罷越申処関東寺院相廻り申度来寅五月頃迄日延願書出ス

一 美濃職人町誠屋六郎兵衛渥美権左衛門方へ出入奉公仕度日笠六郎兵衛改号町内人別御除可被下旨承届ル

一 二階町上手屋弥右衛門所持自国請酒株此度安岡町綱屋出兵衛へ相讓申度旨承届ル

十二月廿五日

一 江戸表ニ而致逐電候御駕籠者喜兵衛御当町立帰二階町罷有候付召捕入牢被仰付候今度御救免御預分追払被仰付候今日出牢申渡右御届申上ル

一 本郷村庄屋兵助百姓清助河部村伝次郎右三人今日出牢村方被指戻候旨於郡代所申渡

一 米相場 御蔵米五拾目 書付出ス
町米四拾七匁

一 伏見町花野屋七郎兵衛中ノ町住屋喜七仕来之式步中賈株不勝手付相止私仕申度請人下紺屋町鳥屋太郎左衛門ヲ相立申候願之通申付ル

宝曆八戊寅年 正月ヨリ
十二月ニ至

御用日記

九 井上弥三兵衛

寅正月

御用番伊達与兵衛殿

大目附鈴木喜右衛門

町大年寄月番

元日

蔵合孫左衛門

一辰上刻諸士登城御帳付右早而御用席江勘定奉行申合罷出御祝儀申

上ル御奉者所大目付所及挨拶

一表於松間縁側例之通御家老中江御面謁物頭一連々罷出ル

二日 御用始有之

一日參御役人出仕御用席江例之通一連々罷出御祝儀申上ル右早而御

吸物御酒被下大目付所へ御礼申上ル

一玉置忠兵衛儀就用事大坂会所町松屋甚兵衛方へ三十日斗逗留ニ而

罷越申度旨願出御用席江申上ル勝手次第申渡ス

一米相場 御蔵米五拾三匁

町米 四拾日 中買書付出ス

一大年寄年頭為嘉儀罷出盃出ス

正月三日 御用場例年通無之

一大年寄三人宅江年始礼ニ罷越候盃出ス

正月四日

一倉敷御代官飯塚伊兵衛殿手代石井甚藏5年始書状来ル并錢相場書頼来ル則遣ス

一坪井内藤金一郎殿代官大友林治5年始状来ル

正月五日

一米相場 御蔵米五拾式匁 中買書付出
町米 四拾九匁

一二階町鳥屋佐助宿切手伊勢山田堤太夫手代鈴木直右衛門上下三人

罷越例年通ニ宿仕候旨

一玉置忠兵衛大坂罷越候処用事相濟候付罷歸候旨断出ル及御沙汰候

正月六日

一西川5年始状来ル

正月七日

一玉置源五兵衛大坂5罷歸候旨忠兵衛届出ル

一梅香院様去歳御法夏之砌御布施座頭共へ被下候銀子證文五百八拾

六匁式分五厘之分致奥書印形相渡ス

一乃井野岡村十左衛門岡七郎兵衛5年始状来ル錢相場書頼来ル則相

認させ遣ス

正月八日 御用場有之

一来十二日大年寄三人同十六日御用達御蔵元登城之義御用席へ御伺

申上ル例年之通被仰付大年寄江申渡ス

一山本三右衛門名順之義昨今迄ハ直屋六郎右衛門先ニ罷出候得共今
度名字御免被仰付三右衛門先へ差出可申旨申上御伺相濟三右衛門
義筆頭ニ申付ル

一來ル十日常憲院様五十廻御忌ニ付於地藏院御供養被仰付候旨御為
知廻状來ル

一就右町方自身番火元念入候様可申渡旨御伺申上ル九日晚方十日迄
自身番申付火元念入候様以書付申渡ス

一座頭右御供養之御布施頂戴之義相伺可被下旨被仰渡勘定奉行中へ
相頼置

一西川江飛脚指遣候義大目付中へ人之義申達ス

一御用達山本三右衛門福永屋藤右衛門御藏元熊野屋理右衛門罷出年
始盃事相濟直屋市郎左衛門姫路屋甚五郎ハ不快ニ而當病断申出ル

一例年之通とんと火元之儀触書出ス

一惣町年寄共不殘罷出致面謁候尤大年寄名披露小頭部屋頭立会候

一久世御代官藤本甚助殿手代錢相場書頼來リ則差出ス尤奥書致印形
之

正月九日

一組者并三軒番人牢番人致盃事候料理出之候

正月十日

一常憲院様御供養於地藏院被仰付由惣町自身番昨昼方今日中申付ル
一座頭共江御布施被下置候小頭部屋目付罷出於配当所相渡ス

人別式四拾式人

銀高七百八拾式又七分五厘

正月十一日

一元魚町海老屋七右衛門宿切手京都二文字屋清兵衛手代治兵衛嘉七
罷越宿仕候旨

正月十二日

一御具足御祝儀諸士登城

一御祝儀相濟御用席江勘定奉行一所罷出ル

一明十三日御用席無之旨坊主申出ル

一町大年寄三人御用所御逢例之通名披露相勤之

正月十三日

御用場無之

一米相場 御藏米五拾三匁 中買書付出ス

町米 五拾匁

正月十四日

一小性町西川屋重三郎宿切手備前平野町小嶋屋与右衛門手代長右衛
門醬油懸銀取參宿仕候

正月十五日

一紙屋義右衛門山形伝三郎出入指引相濟候旨義右衛門已後申分無之

旨濟口書付出ス友屋理右衛門二步中買株惣仲間へ相渡同様申付ル

一坪井町ニ而草伴屋屋茂一郎家守本屋七郎兵衛借屋市場屋理介去秋

逐電所々相尋候得共行方相知不申旨人別除断書出ス十八日御用所

申上ル大目付所ニ申達ス親類無之付町内江断書出ス

正月十六日

一御用達御藏元へ御用所御達ニ付登城中口ニ而例之通拙者披露致候

山本三右衛門
御用達当病直屋市郎左衛門
福永屋藤左衛門

御蔵元当病姫路屋甚五郎
熊野屋理左衛門

一今日大般若御祈禱有之候

一米相場 御蔵米五拾五匁五分
町米 五拾式匁五分

正月十七日

一 二階町鳥屋佐助願錦織村興善寺ニ而来十八日副引興行御届候付私
世話被相頼申候罷越申度旨

一 林田町福吉屋平七書付差出候鍋屋儀右衛門手前木地質物ニ取次不
埒ニ付御訴訟申上候処御裁許被仰付去ル四月木地五十尾質物代五
百七拾目之内今度銀札「」

一 小姓町かうめ屋甚右衛熊野屋理左衛門へ家賃借返済方申付置候処
二月中旬迄日延断書出ニ付理左衛門申聞願之通承届ル十五日切急
度相済可申旨申渡ス

一 酒直段之儀段々遂吟味候処壹分下ケニいたし度旨申候得とも是迄
貳分宛上下致来候ニ付遂吟味候処四十八九匁ニ米相場罷成候得ハ
貳分下ケ申候五十匁ハ六十八九匁迄ハ只今之通上酒壹匁貳分商賣
仕候積之旨別紙帳面書付指出候付種々評義致候得とも上方酒直段
安ク候旨世中一統下直ニも可成筋ニ申候付壹分下ケも就致候間十
月朔日ハ晦日迄ハ米五十目余十一月中ハ四十八匁迄ニも下リ候得ハ
残十月ハ正月迄之間酒過分ニ売申何分高直ニ而指出候而只今下ケ
候而ハ年中半分懸合可申間左之通可仕候旨内意申聞書付差出ス御

用所大目付中へ及御沙汰申候

名酒 只今迄壹匁五分
此已後壹匁三分

上酒 只今迄壹匁貳分
已後 壹匁

中酒 只分迄壹匁
已後 八分

下酒 只今迄八分
此已後六分

下々酒 只今迄六分
已後 四分五厘

右之通相極御酒隨分念入味悪度仕不申様申付候当秋米高高直ニ
相成候ハ、九十月頃ニも直段直シ遣可申筈ニ候

米相場十月十一日極月平均五十匁位去秋六十目位ニ時分只今迄直
段極申候去秋ハ七十九匁ほどニ而上酒壹匁四分売申候

一 材木町三家屋孫三郎後家願出候当国吉野郡川上村大庄屋平田又右
衛門甥文右衛門当寅貳拾歳ニ罷成候二階町阿賀屋文五郎肝煎ニ而
私幼年之悴為後見養子貫申度奉願旨東新町佐伯屋孫兵衛能存居申
候請人相立候由願出候付孫左衛門孫右衛門兩人共ニ三家屋間柄之
義婦人願候義候得ハ万一不埒筋有之而ハ不宜敷候間之旨孫右衛門へ
請聞願之通承届ル

正月十八日御用場有之

一 酒直段之事及御沙汰候大目付所ニ申達之

一 大年寄三人歳暮御祝義指上於江戸表披露候旨江戸御奏者番村山左
仲飯塚弥代ノ書状来リ大年寄月番呼出申渡ス

正月十九日

正月廿日

一 小性町西川屋重三郎宿切手勢州白子村形屋仁左衛門手代庄右衛門
老人形壳罷越宿仕候旨

一 右同人宿切手備前岡山大和屋清右衛門手代徳三郎例年之通風醬油
掛取ニ参候付宿仕候旨

正月廿一日

一 三丁目年寄佐和屋十右衛門役義願之通指免跡役倅綱四郎ヘ申付ル

一 三丁目濱野屋文五郎私妹さき備前和氣郡和氣村久三郎妻ニ差遣申
度町内人別差除

正月廿二日

一 新職人町河合友益妻并下女備前西大寺村朝越村河合提節方ヘ往来
廿日斗逗留罷越度旨

一 当川筋通り切手差出候間裡書印形小桁木知原江指出ス

正月廿三日 御用場有之候

一 川留ニ被仰付候旨於御用所被仰渡尤勘定奉行江及相談宣取計可申
旨被仰付候罷帰リ以書付大年寄申渡ス

一 正米不自由ニ付今日ノ他領江米指出シ候儀停止被申付候舟積牛馬
之荷者不及申步荷候而も決而差出候間敷候所々改候者差出置候間
於相背急度可申付候以上

一 今津屋伊右衛門久世蔵元勤候付預リ米右申渡無之内組者差出遂吟

味候処四百八俵舟積可仕分有之候百四十七俵郷蔵式百六拾壹俵自
分蔵有之旨

一 相撲地代伏見町平助材木町和助ノ横山村可弘分不埒ニ付当十五日
切ニ申付置候処当月晦日迄日延相断書付差出候間夫迄急度不埒ニ

申渡

一 橋本町徳嶋屋長十郎私弟忠助儀備前片山町紺屋長左衛門方見習指
遣去丑歳方来リ已歳迄御願申上候処今般長左衛門跡相続申度旨相
談仕候付御当地人別相離罷越申度旨人別除

一 坪井町年寄高崎屋安右衛門役相願候ニ付承届ケ跡役塩谷八郎右衛
門ヘ申付ル

正月廿四日

一 吹屋町吹屋八左衛門願出候町内保頭屋敷之儀南側ニ而表口五間裏
行東方三間西方五間之所先年ノ保頭屋敷被下置町内ノ家作仕保頭
差置申候処度々之大風ニ吹潰明キ地ニ罷成候依之町内組頭寄合家
作相談仕候処困窮何ニ而も出来不仕候付右屋敷私江請取家作等仕
相応之木部屋ニも呉候様申候右之通被仰付被下置候ハ保頭ハ町
内ニ而相応之所ニ差置相勤させ可申候左候ハ私請取来春少々家
作仕可申候旨無抛筋願之通承届ル尤町内一統申聞已後申分無之様
ニと申渡ス

一 米相場 御蔵米五拾式匁五分
町米 四拾九匁五分

一 町方江他国他領ノ諸勸化罷越候ニ付寺社取次役伊達今右衛門被申
聞候去秋中地藏院兼帯本山寺勸化ニ廻リ申度旨願可申哉之旨申候

付勸化願之義ハ不相成之相對ニ而廻リ候事勝手次第と及挨拶由町方他国先たりとも相對之勸化ハ不苦度と取次役ニ而者存候由被申聞候町奉行所ニ而ハ相對之義ハ勝手次第之事ニハ候得とも御領分之寺之方ハ其通り他領者ハ難成筋ニ被存候夫とも一通り通筋斗致勸化相廻リ候ハ其分義候得とも町々所々入込押而進メ申候事ニ候得ハ其分ニも難成候数多罷成候得ハ所々困窮ニも罷成候間及断可様存候依之色々存寄申合見候所町方ハ止宿又ハ存寺へ致止宿之他国寺院ハ勸化之様子ニ自町奉行所郡代所及断可申候町在之外御城下寺院へ宿寺之面々へハ断難申候ニ付町内相廻リ申節於其所断申様取計又ハ品ニ町々江相触候而無益之勸化付不申様ニ可申付之各様へ他領寺院ハ勸化之義申出候分ハ御構無之様致度之御領分之寺院ハ相對之義ハ勝手次第と被仰渡候而此方ニ何之差支も無御座候他領分ハ右之内無御挨拶無之様致度義之申訳候尤取次役方ニ而只今迄他領者ニ而も相對ハ不存寄と極居申候付先達も左之挨拶本山寺被申聞候間御城下寺方へ宿寺面々ハ勸化指留申候様ニハ難申達由存寄ニ付此已後町方他国他領ハ勸化御城下宿寺之面々相廻リ候得ハ此方ニ不存分ハ其通り存意其町々ニ而廻リ懸候節及断候様可申付候夫とも拔々ニ安方へ廻リ押而勸化無之候得ハ不苦數候押而進メ候事ニ候得ハ指留メ可然筋ニ候取次役ハ被指留候様ニハ不申達答ニ申合候間其所ニ而及断申様差図いたし可申事候尤其御御用所御伺申上取計可申事ニ候

正月廿五日

正月廿六日

正月廿七日

一川留ニ付町方難決之者共歎之趣勘定所罷越粟田平野服部江及内談候

正月廿八日 御用場有之候

一御用番与兵衛殿江於對談間御内意相同候川留ニ付町方藏元川切手取置候者又ハ公領廻米買入請負米買置候者他国米買共銀子受取米調遣預居申候者共難儀趣申遣候乍去カ様川留ニ被仰付候得上ハ成證抛も無之事と役筋ニ而取上川下候而ハ下方手段之程も難斗今度ハ其分ニも御座候得とも此已後猶以手段仕様罷成候得ハ下方風俗も惡敷罷成可申と奉存候ニ付決而取上不申指置候得と勘定奉行中三人ハ達而指下シ遣度旨存寄相聞候間種々遂内談申候処私心底ハ吞込不申候乍去三人右之通存寄其上下一御内談ニ御指支ニも可相成哉之段難斗推察仕候付御伺申上候勘定奉行中所存ニも得と御聞糺ニ成候而御差図之上川下ケ候も亦差留候も可仕旨申上候処後刻御評議之上段々申聞候趣尤成事ニ相聞候間其分指置候而可然候得共左様ニ而察候通御内證御指支ニ相成候趣ニも候間遂吟味候上無抛分ハ承届遣可申旨被仰度尤大目付中右之段申達々依之大年寄藏合孫右衛門呼出右調置候俵數見届拙者差出可申間有所書付出可申左之通有所相知川下ケ申付ル尤下シ舟積候節拙者見改ニ指出可申旨申渡候

米百七拾表 藏合川切手受取分

田原屋 六兵衛

〃百三拾俵 同断

同人

〃百三拾五俵同断

今津屋

伊右エ門

米七百六拾俵

他国町人

和泉屋

調置候分

清助

〃三百俵

同断

今津屋

伊右衛門

〃二百俵

同断

瓜生原屋

惣兵衛

米三百俵

内方鉄五郎殿

田原屋

廻米請負調分

六兵衛

米

藤本兵助殿

同人

廻米請負調分

右之分廿九日同心組見届差出ス

一公領ニ而當町米買問屋共御入相調候他領米川下只今迄蔵合孫左衛門切手指出判賃不付老分宛取之先年川留候砌も右之分ハ川切手出候様ニ仰付候義願出候間勘定奉行中へ及内談候而御用番伊達与兵衛殿江御内意申上候処紛敷事無之メリ方へ有之候ハハ勝手次第可申付候旨被仰聞候依之右分も川下ケ切手蔵合ら指出候筈尤舟頭町川岸江ハ舟付不申向河原へ舟付候而其節組者差出見改蔵合切手表ニ印形致可遣旨申付ル依之小桁御番鳥羽理右衛門呼出右之段申談ル印鑑老枚遣之尤川下ニ斗ニ相用候積リ印判極置

川下見改

印鑑印

町奉行所

寅正月廿九日

一川留ニ付小麦大豆川下見改ニ組者差出右書付紙袋ニ一所ノ入置候

一古川屋与市郎借屋多太兵衛伴佐助去丑七月宮尾村出職奉願候処今度罷帰リ旨断書出ス

一二階町さかい屋多吉備前岡山岩田町五明屋市左衛門前々本結懸取参候処近年不参ニ付依之此度越中富山立町松井屋惣左衛門与申者反魂舟壳ニ右市左衛門「御当出入仕らせ度奉願旨」

一惣式步中買共願出之先達私共「候友屋利右衛門株今度林田町松本屋源兵衛為仕度旨申出ル追而源兵衛願書差出候様ニ申渡ス

一鍛冶場前横渡舟御修覆願書出

一下紺屋町小紋屋弥三右衛門家屋敷表口式間裏行拾七間但半役也東隣者作人嘉吉西隣者作人權九郎ニ而御座候代百八拾相極同人借屋作人多助へ売渡し申度旨本證文出ル

一下紺屋町絵物屋自休家屋敷表口式間小間半裏行拾七間但シ御役半役也東隣者八百屋宇左衛門西隣者不動院ニ而御座候右代銀札百五拾目相極材木屋庄右衛門借屋元魚町豆腐屋善兵衛へ売渡申度旨本證文出ル

一東新町みなと屋茂兵衛家屋敷九年已前午七月京町宮嶋屋新六取次質物書入銀札八百目借用老ケ年式百四拾匁宛五年ニ相払可申処去丑歳迄相済申度断書出ス本證文戻ス

一東新町菊松屋茂右衛門家屋敷九年已前宮嶋屋新六取次質物書入銀札八百目借用去丑歳迄返済相済断書出ス本證文戻ル

一東新町河内屋仁兵衛家屋敷九年已前午七月宮嶋屋新六取次質物書

入銀札八百目借用去丑歲迄返濟斷書本證文出^ル

二月朔日

一 伏見町作人太郎兵衛家屋敷南側表口三間裏行拾七間五尺大溝切御

御用番 佐久間兵右衛門殿

役半役也西隣^ハ正木屋八右衛門東隣者吉田屋平十郎後家ニ御座候

大目付 渡部惣馬

今般正木屋佐助取次質物ニ書入銀札貳百五拾目来十月切式割之利

町年寄月番

足ニ而借用仕度旨

玉置忠兵衛

一 二階町鳥屋左助錦織興禪寺^ヘ「罷越断

二月二日

一 小姓町西側ニ而福永屋庄兵衛家屋敷表口拾間五尺内南方表口六間

二月三日 御用場有之

三尺五寸之分裏行拾式間北之方表口四間老尺五寸^ハ裏行七間六尺

一 伏見町帶屋孫七借屋作人源助母断出候俸源助儀去十二月廿八日罷

御役軒式步五厘役也右之家屋敷北隣者^ハひち屋彦市南方大溝切ニ

出行衛相知不申候旨所々相尋可申旨申渡^ス

而御座候右庄兵衛家屋敷相続人無御座候付此度御私被仰付私立下

一 上紺屋町作人仁助孫志^ハ当寅廿五歳去十二月廿五日罷出行衛相知

置候代札四百五拾匁并廿步一銀札貳拾式匁五分上納仕候右家屋敷

不申候兼而不行跡者ニ御座候付此已後如何様之義出来可仕斗候町

御引渡被為遊候処相意無御座候為其一札指出候

内人別御除被遊可被下旨伺相濟大目付所申達之

宝曆八^{戊寅}正月 買主

熊野屋
（^{理右之門}組合加印

一 舟頭町渡舟御繕断書差出^ス御用所指上御見分被仰付様申上^ル

一 小姓町南側福永屋庄兵衛家屋敷之内裏空地東西八間小半西北六間

一 大年寄齋藤孫右衛門痰積御座候付為養生但州木崎江入湯仕度旨日

三尺五寸東隣者右家屋敷西隣^ハ境町米屋七右衛門御座候此度庄兵

数廿四五日逗留罷帰申度旨御用所申上大目付所達^ス

衛相続人無御座ニ付御私被仰付右之空地私共再人^江被下置為冥加

一 小性町西川屋重三郎宿切手備岡山石出屋清右衛門元詰売ニ參候旨

銀札八拾目并式拾一銀札四匁上納仕候御引渡被遊候処相違無御座

一同人宿切手備前岡山中嶋屋久六元詰売參候旨

候為其一札指上申候

二月四日

以上

二月五日

買主 布屋権八

年号月日 買主 作人伝治

留罷越申度旨

一 舟頭町田原屋六兵衛就用事大坂会所町松屋甚兵衛方往来廿日斗逗留罷越申度旨

三步役東隣者錢屋平兵衛西隣者作人儀助ニ而御座候右家屋敷橋本町
仁助取次質物ニ書入銀札百目来ル十月迄御渡宛利足借用仕度旨承
届ル

一京町岩佐孝順願私親孝宅儀当寅七拾四歳罷成候拾六年以前亥歳御
願申上播州赤穂森和泉守殿領分へ引越御扶持被下候処今度赤穂御
暇被下罷帰申度旨願之通承届ル

一坪井町山手屋長四郎京都四条大和屋五兵衛方へ買物ニ罷越申度旨
往来廿八日斗逗留願出ル

一元魚町松物屋清八用事ニ付大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ往来廿日
斗逗留罷越申度旨

一大年寄三人惣町年頭之指上物於江戸表披露相濟候間御奏者番村山
左仲飯塚弥代方申来大年寄月番ニ申渡ス例之通相勤候旨

二月六日

一横山村相撲地代滞出入去ル晦日切申付置候処取扱相濟申候旨伏見
町材木町方断出ル

一大庭郡目木村毎来寺開帳三月三日方十一日迄并福引いたし候旨建
札致度旨以長安寺大年寄月番迄申出候付及御沙汰候福引文言有之
候ケ様願外々方も申来為建不申ニ付難成候間福引除之開張建札斗
ニ候ハ、可被立旨申渡候

二月八日 御用場有之由

一新魚町市郎兵衛後家願林田上町宇兵衛四十六歳同妻三十八歳倅多
次郎八歳家内三人養子ニ貫引請申度旨在中承合願之通承届ル

一林田町作人源三郎願私娘ぢう山北村小兵衛婢ニ貫申度旨已ニ遣申

度町人別御除可被下候在分承合願之通申付ル
一中之町重屋平藏借屋多兵衛願出候家内四人此度勝手ニ付林田村善
左衛門借屋へ引越申度旨町人別差除

二月九日

二月十日

二月十一日

一細工町治左衛門願出候昨今迄岩田安右衛門長屋居申候善兵衛と申
者夫婦兩人借屋ニ指置申度旨

一勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門御当地廿年前方罷越胡壳商売仕候
然ル処時節惡敷不埒御座候付染絹相添持参仕壳申度旨願出候遂吟
味候処外ニ故障義も無之旨大年寄申出候間願之通勝手次第ニ申付
ル

一乃井野岡村十左衛門書状来ル川下長岡舟頭願之趣申来ル舟頭町遂
吟味申出候様及差函

二月十二日

一泰安寺出火早速火元江罷出ル早速消留焼失無之候大目付渡部惣馬
御年寄佐久間兵右衛門殿出馬懸御目付御宅へ御届不申上候帰宅

二月十三日 御用場有之

一御位碑本源寺方泰安寺へ御帰被遊候付大目付中为知有之候大年
寄へ申遣ス御先弘同心組兩人差出ス

一長雲寺為見物建札東西場へ仕候事御伺申上ル大年寄へ申渡ス

一二階町材木屋市右衛門裏通御堀へ足代下申度願申上ル大目付所ニ
相達ス

二月十四日

一 戸川町黒坂屋幸助借屋源助願出候久世松本屋七右衛門方江当寅二月
月来午ノ歳迄五ヶ年之間奉公ニ罷越申度旨承届ル

一 堺町松皮屋助左衛門断書出ル今度御作事御用ニ付因州鳥取下横町
家根屋源蔵同仁平治同与平治右三人私方ニ逗留為仕度旨追罷帰候
節可申出旨申渡ス

一 西今町西田屋太助願出候新田村長雲寺操居被仰付候ニ付私世話焼
被相頼候付世話仕度旨

一 茅町作人忠助後家南側家屋敷表口三間半裏行拾七間但老歩半役也
東隣者作人甚平西隣者作人文七ニ而御座候代札百目相極同町金村屋
文平江壳渡し申度旨

二月十五日

一 米相場 御蔵米五拾四匁 書付指出ス
町米 五十匁

二月十六日

一 三丁目浜野屋十郎兵衛用事ニ付備前和氣村江和氣屋久三郎方へ往
来十二日逗留罷越度旨

一同町浜野屋文五郎父六郎左衛門右同所罷越度旨承届ル

二月十七日

一 橋本町綿屋善兵衛願先年御願申上勝北郡田熊村江出職仕候処去丑
二月年数相濟候又々来ル午歳迄今年之間家内八人出職仕度旨承
届ル

一 三丁目草津屋茂市郎備前和氣村十二日斗逗留ニ而罷越申度旨

二月十八日 御用場有之

一大目付所廻状致来

御家中江非人等召降歌舞伎候間敷事催候儀先年停止被仰出候処近
来猥ニ相聞候猶又向後右之旨相慎可申候此段同役支配方へ可相達
候

二月十九日

一 坪井町高平屋文右衛門用事ニ付大坂牢屋敷清水理右衛門方へ往来
三十日斗之逗留ニ而罷越申度候旨

一 堺町三津屋忠七願私借屋清水軍治下代吉田嘉平治貸申度旨

一 下紺屋町山形惣兵衛借屋池部幸吉江借申度旨

一 新魚町江断出候元魚町江吹屋町江之通り筋土橋及破損候ニ付断申
上旨

一 京町屋根屋平兵衛裏通り御堀足代下ケ申度旨廿三日御用所へ申上
ル

二月廿日

一 京町戸屋岩右衛門用事ニ付大阪今橋式丁目鴻池新七方江往来十五
日逗留罷越申度旨

二月廿一日

二月廿二日

一 大年寄歳暮年頭献上物代金指出候旨江戸大勘者菅沼藤左衛門江書
状添差下候金三步銀拾匁五分

一 西新町山根屋茂兵衛持来り古道具取壳株中ノ町辻屋源七相讓相勤
申度之旨双方連名願書出ス

一 細工町藤助借屋居申候清右衛門独身ニ而去丑二月千ヶ寺参詣罷出候処以今罷帰不申候延月今人別相除候様申候旨人別除文言付差出候

二月廿三日 御用場有之

一 京町塩屋新兵衛宿切手大坂越屋七郎右衛門手代庄兵衛小間物充懸取ニ罷越宿仕申候

一 町々江公領ノ種粃并正米質物取置者共難儀趣断出候間軒別ニ遂吟味町切ニ書付取之差出候今日勘定奉行中へ及対談御用所へ御伺申上質物之義候得者相渡候様申付度旨窺相済申候ニ付大年寄へ勝手次第ニ相渡候様申付候尤其町年寄ノ帳面并質札遂吟味紛敷義無之様取計可申旨申渡ス

一 籾合六百七拾八俵八斗八合 但老俵四斗 米三百廿五俵三升五合 入積リニして

一 乃井野森对馬殿役人中ノ書状到来御預所久米南条郡大戸村舟肝煎源六塚角村船肝煎嘉右エ門ノ訴訟申出候由ニ而一通到来御料福嶋廻リ御城米川下長岡船頭請負居申候此度舟頭町田原屋六兵衛引請之米六艘津山舟ニ積下ニ申候ニ付難儀之趣願書指出入申之候依之早速津山舟頭組頭共中間候処当所ニ而相調申米分ハ御廻米ニ而も津山舟ニ積来リ由申之ニ付必寛川留^(マ)ニ付町米川下も不自由候所

一 彼是双方申義と被察候間双方和順いたし申合舟積候而可然義存候間何分今一応長岡舟頭へ御蔵元及対談了簡加遣可然旨申渡候所双方申談内済ニ罷成候趣申出済取書取替シ申旨写指出候右写返状相認而乃井野役人中へ指出ス

一 此度田原屋六兵衛今津屋伊右衛門引請ニ而御廻米千三百五拾俵出来仕候処地舟持中御積可被成由ニ而先達而百五拾俵地舟御積被成候ニ付及出入候処各様御了簡被成ニ付内々ニ而相済趣左之通

一 此度田原屋今津屋引請候而御川下ヶ御座候分長岡江五步舟積残五步津山舟積可被成候

一 此已後御城下ニ而福嶋廻リ出来仕候長岡引請仕車場郷藏付六步与相定長岡江六步通長岡舟江積せ残四步津山舟江御積可被成候事

一 此度御了簡以内々ニ而相済申候上向後双方和順仕自今以後其頭申分無御座候左候得ハ、福嶋廻リ御米御舟積之節辻ニ而老艘ニ而も貫積双方堅致間敷事

濟口證文左之通

一 御当地郷藏後々年ニ至リ津山御請負ニ罷成候ハ、郷藏付六步地舟江御積被成残四步長岡江積取可申事

右之通此度各様御取扱成被下内済仕候上向後其頭申分無御座候為後々年取替證文仍而如件

長岡船頭惣代粟子村 浅右衛門

同舟肝煎惣代 嘉右衛門

宝曆八年寅二月 舟頭町年寄

伝藏殿 次助殿

今津屋 伊助殿

御藏元

甚五郎殿 理左衛門殿

二月廿四日

一元魚町嶋本屋喜兵衛願私忝九兵衛備前岡山舟着町大坂屋与市後家
方江養子ニ差出申度奉願旨町人別除

一堺町作人五助私娘こう備前赤坂郡河原毛村源之助妻ニ遣申度旨人
別除

一小性町糲屋八郎兵衛西国巡礼罷出往来八十日斗逗留仕度旨

一小性町加市屋太兵衛北側家屋敷表九間裏行拾六間代銀札八百目京町

味噌屋清八ハ売渡申度旨

一小性町南側豆腐屋市右衛門家屋敷表口三間式尺裏行式拾間代四拾

五匁同町瓜生原屋平吉売渡申候

一 小性町北側ニ而高嶋屋藤太郎家表七間半裏行拾六間代七百目京町

味噌屋清八ハ売渡申度旨

一 坪井町北側堺町三津屋忠七家表四間裏行拾七間代六百目同町辰屋

佐七江売渡申度旨

二月廿五日

一 乃井野岡村十左衛門江舟頭町御廻米積論出入扱相濟候付右返状相
認先達罷越川下舟頭ハ相渡ス

一 他領之銀札通用致間敷旨先達而相触候処内々ニ而取遣候様相聞ハ不

届ニ候弥堅相守金銀錢不及申他領之銀札取遣申間敷候若相背後日

ニ相知候ハハ急度咎可申付候別而西町之者其外西郷ハ商等ニ罷越候

もの入念可申渡候

右之趣惣町中入念可被申相触候以上

二月廿四日

二月廿五日

一 中之町小山屋与三右衛門宿切手網千余陸屋惣五郎例之通八百屋物
売罷越宿仕候旨右同人宿仕候旨

一 右同人宿切手網千鍛冶屋惣十郎手代善十郎經節嵐売罷越宿仕候旨

二月廿六日

一 河原町北側ニ而和太屋彦七家屋敷表口五間裏行四間御役式步代銀
札百四拾目伏見町作人源右衛門江売渡申度旨

此家屋敷表口ハ大溝ニ而東横町ニ家戸口有之候由遂吟味候処

先年ハ南表口之売券ニ而相濟候由ニ付承届候

一 堺町根田屋庄兵衛家屋敷表口拾六間半裏行拾八間御役老軒役右之
内東方表口式間裏行拾間老尺御役八厘五毛代式百匁町内作人文助

ハ売渡申度旨

同右家並表口式間裏行拾間老尺御役八厘五毛代式百匁町内作人善

七江売渡申度旨右之内相殘分根田屋庄兵衛所持仕罷在候旨

一 堺町北側ニ而根田屋庄兵衛家屋敷表口拾六間半裏行拾八間御役老

軒役也右之内西方表口式間半裏行拾式間半御役老步六毛之所代百

拾五匁町内作人鉄五郎江売渡申度旨

同右家並表口式間半裏行拾式間半御役老步六毛代百拾五匁同町檢

皮屋半五郎江売渡申度旨尤右相殘候所ハ私所殘仕罷在之旨

一 西今町西田屋太助長雲寺為見物世話焼願出候付一札指出ス文言先

格之通

二月廿七日

二月廿八日 御用場有之

一長雲寺為見物来月五日頃初可申様ニ相聞候旨大目付所へ度々尋ニ付申渡ス

一坪井町大はか屋伝兵衛南側家屋敷去丑五月質物書入同町松物屋勘助取次ニ而銀札老貫七百目ニ借用之処今度請返相済申候間双方連判断書差出ス本證文戻ス

一於対談間伊達与兵衛殿大目付立会被仰渡候江戸御屋敷度々御類焼御入用御指支ニ付町方へ括リ銀札被仰付候勘定奉行申合取計可申候而勘定奉行栗田辰右衛門平野丹下服部弥及対談

二月廿九日

一大年寄三人呼出右括銀札被仰付之趣申渡取計方考申出候様被申渡ス

一齋藤孫右衛門先達入湯罷越昨夜断出ル

一京町鍵屋与平治宿切手大坂墨口町和泉屋伊兵衛例年之通なんきん弦壳罷越宿仕候旨

一新職人町野間宗庵京都東洞院東入ル町堀元昌方へ往来三十日余逗留罷越申度旨承届ル

一西今町紺屋勘八大坂会所町松屋甚兵衛方商壳体ニ付往来四十日斗逗留罷越度旨

一元魚町伊丹屋理左衛門私方安左衛門儀撰州久代江参詣仕度大坂にて逗留往来四十日斗罷帰度旨

一三丁目浜野屋七郎兵衛商壳体ニ付大坂北浜大河町錢屋七郎右衛門

方へ往来三十日斗逗留ニ而罷越申度旨

三月朔日

御用番 佐々木内膳殿

大目付 市村番右衛門

町大年寄月番

齋藤孫右衛門

一惣町々年寄不残呼出左之通口上申請渡ス尤大年寄三人共立会候

江戸御屋敷度々御類焼近年不時御物入多御勝手向必至ニ御指支被成候付惣町江懸リ銀可被仰付候得共困窮之趣ニ付無其儀町々見付ニ括札口六拾八貫目被仰付候間何成乍難儀指出可申候追而

人数割合可申達候銀高六拾八貫目

三月二日

一新職人町ぬし屋八郎右衛門断出候備中門満寺結衆浄全坊如休坊兩人罷越用事仕候付私宅ニ五日斗逗留仕らせ度旨

三月三日 御用場有之

一新田村長雲寺操芝居今日始申候付同心組兩人罷出ル

三月四日

一括銀札申付候名面員数札相認致印形今日大年寄宅ニ而町々年寄呼出申渡候旨

書面ニ括銀札当月廿九日迄ニ札元江指出可申候尤一同も早々差出候儀甚相立可為働候間左様相心得追而御免砌出精筋取計次第可有

之候

○右人数外ニも差出可然者も其町年寄へ可申出候

三月五日

一宮脇町福松屋吉郎兵衛北側家屋敷表口六間裏行拾壹間去ル子九月相願質物ニ書入福渡町升戸屋喜兵衛取次ニ而老貫六百匁借用申候
 如今度元利相濟請返し申候旨

二階町八兵衛妻西国巡礼ニ罷出八十日逗留願出ル

二階町藤屋治右衛門借屋ろく西国順礼罷出度旨

一安岡町わた屋吉左衛門西国順礼ニ罷出度旨

一同町久米屋勘八父弥次兵衛西国順礼仕度旨

一伏見町辻屋六右衛門大坂本町木村屋吉五郎方へ古手買ニ罷越申度旨往来廿日斗

一茅町作人瀧右衛門西国順礼ニ罷出度旨往来六十日斗

三月六日

一藏合孫左衛門金比羅江参詣備岡山和田屋八右衛門方へ立寄申度旨願書出ス
 (マ)

一昨五日雲州方送り者播州姫路十兵衛と申者送り来リ町分無滞相送り申候由

二二階町山手屋弥右衛門備前岡山罷越度旨往来七日斗逗留願出ル

一二町目幾屋佐右衛門大坂銭屋七郎右衛門京都伊勢屋庄兵衛方へ買物へ罷越往来四十日逗留仕度旨

一京町平野屋治兵衛大坂松屋甚兵衛方へ商壳体ニ付往来三十日斗逗留罷越度旨

一京町今出屋半兵衛京都三条松屋権兵衛方用事ニ付往来三十日斗罷越申度旨

一今般括札之内山本六右衛門材木屋市右衛門林田屋孫七山内屋藤右衛門味噌屋理左衛門右五人者勘定奉行中へ括差免度旨申来候間対談之上右者差免ヌ昨五日申渡ヌ

三月七日

三月八日 御用場有之

一正米川留之儀勘定奉行中及相談候上御用席江御伺申上候如故障無之者指免可申旨被仰渡之以書付大年寄へ申渡ヌ

三月九日

三月十日

一米相場 御藏米五拾六匁
町米 五拾三匁

一戸川町長右衛門持馬去七日ニ落申候旨書付出ヌ

一上紺屋町南側ニ而志水屋十兵衛家屋敷表口九間裏行拾七間但七步五厘役也右裏行之内南端ニ而東西七間南北三間三十式年已前末八月代札五百目ニ而私買請所持仕候今度右地并土藏老ケ所添代札式百目相極坪井町辰屋左七へ売渡申度旨堺町三津屋忠七方願出候付
 遂吟味願之通申付ル

一坪井町南側大和坪屋伝兵衛家屋敷表口五間裏行拾七間土藏老ケ所代式貫三百目相極町内阿賀屋六兵衛江売渡申度旨

一宮脇町福松屋吉郎兵衛家屋敷北側表口六間裏行拾壹間御役五步代老貫八百目相究西今町湯田屋伝兵衛へ売渡申度旨

三月十一日

三月十二日

一米相場 御蔵米五拾八匁
町米五拾五匁

三月十三日 御用場有之

三月十四日

一堺町稲野屋徳左衛門用事ニ付大坂東町釘屋太兵衛方へ三十日斗逗留罷越申度旨

一上紺屋町灰屋喜三兵衛本寺へ参詣仕度旨往来三十日逗留願出ル

一福渡町山崎屋利介母本寺へ参詣仕度旨往来三十日斗逗留願出ル

三月十五日

一蔵合孫左衛門岡山へ罷越昨夜罷帰候旨罷出ル

三月十六日

三月十七日

一勝間田町葉屋善七郎親権右衛門儀商売向之義ニ付備後福山江村上屋夫助方へ往来六十日逗留罷越申度旨

一林田町福吉屋平七播州龍野箸屋平四郎悴新兵衛当寅式十九才ニ罷成候私内縁者御座候ニ付引請御当地住宅奉願旨承届ル

一舟頭町作人七兵衛南側家屋敷表口三間老尺七寸裏行四間老尺御役本役也右之内西方表口老間半裏行四間老尺御役半役也代三拾目相極同町作人宗右衛門江壳渡申度旨

一福渡町宮尾屋太郎右衛門南側家屋敷表口老間裏行拾七間但半役之代六拾目相極上紺屋町作人治兵衛江壳渡申度旨

一福渡町俄屋七兵衛願出候西々条郡久塚村中原露軒と申医師寅三十

八歳妻三拾七娘よし十五歳私内縁者ニ御座候付御当地住宅奉願旨御用所へ申上ル大目付所へ申達ス

一伏見町袋屋伊右衛門南側家屋敷表口式間半裏行式拾間大溝切但半役也代式百五拾目町内作人弥兵衛へ壳渡申度旨

三月十八日 御用場有之

一玉置忠兵衛儀内用ニ付摂州兵庫塩屋六左衛門方へ罷越申度明後十日九日出立往来廿四五日斗逗留仕度旨及御沙汰指出ス

一御用席江大目付同道罷出被仰渡候志水友三為御褒美米拾俵被下候旨御用番被仰渡候早速大年寄へ申遣志水友三我等宅呼出右之趣申渡ス尤御用懸リ被相勤候様申達ス

一舟頭町大村源右衛門方同町熊野屋理左衛門可請取米銀札有之旨去歳訴訟申出候付返済方申付候処日延断出候間二月廿九日迄月切申渡置候得共相済不候而又々遂吟味申候処元米米三十俵元分ハ家屋敷内ニ質物書入元利三十六俵之内拾六俵ハ返済残而元米廿俵ニ四俵利米都合廿四俵相滞候旨願出外ニ銀札百目取遣旨願出候右両口返済方申付候其外米代式百三十目有之旨申出候是ハ證文無之故返済不申付候然処才覚相調不申候付右家屋敷相渡旨申出候間表四間裏行五間半所相渡可申旨及差圖尤利左衛門江も右之訳申聞米廿四俵銀百目分ニ右家受取可申旨申渡ス尤元米三十六俵心当ニ取置候家ニ候得ハ右算用積リ以受取相済可申旨申渡ス

一 大坂御役人中右書狀到来当町戸川町市瀬屋茂左衛門と申者参宮いたし伏見夜舟ニ而大坂表へ罷下候処船中ニ而俄ニ病氣付旨舟中右

御屋敷ニ届来候ニ付早速為吟味御使組老人被指越候処右舟宿天満池田屋八兵衛ノ病人相果候旨断出候付早速御使組老人差差越候処病死無相違娘老人付添罷越候付茂右衛門取置方之義中仕小頭差取出計相済中候旨右取置入用銀三拾目八分此錢式貫式百文高瀬屋茂右衛門墓所出候駕籠代其外取置料旨申来候娘義ノ町飛脚藤右衛門ト申者召連罷帰候之旨申来ル此段大年寄ヘ申渡ヌ尤戸川町年寄方右之趣断出ル

一戸川町年寄二丁目福永屋藤十郎役義願書指出ヌ廿八日ニ願之通指免候旨大年寄申渡ヌ

三月十九日

三月廿日

三月廿一日

三月廿二日

一戸川町茂右衛門大坂入用銀三拾匁八分指出返「」相認大坂御役人中江近日御便遣ヌ

三月廿三日

一京町北側ニ而吹屋町中市屋惣助家屋敷表口四間裏行拾五間五尺五寸御堀切但シ七步役東隣宮嶋屋源助西隣ハ高瀬屋文助右家代五百目相極勝間田町作人吉之丞江売渡シ申度旨

一京町北側ニ而宮嶋屋源助家屋敷表口四間巷尺裏行拾五間六尺御堀切但三步役之東隣林田屋孫七西隣者中市屋惣助右家屋敷内東方東西江巷間五尺式寸北ハ御堀切南ハ拾三間式尺八寸右之分林田屋孫七家屋七此方ハ入組居申候殘而西方私屋敷ニ御座候此度代銀三百

目相極ニ階町研屋太兵衛江売渡旨度旨絵図差添願出ル

一上紺屋町中津屋伊右衛門家屋敷北側表口四間裏行九間六尺御役半役也東隣形岡屋遊右衛門西隣ハ作人伊助右家質物ニ書入戸川町作人五助取次銀札式百目利足巷月式步宛相極当十月切借用仕度旨
一元魚町茶屋助右衛門借家勘兵衛家内三人林田上ノ町喜八方江引越申度旨町内人別御除可被下旨在分承合

三月廿四日

一町馬見分小頭部屋目付指出ヌ改帳面出之

三月廿五日

一新田村長雲寺操芝居加日共ニ今日迄無滞相済日々同心組差出之右相済旨御用番大目付中ハ御届申遣ヌ

一福渡町重屋次右衛門願出候久米南条郡全間村福嶋一無ト申小兒医師私内縁之者ニ御座候付町方療治仕懸ケ御座候間当年方来卯歲迄二年之間私方ハ逗留為仕申度旨願出ル勝手次第申付ル

一桶屋町横町南側ニ而表口三間裏行拾五間半御役半役也代百五拾目相極同町桶屋甚助江売渡申度旨願主八杉如留

三月廿六日

一東新町粟井屋善吉願伏見町小坂屋善兵衛持来リ候古道具取売之儀私相譲リ申度旨申候ニ付私相勤申度今岡屋多吉御請人ニ相立申候旨承届ル

三月廿七日

一御用番佐々木内膳殿方御手紙ニ而申来ル於江戸表越前守様去ル十八日御卒去依之今日方来ル廿九日迄三日之内鳴物高聲御停止事候尤

普請ハ不苦致旨町方相触可申旨申来候旨以書付大年寄申度ス
一 右大目付中ノ触書到来同心組三軒屋番人牢番へ申渡候様小頭申遣ス

三月廿八日 御用場有之

一 鳴物御停止内候得共裏付上下着罷出ル尤先格也

一 福渡町貫拔余リ及大破申候付修覆仕候様申渡候処木相調居申候近々取懸リ可申旨申出ル尤町限預リ御座候故町内出候様ニハ不申付旨書付出ル

一 公領皿村長昌寺来ル十月廿九日迄開帳建札橋ニ立申度旨大年寄方へ頼来候付申出候間御用所へ及御沙汰大目付中へ申達ス建候様申渡ス

一 西新町桶屋勘兵衛私娘しな林田弓町長三郎方へ養女ニ貫申付遣旨

一 豆腐直段去丑十一月ノ老挺ニ付十三文宛ニ商売仕度大豆高直ニ罷成候ニ付是乃十四文宛ニ商売申度奉願旨遂吟味候処無抛趣今日及御沙汰承届ル

大豆直段八拾目ほど由

老奴四分四厘 大豆老升八合

式分五厘 新代

ノ老奴六分九厘 拾挺分元入

一 船頭町熊野屋理左衛門小性町銅葉屋甚右衛門家質滞先達願出返濟方申付埒明不申へ家屋敷相渡可申旨申付候処内々取暖相濟候趣理左衛門方断書指出ス

一 船頭町熊野屋理左衛門以書付申出候大村屋源右衛門内々家質并銀

札滞有之旨先達願出候付度々日切返濟方申付埒明不申候間家相渡候様申付候処右之通被仰付難有奉存候源右衛門父母甚難儀あり家屋敷質物書入證文等相改申度旨取扱ヲ以申聞候間内々相濟申度旨申出候故尤事ニ候乍去右家質外ニ質物書入申様ニハ外出入も相聞候故難申付候間右之分ニ相濟候ハ、勝手次第申渡ス

一 福渡町願主六助私娘ふゆ廿三歳ニ罷成候去十月不斗罷出相見へ不申其節御断申上相尋候様被仰付所々相尋候得共行衛相知不申候町内人別御除被下候様奉願旨

一 戸川町年寄三丁目福永屋藤十郎願之通役義免ス跡役戸川町玉津屋六郎右衛門江年寄役申付ル大年寄宅申渡ス

四月朔日

御用番 伊達与兵衛殿

大目附 鈴木喜右衛門

町大年寄月番

藏合孫左衛門

二日

御藏米五拾九匁

町米 五拾六匁

四月三日 御用場有之

一 西寺町栄殿寺観音堂修覆出来候ニ付入仏供養建札東西橋へ立申度

旨同相濟候趣取次中^レ被申聞候建候様大年寄へ申渡候

一 江戸表被仰出候趣廻状到來

古金引替之儀先達^ニ而^レ度々相触候得共今以貯置引替後^レ有之段且古金質入等^ニ致候趣相聞候自今不貯置無滯引替可申候勿論古金質入等致し候儀堅令停止候若已來質入等致し候者於有之何方共急度可申付候右之趣可相守者也

一 二階町堺屋伊右衛門西側家屋敷表口式間裏行拾七間但半役也代札百五拾目材木屋市右衛門壳渡申度旨願出承届^ル

一 河原町熱田市正家屋敷表六間裏七間御座候処不勝手^ニ付破損等^茂難仕表式間屏^ニ高仕度旨願出^テ遂吟味候処河原片遠所と申村社人義^ニ候得^ハ不苦存筋被^レ存候付願之通申付^ル

一 林田町松本屋源兵衛願東新町友屋理右衛門式步中買株惣仲間江^ニ持遣候処右之跡仕申度奉願旨請人林田町箕打屋茂兵衛相立御定法相守相勤申度旨承届^ル

一 今般一宮市町中牛馬福引三度被仰付候^ニ付私共罷越世話致呉候様神主中^レ被相頼罷越世話仕度旨断書指出^ス新魚町榎野屋文右衛門かとや太七郎

四月四日

四月五日

一 鍛冶場前土橋今日^レ舟渡仕候旨御用番大目付所江御届申遣^ス

一 春御給米今日相渡^ス但正米相渡不申代切手^ニ而^レ渡^リ候銀札場^ニ而^レ五十六匁相場^ニ而^レ御買上^ケ有之候

一 小性町銅葉屋甚右衛門北側家屋敷表口三間裏行拾間但式間三間之

裏屋敷老^ケ所御役六步西隣灰屋惣三郎東隣^ハ横町五年以前質物書入藤屋源助取次^ニ而^レ米拾八俵借用仕候処此度元利相濟家請返し申候間断書指出^ス取次人印形有之本書戻^ス

一 福渡町北側^ニ而^レ宮脇町佐渡屋伊介家屋敷表口式間裏行拾七間但半役東^ハ魚住屋甚之丞西^ハ木屋長右衛門代式百目同町作人喜兵衛^ハ壳渡申度旨本證文出^ル

四月六日

四月七日

一 新職人町染屋八郎右衛門断書備中門満寺詰衆浄全坊如休坊罷越七日逗留為仕度

一 小性町松屋小八屋敷地南側裏^ニ而^レ南北江六間七寸五分大溝切右之内北^ノ方四間半^ハ東西江六間老間四尺^ハ東西^ハ四間但御役式步役西隣瓜生原屋惣兵衛東隣^ハ三津屋甚七^ニ而^レ御座候右地所代五拾目相極町内瓜生原屋惣兵衛^ハ壳渡申度旨委細^ハ絵図差添願出候願書一所添置之

四月八日 御用場有之

一 病犬徘徊之旨相聞候^ニ付打殺可然之旨大目付所^ニ而^レ被申候間御用所^へも及沙汰大年寄^へ申付^ル 〔非人申付并町方^ニ而^レ無用捨打殺申様相触可申旨申渡^ス〕

一 町方括札式拾八貫目ほと納り申候来十五日迄^ニ日切申渡^ス町々年寄呼出大年寄宅^ニ而^レ申渡由申出^ル

一 筋違橋之金物盜候者有之御大目付中被申聞^テ遂吟味候様小頭^へ申渡^ス

一江戸大勘者菅沼藤左衛門より先達而惣町并大年寄献上物代金差下候
受取書来ル大年寄へ渡ス

四月九日

一大坂御役人三人より返状来ル先日指遣之戸川町市瀬屋茂右衛門より入
用銀受取返書申来ル

一京町かま屋与平治宿切手奈良今井町岡部忠兵衛手代源助墨壳参候
旨宿仕候旨

一元魚町大保頭小兵衛弟清三郎加藤清三郎改号黒田彦四郎出入奉公
仕度旨断書差出ス

一勝間田町かと屋太郎右衛門北側家屋敷表口式間半裏行拾壹間御役
半役之也東横丁西隣者牢屋和助右家代百七拾弍相極町内英田屋吉
兵衛江壳渡申度旨

四月十日

四月十一日

一勝間田町かと屋太郎右衛門願出候私所持仕候宿屋株此度町内山形
屋喜兵衛へ相讓申度奉願旨双方連印願出承届ル

一桶屋町桶屋佐平治林田上町源六義夫婦奉公罷出源六母私親類御座
候ニ付私引請差置申度旨在分承合申付

一小性町西川屋重三郎江州神崎新堂村嶋屋新平墨筆壳参宿仕候旨

一二階町あそ屋文五郎金比羅へ参詣仕度旨

一元魚町伴幸斎後家山北村茂七方へ役介仕呉候様申候付罷越申度町
内人別御除可被下旨在分承合申付

一勝間田町山形屋喜兵衛断出船頭町私本屋権右衛門旅人宿屋株五ヶ

年以前御願申上去丑歳迄商売仕候今度相戻申候付御断申上候旨
一市宮市町ニ付触書先格之通ニ指出ス

一竹子触書例之通指出ス

四月十二日

四月十三日 御用席有之

一米相場 御藏米五拾八匁 中買書付出ス
町 米五拾五匁

四月十四日

四月十五日

一宮田植祭礼ニ付同心組差出ス

一元魚町松屋治右衛門一宮市町中拾壹人連かるわさ見世物世話焼被
頼仕度旨

四月十六日

一同心組市宮へ罷出ル

四月十七日

四月十八日 御用場有之

一二階町組屋平七裏御堀江足代下申度伺相濟

一坪井町大坪和屋伝兵衛新魚町丈吉妹また右者新田村於葬札相对死
致し候旨申出候郡代神西作兵衛町同心組川端又六罷出遂見改候処
女者吭突切相果居申候伝兵衛儀へ左脇腹三寸斗症有之可致切服所

存所存命ニ罷在候ニ付両町組合年寄書付取之罷帰候付御用所へ申
上大目付所ニも申達ス伝兵衛事町内江預申候間引取致療治可申旨
申付ル尤外科渡辺甫庵罷越養生候様と大年寄申付ル女また死骸ハ兄

方文吉并母方何之存寄申分も無之ニ付取置申度旨願出候ニ付取拾可申旨申渡尤火葬ハ無用之段及差図之

四月十九日

四月廿日

- 一 玉置忠兵衛儀撰州兵庫方昨日罷帰候旨届来候間大目付所へ申達ス
- 一 安岡町米屋十右衛門参懸り輕業一宮市町中世話被頼仕度旨願出ル
- 一 元魚町錢屋勘兵衛願三津屋忠七所持之他国請酒株当寅歳方亥歳拾ケ年私借用仕請酒商売仕度旨双方印形願出候間承届ル
- 一 元魚町えひや長右衛門宿切手京四条通烏丸東江入町二文字屋清兵衛手代治兵衛嘉七例年之通呉服肩子売参宿仕度旨

四月廿一日

- 一 船頭町熊野屋理左衛門方書付出之大村屋源右衛門銀札指引滯申付候付奉願候処筋立候様被仰付家屋敷引渡指引相濟申度旨申出候間請取可申旨被仰渡難有奉存候然処源右衛門父母甚難儀かく申間家屋敷書入替證文仕直し遣申度旨申出候外懸合相聞候処是又内證相濟趣故勝手次第ニ申付ル

- 一 中ノ町福屋甚六大村屋源右衛門茶代滯出入内々相濟広永屋加兵衛方請取指引相濟申候旨斷書出ス

- 一 東新町坂口屋七助南側家屋敷表口式間半裏行拾七間但五步役東隣菊松屋茂右衛門西ハ鍋屋清兵衛右家代三百目相極同町鍋屋清兵衛江壳渡申度旨承届ル本證文出ル

- 一 東新町菊松屋茂右衛門願勝北郡八日市村庄右衛門悴料助廿壹才私養子ニ貫申度旨

- 一 二階町大和屋市郎右衛門市宮市町参懸り拾三人連手まり取私世話仕候様神主中頼候ニ付世話仕度旨

- 一 新魚町藥屋与吉願備中笠岡油屋源十郎手代与三右衛門上下三人当中私方ニ逗留為仕度旨

- 一 伏見町帶屋孫七借屋源助母断出候去丑十二月廿八日悴源助罷出行衛相知レ不申候ニ付御断申上所々相尋候様被仰付尋候得共今以行方相知不申候最早百日余罷成候付何国何様義出来難斗候町内人別御除可被下旨及御沙汰大目付所達ス

四月廿二日

- 一 桶屋町八杉如留家同町甚助へ先達壳渡申所宜柱技替高升間數滅家建替申候組合同町者風聞有之付遂吟味候処書付出候依之只今迄家方不埒成致方者組合年奇之越度申付候間不埒建方無之様念入可申渡之旨申度ス

- 一 美濃職人町南側ニ而福住屋藤兵衛家屋敷表口式間裏行拾七間御役四步東隣者团屋治右衛門西隣ハ正木屋甚右衛門家御座候右家代百六拾目相極同町作人甚兵衛ハ壳渡シ申度旨

- 一 京町塩屋新兵衛大坂大川町錢屋七郎右衛門手代善三郎小間物壳掛取罷越候付宿仕候旨

- 一 茅町みうち屋源五一宮市町中大坂嶋ノ内大和屋定右衛門拾式人連万歳見世物世話焼仕度旨

四月廿三日 御用場有之候

- 一 勝北勝南座頭組頭方願書出候旨配當場兩人方指出候当正月横野村安右衛門方養女祝儀取ニ座頭大勢罷越候処銀札少々遣候而不足ニ

付十二日^〆十四日逗留段々申候へ、^ハ筵ニ入大勢集往來捨申候由いか様御座候而、^ハ職分相立不申旨願出候ニ付郡代所申談横野村安右衛門遂吟味申候処前々^〆遣來候通銀札四匁遣し一宮村長兵衛へ相渡し其上賄候様仕又々銀札五匁遣候得不致手引其内追々引取殘而六人引退不申ニ付無拋筵乘送り出し申候旨ニ付其段委細ニ口書之通御用所へ及御沙汰下横野村安右衛門可訴出候処我儂不調法取計ニ付呵猶大庄屋下代指出以書付相申候故當場兩人へ申渡候由今度横野村出入願書之趣ヲ以横野村安右衛門遂吟味申候処左之通返答書指出し然上ハ双方不埒筋ニ相見へ候間双方呵可申渡処職分之義役所不存事故安右衛門義ハ呵可申渡左様相心得可申旨申渡候様大年へ申達ス尤返答書寫遣ス

一西今町紙屋六藏去ル十五日公領西堀和村与三郎と申者^〆錢三匁西川札四匁くり綿代ニ受取申候処廻目付者見咎申候ニ付銀札奉行中被申達御勘定奉行服部弥左衛門^〆対談有之上相当之咎可申付旨御用番与兵衛殿被仰渡候今日迄被申付候尤御用番并大目付中へ御届申遣ス

一堺町米中買三栗屋宇平治願出候私所持仕米中買株三丁目小倉屋伝助俸茂兵衛与申者由緒御座候付右中買株譲り申度旨願出惣仲間連判故障も無之趣ニ申候旨承届ル請人元魚町玉嶋屋安右衛門伏見町倉敷屋多兵衛

一元魚町きひ屋弥兵衛西側家屋敷表口三間半裏行拾貳間御役老軒役之南者美濃職人町分材木屋市右衛門北隣へ作人吉吾家御座候右家代四百目相極同町真嶋屋仁右衛門売渡申度旨承届候本證文出ル

一 米相場 御藏米五拾九匁五分
町米 五拾六匁五分

一 美濃職人町長八と申者匂坂巨供ニ而江戸表罷越道中^〆巨病氣ニ而罷帰候夫ニ付右長ハ御吟味之事も品々可有之候間町内組合預置候様御用番与兵衛殿被仰渡候早速大年寄へ申渡ス

四月廿五日

四月廿六日

四月廿七日

一 市町江小頭平兵衛今日罷出ル

一 福渡町七郎兵衛穢多九右衛門義ニ付吟味申付ル

四月廿八日 御用場有之

一 西今町紙屋六藏西川銀札受取候義ニ付追込申付置候今日窺之上指免ス

一 錢相場老匁七十文通用立替旨大年寄案内申来ル

一 安岡町米屋十右衛門徳守宮於地内南京線芝居被仰付私勧進元仕具候様神主中被相願候世話旨承届尤仕方間違無之様神主ニ承合念入可致旨申渡ス

一 役者札立替申度旨断出ル

四月廿九日

四月晦日

一 小性町かやば屋勘治郎家屋敷西側ニ而表口八間五尺裏行拾老間但老軒役南隣者飼葉屋甚右衛門北隣へ根田屋庄兵衛土藏右家屋敷代式貫目相極二丁目林田屋惣右衛門へ売渡申度旨承届ル本證文五月

六日出ル

一西今町庭瀬屋平七願娘もと儀上河原村小七俣武八妻貫申候付遣申度旨_ハ在分承合願之通申付ル

五月

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目附 渡部惣馬

朔日 町大年寄月番

玉置忠兵衛

一亀菊様銀之助様町方昇御見物ニ被遊御出之旨馬場喜内ニ申来大年寄申遣ス尤御先私組者不差出候

一徳守神主小原丹後守罷越近日見世物興行例之通御組被差出可被下之旨被申聞之

二日

三日 御用場有之

一関播摩守殿来七日御城下通行之旨先触到来大年寄申出ニ付御用所大目付所御届申上ル

一米相場 御蔵米 六拾目五分

町米 五拾七匁五分

一玉置忠兵衛先達而願ニ付被仰付候膾蠟一座一昨日ニ売初候依之惣町触書指出候旨御用所大目付所ニ申上ル

今般玉置忠兵衛江膾蠟座申付候周旋他領他国直売買致間敷候入用

之者右於座相調可申候尤蠟念入直段時之相場ニ而売候様ニ売候様右座江申度之他所商人持来候共一切為売不申蠟座江持參候様可申旨宿屋江可申渡之且又是迄調置候蠟有之候ハ、早速蠟座江出可申候買取可申旨申付候右之趣惣町相触別而商人宿小間物屋心得違無之様可被申渡候上方ニ取寄船上候荷物之内紛敷事者從蠟座遂吟味候様申聞置候

月日

右之通惣町相触可申旨申渡ス斎藤孫右衛門蔵合孫左衛門ニ申渡ス

一堺町根田屋庄兵衛南側家屋敷表拾壹間裏行拾七間御役式間役也東隣南北江横町御座候西隣ハ土佐屋庄三郎ニ御座候右家屋敷之内土蔵四ヶ所共ニ尤右屋敷裏ニ而東西九間式尺南北江七間九尺空地御座候但御役三步役也右所相添代五貫八百目相極二丁目林田屋惣右衛門江売渡旨願之通承届ル

一京町筆屋与一郎北側家屋敷表口五間裏行拾五間五尺五寸御堀切但

老軒役東隣ハ高瀬屋文助西隣ハ多葉粉屋伝兵衛ニ而御座候右家役敷之内東方ニ而表口三間六寸裏行七間四尺御役半役相動候約束ニ而代百七拾匁ニ相極同町仕立屋新助江賣渡申度旨承届ル本書出候

一米中買三丁目小倉屋茂兵衛差出一札

御蔵米并御家中様方御米者不及申上御百姓町人之売買米相場ハ少茂障不申肝煎代銀札相渡米請取買主ニ相度相違不仕様裁許仕可申候尤銀札請込相場見合米買申儀猶以仕間敷候事

一米茂相渡不申代銀札も請取不申手附売買之儀一切肝煎申間敷事

一中買中間何事茂一道ニ仕間敷候并口錢を買主ニ老步取可申事

右三ヶ条之通奉得其意少成共相背不屈之儀御聞届被為成候ハ、如何様も曲事可被仰附候右茂兵衛慥成者ニ御座候ニ付私共御請人ニ罷在中買被為仰付被為下候若銀札請弘不埒御座候ハ、私共罷出埒明可申候為其證文指上ケ申候以上

本人 三丁目小倉屋茂兵衛

年月日請人 伏見町倉敷屋太兵衛

同 元魚町玉嶋屋安右衛門

一京町塩屋新兵衛宿切手出ス尾州知多郡嶋崎之内寺元村陰陽師高橋

伊豆弟子五兵衛申者上下式人旦那廻り参宿仕候旨

一京町鍵屋与兵治宿切手越中富山舟橋町松井屋源兵衛手代善五郎老

人反魂丹壳宿仕候旨

一右同人大坂江戸堀菊屋治兵衛手代与兵衛小間物おろし壳参宿仕候

旨

五月四日

一一宮市中同心組兩人宛去ル十五日毎日出無滞相濟候ニ付郡

代所御用番大目付中へ御届申上ル

一市町引弘ニ付町方へ触書差出ス例之通

五月五日

一川筋満水鍛冶場前舟渡留り候旨申出候間御届申遣ス

五月六日

一三家屋孫三郎後家願先達相願養子吉野郡川上村平田又右衛門甥文

右衛門病身ニ付双方相談之上不縁仕度旨断出ル

一鍛冶場舟渡始申候旨申出候付御届申遣ス

一林田町松葉屋甚助北側家屋敷表口五間裏行拾五間五尺但本役也東隣ハ作人喜平治西隣ハ錢屋平兵衛右之内西之方表口三間裏行拾五間五尺御役六歩役代四百目相極同町正屋忠八江壳渡申渡旨本書出ル

一林田町北側ニ而作人彦八家屋敷表口式間裏行八間御役式歩五厘東

隣ハ小山屋次兵衛西隣小山屋次兵衛居宅右家代百目相極勝間田町

豆腐屋与八借屋作人平吉江壳渡申度旨本書出ス

一小性町勝部屋伝八家屋敷南側表口三間式尺裏行式拾間御役老軒役

東隣ハ万屋清右衛門西隣ハ瓜生原屋平吉ニ而御座候右家代百五拾匁

相極同町作人理助江壳渡申度旨

五月七日

一関播摩守殿御通行川々満水ニ付延引勝間田駅江町分ハ飛脚遣之御

本陣下山六郎兵衛申越候御用番并大目付中安内申遣ス

五月八日

一関播摩守殿今日四時御城下通行町分掃除申付御先弘同心組兩人町

分江差遣候馬割場江組兩人指出ス馬式拾式疋人足拾五人差出候旨

御使者宿斎藤孫右衛門宅ニ相勤ル御使者案内者申付出ス在宿医師

申付ル

一美濃職人町長八先達而町内預申付置候処急度不及預遠方不相越候

様致置可然御用番思召候由鈴木喜右衛門ハ内意有之付不及番人大

年寄へ申度ス

一坪井町大はら屋伝兵衛番人之儀并快氣届候事内意有之候

一馬割場へ組先罷出候儀前々ハ部屋目付兩人罷出候様粗相聞候今日

川端又六御先払之順相當り候代り故之馬割場へ可罷出哉と申出候
由小頭平兵衛と申聞當り番ニ候ハ、御先払之方江罷出馬割場へハ平
組と差出可然候兩様共ニ御奉公筋と申候内ニ別而御先払之義ハ重方ニ
候間少も重方代リ取相勤務候而悪敷候間馬割部屋目付ニ而無之而も
可相濟場所ニ候間差遣不及旨申付ル

一 德守宮社地為見物役者共到着之旨勸進本米屋十右衛間と昨晚届出
ル

一 西今町安田屋清助右役者共式拾人斗芝居中致宿度之旨願出承届ル

一 右人数遂吟味候処

一 勸進本江役者人数承候処

一 勘定奉行服部弥左衛門被申聞候先達而西川領銀札取遣候西今町紙
屋六藏先達追込各相濟申処先達而之銀札四匁銀札場奉公行中と預
被置候ニ付如何取計可然哉之相談有之右札ハ其町々年寄江取上ヶ預
置申様ニと銀札場奉行中と其町年寄方ニ可被申付之旨申合候

一 町医師之夏羽織先達被仰出候御停止之羽織様ニ相見申候旨大目付
中被申聞候付狼に無之様ニ有之候間寛保三亥年申渡置候書付写之
此趣ニ大年寄宅ニ而医師老兩人へ申達夫々演説有之様と申渡ス

一 戸川町豆腐屋市右衛門私娘鉄上河原村半右衛門妻ニ貫申遣申度旨

一 米相場 御蔵米六拾貳匁
町米 五拾九匁

五月九日

一 德守宮南京線芝居今日顔見世明日と本狂言致候旨昨日御届申上ル

同心組差出候

一 京町戸屋岩右衛門用事ニ付大坂今橋式丁目鴻池新七方へ罷越度往
来廿日逗留願出之

一 京町かま屋与平治宿切手大坂北浜式丁目葉守屋新右衛門手代源兵
衛本綿染地風壳罷越宿仕候旨

一 見世物場所へ同心組差出別条無之相届ル日々御届不申達旨追而相
濟候御届可申旨大目付中斗へ届遣ス

五月十一日

一 雨天見世物無之

五月十二日

一 坪井町大和堀屋伝兵衛疵平諭之旨申出候間見分并先達趣為吟味部
屋目付神田権兵衛指出伝兵衛口書取之罷届ル

一 堺町太木屋伴五郎断書出ス私所持仕候他国請酒株去八月と来已歳
迄五年切舟頭町片田屋利右衛門江貸置申候処不勝手ニ付此度差戻
申度旨願書承届ル

一 德守社地為見世物役者人数相改申付候処人数廿八人之由勸進元と
書付出ス外四人大工ニ而社地小屋罷在候旨右式拾八人ハ今町安田屋
清助方ニ宿仕候旨清助書付出ス

五月十三日 御用所有之

一 坪井町大はか屋伝兵衛一件奉伺候

一 米相場 御蔵米六拾三匁
町米 六拾匁 中買書付出ス

五月十四日

一 戸川町三吉借屋平八家内四人二宮村伊八借屋ニ引越度旨在分承合

願之通申付ル

五月十七日

一舟頭町高瀬屋文助京町南側家屋敷表口四間裏行拾七間但シ四歩役
東隣味噌屋理左衛門西隣者宮嶋屋源助御座候右家代札七百五十匁
相極同町北山修齋江壳渡申度旨本證文出ス

五月十五日

五月十八日 御用場有之

一同心組笹井全内名字改号願承届今日ト改吉井栄内申候

五月十六日

一伝兵衛儀今日五時御領分追払申付於牢屋小頭部屋目付書役差出書
付ヲ以申渡直追払穢多申付髮切せ申候見届組者兩人罷出ル古城御
境目送ル

一戸川町福永屋藤十郎家守利助願出候京町高一屋六郎右衛門持来り

候古道具取売之儀六郎右衛門不勝手ニ付右跡私ニ相讓申度旨申候

私相勤申度奉願候安岡町古川屋太兵衛請人相立商売仕可申之旨

一新職人町ぬし屋八郎右衛門断出候備中門満寺詰衆浄全坊如休坊罷

越七日斗逗留為仕申度旨

一坪井町大和塀屋伝兵衛去月十八日新田村焼場ニ而新魚町文吉妹き

たと申女指殺シ其身切服候所浅手存命罷在候ニ付郡代所下代同心

組立合見分相濟御用番方へ御窺申上女母兄文吉申分無之旨一札取

之女死骸へ兄文吉へ相渡取置候様申付ル伝兵衛存命罷在候間疵養

生致候様町内組合申付伝兵衛引取町医渡部市庵江大年寄方及差図

療治申付尤町内預ケニ申付置候処疵平諭趣組合断書差出候間御用

所申上御仕置相伺候女母兄文吉ト伝兵衛助命被仰付可被下旨願書

指出候元来右之女当春迄伝兵衛方ニ下女奉公仕罷在候旨旁以助命

御領分追払被仰付哉之旨奉窺候処今日入牢申付十八日ニ於牢家髪

切御領分追払可申旨被仰渡候依之今日伝兵衛呼出於我等宅申渡牢

舎申付ル賄へ宿元ト請可申旨申渡ス

一米相場 御蔵米六拾四匁五分
町米 六拾壹匁五分

一雨天為見物無之

一伝兵衛母兄弟へ御構無之家材へ母遣候

一伝兵衛歩行不自由ニ付宿元ト駕籠出候様早朝申遣駕籠ニ而遣ス

一美濃職人町庄兵衛元魚町七兵衛取計之儀及御沙汰候大目付中へも

申達候双方呵可申旨申上ル穢多九右衛門家来へ村方追払申付ル

一虚無僧為見世物ニ罷越申候節笠かふり居申候付御徒目付下目付方

笠為取候様申候御差懸り自然兎角虚無僧申候得へ指懸り取計難致

ニ付当春三角良甫申述候趣大目付中へ及内談申候処左之通ニ良甫

申聞可然旨被申候間大年寄方へ良甫呼申聞候様申渡候為見物木戸

之内ニ入申候者何者ニ而面体見改指置候国法ニ候依之御目付被指出

然処虚無僧笠かふり入込申節笠取様役人ト申聞就右他領虚無僧別

申分出来候得へ其節良甫罷出笠為取申候難成趣先達而内意申出候

就右虚無僧ニ紛無之来候得へ笠着居申候而も其分候へ共若粉敷者有

之候而へ法式相濟不申間已後へ虚無僧為見物見分木戸へ入申候ハ

何国何郡何誰と申虚無僧之由良甫ト書付候而も致為忤差越可申候

左も無之紛敷者ニて笠取不申候ハ、木戸入不申様木戸番へ兼而可

申付候間良甫触下其様申聞右之通取計可申旨を申聞候

五月十九日

一 虚僧組頭三角良甫江前段趣申聞候可致承知已後、良甫江印形書付為持指出可申旨申候乍去大勢仲間取」申合難成候間今般、日々為見物場所へ私出居申候而入込候虚無僧相改疑敷者、無之様御出役方へ御届可申上候旨申候ニ付其段相極大目付渡部惣馬江其旨申遣ス承知候由申来ル今日罷出同心組へ其旨申渡ル

一 木戸銭出し見物致候事ニ候哉と相尋見候所銭出不申候見物と申儀ニハ無御座候用事御座候而入込候筋ニ御座候故木戸銭ハ出不申旨尤京大坂などニ而も右之通候由本寺表ニ而見物ハ難成筋ニ候然共本寺江も用事申見物ニ罷越候旨ニ粗相聞へ候橋舟坏ニ而も賃銭ハ出し不申由咄申旨忠兵衛物語ニ而候

一 河原町かねと申女ニ方触横山分御年貢未進米有之相納不申ニ付一方村大庄屋宅江召連罷越候様ニと御代官所田中治左衛門下代高島条太右手紙ニ而町大年寄江頼来候間組合者一兩人相添可罷越旨申付候旨年寄も参様申来候由如何仕可申哉と申出候故年寄ハ不及参候男候へハ負人斗ニ而相済可申候得とも女之義候」組合召連罷越可然旨及挨拶候

五月廿日

一 京町菊屋清左衛門断書越中富山立」坂置理兵衛甥善三郎罷越例年通当十月迄私方ニ召抱置壳棄仕らせ申度旨

一 船頭町作人權七願同町南側私家屋敷表口五間四尺式寸裏行六間三尺御役式間役也西隣者今岡屋浅右衛門東隣者林田屋武助ニ而御座候

右之家屋敷八年已前午七月質物書入福渡町久幾屋惣十郎取次銀札老貫久借用奉願候処今度右利上不足分元江書加老貫三百目ニ直シ利足ケヶ月老歩」米ニ相究来卯十月切利足老年切返済約束今般證文相改申度旨承届ル前證文戻ス

一 式丁目尾高屋宇兵衛安田屋清助方居申候役者拾五人私ニ宿仕度旨承届ル

一 東新町種屋善四郎後家願去五月善四郎病死仕幼少小共御座候而渡世難送御座候付勝北郡植月北村四郎兵衛粹伊助と申者町」鍋屋清兵衛肝煎ニ而家相繕仕呉可申旨ニ付私手前へ引請申度奉存候人別出入可被下旨承届ル

五月廿一日

五月廿二日

一 昨廿日河原町かねと申女横山村田地所持候処御年貢不納ニ付大庄屋植月与右衛門宅江御代官所下代罷出居申候付右女町内五人組年寄召連罷出候様申付同様ニ御代官下代高畑条太右大年寄方へ申越候間五人組召連可参旨申渡候然処ニかね我俣申不罷越候間組合者斗罷出候処年寄も参候様ニ申来候付罷越候得ハ田地取上旨被仰付候此段かねニ申渡已来田地へ申」無之差」申間數旨年寄奥書指遣可申由被申度ニ付如何可致哉旨大年寄方内意申出候本人承知印形いたし候ハ、奥印差出可申候本人不承知候ハ、其訳可断旨申聞候

一 美濃職人町天目屋庄兵衛元魚町万屋七兵衛江申度候先達而」

一 村穢多九右衛門去春田部村万福寺開帳之砌口論いたし右之意趣而去八月於一宮途中ニ而右兩人九右衛門を相擲」致其後も立廻候付

九右衛門徘徊難致趣ニ付大坂表引退申度旨願出候間右兩人遂吟味候得者擲ハ不仕旨呼留理詰申聞候斗申之候其外金子ニ而出し候ハ札指免可遣候福渡町七郎兵衛香々美中村平兵衛ノ平兵衛申由相聞候間是又遂吟味候得とも慥成證拠無之候付指置候依之庄兵衛七兵衛七郎兵衛三人今日大年寄宅へ呼出小頭石名平太兵衛立合呵申度ス已後九右衛門并悴共ニも申分仕間敷以書付申渡ス且又他国他領江罷出ゆすり事其外非義申分有之様相聞候此後右体之義相知候ハ急度曲事ニ可申付旨申度ス

一 宗旨改帳案詞宗旨奉公中カ被差越候付大年寄へ相渡ス

一 河原町かね横山村田地御取上ケニ相成候訳年寄カかね江申度致承知一札印形いたし候付年寄組合致印形御代官所下代へ差出候由内々忠兵衛申聞ル

五月廿三日 御用場有之

五月廿四日

一 大年寄忠兵衛罷出申聞候虚無僧三角良甫申出之去廿日芝居江虚無僧頭良甫罷出候処時刻致延引遅ク罷出候所先達而虚無僧老人罷越候得ハ木戸ニ而差押良甫書付持参申哉と申ニ付押付良甫罷越旨申之相通り候何国芝居ニ而も木戸ニ差障り申儀決而無之筋候処木戸之者慮外成仕方腹立いたし候申ニ付勸進本米屋十右衛門カ良甫へ罷越及挨拶候処兵作カ罷越申様申候ニ付十右衛門兵作へ罷越右之旨申候所誤證文相認可申旨申候依之十右衛門申候者木戸ニ而改候義ハ良甫罷越不申ハ名代虚無僧老人参候間良甫カ書付為持差越申様相極置候旨出役之者カ申度候ニ付右差凶ニ而御座候ハ誤リ義無之候然

とも大年寄中挨拶も致内々相済可申旨内意被申ニ付右之通ニ及御挨拶候得とも證文相認候義表立申義「内々義ニ無之出役方対し候而も不相済義故難致趣申伸候依之仲間カ良甫不念筋と申候付良甫義急度御呵被仰付追込ニ被仰出候而愼罷在申度旨達而申出「申聞候故拙者申達候ハ虚無僧宗法相立申」「随分筋宜申付遣候所良甫代り書付持参事木戸ニ而相改候段木戸者不届申由是ハ出役者カ木戸へ申付候義候得「勸木元木戸番存寄ニ而義無之役人差図候然者木戸出入之義ハ良甫望之通ニ申付遣候所ニ候万一為似者ニ而も不参加に良甫呼出良甫代り書付持参納「申定置候ニ付右之通出役カ申付木戸者不念筋ニハ無之候宗法相立不申抔申筋少無之義ニ候随分宗法之義筋立申様此方カ「申」「候所自身」「恥辱候様申出自然得其意候何分良甫無念申儀得吟味無之而ハ難申付候間右次第委細書付指出可申候其上品ニカ本寺へ文通及内談虚無僧出入ニ申者共無念筋ニ哉又ハ良甫之無念筋勸進元不調法出役之面々取計悪敷故か妙円寺存寄承札候上ニ而何れとも可被「候間書付委細相認差出可申候今日申度候処今日ニ而急度誰ニ左様ニ申と申義無御座候事「罷成罷成候而ハ気毒ニ奉存候間右之通」「私不調法ニもなり吟味難被仰付段承知」「此上仲間者カ達而不相済段申出候ハ其節以書上申上候間夫迄ハ書付御用捨可被下旨申出候間左候ハ今朝カ申出候趣「承分ニハ書付之義ハ勝手次第可差出旨申度ス右一件大目付渡部惣馬へ罷越物語仕置候尤御用番中へ不申上候追而様次方存罷在候

五月廿五日

一 小性町田戸屋宗十郎宿切手筑前遠〔柏〕屋小平治手代金次郎茶碗おろし売参宿仕候旨

一 右同人宿切手紀州海士郡日方浦善四郎手代源藏碗折敷売参宿仕候旨

一 船頭町土手御制札場致破損候旨注進書付出ス御用所へ指上ル廿八日ニ

一 堺町和田屋十兵衛醬油桶式ツ同船老同瓶式ツ久米南条郡山上村惣助方へ川船ニ差越申度小桁通切手願出遣ス六月四日

一 新魚町平井屋善六願山北村源三郎〔共三人私引請町宅仕らせ度奉願旨〕

五月廿六日
一 米相場 御藏米六拾三匁
町米 六拾匁

五月廿七日
一 福渡町吉兵衛南側家屋敷表口式間裏行拾七間但シ五歩役也西隣中嶋宗元東隣著作人七助ニ御座候右家代百拾匁相極美濃職人町作人多助へ売渡ス

五月廿八日 御用場有之

一 大目附渡部惣馬江申渡候御用所被仰渡候見世物芝居ニ木戸内江何者ニ而茂冠物いたし候人一切入不申候国法ニ而虚無僧たりとも笠着致候ハ、入申間敷候此段勸進元へ申渡シ木戸ニ而改笠其外かふり物着モ入申間敷旨於大目付所被申渡候尤女ノかふり物ハ面体まへ見候得ハ不〔右之趣虚無僧組頭三角良甫へも申渡候様ニと大目付

所被申聞候間此段申渡候様大年寄へ申渡候小頭石名平太兵衛〔申渡申付ル〕

一 於御用席被仰渡候田町御門脇方〔迄之間御堀埋り申候付去歳之通惣町方足老月老町方老人宛御作事方へ可差出之旨被仰渡候則大年寄江申渡候

一 町方触書出上ス左之通

町方庇溝方外江仕出し雨水溝表江落シ候家相見候并溝之上へ家建出シ候者も在之不屈之事情急度取崩可申付候へ共差当り難儀可致間先用捨候向後溝之上家差出候儀者不及申庇并釣庇ニ而も一切溝方外江雨水落不申様溝之内ニ而事済候様可致候自然相背右之通家作致し候ハ、早速崩させ候間兼而左様相心得可申候是迄致置候庇雨水表へ落候所ハ繩を付往還へ流し不申様可致候右之趣惣町江可被相触候

月 日

一 鍛冶場船渡就満水留り候旨断り出候間御届申遣ス
一 例年之通涼町方者罷出東西橋ニ立留り申間敷旨触書出ス

六月

御用番 佐々木内膳殿

大目附 市村番右衛門

町大年寄月番

齋藤孫右衛門

一西今町紙屋井助と申者乱心候様ニ而難儀仕候当分手鎖拜借懸申度旨相願申候付「」有之事ニ付借候様ニと小頭江申渡ス尤組之者頼置候故権六佐五兵衛罷越懸ケ遣申候段平兵衛方申聞ル

一 二階町堺屋伊右衛門宿切手京都室町通三条下ル町三井屋茂兵衛手代源七と申上下式人例年呉服売参宿仕候旨

一 鍛冶場船渡水干落往来始候旨申出候間御届申上ル

六月二日

一米相場 御蔵米六拾貳匁 書付出ル
町米 五拾九匁

六月三日 御用場有之

六月四日

一 京町味噌屋理左衛門願私姪むめ当十五歳罷成候私手前ニ幼少方役介仕置候此度上横野村佐右衛門娘分ニ貫申度旨申候遣申度旨

一 二階町延寿代観寿院断書出ス拙淹鎮守疱瘡守護神江来ル七日方十日迄施主御座候付燈明指上申度奉存候尤寺社御奉公所御断申上

候旨

一 林田町塩屋彦兵衛南側家屋敷表口「」間裏行拾七間御役式間役東隣ハ鍋屋治「」西隣者山本屋伝吉右家屋敷橋本町幾屋七右衛門取次

ニ而質物ニ書入銀札三百目来ル卯二月切借用仕度奉願旨

一 戸川町桶屋四郎左衛門私借屋居申候作人善兵衛藤堂忠吾屋敷へ引越申度旨承届ル

六月五日

六月六日

一 細工町大工藤兵衛願出候私兄源助儀去年四月病氣付御断申上かこひニ入置候所段々心能罷成候ニ付出シ申度奉願候勝手次第ニ申付ル

一 中ノ町山伏宝寿院願出候先達而御断申上中ノ町かみや助三郎崩れ屋敷江林田上町御座候私居宅引取細工小家取建申候而今度引越申度奉願上候私当寅五拾四歳同人妻つね五拾歳俣小納言拾貳歳ニ家内三人御町内人別御加被遊可被下之旨在分ハ願出候寺社取次中へも及挨拶候

一 下紺屋町不動院例年通来七日方十四日迄祇園御摩開申候ニ付断申出「」

一 船頭町熊野屋理右衛門南側家屋敷表口五間四尺式寸裏行六間三尺御役式間役也西隣者今岡屋浅右衛門東隣者林田屋武助ニ而御座候右家質物ニ書入福渡町久幾屋惣十郎取次ニ而銀札壹貫三百目来卯ノ十二月切利足壹月壹歩三朱宛老年切利足四匁借用仕度旨承届ル

六月七日

一米相場 御蔵米六拾四匁
町米 六拾壹匁

一 梓屋ねや共願書出ル他領梓屋や骨罷越難儀趣申出候ニ付大目付所御内談申候存寄趣吟味申付置候

六月九日

六月十日

一 徳守社地為見物無滞相濟日々同心差出候趣御届申上ル

一 乃井野森对馬守殿御預所山城村与次兵衛方当町重屋忠六江年賦銀滞候義ニ付訴状差出候旨添書ニ而来ル取次人岡本屋勘右衛門加判人

重屋治右衛門本人重屋忠六右者大年寄宅へ呼出不埒候様可申渡旨申付ル

六月十一日

一 例年之通町方溝筋為見分小頭部屋目付大年寄昨今罷出無滯旨断出ル

一 徳守宮社地為見物一昨日迄無滯相濟日々同心組罷出ル就右役所宿西今町西田屋清助二丁目尾高屋宇兵衛勸進本安岡町米屋十右衛門へ申渡役者共不残出立趣届可申出候尤老人も相残り居不申旨書付指出可申旨申渡ス町方ニも指置不申様取計可申旨大年寄へ申渡

一 徳守宮見世物役者共不残罷立候由相届候方一此已後相残り候もの隠し置候族有之候ハ其所之組合者迄可為越度候尤他領ニ罷在当町江参候共立宿候而も致し旨申間敷候右之趣惣町中へ念入可被相触候以上

六月十四日出ス

六月十二日

六月十三日 御用場有之

一 勝部村蓬地蓬葉来廿五日迄ニ望者入札致候様町方へ相触置候様御代官頼候ニ付申渡ス

一 三丁目浜野屋十郎兵衛断出ル私所持候古瓶式拾三本此度備前岡山片上町伊部屋茂右衛門ニ壳渡申候当川筋舟ニ而積下シ申度奉存候御断申上候旨

六月十四日

一 徳守見世物役者宿尾高屋宇兵衛西田屋清助勸進元米屋十右衛門役

者昨十三日迄ニ不残出立之旨一札指出ス

一 茅町打穴屋庄右衛門断出候私借屋九郎右衛門申者徳守芝ニ付小屋商壳罷出申候処当十二日行方相見不申候年三十才歳女房尋ニ罷出候処是も相見不申候旨断書出ス随分相尋旨申渡ス

六月十五日

一 林田町錢屋平兵衛西国巡礼ニ当十八日罷出式拾日斗逗留罷帰申度旨撰州東成郡内ニ村ニ而病死大坂屋敷申出ル

一 東新町宿屋文吉借屋平四郎林田村玉津屋頼助借屋へ家内兩人引越申度旨在分承合申付ル

一 勝間田町大屋仁右衛門倅文五郎此度本多惣太夫組吉木乙右衛門方へ養子遣候旨承届ル

一 橋本町年寄徳嶋屋七十郎病身ニ付役免候願書出ス

六月十六日

一 土用御機嫌伺之御状付

一 新魚町魚屋仁太夫方東新町茶屋五郎兵衛方へ八出分川崎村分町作納質入借米滞ニ付願書差出候證文写算用書出ス

六月十七日

六月十八日 御用場無之

六月十九日

六月廿日

六月廿一日

一 元魚町いせ屋長右衛門方舟頭町

木綿代滞年賦借銀相直候処当春滯相濟不申ニ付願出候由大年寄内

意申聞候間返濟方可申付旨申聞ル

一 堺町三津屋忠七五拾七年已前之中買株質入之訴訟出候得とも株式

質入出入無取二殊拾ケ年過申候借物故願書指戻候様一

一 細工町幾右衛門四国遍路仕度往来百日斗逗留願出候承届ル

一 細工町大工藤兵衛兄源助四国遍路願出ル然所去歳登り症病氣ニ付

困へ入置候処此間快氣之旨指出度旨就断承届候然他国罷出候事

再発候段無覚束再三遂吟味候得共只今本快仕候旨達而相願若交儀

出来仕候ハ親類者罷越埒明可申旨申付承届ル

六月廿二日

一 江州多賀大社不動院僧正使僧勝寿院二階町堺屋伊右衛門方ニ宿仕

候旨断出候今度諸国巡行ニ付当地罷越候旨今日右使僧役所江罷越

候以取次申入候口上書覚

多賀大社修覆遷宮為入用從 公儀被仰付於神前大神案致執行諸国

御料私領蒙御免御礼致配当候ニ付今般其御国役僧為致巡行候一

分無滞相動候様被添御心宜頼入存候以上

寅四月

不動院僧正

美作国所々

御役所

御免状之写

江州多賀大明神惣屋根為修復御寄附之品も有之且神社仏閣諸堂修

復并遷宮入用為助力神前大々神楽礼御当地武家方町方其外諸国不

殘家別一候之義延亨三寅年御免被仰出別当不動院役僧卯八月五

去酉歳迄七ケ年之間御領私領寺社領町在共致巡行候処相殘候国々

有之年延之儀相願当戌年五寅年迄五ケ年内相殘国々致巡行候間其
分限一可寄進者也

宝曆四甲戌

正月

本多長門守 印

鳥居伊賀守 印

青山因幡守 印

井上河内守 印

諸国

御料私領寺社領

諸寺社
在町中

六月廿三日

御用場有之

一 右多賀使僧之趣及御沙汰候処先達而於江戸表被仰出有之儀候間先

格之通取計可申旨被仰渡之寺社方も被仰渡候様仕度旨申上候大目

付所へ委細御対談申候御家中屋敷ハ相廻不申様致可然候夫共達而

相廻可申旨申候ハ其旨可申聞候旨被申聞候

一 大年寄齋藤孫右衛門呼出使僧宿へ罷越及対談可申旨申渡ス

御家中若相廻り可申様申候ハ宿五指留置此方へ可申聞旨宿堺屋

伊右衛門得申渡置候可然旨申付ル

在中ハ大庄置罷越及対談答ニ候

人足宿等之儀ハ御定之賃銭取之指出候様申付之宿之義も旗籠代等

ハ相体之義候間此旨も申達候様及差図候

一 細工町藤兵衛兄源助四国遍路之義御用所及御沙汰候委細ハ前段有
之候略之

一多賀札賦リ巡行之趣惣町へ触書出ス扣帳ニ委細有之候

六月十四日

一東新町茶屋五郎兵衛右魚町仁太夫江田畑質物入借米滞之儀訴訟申出候返済方五郎兵衛申渡候様大年寄申付ル質入畑之義故町作庄屋裡書印形有之候間於郡代所大庄屋呼出町作庄屋へ相濟候様申渡ス

米高拾九表半元拾貳俵半

八出村町作高老石四升八合反別九畝五步

川崎村分高三斗六升老合反別

右質入證文写差出ス

一二階町堺屋伊右衛門宿切手播州今市綿屋加市郎上下三人呉服并惟

子壳ニ參宿仕候

一鍛冶町横野屋源之丞南側家屋敷表口式間裏行六間御役三步三厘三

毛東隣へかち仁三郎西隣かち伝右衛門御座候此度代札式百目相極

町内かち屋惣右衛門江壳渡申度旨本證文出ル

一新魚町横丁通筋西側私家屋敷表口四間裏行拾七間御役半役也南隣

紺屋「仲後家北側へ金屋文左衛門御座候今度代札三百目相極同町

魚屋文四郎江壳渡申度旨

一惣舟持共例年通舟賃米先貸り願書差出ス但シ老艘ニ付米三俵宛之

拜借之御用所江及御沙汰候

一中嶋村勘六俵早助去十月坪井町塩屋八郎右衛門方ニ奉公致居申候

処致逐電先日立帰候ニ付入牢被仰付候依之八郎右衛門方遂吟味書

付指出申候江戸表へ罷越候由二宮村勘七へ申置罷出候旨為指不屈

筋ハハ「」ハ無之由申出候

六月廿五日

六月廿六日

一東新町福嶋屋文右衛門京町あわ屋弥兵衛へ家質返済滞出入大年寄方ニ而返済方申渡此間迄筋立候旨断出ル

一東新町福嶋屋文右衛門家質表口九間裏行拾七間南側ニ而右之内西方表口四間半四年已前亥年京町あわ屋弥兵衛へ取次質物書入元銀札老貫又借用元利込返済家請返申旨本證文戻ス

右之内東方表口四間半三年已前子年京町とら屋文七江元銀五百目質物書入借用仕候処今度元利返済家請戻候旨断出之本證文戻ス

六月廿七日

一茅町九右衛門欠落右諸道具改書付指出候外借用いたし置候分先方へ戻し遣候様及差図候残分ハ町内ニ預り置候様申渡ス

六月廿八日

御用場有之

一誕生寺御城下同宗江参会之儀前々通ニ泰安寺成道寺大信寺と願候

ニ付已前之通被仰付候旨ニ付先達而念仏「」共当町在へ止宿為仕申

間數旨相触候様被仰付候今又々前之通御免被成候哉旨大目付所承

合候処前之通被仰付候間其旨町方へも相触可申旨市村番右衛門被

申聞之惣町へ申触候触書状扣有之

一西今町小倉屋清右衛門南側家屋敷表口六間裏行拾五間但八步三毛

役東隣福嶋屋清左衛門西隣へ久保田屋理右衛門ニ而御座候右内東

方表三間裏行拾五間四步老厘五毛役所代札五百目福渡町菱屋治兵

衛へ壳渡申度旨本證文出ル

一同町同人右之内西方表口三間裏行拾五間四步老厘五毛役代銀札五

百目町内久保田屋理右衛門へ壳渡申度旨本證文出ル

一 伏見町小椋屋半兵衛南側家屋敷表口式間裏行式拾三間但半役西隣

辻六郎右衛門東隣へ作人弥兵衛御座候右家代銀札式百目相極町内
作人甚八江壳渡申度旨本證文ル

一 東新町龜屋本太郎私所持之自国酒小壳株去酉年御断申上堺町吉田
屋喜八江五年切ニ預申候処年数相濟申候ニ付取戻シ申度旨双方印形
差出ス

一 船頭町惣舟持共例年通御登米先借舟造作仕度旨老艘ニ付三俵宛拜
借願書指出ス勘定奉行中相談之上御用所及御沙汰被仰付之乍去正
米切手難出候間勘定奉行中被申候ニ付六拾匁相場銀札渡リニ而相
濟申様ニ下方へも申聞平野丹下江及対談候

一 馬持共例年之通大豆拜借願出ル式拾五人江老人ニ付大豆式俵宛当
八月五十一月迄納可仕旨御用席申上相濟勘定奉行中相談ス

一 舟頭町高瀬屋文助上紺屋町西横町東側ニ而家屋敷表口三間裏行六
間本役半役也北隣者宮脇町土佐屋兵吉南隣堺町三津屋□治右衛門
家御座候右代銀札式百五拾目相極西今町小倉屋清右衛門へ壳渡申
度旨

一 坪井町北側ニ而堺町三津屋忠七所持家屋敷表口六間半裏行拾七間
但老間半役也土藏式ケ所東隣へ長門屋惣兵衛西者通筋右家代式貫
六百目相極西今町小倉屋清右衛門へ壳渡申度旨本證文出ル

一 西今町紙屋伊兵衛願私方伊助当寅三拾三歳罷成候当四月頃不図相
煩屋夜口ヲたき出怪敷義斗申ニ付彼是養生仕候得共快氣不仕只今
ニ而ハ本心無御座候何事も聞合不申狂出之家内取扱難義不便成義

御座候得とも困へ入置申度御断申上候旨

六月廿九日

一 虚無僧三角良甫外形方断出候英田郡浪人者室井理助へ本則取次遣
候義ニ付外形不調法筋有之旨ニ而本寺番「本則并三ッ道具共指上
ケ可申旨申渡候由仍之御領分虚無増中一統ニ不殘本則本寺指戻可
申旨其訳ハ外形無調法筋無之冬風□吹取次ニ而申立事故他領侍中
共外形無断理助ヲ宿」罰可致筋無之領法中我候之働候由存寄之
書付外形へ指出申候付虚無僧取計候義并本則共今度本寺へ外形指
戻シ其外者共ニ他本寺之本則取遣申度旨断書出候ニ付此方方申聞
候宗法之義役所ニ而構申筋無之候乍去良甫取計役之義ハ役所方助
力遣し者ニ候得ハ得と遂評義自是存寄可申達候間其間番僧へ断申
置候而可然旨申聞候就右大年寄方以取次番僧へ外形不調法趣ニ而
本則御取上可有之元来良甫取計之義御申付被成則爰許公議方助力
有之候事故右訳為伺書付指出申候如何筋ニ而御座候哉様子承候上
奉行所へも可申達候間委細承申度旨可申旨及差図候

六月廿九日

六月晦日

一 京町東新町西新町類族共無別儀罷在候旨例之通書付指出ス

一米相場 御藏米六拾式匁五分
町米 五拾九匁五分

一 二階町堺屋伊右衛門京四条東桐院西入町□坂屋又兵衛上下式人具
服売昨日参例之通宿仕候旨

一 橋本町年寄□嶋屋長七郎願之通役義指免候跡役山形屋源吉申付ル

七月朔日

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目附 鈴木喜右衛門

大年寄月番

藏合孫左衛門

一米相場 御藏米六拾目
町米五拾七匁

七月二日

一惣船持拝借證文指出候例之通致印形遣ス米百六拾式俵人数五十四

人江

一馬持例之通拝借大豆證文差出候致印形遣ス大豆五拾俵之廿五人江

一鍛冶町鍛冶屋惣次郎去ル丑藏迄召仕候藤八と申家来不届有之暇

遣所鍛冶職之儀相構差出申候処町内伝左衛門方指置申候付右之通

ニ而者私一分相立不申趣願出候間遂吟味候上右藤八儀当町鍛冶屋

共方ニ家来不申及日雇ニ而召仕申間敷旨急度申付ル尤伝左衛門致方

不届ニ付向後右体之義無之様申渡候様大年寄江申渡ス

一京町塩屋新兵衛宿切手大坂北浜大川町錢屋七郎右衛門手代善三郎

小間物元懸銀取罷越宿仕候付書付出ス

七月三日 御用場有之

一美濃職人町長八と申者先達而勾垣巨供ニ而江戸表へ罷越道中巨大

病ニ而罷帰り候ニ付右御吟味ニ付長八遠在江罷越不申様可申付旨被

仰付候処此間右一件相濟候間長八義勝手次第可申付旨被仰渡候大

目付所方被申達候大年寄へ申渡ス

一虚無僧三角良甫申出候趣御用所江及御沙汰候大目付所へも申達ス委
細前段有之ニ付略之

一東新町福嶋屋文右衛門南側家屋敷表口九間裏行拾七間御役巷間四
步東隣者鍋屋清兵衛西隣ハ玉屋伊左衛門代銀式貫目相極同町山内
屋藤右衛門江壳渡申度旨承届ル本證文出ル

一小性町作人市郎右衛門南側家屋敷表三間巷尺七寸裏行拾七間御役
九步役也東隣ハ粉屋小右衛門西隣ハ作人安兵衛後家ニ而御座候代百
七拾匁相極町内浜田屋助三郎へ壳渡度旨本證文出ル

七月四日

一虚無僧取計三角良甫本則名外形儀先達而英田郡」 室井理助

本則名守覽俗姓非人番倅之処冬風寒吹取次ヲ以外形ハ明暗寺本則
取次遣候処右之訳者故当二月十八日ニ他領虚無僧十式人罷越守覽

抛罰いたし候右者不埒ニ付外形取計不宣旨今般明暗寺番僧快旭寿
日与申兩人罷下り遂吟味候上冬風寒吹本則取上ケ外形義も本則三

ソ道具指上ケ取計役ヲも指上可申旨申渡候依之良甫方其段断出候
間取計役義先年番僧播仙罷下り大年寄へも対談其上良甫助力ヲ加

へ役申付候訳ニ候間大年寄右兩人之番僧江一応及対談如何体良甫
不届有之哉之段承之其上ニ而可及差図ニ旨申置候所昨夕番僧ハ大

年寄ニ届手紙来ル旨然処岩屋村竹山と申虚無僧如何」取扱内濟
相成候様致世話申旨大年寄も及返状候処旁以内濟取計良甫へ呵

申渡相濟申候旨右為一札両番僧大年寄藏合孫左衛門宅へ罷越申候
手紙も指越申候写有之

一快旭寿日大年寄藏合孫右衛門へ咄候趣ハ竹吹候事ハ仙法寺之鏡打

ことく経音叶申事ニ候廿四ほと吹様有之候すかき候様成手ハ慰ニ而御座候依之鳴物御停止等之刻も右本手竹音ハ不苦吹申事ニ御座候由咄申旨大年寄挨拶当所ニ而左様分り申触事ハ無之人別者ハ一統ニ鳴物高声停止申事候旨申候由

〔付記〕京都妙暗寺定法諸司代右寺上久殿御用人承合申「」鳴物停止節尺八吹申事停止ニ候

一粗承候得ハ虚無僧笠之義為見物場所ニ而取り候様御座候由銘々宗門笠之義何方ニ而も取り不申候御閑所ニ而も前々ハ取不申候先年被仰出候而箱根荒井御閑所ニ而ハ笠を取り申候其外見世物場所ニ而も取り不申旨御席刻いか様取計御奉行所江も御達置可申旨候尤御国法相立不申而ハ成不申義御座候宗門ニ而も笠を取り申而ハ差当り候者迷惑いたし候由申候大年寄挨拶宮寺義ハ町分拙候共構申場所ニハ無御座候其役筋ニと国法ニ而得申事候由及挨拶申候

七月五日

七月六日

一米相場 御蔵米五拾八匁
町米 五拾五匁

一町方括札納不足者共当月中断書出候由大年寄申聞候

一小性町北側作人弥兵衛家屋敷表口四間半裏行拾間但老軒役也東隣者灰屋惣十郎西隣ハ堺町作人文助御座候

一右家屋敷内西方表口式間半裏行拾間御役半役ノ所代札百三拾匁相極私借屋居申候文四郎ハ禿渡申度旨

七月七日

七月八日 御用場有之

一盆中拙者町廻り例年之通可相勤旨御伺申上ル大目付所ハ人馬之義申達ス

一町方万人講願書指出ス御用番兵右衛門殿江御次ノ間御内意申上大目付所ニも内意申達而勘定奉行中ハ先達内訳之通申合御席ハ持参申上候処願書御請取置被成候文言之未ニ有之

一盆中触書相認大年寄今日相渡ス

七月九日

一瀬戸村六郎左衛門方這入候盗人中谷村出生之者松右衛門郡代所ニ而吟味白状今日入牢申付ル

七月十日

七月十一日

一米相場 六拾日
五十七匁

七月十二日

一河原町ハ願出候河原町中番所殊外及大破居申候処貧町之儀ニ而指当り修覆等度得仕不申候依之町内保頭家右番所向之方ニ御座候間何共ニ当年中ニ者番所取立可仕候右之内保頭家江番所被為仰付被下候ハ、町内家持共難有仕合可奉存候旨申出候承届ル

一河原町作人長八母同長ニ願出ス私忰三六儀当寅式拾八才ニ罷成候兼々不行跡御座候ニ付度々打寄異見加候得共相用不申候付此度義絶勘当仕度奉存候願之通被為仰付被下候ハ、難有可奉存候旨御用所申上ル大目付所申達候十八日伺相済申渡ス

七月十三日 例年之通御用所無之候

一安岡町若田屋源七持牛相果候旨取捨之義断出候承届ル

一美濃職人町三吉屋三郎兵衛下紺屋町原田屋馬七戸川町ふし屋甚助

右大峯参詣仕度旨

七月十四日

一御四方様町方燈籠乍御見物被遊御出旨京町方妙願寺前戸川町福渡町坪井町三丁目式丁目元魚町方同町御門江被為入候之旨馬場喜内方申来御先拂差出ス

一例之通惣町廻り見分相勤ル暮時方罷出福渡町方宮脇町今町茅町安岡町戻り坪井町三丁目式丁目元魚町美濃職人町から町上紺町細工

町下紺町二階町此辺ニ御子様方御通り暫見合夫方京町東新町迄帰り河原町方小性町舟頭町吹屋町新魚町桶屋町戸川町方罷帰ル供人組三人揚灯燈持老人御貸人老人牢番仲間召連候其外貸人馬例通

七月十五日

一昨夜町廻り相勤候趣以手紙御用番大目付中へ御届申遣ス

七月十六日

七月十七日

七月十八日 御用場有之

一 目明し太兵衛方申出候盜賊番穢多共之内喜平治「」と申者西吉田村ニ而召捕候盗人かくし参御領内被盜物久世倉敷辺江盗人纏付ニ而

召連罷越盜物取戻し并津山町質屋へも召連廻可申旨申由断出候間其訳大庄屋へ申達候而喜平治遂吟味候処盗人借り来候義へ無御座

候先達頼置召捕具候尤久世表へも召連参盜物之差詰りへ届置申候

取戻し候義ニハ無御座由申出候町分ニ而ハ他領之質物ハ盜物ニ而も元

銀遣取戻し申到來り候由小頭平兵衛も申候得共他領ニ而者内々銀子出し不申取戻し可申様と申候而ハ町分目明し迄一同同様ニ相聞

氣毒申出候付一通り在分も遂吟味候得ても何分内々ニ而取計候義と候得ハ役筋方指図申候而も無之ニ元盜物ハ無買取戻申事候公儀ノ御大法ニ候得ハ元銀なと遣筋ハ役筋方差図候而ハ不宜敷候有無ともケ様之義ハ後々手本ニも成り申事候間乍「」方指図無用候在町共ニ致来り之通内々取計可申事ニ候表立致方悪敷儀相知候ハハ其御善

惡之義ハ同之上及差図可申義と存候付右存寄趣御用所大目付所へ申上候処尤ニ思召由ニ候

一大目付月番方被申渡候町方くわへきせる并たはこ火出し不申張紙等も有之所近來くはへきせるいたし者有之張紙無之様相聞不埒候間念入前々通可申付候旨被仰渡候旨御用番御差図旨被申聞候間早速町方へ触書出ス

前々方度々相触候通くわへきせる致候義尤たはこ火出候義停

止申付置候処近來猥に相成くわへきせる致し候族も有之様ニ

相聞候勿論たはこ火出し不申張紙等破し落散り候とも拾置候

趣相見候相改張紙致し可申候くわへきせる致候者見合候ハハ

相互ニ可致「」候廻り同心共見合候ハハ早速捕へ役所へ可訴

間其旨を存急度守可申候 惣町へ相触ル

一舟頭町田原屋六兵衛断出候備前金岡湊小倉屋平左衛門粹平六私由緒御座候付四五日斗逗留為仕度旨

一坪井町長門屋惣兵衛京都罷越度旨往来「四五日斗逗留願

一元魚町「」屋文四郎高野山江參詣往来十八日斗逗留願
一坪井町山手屋長四郎京都へ罷越願往来廿五日逗留願

七月十九日

七月廿日

七月廿一日

七月廿二日

七月廿三日 御用場有之

一大目付所廻状花火之儀兼而停止之旨被仰出候処近来子共遊ひ花火
ニ似寄候儀人家近辺ニ而も有之様相聞候兼々被仰出候通堅無用可
致候若相凶火修行仕度族有之其旨支配頭江相断候ハ、目附之者差
出し可申候此段可相心得候右之趣同役支配方へ可被相達候以上

大目附

一二階町堺屋多吉宿切手越中富山松井屋惣左衛門手代忠次郎与申者
始而反魂丹売昨日參候宿仕度旨右先達願出候間承届ニ付參申出ル

一林田町鍵屋安左衛門私娘くま西々条郡古川村「」いたし申候付遣
申度旨人別除

一花火之儀町方へ触書出ス

花火之儀兼而停止之旨相触候処近来子共遊ひ花火ニ似寄候儀有之
様ニ相聞江兼而申付候通堅致間數候且又花火商売致間數旨先達而も
相触候処所々商売致し候者も有之様ニ聞候若隠商売致し候ハ、遂
吟味急度答可申付候
右惣町へ相触候

七月廿四日

一臈臘問屋玉置忠兵衛江申付置候処先日二階町村本屋惣兵衛新魚町
紙屋七助兩人大坂ニ臈臘相調倉敷中須賀江舟「」いたし他所を被相
頼様と申申分之由問屋を断出候間吟味申付候処臈世話焼稻野佳右
衛門他所相廻候由とても御当地ニ而箇とき申候得者相断可申
旨申候付他所所之義ハ不苦敷と存大坂ニ而私買請申候旨申之候
仍而右之段及御沙汰右之臈爰許取寄可申旨申渡候処先方へ相渡候
様申ニ付是非取集差出可申旨申付ル

一西新町有本元春願私儀当寅廿八歳罷成候此度勝南郡岩見田村幸右
衛門引請醫術為修行当寅歳を来ル午ノ歳迄五ヶ年間罷越逗留仕度
奉存候旨先格有之ニ付承届ル

七月廿五日

七月廿六日

七月廿七日

七月廿八日 御用場有之

一坪井町浜屋清助高野山江參詣朔日罷出往来廿日斗逗留願出ル

七月廿九日

一坪井町年寄塩屋四郎右衛門大坂江北浜錢屋七右衛門方買物ニ罷越
申度旨往来廿二三日斗逗留願

一安岡町年寄小倉屋次右衛門久米屋勘八兩人伯州三朝へ入湯仕度旨
往来廿日斗逗留願

八月朔日

御用番 佐々木内膳殿

大目付 渡部惣馬

町大年寄月番

玉置忠兵衛

一諸士登城例年之通

八月二日

八月三日 御用場有之

一東新町茶屋五郎兵衛田地質物入滞訴訟新魚町仁太夫右返濟方当十五日切ニ申付候

一同町友屋理右衛門家質難波十左衛門断書十五日切日切申付

一二宮村武右衛門舟頭町和泉屋仁藏熊野屋理右衛門江米売代滞出入願出候処段々不埒不屈之趣ニ付来十六日ニ於役所遂吟味可申趣申渡ス尤委細吟味申付置候

八月四日

一二宮村甚助上紺屋町清水屋忠兵衛於畑場致打擲候旨ニ宮と断出候間忠兵衛町内預ケ申付置候美濃職人町伝蔵町内預ル

一安岡町神目屋九郎兵衛持牛相果候取捨之儀伺置候間勝手次第申付之

八月五日

一上紺屋町清水屋忠兵衛美濃職人町伝蔵一昨三日二宮村畑ニ而同村甚助ヲ致打擲其上しはり疵有之痛強難儀由断出右兩人昨日町内預申付候今日甚助為見分二宮村郡代下代神西作兵衛同心組部屋頭川

端又六指出候療治人川井友益立会申様申付右畑之草苺取申候付及打擲候故右畑場所見分作兵衛仕候様申付ル

一右兩人大年寄於宅遂吟味書指出ス

一京町南側ニ而高嶋屋藤太郎家屋敷表口八間裏行拾七間御役沓軒役也東隣北山修斎西隣阿賀屋弥五郎右家屋敷代銀札九百目相極二階町組屋平七売渡申渡奉願旨本證文出ル

一二階町山手屋弥右衛門真賀江入湯仕度往来十六日斗逗留願出ル五日ニ出立

一二宮打擲人取計御用番内膳殿罷越相伺

八月六日

八月七日

一新魚町紙屋七助元魚町村本屋惣兵衛江申渡ス晒蠟座申付ニ付他国他領江直売買致問敷旨申付置候処於大坂表其方共名前ニ而買求他領者と被相頼候由他所積廻紛敷致方不屈候急度相糺稱敷可申付候得共前後心得違之旨申候ニ付其分指免已後晒蠟買次致問敷候以上右大年寄宅おいて申渡ス

八月八日 御用場有之

八月九日

一新職人町ぬし屋喜平治北側家屋敷表口三間裏行拾壹間但本役西隣高角屋八十吉東隣者河合友益ニ而御座候清水友三取次ニ而質物ニ書入銀札貳百五拾目当寅歳と来卯ノ十月切沓ケ月式歩宛利足相定借用仕度奉存旨

一勝間田町苅田屋孫七願出候京町石井屋弁四郎造酒株当寅秋と来ル

亥歳迄拾ケ年間私手前ニ借請造酒商売仕度旨ニ付断書出ス承届ル

一 上紺屋町清水屋十兵衛美濃職人町伝蔵江申渡ス趣作日御用席御伺申上候大目付所御内談申候左之通申渡ス

去ル三日二宮村甚助其方手作畑中草苧取候付兩人参懸り致打擲其上帶ニ而搦り右草為負川端迄罷越候処甚助気分悪敷候間行倒其後

弥以痛強病体無心元之旨村方ニ訴出候遂吟味候処其方共申候大豆草交り抜取り其上鎌を振懸り候ニ付打落候双方「合伝蔵引分ケ

右草甚助為背負村方へ召連罷越候処途中ニ而同村才助出合取扱申候付其分罷帰候由申之候得共双方無證據不分明候一通り口論等ニ

而右体次第ニおよひ候ハ其方共急度咎可申付候得共畑内草無断苧取候段甚助不埒義ニ付療治等も其方へ不申付假右等之趣早速不

訴出前後取計不埒致方不届ニ付追込申付候相慎可申付有候以上

寅八月九日

二宮村甚助義ハ

畑中草苧取申付快氣後手錠被申付候御用所ニ而取計候郡代所ニ而取計申候

一 東新町有本玄春岩見田村江引越申候付諸道具川筋積下ニ申度旨書付指出申度裡書致印形遣ス

八月十一日

一 舟頭町渡舟痛出来断書差出候大目付中へ御作事見分有之様申遣ス

一 二階町鳥屋佐助宿切手出ス越中富山松井屋左兵衛手代和助例年之通反魂丹壳参宿仕候旨

八月十二日

八月十三日 御用場有之

一 豆腐直段当三月拾四文相成候処大豆下直罷成候付拾三文ニ商売仕度旨

大豆貳升ニ付 老奴貳分

薪代 貳分五厘

右之趣御用席ニ及御沙汰承届ル

一 正米外払御停止旨例年之通御書付渡ス御用所ニ而御渡被成候大年

寄窓町相触可申旨申渡ス

一 宗門改帳相濟宗旨奉行中ニ一昨日来ル今日大年寄へ相渡ス

八月十四日

八月十五日

一 東新町友屋理右衛門北側家屋敷表口四間裏行拾七間東隣ハ岩屋文四郎西隣美濃屋九郎兵衛右之家同町わた屋与七取次質物ニ書入銀札六百目借用寅十一月切六歩利足加へ元利返濟仕請返可申候旨奉

願候旨右利兵衛義難波十左衛門方ニ銀札老貫目内々家質指入置候旨十左衛門方断申来候付返濟方申付置候処右質物薬屋与七取次ニ

而質物書入六百目借受申残五百目銀札相渡右出入相濟可申旨双方中間候間出入之内家質物ニ入申義ハ難承届候へ共此質物ニ而筋相立

候旨ニ付願之通承届ル

一 安岡町福嶋屋幸助持牛致病死取捨伺出候間承届出候

一 西新町伊木屋源右衛門願倅太吉私所存相叶不申十四年已前丑十一月奉願上義絶勘当仕罷有候然処近年備前赤坂郡周匝村居住仕居申候只今ニ而ハ心生茂相直候様承申候何卒老人共存命之内御当地江帰

參仕申度私共へ詫仕申越候不便奉存候婦參候儀御赦免被遊被下候ハ義絶勘当指免呼寄申度奉願之旨先年之儀再応遂吟味候奉かい
たし罷在先主ニ而致欠落候由申仕左候ハ古主人之方ヲ得と承合
弥故障無之旨被申候ハ可願出候段申聞候暫見合旨承出

八月十六日

一 米相場 御蔵米 五拾八匁 書付出
町米 五拾五匁

一 先達於郡代所被召捕候盜人松右衛門盜物小麦壹俵半買主中ノ町高
屋勘七代式拾四匁七分五厘小麦壳候付代銀札指出スひとへ物沓ッ
預り人西今町浅嶋屋十兵衛指出ス桐板沓間細工町大工利兵衛手代
拾匁板無之ニ付代指出ス右分今日取上ケ則郡代所下代へ相渡在中
被盜本主へ渡遣候事

一 林田中ノ町裏土手東角下目付小頭安井佐助拜領屋敷今般屋敷替被
仰付右所御跡地二丁目河内屋善右衛門へ被下候付御作事方郡代所
へ引渡夫方町分へ引渡今日小頭石名平太兵衛大年寄玉置忠兵衛罷
出勝間田町へ引渡ス河内屋善右衛門手代材木屋市右衛門罷出受取

間敷 北ノ方東西九間半 東方南北八間半
西ノ方南北拾間 南ノ方東西九間半

右代米七俵半〔月八日〕方相納勘定奉行相渡受取下
右者向後〔地町分相成〕

八月十七日

八月十八日 御用場有之

一 米相場 御蔵米 五拾六匁五分
町米 五拾三匁五分

一 二丁目幾屋佐右衛門往來四十日斗逗留京大坂調物ニ罷越申度旨
一 舟頭町作人市郎兵衛千ヶ寺參詣仕度旨往來式百日逗留願出
一 二階町嶋屋藤吉播州加古川おちわく細工手伝五郎三郎市右衛門例
年之通十二月中頃迄逗留為仕度旨例之通承届
一 斎藤十五郎木綿むしろ之儀商売仕度内意申出之願書差出候御内意
申上置候

八月十九日

一 紺屋町清水屋十兵衛美濃職人町伝藏追込伺之上今日指免
一 桶屋町半次郎借屋勘右衛門家内三人新田村持宝院借家へ引越申度
旨在分承合承届

八月廿日

一 久世藤本甚助殿手代友沢祐八方書状来ル久世村三原屋平吉江当所
西今町紙屋六藏綿商代銀札帶有之旨平吉願出候趣願書来ル六藏手
形證文写等も不參候間慥成手形有之候ハ指出候様被仰付御越可
被成候綿商之義御手札ニ而取纏り致候ニ付大勢懸り合入組居申候
間證文等も無御座候而吟味難成之旨申遣候

一 堺町三津屋忠七坪井町北側長門屋惣兵衛家屋敷表口四間裏行拾四
間但御役七歩式厘四毛右之裏続三津屋忠七持分東西四間南北三
間但御役七歩七厘六毛也西隣ハ八杉如留東隣者河原屋次助御座候
右之地代銀札五拾目相極申右之外ニ裏ニ而空地東西三間式尺南北

三間無役前々所持仕居申候此度代札百目相極則長門屋惣兵衛江
壳渡申度旨願候

右遂吟味申候処右空地東西三間式尺南北三間無役分ニ而ハ元来上
紺屋町分ニ而先々紺屋町裏分坪井町居所方壳渡尤無役ニ而其後二三
代ニも坪井町分方相願右坪井町表屋敷ト一所壳買致来り候旨依之
今度も坪井町願ニ而承届ケ候乍去他町間敷之内内外願候而ハ後々
年ニ至り紛敷可有之申候間重而壳申候節ハ右ニハ上紺屋町願書差
出可申候為其右壳券ニ大年寄方裡書認相渡置可申旨申渡（本證文
裏書有之大年寄三人
一 かつ場前舟渡就満水留ル御届申遣ス

八月廿一日

一 東新町茶屋五郎兵衛魚町仁太夫質物田畑滯出入当十五日切ニ申付
当月中日延願出候承届ル

八月廿二日

八月廿三日 御用場有之

一 かつ場前渡四時方始ル由申来ヲ御届申上ル
一 二宮遷宮神事来ル廿八日ニ有之付東西橋建札仕度旨申出候間為建
可申旨御用席ニ而被仰渡候大年寄ニ申渡ス
一 病犬有之由相聞候間非人共打殺候様可申付候旨大目付中手紙来
ル申渡ス
一 東新町友屋利右衛門安藤勘負殿御家来難波十左衛門銀札壳ノ目
借用家屋敷内々質物入かり受申旨滞候付十郎左衛門方去冬小頭平
太兵衛迄右之趣申聞候依之急度家質と申候而も無之候得共銀借用

無相違旨證文も有之ニ付返済方追而日切申付候処右銀札之内五百
匁當時済残分家屋敷質入ニ而かし置申度旨十左衛門方申越候付一
通ニ而ハ出入ニ取組居申者之屋敷質物書入させ不申候得共相手方方
断有之右之通ニ而出入相済申由事候付利右衛門方願書差出候間右
之訳差詰り願之通承届ル右出入指引相済候旨済口一札差出候尤十
左衛門ハ小頭平兵衛方手紙ニ而承合弥相済候旨申来ル

一 吹屋町鍋屋善左衛門家屋敷表口五間半裏行合巷間西隣吹屋徳左衛
門東舟頭町分ニ而私納屋ニ而御座候右魚町出雲屋□助取次ニ而銀札
百五拾目質物書入当寅八月方来卯ノ三月切借用仕度旨

一 吹屋町釜屋市郎右衛門家屋敷表口五間裏行拾巷間土蔵一ヶ所西隣
ハ私居宅東ハ横町通筋右家京町木綿屋長七取次ニ而銀札四百目書入
当八月方来極月迄借用仕度旨

八月廿四日

八月廿五日

一 小性町西川屋重三郎宿切手出ス勢州日子形屋仁左衛門紺部絹類壳
參候宿仕候旨

八月廿六日

八月廿七日

八月廿八日 御用場有之

一 二階町材木屋市右衛門舟頭町南側家屋敷表口三間六尺裏行六間四
尺五寸御役本役也西隣者高松屋次右衛門東隣者紺屋七右衛門ニ而御
座候右之家屋敷代八百目相極舟頭町今津屋伊右衛門江壳渡申度相
願候旨承届ル本證文出ル

一西新田作人長助願林田上ノ町喜助と申者当寅廿四歲同人母五十歲
家式人私借屋指置申度旨分承合承届ル

八月廿九日

八月晦日

九月朔日

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目付 市村番右衛門

町大年寄月番

齋藤孫右衛門

九月二日

一久世御大官藤本甚助殿御城下通行先弘同心組兩人指出ス町方掃除
之義申付ル無滞被致通行候旨御届申上ル

九月三日 御用場有之

一齋藤十五郎木綿蒔座願書先日御内意申上今日願出ス御用番ニ指上
候追而御指図可有旨

一米相場 御蔵米五拾式匁 朝飯後書付ス

町米 四拾九匁

一米相場 御蔵米五拾目 昼後書付ス

町米 四拾七匁

一大目付所被申聞候町方近辺牛飼申候間侍屋敷前飼不申様可申付旨
依之左之通申渡ス

九月四日

一東新町年寄老人不足ニ付田原屋嘉一郎伺出候間年寄ニ可申付旨申
渡ス五日後之旨申出ル

一二丁目林田屋惣右衛門方九年已前米質物取候出入願出候間米質物
其砌可申出処願延候ニ付不承届候

一舟頭町今津屋伊右衛門田戸屋宗十郎五米買宿屋株讓請主廿年已前
願出候旨願出候世話焼京町阿波屋弥三兵衛申出候旨此者様子相尋
申候様申聞置之

一銀五十目家裏ニ有之藏質入尤敷地ハ無之建物斗出入願出ニ付六十
匁以下之借銀出入不取上旨申渡町内年寄共相談之上筋立可申旨惣
町年寄へ申渡候様申付ル

一括銀札不納者宮脇町福得屋伝右衛門田中屋宇兵衛二階町村元屋惣
兵衛紺屋町灰屋善右衛門右四人へ町内年寄致世話埒明可申候弥不
相納候得ハ年寄共不働筋ニ候間呼出此旨可申渡旨申付ル若不相納
候ハ、奉行所存寄有之候間先埒明可相納旨申渡ス

一町方持牛御堀端并侍屋敷前後惣御藪際其外於町並草飼候者相見候
右之場所ニ而牛飼申間敷候

一御堀土手登り下り致間敷早水之節御堀中へ入候義御停止候間銘々
子共得与申聞相背不申様可申付候

一内山下ニ而松葉かき取折枝なと捨り申間敷候末々借家者へ急度可
申聞候

右之通惣町へ相触ル

九月五日

一米相場 御藏米四拾八匁
町米 四拾五匁

一京町高市屋六郎右衛門船頭町東側ニ而私家屋敷表口四間裏行拾五間
間老尺但御役老軒役也南隣ハ舟本屋權右衛門北者大溝切右家代四百目相極同町作人平藏江壳渡申度旨

一小性町政八家屋敷南側ニ而表口七間半内西方ニ而老間半裏行者拾四間
間半東方六間之裏行と式拾間半但御役老軒役東隣ハ爪生原屋平吉西隣者一解屋伝七御座候右家代百五拾匁相極爪生原屋平吉ハ壳渡申度旨

九月六日

一六日四時御供揃御四方様二宮江被為入候御道筋同町ハ西大番所安岡町
通り之旨申来ル町分掃除申付御先弘差出ヌ暮時過御掃被遊候

一馬持庄助持馬今朝急病相煩相果候旨届出ル

一中ノ町小山屋与三右衛門宿切手播州綱干鍛冶屋惣十郎手代善十郎
經節風壳参宿仕旨

一右同人宿切手播州綱干余陸屋宗五郎八百屋物壳ニ参宿仕候旨

一舟頭町和泉屋伝藏御藏元熊野屋理左衛門江二宮村百姓武左衛門去
丑正月正米百五拾俵延壳代三貫百五拾匁内老貫匁當時受取老貫匁

ハ十一月迄延證文理付理右衛門伝藏方證文取置候残老貫百五拾匁
当分預り兩人方取置申処右之内去三月三百五拾匁相濟残而八百目此月分利八拾匁右之内三百八拾匁九月返濟三百匁ハ元分八拾匁ハ
利分残五百目不足此利十月ハ十二月三拾七匁五分合五百三拾七匁
五分不足元老貫目此利百三十五匁式口合老貫六百七拾式匁五分致

不埒候間訴訟申出大庄屋方町大年寄訴訟相廻シ毎月返濟方申付候
処埒明不申候ニ付理左衛門伝藏口上大年寄承候処去極月右之内七

百目理左衛門方英田權七持参相渡候旨猶殘而九百七拾式匁五分不
足旨尤米調候砌大村屋源右衛門と申者世話仕候弘米川下ニ有之処
理右衛門伝藏相頼候故引請仕證文等指遣候由右銀札之内源右衛門
八百目余引返居申候ニ付源右衛門方出候様被仰付可被下旨願書指

出候得共是ハ内々義武右衛門方ハ理左衛門伝藏方手形相渡置候ニ
付兩人方返濟可申筋追而源右衛門懸り願出可申旨申渡候由ニ候得
共返濟無之無抛右願之趣大庄屋立石五衛門ハ月番斎藤孫右衛門方
断申遣候依之武左衛門方郡代所江訴訟差出候只今迄町在懸合返濟

申付候先格ハ不相聞上付如何と存候得共米代と申舟頭町役人申
合引込居申故不届致方近来町在之出入取上無之扨と申不埒働候者
在之様粗相聞之間内々先役町奉行鈴木喜右衛門江も及内談申候処
右体慥成米代證文等も慥成事ハ遂吟味不申候而ハ下方不メリニ可有

之間品ニ方返濟方申付可然旨及内談候就右七月廿九日大年寄ハ申
渡候来月十六日ニ双方呼出対決申付致方不埒ニ候ハハ急度可申付
間十六日五時罷歸候様右懸合者江可被申渡旨申渡置候然処十六日
ニ日々雨天ニ而吟味取懸り候ハハ其上病人扨も有之九月六日ニ延引

ニ相成今日武右衛門方申出候理右衛門伝藏出入伝藏ト取暖相濟理
右衛門も今少ニ而埒明不申候付理右衛門致方ニより追而濟口御願可
申上旨口上書出し内々算用立方之儀とも申出今少々儀武左衛門願
方余リ我儘成致方被存候ニ付右願書指戻申候尤右銀高之内理左衛
門七百匁伝藏方七百式拾式匁七分五厘相弘申候旨相聞候得ハ銀高

見分相濟居申候故願差戻可然及評儀願書戻々右取計兩役兼役ニ付
兩日記ニ留ル

舟頭町

和泉屋伝藏

熊野屋理左衛門

申渡

一 二宮村武左衛門江可相渡米代滞銀武右衛門訴出候付先達而大年寄

遂吟味候処元来大村屋源右衛門引込銀札有之ニ付源右衛門江指出
候様□出候得共手形證文次方ニ付不承届筋候其上米代利付ニメ相
対借物無相違候段書出候難得其意候町内役人申□米代致割府借受
書上之及不埒候様相聞甚不届ニ付急度遂吟味咎可申付呼出日限等
申渡置候得とも取噺相濟候趣も相聞昨日武左衛門以書付断出候然
処武左衛門心得違於役所返濟方不申付義を申付候様申出内々算用
月申方不埒ニ付右訴訟之趣不取上候乍去其方共是迄致方不届ニ相
聞候間急度可遂詮儀候得共今般取噺大概相濟候趣相聞候間其身指
免候已来右体不埒無之様相慎可申候以上

一 武左衛門へ申渡候在中日記ニ留候間略之候

九月七日

一 大笹東村忠六与申者昨六日詰米御藏納切手林田嶋屋前ニ

〔入落申候旨郡代所へ断出之町方拾ひ候者も有之候ハ、

可申出旨惣町相触可申旨大年寄へ申遣々

十七

大笹村尾伊右衛門

米六俵

吉村□内

寅九月六日

一 山本三右衛門当春名字御免被成候付町内自身番組合之義ニ付立会

ニ罷出候節ハ名代指出申度旨大年寄へ内意申出候由御扶持医師岩
佐孝順並ニ仕候様申付ル尤町内組合難放候自身番組合ニ付罷出候
節ハ名代出し可申候一已へ懸り義ハ名代難成候御内々及指図候

一 大笹東村忠六与申者昨六日詰米御藏切手六俵林田町ニ而落申旨郡
代所へ断出候ニ付惣町へ相触拾候者ハ申出候様ニ申付ル

九月八日 御用場有之

一 佐々木三郎右衛門御用人格被召出御勝手向請込相勤申様被仰付候
旨為知廻状廻ル大目付所ニ而御勝手方相勤候者別段ニ被仰渡有之候
一 桔梗屋庄右衛門郷中払屋ニ申付候旨郡代所ニ而今日申渡ニ付大年寄
ハ申段為知申遣々

九月九日

一 大隅宮祭礼ニ付例年之通同心組四人罷出ル承不申候

九月十日

一 小性町作人助右衛門家屋敷下横町西側ニ而表口三間裏行六間三尺
但御役式歩式厘役北隣ハ濱田屋助三郎南大溝切右家代札三百目相
極船頭町舟大工七兵衛江売渡申度旨本手形出ル

一 式丁目錢屋七郎兵衛願私俸伝七当寅式拾式歳罷成候渡世難義仕候
ニ付当寅ハ来ル亥歳迄十ヶ年大坂堀江巷丁目辰巳屋半兵衛与申者
方へ指遣申度承届ル

一 中ノ町西屋治右衛門願東南条郡高野本郷村友之丞伯父文吾与申者
当廿六歳罷成申候私養子ニ仕度旨在分承合十月四日申付ル

一 豆腐直段先月ハ拾三文ニ商売被仰付由大豆下直罷成候付拾式文ニ

商売仕度旨願書出^ス

老奴式厘 大豆式升

式分五厘 薪代

×老奴式分七厘 拾挺元入

拾式文宛売之老奴七分老厘内老奴式分七厘元入り残而四分四厘
手間代

九月十一日

一大笹村落切手拾い者有之申出候ニ付大年寄へ為知申遣^ス

九月十二日

一 触書出^ス 近来畑之内這り草苺候者有之其上作物盜痛候由粗相聞
候畑溝江這り間敷候相知候ハ、遂詮議急度可申付候及見候ハ、早々
可訴出候打擲致間敷候畑之内草生候事不埒事候 以上
一 盜賊徘徊候旨ニ付町方夜廻り申付貫抜四時頃大門メくわり方往来
候様申度^ス

九月十三日 御用場有之

一 牢舎者四人冷氣向ニ付木綿入調為着申度旨及御沙汰候大目付中へ
申達^ス右之旨小頭調させ候様申渡^ス

一 齋藤十五郎木綿座願義御聞届被成候間願之通可申付旨年数五
ケ年指免可申旨被仰渡之大目付中へ其段申達^ス加判藏合孫左衛門
呼出シ申渡^ス

木綿座願之通申付候年数五ケ年間御免被成候左様相心得可申候
旨申渡^ス請書一札申付^ル

今般御領分線綿延私方売渡候様仕度奉願当寅る来午歳迄五ケ年

間被仰付難有奉存候然上者莚差支無御座候様調置直段老枚ニ付老
奴宛相極売渡可申候尤燒印仕可申候右印無御座候莚儀一切売買不
仕并川下ケ不仕候様被仰付可被下候綿端物儀ニ不仕分杵ニ而懸売仕
候義私方□無御座候右之通被仰付外ニ故障義無御座候方一差支之
儀も御座候ハ、何時ニ而御差凶次第ニ相止可申候右年数相濟候ハ、
其節御断可申上候為後日御請一札仍而如件

年号月日 齋藤十五郎

九月十四日

一町在触書

今般操綿儀莚売所齋藤十五郎江申付候依之十五郎方焼印無之莚
ニ而綿儀致間敷候右印無之候ハ、舟積陸路杯出差留候惣而町在
において印無之儀売買致間敷候尤預り置候義も無用ニ候惣町且
又古綿所杯之者相断焼印請候様可申渡候右之趣惣町中人念可相
触候別而操屋共へ入念可被申渡候以上

九月十五日

九月十五日

一 於直様於秀様川向長法寺へ御出被遊候蘭田町御先弘差出候
一 安岡町久米屋勘八持牛相煩落申候付取捨候義願出承届^ル

九月十六日

一 明十七日久世御代官川筋通行ニ付川通町方為相知候様申大年寄へ
申達^ス

九月十七日

一 久世御代官藤本甚助殿川筋乗舟下り可申ニ付御先弘例之通差出^ス

九月十八日 御用所有之

一宮脇町貫抜痛申旨以書付断出候御作夏見分御座候様大目付所へ申達ス

一桶屋町大坂屋仁左衛門借屋作人与市平内三人林田上町新六借屋へ引越申度旨在分承合十月四日ニ申付ル

一はた商儀停止触書出ス

はた商之儀兼而停止ニ申付候処近来不慎者在之由相聞候米木綿不及申其外何ニ而も手札商致間敷候他他領罷越候ハ、猶以相慎可申候右猶相背候者ハ答可申付候以上

九月十九日

一徳守祭礼ニ付昨昼ノ例之通警固組者差出候無滞相済平組四人小頭出ル大目付所手紙ニ而届ル

九月廿日

一久世御代官藤本甚助殿御城下通行ニ付御先弘同心組指出ス町分掃除申付ル

一元魚町海老屋長右衛門宿切手京四条通烏丸東江入町ニ文字屋清兵衛手代治兵衛嘉七例年通具服并扇子おろし売昨日参宿仕候旨

九月廿一日

九月廿二日

一錢相場老奴ニ六拾九文立替申旨大年寄申来ル

九月廿三日 御用場有之

一町方御用括札今日迄銀札場差出相済申候旨銀札場奉行中ノ為知手紙来ル

九月廿四日

一於直様杉山被為入候京橋御門ノカち場迄間御先弘差出候暮時被遊御帰候

一二丁目林田屋惣右衛門訴訟申出候東新町福嶋屋多兵衛去ル午藏取替銀元壹貫八百五拾匁此利式貫四百六拾七匁七分五厘合四貫三百拾九匁七分五厘滞銀返濟方願出ル右福嶋屋呼出返濟申付候様申渡ス

一小性町作人利助南側家屋敷表式間裏行拾五間去ル子閏十一月米屋忠右衛門取次銀札式百目借用仕候処此度元利返濟相済申候旨断書出ス古證文戻ス

九月廿五日

一玉置忠兵衛備中早嶋油屋惣左衛門方へ病人有之ニ付急罷越申度旨差遣候事故承届ル

一米相場 御蔵米五拾目 書付出ス
町米 四拾七匁

九月廿六日

九月廿七日

一誕生寺ニおいて来月廿三日鑄いたし候東西橋江建札致度旨大年寄迄頼出候由申出候ニ付御用席へ申上ル建候様申渡ス

九月廿八日 御用場有之

一玉置忠兵衛備中早嶋江罷越申度旨相頼差懸り候儀一昨廿六日遣候旨及御沙汰候大目付所申達ス

大阪御役人中ノ昨夜書状致来摂州御代官内藤十右衛門殿支配所東

成郡田代村と申所ニ而作州津山田原屋平兵衛ヲ申者行倒病死趣其所庄屋方届来候旨尤非人同前体おいたるニ作州津山と有之由申旨其所法式ニ勝手次第取計可然旨申聞追而親類有之候ハ、田代村へ罷越葬方見届可申旨申聞候申来候間御席及沙汰候大目付中へ申達ス町方吟味申付置候追而御便次第ニ返書可遣事

一 上紺屋町美波屋忠次用事付備前へ罷越申度旨申往来廿日斗逗留願出ス

九月廿九日

一 林田村ニ而召捕郡代所ニ而詮儀及白状候盗人仁三郎年十九歳今日入牢申付候御用番大目付所へ御届申上ル

九月晦日

一 小性町作人利助家敷南側ニ而表口式間裏行拾五間大溝切但御役四歩役也東隣ハ米屋伝兵衛西隣ハ田原屋太兵衛ニ而御座候右家代札式百目相極船頭町作人鉄五郎江壳渡申度旨承届ル本證文出ル

一 船頭町北側作人多五郎家屋敷表口三間老尺五寸裏行三間六寸但御役老軒役東隣舟頭五郎七西隣ハ作人佐治兵衛ニ而御座候右家代銀札三拾五匁相極同町船頭八兵衛江壳渡申度旨承届ル

一 林田町山本三右衛門願出候私方善五郎并妻子四人東北条郡小中原村私出店引越せ申度奉願候町内人別御差除可被下旨承届ル

一 坪井町桔梗屋忠左衛門宿切手紀州高野山寿生院使僧快尊と申僧上卜式人例年通目那廻り罷越宿仕度旨

一 船頭町熊野屋理右衛門大村屋源右衛門書付指出候先達而家質受取候様被仰付候処源右衛門相頼申付質物相改差延遣可申旨三月廿八

日ニ御断申上置候然処請返手段難斗御座候間家相渡申度旨双方連名書付出ス勝手次第ニ受取渡様申渡ス

米廿四俵ニ銀百目分ニ
表口四間裏行五間半所相渡質入

十月朔日

御用番

大目付 鈴木喜右衛門

町大年寄月番

藏合孫右衛門

一 米相場 御藏米四拾九匁
町米 四拾六匁

十月二日

十月三日 御用場有之

一 拙者不快ニ付不罷出候断申上ル

一 美濃職人町三好屋三郎兵衛新職人町高角屋八十吉只今迄預有有候(ママ)

二 階町倉屋源右衛門古道具取売ニ仲間共相談之上ヲ以今般私江相讓申度由ニ付相勤申度奉存候左候得ハ請人美濃職人町家持恵比須屋長兵衛相立御作法相守リ商売仕可申候願出ル仲間遂吟味候旨申付ル以上

十月四日

十月五日

十月五日

一 玉置忠兵衛備中早嶋が昨夜罷帰ル旨月番蔵合より申上ル

十月九日

一米相場 御蔵米五拾匁五分
町米 四拾七匁五分

一米相場 御蔵米五拾匁五分
町米 四拾八匁五分

一 林田町錢屋平兵衛撰州東成郡田代村内藤十右衛門殿御代官所ニ而

一同心組并牢番江申渡候覺

行倒相果候旨大坂御蔵屋敷江届来申来候間遂吟味候処弥林田町者

町在出入訴訟義ニ付訴人より内證申共取次被申聞數候

ニ而六月頃西国巡礼罷出申出無相違伊兵衛与申者二階町別宅ニ罷
在候旨申出候右田代村へ罷越一札ヲも申候様ニ申付候処病身者申

業術之儀無懈怠可弘止事御用相達不申候ハ、番代可申付事
右之通小頭部屋目付へ申渡ス

間快氣御罷越申様に申渡ス右之趣大坂御役人中へ返書委細申遣ス

十月六日

十月十日

十月七日

十月十一日

十月八日 御用場有之

十月十二日

一 町在出入訴訟断出候月より三ヶ月迄取喰弥不相濟分ハ三ヶ月ヲ限奉

十月十三日 御用場有之

行所ニ指出可申旨申渡度段御用席申上ル大年寄へ申渡

一元魚町江嶋屋市右衛門断出候就用事大坂疊屋町紀伊国屋喜兵衛方

出入訴訟願三ヶ月限ニ奉行所江可申出候久々ニ罷成候而ハ下方難義

へ参申度旨

筋ニも存候且又願書ニ日付為致出可申候先年先役より申達候処近来

一 小性町田戸屋宗十郎宿切手紀州大田郡箕嶋浦椀屋五兵衛権吉勘兵

日付無之旨日付致出申候

衛善右衛門以上三人椀折敷おろし売昨日参宿仕候旨

一 東新町福嶋屋文右衛門私忰幾之丞本多左門殿江出入奉公ニ仕在申

十月十四日

度奉存候服部幾之丞と改名仕旨承届ル

一 東新町世里屋市郎兵衛江押入下村平兵衛より去ル亥十一月種屋善四

一 京町若松屋善左衛門私母儀五年已前戊十月大坂今橋巷丁目山本三

郎取次ニ而銀札老貫五百目家屋敷質入北側表口六間裏行拾七間土

四郎方へ罷越逗留仕其已後年御願申上候只今会所町仲山本治兵衛

蔵老ケ所書入組合年寄印形ニ而右分預申度子蔵利分相濟丑蔵利分

方へ滞留仕度旨申越候来卯秋迄逗留仕度旨奉願候

与元利相滞相濟不申旨訴訟郡代所江差出相廻り候付大年寄呼出返

一 東新町徳右衛門後家茶屋五郎兵衛罷在候処此度林田上町乙右衛門

濟申付ル三十日切ニ申付ル尤先達大庄屋より大年寄江訴訟相廻シ返濟

借屋へ引越申上度奉存候旨

申付候得埒明不申旨ニ候間日切急申付ル来月十五日切ニ申度ス

一吹屋町金屋新右衛門爪生原屋七郎左衛門断出候久米南条郡誕生寺
撞鐘請合申候来十五日罷越職人十人召連十日斗逗留仕度旨申出ル

十月十五日

一米相場 御藏米五拾匁五分
町米 四拾七匁五分

一中ノ町三室屋宇左衛門借屋罷在候勘六家内三人林田上町嘉兵衛借
屋へ引越申度旨分承合人別除

一舟頭町今津屋伊右衛門宿切手播州古宮浦平吉文治郎新五郎撰州阿
〔〕浦平五郎平三郎右五人米買罷越宿仕度旨

十月十六日

一舟頭町田原屋六兵衛宿切手讃州高松喜兵衛播州古宮村善八郎右両
人米売罷越宿仕度旨

一牢番中間伝吉儀病身ニ付番代入申度旨小頭平太兵衛申出候趣申聞
候間代り治兵衛入候様内談相極候旨勝手次第可致旨申渡ス尤御仲
間頭ニ而遂吟味弥被召抱候筈ニ小頭右部屋頭へ及文通事

十月十八日

御用場有之

一茅町打穴屋庄右衛門借屋九郎右衛門去ル六月ニ致欠落候尋申付置
候処相見不申付人別差除申度旨申出ル御用席へ申上ル大目付所方
達願之通人別可除旨申渡ス諸道具少々有之故闕所申付ル

一茅町北側本屋清六家屋敷表口式間裏行六間但シ御役老歩七厘役也
東隣作人七郎右衛門西隣へ私家ニ而御座候代銀札百目相極新魚町
作人勘兵衛売渡申度旨承届ル

十月十九日

十月廿日

一京町塩屋新兵衛宿切手大坂錢屋七郎右衛門手代兵助懸銀取参宿仕
候旨

一米相場 五拾匁五分
四拾八匁五分

十月廿一日

十月廿二日

十月廿三日

御用場有之

一虚無僧取計役三角良甫本則名外形只今相勤候処病身罷成申候付役
免願差出候先達而御用所内意申上候大年寄并郡代所大庄屋等江及
相談今般林田村香山嘉市右跡役相望候旨町在申合入用等被可申筈
大年寄大庄屋へ申合候明廿四日出立京都妙暗寺へ罷登候大年寄三
人右番僧快明寿日兩人江添状取計役申付度旨頼出ス良甫右も書状
差出嘉市本則之義申遣ス

十月廿四日

一正木屋八右衛門家守材木町宇助宿切手出ス紀州高野山宝蓮院使僧
円徳房与申僧上下三人例年通旦那廻り昨日参宿仕候旨

一二階町堺屋伊右衛門宿切手江州多賀成然院使僧勝寿院同天乘房上
下二人例年之通旦那廻り昨日参宿仕候旨

十月廿五日

一戸川町重屋忠六三丁目家屋敷浜野屋文五郎江質入置返滞申付筋
立様願書出ス銀方三貫目右返済共家屋敷相渡候共筋立可申旨大年
寄右申渡候

一舟頭町田原屋六兵衛断出候長岡舟頭共申合私落物一切舟積不申ニ付詮儀仕候吟味被仰付可被下旨以書付申出候間川下長岡舟煎呼出御藏元兩人及対談双方和順無滞様舟積可申旨聞候様ニと申渡候若又六兵衛不埒筋も候ハ、急度可申付事無左候得ハ長岡舟持共一統申合我儘致方不埒存六兵衛老人江対候事ニ候得とも城下先事一統事候得ハ、弥舟積不申義候得ハ、惣舟頭共願筋も候間品江川下舟頭共も難義筋出来可申候乃井野表へ申遣義も可有之旨申聞候而内々ニ而事済只今迄無滞様可申合旨申聞ル

一米相場 御藏米五拾壹匁
町米 四拾八匁

十月廿六日

一舟頭町今津屋伊右衛門阿州板之郡永富村重藏手代宮嶋村太七郎町手代川端村清兵衛右兩人例年通藍玉売昨日參宿仕候旨

一京町鍵屋与平治宿切手大阪墨屋町和泉屋伊兵衛なんまん鉄おろし売昨日參宿仕候旨

十月廿七日

一米相場 御藏米五拾目五分
町米 四拾七匁五分

十月廿八日 御用場有之

一式丁目錢屋七郎兵衛梓伝七大阪江奉公罷越候処今度罷帰候旨届書出ス

一船頭町豊屋半之丞願出候宮脇町西田屋勘右衛門所持仕候旗籠屋株之儀此度私借請申度奉存候寅才江午歳迄五か年間右商売仕申度候

双方勝手義ニ御座候間奉願旨承届候

是橋本町豊屋源治先年不届有之付株取上候今度弟半之丞舟頭町へ罷出願出候間吟味申上承届ル

一京町今出屋半兵衛宿切手阿州名西部桑嶋村武右衛門手代与一兵衛源兵衛例年之通藍玉売參宿仕候旨

一右同人宿切手阿州板野郡中富村兵助手代平兵衛藍玉売參宿仕候旨
一右同人阿州名西部桑嶋村政右衛門茂三郎藍玉売參候宿」

十月廿七日

一諸月番出仕可致之旨大目付中廻状於留り間御用番伊達与兵衛殿被仰渡候

先達而相達候通御勝手至而御難波ニ付無拗諸向立方相改取計候様被仰付依之御家中只今迄被下候月渡米暫引上ケ此後扶持方可被下候割合之儀者演說相達候通ニ候時節柄之義候間一統随分令艱難如何共被統奉公可相勤候

右之趣同役同列可相達候

大目付月番鈴木喜右衛門演說

一向後百石高五人扶持被下候然共兼々困窮之面々扶持方斗ニ而者可致難儀ニ付月々割合ヲ以足米被下候右之通被仰付候ニ付借米等有之面々可致難儀ニ付勘定奉行御藏奉行請合ヲ以貸渡候借米今般御返済被下候此已後右両役請人ニ借物之義決而有之間數候兼而其旨可有存候

一吹屋町沢屋惣右衛門阿州板野郡鶴崎村平兵衛藍玉売參宿仕候旨
一惣小間物屋願有之

一旗人宿屋株人数帳面相改差出候様申付今日指出ヌ御用算筭へ入置候

一小間物屋共願左之通

一私共儀数年紺布小間物等商売仕渡世相統仕候然処近年者時節柄悪敷不商ニ御座候而銘柄々渡世難儀仕罷在候且又近来他国商人共諸色小売仕候付弥以私共手前不商ニ罷成甚迷惑仕候ニ付乍恐奉願上候何卒先年被為仰付通猶又今般被為仰下候者万端諸「宜罷成可申奉存候御憐愍之上願上奉通被為聞召候ハ、難有之旨願出候間先日已來遂吟吟左之通申渡

書付

一惣小間物屋其他国商人之儀ニ付願書差出候去ル午歳申渡候通当町小間物屋諸商物下直ニ無之其上入用之品も調不置不自由ニ付無抛他所持參致し候物等調候義候間自今商物高直ニ無之左品不埒無之物商致し候様可相心得「問物屋株相究候儀無之故急度「義難相成筋併先年小間物屋共相願古手屋并宿屋被仰渡候処猥ニ相聞候ニ付今般又々申渡候間小間物屋右之趣相心得諸色無指支下直ニ商売致候様堅可相守候以上

覚

一古手屋ニ而呉服新物巻物反物売候義停止候

一他所方參候商人共おろし売与相究候分ハ御当地夫々之商人之所へおろし売ニ致外ニ而小売致間敷候

一他所方參候諸商売奉行所へ何「書付差出置候商物者格別其外断無之物持參商売致間敷候右之通古手屋并宿屋共へ先年も申渡候処

近来猥ニ相聞候間前段通堅相守可申候尤他所方參商人ハ其旨急度可申聞若忍ひ商売候ハ、其宿屋越度可申付之尤株無之他所商人入込商売致し候義停止候間宿屋其旨可相心得候右之趣小間物屋古手屋へ可申渡候以上

十月廿九日

一福渡町但馬人忠「作人七郎兵衛家内三人江口庄左衛門長屋へ引越申度旨

十月晦日

一舟頭町今岡屋浅右衛門宿切手出ヌ阿州板野郡成瀬村曾右衛門藍玉売ニ昨日參宿仕候旨

一米相場 御藏米五拾壹匁
町米 四拾八匁

十一月朔日

御用番 佐久間兵右衛門殿

大目付 渡部惣馬

町大年寄月番

玉置忠兵衛

一御吉亥日例之通御出席有之罷出ル御祝義頂載裏附上下着用出ル大目付所へ御祝義御礼申達ヌ

一米相場十月十五日「月迄日々相場久世御代官所乃并野預役所と頼來候付今日仕來則先方飛脚へ差遣ヌ尤拙者奥印有之

十一月二日

一米相場平均書付西川大久保出羽守殿代官中頼来候付明日飛脚ニ申
付指遣ス奥書ハ無之四日返書来ル

一米相場 御蔵米五拾貳匁
町米四拾九匁

十一月三日

十一月四日

一米相場 御蔵米五拾三匁五分
町米 五拾匁五分

十一月五日

一坪井町高崎屋万助安岡町坪屋多吉所持仕候他国請酒株当寅歳午歳
迄五年間私借用仕商売仕度旨承届ル

十一月六日

一上使御鷹鷹御拝領被成候付御祝御帳付ク諸仕御用場出仕内山下相
勤ル

一米相場 御蔵米 五拾〇匁
町米 五拾〇匁

一來ル十一日知円院様三十三廻御忌於泰安寺一夜別夏御法事有之候
旨為御如廻状来ル

一御法夏付十日夜〆十一日町方自身番可申付旨御伺申上ル町方触書
差出ス

一 大年寄共参拜之儀申出候間御用席窺相濟参拜被仰付候

一 座頭共御布施頂載仕度旨申出伺相濟下旨被仰渡候

一 円宗寺村落切手町方へ昨日相触候

沓俵定納

五五

円宗寺

十一月四日

田中伝治

北嶋伝八

一 京町塩屋新兵衛宿切手雲州杆築大社久太夫上下式人旦那廻り参宿
仕候旨

一 同人勢州朝熊岳明王院使僧休賀坊悦忠坊宝蔵坊上下六人旦那廻り
参宿仕候旨

一 先達而從 公儀御尋者之儀猶又今般被仰出候ニ付惣町遂吟味申処
少茂心懸り之義無御座候段大庄屋共證文指出手前取置申候此已後

万一疑敷儀有之候ハ、早速可申上候以上
宝曆八戌寅年十一月八日井上弥三兵衛印

大御目付中

一 前文同断御預之書役足輕下代足輕遂吟味候処少茂心懸り之義無御
座候此已後万一疑敷儀有之申出候ハ、早速可申上候以上

年号月日

一 自分證文考通指指出ス

一 大年寄共御尋之者心懸り之儀無之旨一札差出ス惣町遂吟味候趣一
札指指出ス同心組三軒家牢番共一札指指出ス一所ニ袋ニ入有之候

十一月七日

一 元魚町西側ニ而式丁目江通筋北側ニ而私家屋敷表口三間裏行拾間御
役老歩八厘東隣者河内屋安兵衛西者式丁目堺ニ而御座候右家屋敷代

六百目相極同町河内屋安兵衛へ壳渡申度奉存候旨申候

一 林田勝間田土手下目付小頭安井左助元屋敷御払地町分ニ相成候ニ付河内屋安兵衛相調候ニ付代米七俵半勝間田町へ相納大年寄^右指
出候間受取勘定奉行中へ為持遣^ス受取来下方へ相渡^ス

十一月八日 御出席無之

一 大目附廻状江戸表^右御飛脚到来去月廿九日御老中御連名封御奉書御到来御預^ケ之者有之間御人数被差出候様申来早刻御人数被差出候由左之通被仰渡候

本多長門守殿

領地被召放永々御預^ケ

右之趣於評定所被仰渡無滯御屋敷へ引取候旨申来候為御知有

之大年寄へ右之段書付申達候惣町へ先格為知不申候由

一 小性町土橋破損仕往来難儀ニ相見候付注進書出^ス重而御用日御用場可へ申上候

一 二階町鳥屋左助断出ル当月十三日矢田村ニおいて氏宮為建立万人講御座候付私義世話仕呉候様庄屋茂八^右頼来候旨罷越申度旨遂吟味申処講元申^ニ而茂無之由村承届^ル

十一月九日

十一月十日

一 智円院様三十三廻御忌於泰安寺今日^右明日一夜別時御法夏有之例之通同心組兩人今町橋詰へ差出^ス丁方自身番申付^ル

十一月十一日

一 大年寄三人御位牌前拜礼奉願例年通罷出^ル

一 同心組橋詰へ差出^ス無滯御法事相済

一座頭共御布施被下小頭部屋目付罷出相渡^ス銀高六百九拾八匁式分五厘役料筆墨共ニ人数式百廿四人

一 虚無僧林田村香山秀山嘉市京都江登り本則并取計役願通被免昨夜罷帰候大年寄^右添状遣之返書来^ル左之通

向後在町虚無僧之義ニ付用事候得^ハ大庄屋大年寄亦^ハ村庄屋町々年寄直ニ嘉市へ可被申遣候虚無僧諸入用之義^ハ在町何方^右出申様大年寄大庄屋へ申^上候嘉市身分ニ付候願事^ハ大庄屋へ可申出候取計ニ付御用事^ハ其所支配へ可申聞候旨申定置候番僧宿海老屋長右衛門ニ候間番僧參候^ハ大年寄案内仕可申候

嘉市本則名吟龍と申候

十一月十二日

十一月十三日 御用場有之

一 虚無僧執斗役三角良甫願之通役義差免跡役林田村嘉市へ申付候旨御用席へ申上^ル大目付所申達之

一 鍛冶町から屋伝左衛門同町七郎兵衛後家方へ悴儀右衛門養子契約候義間違候旨訴訟申出^ル右吟味申付候今日忠兵衛參申出^ス再吟味口書等申付^ル

一 茅町打穴屋庄右衛門借屋九郎右衛門欠落諸道具売払差出候拾七匁六分七匁六分七毛両口合拾九匁式分七厘書付相添大年寄^右相納受取置候御用たんす入置之

十一月十四日

十一月十五日

一米相場 御蔵米五拾六匁 書付出ス
町米 五拾三匁

十一月十六日

一 ねち梓屋坪井町吉右衛門堺町藤吉願出候趣他領らねちわく細工人罷越候ニ付先年御停止被仰付被下候山北村へ清左衛門と申者罷越居申候而町方操屋共梓取寄申候付難儀仕旨願書差出候依之直段杯遂吟味申候処梓老挺老匁三分宛ふち替ハ八分宛其外少々義ハ賃銀取不申由書付出し牢屋普請御仕置者道具杯致候事故他領梓細工商入込不申様ニ可申付筋と相見申候ニ付郡代所へ申談山北村遂吟味候処先達而山北村へ引請候梓細工いたし候者播州加古川人別之者ニ而願上候紛敷間違筋故急度差置不申様郡代所と申付旨依之町方梓屋願筋不及評儀候間願書差戻ス

一 勝北郡久常村円心と申廻国送り者在分来候ニ付町方送り林田村へ相渡候

十一月十一日

一 安岡町鳥取屋利兵衛願暮田村忠助と申者由緒御座候付私方へ引請渡世仕せ度奉存候忠助四拾六歳梓三助拾九歳家内式人ニ御座候在分承合廿七日申付ル

十一月十八日

御用場有之

一座頭共御吉凶被下物之儀勘定奉行平野丹下申聞候者年々不同故御積リニも悪敷候何卒老年何程と相定是迄平均而考遣度旨就相談御用所へ右訳申上去ル十一日他領他国座頭智円院様御法事御布施頂載罷出候ニ付以配當場保城意内談申聞双方勝手筋ニも罷成候ハ

老ケ年ニ老度銀札老ケ五百目可遣候左様候得共如何様吉凶不時成義有之此外一切遣不申候来卯歳未歳迄五ヶ年年切左様取計可遣哉と申聞何茂勝手罷成間左様被成可被下旨書付指出ス

此度以御書付被為仰付通寄組頭組子共一同ニ御請申上候此儀者印形仕来卯歳未ノ歳迄五ヶ年間一ヶ年ニ銀札老貫五百目宛頭載仕候上者右五ヶ年之間者御吉凶不時成義御座候共又者右御公儀之義ニ而も罷出不申候右年数相済申候ハ前之通御戻し可被下候為其如此御座候以上

座頭組頭西北条勝南勝北吉野英田西々条久米北条大庭真嶋久米南条備中水田備前金川加茂上市佐伯和氣播州佐用駅右面々頭分印形書付并配當場添書付ヲ以承知之旨申出候旨今日御用所申上候者拾ヶ年此方年々平均勘定奉行中相考申所老ケ年式ノ四百七拾目余ニ相当申旨今般物座当へ老ケ五百目ニ仕切配當場役料諸入用式百目都合老ケ七百目年々遣候積勘定奉行相談仕相極申候与申上ル尤大目付所へ申達候五ヶ年相済申候得ハ前々通戻可申候配當場へ困窮者共手当旁右之通申達取計遣候五ヶ年相済候へ前之通役料拾匁宛筆墨代拾匁都合三拾匁吉凶被下物度毎ニ遣候古格致来候尤配當場と證文取置候事

銀札老ケ五百目 惣座頭へ被下物

式百目 配當場兩人へ役料筆墨并手当旁遣候

都合老ケ七百目勘定奉行中定メ

一米相場 御蔵米五拾五匁

町米 五拾式匁

一勝間田町山形屋喜兵衛宿切手播州姫路和泉孫兵衛小間物おろし売
同加藤郡形屋与兵衛同国綱干新在家村えひす屋甚次郎鯉節おろし
売参候旨

一京町類族伊右衛門当寅八拾老歳罷成候処久々病氣今未ノ上刻病死
仕旨届出ル御用番大目付中へ手紙ニ而一通り届委細ハ宗旨奉行可被
申上旨申遣ス検使御使番永井甚太夫宗旨奉行伊達今右衛門改相济
小中原村成奥寺へ火葬仕之旨十九日申出ル家主京町加茂屋和六
届書出ル

一舟頭町和泉屋清助宿切手紀州熊野尾鷲浦清右衛門播州余部村四郎
右衛門米買罷成宿仕候旨

十一月十九日

一魚町伊勢屋長右衛門去ル六月廿三日被訴訟差出新魚町入江屋
市右衛門綿代滞銀出入七百匁内百匁丑春百匁同暮式百匁寅暮式百
匁卯暮式百匁都合七百匁年賦證文相添出ス六月大年寄齋藤孫右衛
門「反济申付置候処以今相济不申旨依之十二月中相济可申若不
埒候得ハ急度可申付旨申渡ス

一虚無僧宿遂吟味申処海老屋長右衛門定宿若故障之節ハ旗籠屋肥後
屋山家屋へ申付度旨去戌六月鈴木喜右衛門町奉行承届置候旨ニ付
右之通間數無之様申付ル

十一月廿日

一京町鍵屋与平治宿切手奈良今井岡嶋忠兵衛手代源助墨筆売昨日参
宿仕候旨

一坪井町桔梗屋忠左衛門出雲大社中官西村神太夫仁師上下五人旦那

廻り参宿仕候旨

一元魚町糺屋平七断書出ス悴宗兵衛儀去ル廿七日罷帰不申行方相知
不申旨随分尋申候様ニと申渡ス

一中ノ町住屋甚七願私悴茂七儀去丑六月ニ不斗罷出候処方々相尋候
得共相知不申ニ付其砌御断申上候只今ニ而近在ニ罷帰居申候私共老
衰仕候儀承何卒罷帰養育仕度由申越候得共最早年月相達罷在候故
恐入奉存候右茂七義町内其外何之子細も無御座候此度差辰申度奉
願候旨右遂吟味申処去六月逐電断出候付尋申付置候処百日過候而
断も不申出候是迄捨置候惣体欠落者之義不届筋ニ候久々罷帰不申
巷ケ年余も罷成住居願申出候者欠落者罷帰事不易存候様罷成候
不ズリ存候付帰住之義難承届旨人別除書付指出候も又ハ尋出候趣
ニ候ハ、遂詮義急度答可申付候旨申聞願書戻ス

十一月廿二日

十一月廿三日 御用場有之

一米相場 御蔵米五拾六匁
町米 五拾三匁

一久世御代官所廻米廿四日川下之旨町人足出申様大年寄申遣ス

十一月廿四日

十一月廿五日

十一月廿六日

一元魚町いせ屋長右衛門新魚町入江屋市右衛門綿代滞銀七百匁内
百匁丑歳相济六百匁丑春「式百匁宛寅春暮辰春暮迄返济約束候
処寅春分」相济約束通可申旨申渡ス

訴訟ハ大年寄方ヘ有之候

一 京町鍵屋与平治宿切手大坂北浜葉守屋新右衛門手代源兵衛木綿染地類おろし壳参宿仕候旨

一 橋本町機嶋屋長十郎弟忠助義備前片上紺屋長左兵衛門方先達奉願出候所不縁ニ而罷帰旨町内人別御差入可被下旨願承届ル

一 二丁目黒田屋定八母断出候俸定八義京都押小路大黒市兵衛方ヘ奉公差遣置候処相煩相果申候旨申越候旨断出ル

十一月廿七日

一 雲州志戸根郡稻積村与二右衛門与申舟頭之由播州加古川方足病歩

行難叶送り出候旨吉田村方送り来河辺林田村方町分受取無滞新田村ヘ相渡候旨

一 二階町鳥屋佐助宿切手出山城愛宕山長床坊使僧坪倉賞意与申僧上下三人例之通且那廻り参宿仕候旨

十一月廿八日 御用場有之

一 銭相場六拾八匁通用立替候大年寄申来ル

一 鍛冶町から伝左衛門俸儀右衛門同町から七郎兵衛母方ヘ養子ニ遣候約束申出違変申候ニ付町内江も先達案内申外評難立之旨申訴訟差出候間双方吟味大年寄方ニ而致候処無證據ニ付今日左之通大年寄玉置忠兵衛於宅小頭立会為申渡候

鍛冶伝左衛門申渡

一 俸儀右衛門町内七郎兵衛母養子可遣契約致候処違変外評難立旨断出候付七郎兵衛母并安岡町平左衛門夫婦遂吟味候処双方申候致相違分元来縁組之儀仲人を以可相極義ニ候処無其儀婦人相对ニ而候

段其方不念ニ至候平左衛門外ニ罷越候趣ニ而ハ熟談候様被存候ヘ共祖母不相極之旨申之證據無之義殊更婦人事候得ハ難及詮義候右躰無證據候義向後申出問敷候母吉右衛門指置候段不埒ニ付近日被差出候様申渡候右之通争論ニ及候上ハ義右衛門養子之義不及差戻候以上

月 日

鍛冶七郎兵衛母江申渡

一 町内伝左衛門俸其方養子契約致し候処違変町内申訳無之旨伝左衛門方願出候遂吟味候処安岡町米谷平左衛門宅一度罷越及相談候得共急度賞請申候様ニハ難致兄伊兵衛留主只今難相極申之借銀之義ハ御世話と申置候義養子約楮^(カネ)ニ逃事と伝左衛門存候哉と申之出依之平右衛門并妻遂吟味候処六月上旬益前一度十七八日ニ一度廿六日ニ一度双方出会及相談尤決定之義者無之様ニ申候得者平左衛門義其方名代して岡田伝内方ヘ罷越於私宅養子具約束致候得共只今ニ而祖母不承知候様申氣毒ニ存候旨及扶挨拶趣且又鍛冶左衛門甚兵衛方ヘ罷越及挨拶候趣兩人申之候平左衛門宅度々出会候義を一度之外無之旨為り候段不届ニ候急度可遂詮義候得共婦人之義以憐愍令用捨候向後右体之不埒有之候ハハ急度可申付候先達借銀訴状差出候節申渡候通家屋敷売払并質物置候義不相成候追而家屋敷役所ヘ取上可申候併相応之相統人も有之借物等引請取計候筋ニ候ハハ願可出候其節家屋敷義可及差戻候且又其方宅吉右衛門と申者同居致罷在候段申出候家相統者ニ候ハハ借物等筋立可申出候其儀無之養子ニも不相聞紛敷者差置候段不埒至ニ候近日之内急度差出可

申候以上

月 日

十一月廿九日

一京町東町西新町類族之者無異儀罷在候旨書付差出候

一新魚町林田屋治右衛門願出候元魚町伊丹屋利左衛門所持仕候他国

請酒株当寅歳^〆已歳迄四年間借用商売仕度旨承届^ル

一三丁目福永屋藤十郎願出候田辺村土居六郎右衛門弟儀三郎私養子

ニ貫申度旨^〆在分^〆願^〆付承届^ル

一種^〆粗質物^〆取之指免之願書出^ス

十二月朔日

御用番 伊達与兵衛殿

大月附 市村番右衛門

町大年寄月番

斎藤孫右衛門

十二月二日

一二宮村喜平治落切手致候旨^〆付町方^〆相触候様大年寄^〆申遣候拾

候者有之早速^〆可申出之旨申遣^ス

米岩俵寅納

三十五

二宮

寅十二月廿九日 大瀧理左衛門

卯正月切 平尾勘助

一林木町河内屋藤三郎宿切手出^ス阿州名西郡高原村直兵衛手代栄治

郎幸次郎上下三人藍玉売参候旨

十二月二日

十二月三日 御用場有之

一昨夜五時小性町菊屋清右衛門借屋八兵衛後家宅^〆少々ふとん江

燃付出火申候町々勤申候得共早速静り申候旨申出^ル御用所^〆及御

沙汰候呵置可申旨申上^ル

一西九町^〆願出候種^〆粗^〆三斗以下質物取申候儀例年通御免被仰付度旨

願出候間御用席江申上御聞届吟味次方被仰付候大目付中^〆申達^ス

尤勘定所^〆先達及相談置申候事右大年寄^〆申渡^ス

一田邑触百姓五人今日郡代所^〆入牢

下田邑川東 上田邑平田村

平七 長兵衛

同村 伝藏 同見内村 新平

同 東村 与六

ノ五人賄村方致之候

百姓牢^〆入^ル

十二月四日

十二月五日

一本多長門殿来^ル九日御着^〆付惣町^〆相触候

先達御預本多長門守殿從江戸表御引取来九日着候間東新町^〆二

階迄掃除可申付候

一当日町々自身番申付火之用心入念可申候

一御通之物御見物^〆罷出候儀堅仕間敷見世店見渡り候場所罷在間

敷候常ニ有来廉其通り新簾懸ケ申間敷候

一横町上へ下へ人留組頭保頭召連罷出決而見物者差置申間敷候

右之通御通筋惣町へ入念可被申渡候以上

十二月五日

一元魚町大庭屋万助私娘きち大庭郡久世松嶋屋吉五郎方へ養女貫申
指出申度旨町内人別除之

一林田町作人多助私義当寅四拾七歳悴丹治儀十八歳比度京都九條様
御家佐々木右京殿父子式人奉公可被抱候ニ付罷越申度町内人別御
差除被下旨承届ル是ハ五年切ニ願出候得共人別除候様申聞之追而罷
帰候節願候得ハ人別ニ入可遣事

十二月六日

一今般御預本多長門殿去月十九日江戸表御発駕来九日津山着之積候

一長門殿義ニ付此已後不寄何事批判雜談等堅致間敷事

一諸事相慎火元別而入念可申事

一御着節為見物罷出候儀堅有之間敷候事

右之趣下々至迄急度相慎候様可申聞候若違背候ハ、可為越度旨候
申候 大目付

十二月七日 御用場有之

一伏見町帶屋孫七借屋孫助母同弟長五郎方断書出ス悴源助義当正月
罷出行衛相知不申所ニ相尋申候所相見不申候百日過候而御断不
申上候然共迎も相見不申候ニ付何方如何様之義出来可仕も難斗御
座候町内人別差除被下置候様奉願旨御用所ニも申上候大目付中へ
達ス

十二月八日 御出席無之候

一林田町吉見屋助兵衛悴次助大坂中ノ嶋津山屋善六方へ奉公ニ差遣
申度来午歳迄五年間相勤申度旨承届ル

十二月九日

一伏見町作人長藏北側家屋敷表口式間半裏行拾三間御掘切但御役半
役也西隣ハ作人十助東隣者大工武助御座候代式百目相極同町田野
村屋市兵衛江壳渡申度奉存候旨

一西新町并筒屋善助願出候舟頭町舟本屋権右衛門所持仕候旗人宿屋
株当寅ル来午歳迄五ヶ年間借請商売仕度奉願候旨吟味上願之通申
付ル

(附)外旗籠株有之親類へ預株願候旨

一勝間田町山形屋喜兵衛宿切手撰州大坂南本町小法師利兵衛墨筆売
撰州堺墨筆売利右衛門手代武兵衛右之者罷越宿仕候旨

一今般御預り本多長門殿去月十九日江戸御発駕今日津山御着町分掃
除申付ル通筋町々横町前後人留メ申付ル土居泊八半時御着御先私
小頭石名平兵衛平組兩人差出ス町奉行東新町江罷出ル同所方長門
殿屋敷へ大目附中宛ニ而町分御懸候注進書付組者為持差遣ス同心組
四人供注進兼御連出ル御徒目付藤田弥八郎下目付老人東新町へ罷
出御先立罷帰ル御道筋二階町御門へ御入御人数左之通者頭三原金
太夫駕引馬長門殿御駕廻り大御番組八人中奥目付御従目付者頭芦
沢作十郎駕引馬大目付飯塚弥代駕引馬御年寄入江縫殿殿半弓荷有
之其外押足輕廿三人斗

一大年寄東新町へ罷出候様ニ申付尤袴羽織是ハ急度御指図ハ無之候得

共我等罷出候ニ付用夏為ニ罷出候様申付候

一 今般御用懸り大目付鈴木喜右衛門被相勤候

十二月十日 不時御用場有之

一 於御列座大目付立会御用番被仰渡候松山寿軒五人扶持被下長門殿屋敷江日々罷出可申候相勤候場合ハ大役人場へ心得勤可申旨被仰渡候尤急度被召出候ハ、無之候右之趣寿軒町奉行所へ呼出申渡ス尤呼出手紙ハ大年寄へ申遣ス右申渡相濟候段御用番大目附へ御届手紙遣ス

一 大目付廻状惣曲輪御門夜分出入之儀向後四時打分者挑灯無之候而ハ一切通シ不申候様御門預り物頭へ申達候間此段演説可致之旨御用所御申ニ候ても右之趣同心組牢番三軒屋へ申渡候様小頭申付ル

一 馬持共儀例年通拜借大豆願書差出候御用所へ申上ル御聞届相濟人数廿五人江大豆三俵宛来卯二月ハ七月迄月々ニ渡り大豆候而も上納可申旨證文裡判遣ス大豆七拾五俵之

十二月十一日

一 大目付鈴木喜右衛門ハ被申聞候ハ杉如柳義長門殿御療治ニ三浦十郎左衛門ハ呼遣可申旨罷出可申候尤当暮ニ御礼も可有之旨被申聞候旨大年寄呼出如柳へ右之趣申渡ス

一 備中御代官内方鉄五郎殿ハ伊達与兵衛殿へ書状二箱参候旨大年寄ハ届来ル

一 鳥屋与三兵衛方へ江戸表参候組者拾式三人一兩日宿仕候旨断出ル大年寄申来ル

一 西今町福本屋太兵衛願出候細工町垂馬屋新六持来候古道具取売私

相讓申度候旨申候付私相勤申度奉願請人美濃職人町家持人勘兵衛相立候旨

十二月十二日

一 寒氣御機嫌窺之御帳付拙者不快当病断不罷出候

十二月十三日 御用場無之

一 戸川町重屋忠六浜野屋文五郎家質返濟方十日切ニ申付置候処廿日日延断出ル大晦日切ニ申付ル

一 舟頭町安井屋佐右衛門北川家屋敷表口四間卷尺裏行六間卷尺御役老軒役東隣ハ作人弥右衛門西隣ハ高松屋治右衛門右之内東方表口式間卷尺裏行六間卷尺御役半役也代百匁相極同町船元屋利兵衛売渡申度旨

十二月十四日

一 九町ハ例年之通端米在方ハ諸色売懸受取申度願書指出候御用席へ御伺相濟勘定奉行中相談之上願之通指免候「」就右紛數儀無之様ニ申渡ス

一 伏見町作人長藏私義家内四人林田上ノ町七兵衛後家借家へ引越申度旨

十二月十五日

十二月十六日
十二月十七日

一 例年通惣町へ触書指出ス
一 非人目明ニ扶持受取證文致印形遣ス

十二月十八日 御用場有之

一 惣舟持共五拾四人江拜借年賦老貫八拾目老人江式十匁宛去西暮被為下御借但し代米方式割五年賦ニ上納仕候処今年迄相濟申候然上者又々前々通老貫八拾目御拜借奉願候旨御用席江及御無沙汰御借可被成旨勘定奉行栗田辰右衛門へ申談又證文指出候様申渡又

一 東新町茶屋五郎兵衛願西新町井筒屋善助所持仕候旗籠屋株当寅の午歲迄五ヶ年之間借受右旗籠屋仕度双方印形願出候承届

一 新魚町魚屋仁太夫東新町茶屋五郎兵衛田畑質入出入相濟候趣濟口断書差出又

一 勝間田町山形屋喜兵衛願出候播州網干新在家村加賀屋七三郎小間物おろし売ニ四五年已前迄罷越申候処近年病身罷成申候ニ付右弟善七と申者小間物風売りニ罷越申度旨願出候前帳之通遂吟味承届ル右株当主

十二月十九日

一 二階町堺屋伊右衛門宿切手伊勢内宮藤波神主手代岩本清兵衛与申候師罷越例年通宿仕候旨

一本源寺使僧澄老院參紛失物之義申聞候内々承置候

一 田邑蝕入牢五人百姓今日出牢同心組老人指出又郡代所へ相渡又尤直ニ御代官所ニ召連罷越候郡代所足輕老人罷出

十二月廿日

一 安岡町明石屋源六と申者老倭二宮村「印切手調置候院庄村助八へ当月二日ニ売渡申所右切手先達落切手ニ紛敷旨申候申ニ付取替遣候所二宮村喜平治罷越候而右切手少間かり申度旨申候付かし申所御藏へ持參候得ハ弥去月廿九日喜平治へ渡候切手ニ而落し切手ニ相

違無之旨申來候いか可仕旨断出候付勘定奉行大目付所へ及内談申候而先達而断出候印三十五と申出候而今更三十式之印之旨申出候而も調候者も相極候得ハ日数相立相違之義先達而申出候ニ付落主損ニ申付候源六方三十式之印ハ無滞通用可致之旨申渡又右筋立候付町方相触候

一 中町小山屋与三右衛門宿切手播州網干菊屋平右衛門同手代惣五郎例年之通嶋木綿売ニ昨日參申候宿仕候旨

一 京町塩屋新兵衛宿切手大坂錢屋七右衛門手代兵助小間物屋掛銀取昨日參宿仕候旨

十二月廿一日

一 林田村長栖町畑辺中ノ町重屋平「裏こやし小屋」非人初之丞「首括り相果居申候ニ付為見改神田権兵衛郡代下代神西作兵衛指出申候惣身痛無之様為自分首括り候ニ相違無之ニ付中ノ町年寄共立会せ書付取之柳土手死骸相渡取置候様申付

一 勝間田町山形屋喜兵衛宿切手播州網干新在家村賀々屋善七同手代多兵衛上下式人小間物おろし売昨日參候宿仕候旨

一 安岡町出雲屋太兵衛願出候橋本町虎屋清吉所持仕候旗籠屋株去戌歲方寅迄五年切預置商売仕候処又々來卯歲未歲迄五年間借請申度奉存候旨承届

一 東新町米屋伝三郎断出候私伯父弥吉儀先達御断申上大坂中嶋丹後屋治右衛門方江罷越居申候処去月十二月迄願申上候而當正月迄ニ罷帰可申答処來卯二月迄逗留仕度申越候趣申出

十二月廿二日

一舟持借用年賦銀壹貫八拾目五年賦濟崩證文認差出候付致奥書大年寄へ相渡ス尤先達伺相濟

十二月廿三日 御用場有之

一酒直段先月方米直段宜相成候依之式分上ケニ被為仰付被下候様惣酒屋共奉願頭分酒之義念入商売可仕之旨願出候例之通及御沙汰願之通申付候割合左之通

名酒只今迄壹匁三分 已後壹匁五分

上酒 同 壹匁 同 壹匁式分

中酒 同 八分 同 壹匁

下酒 同 六分 同 八分

下々酒同 四分五厘 同 六分

右之通断出候付近年直段遂吟味申候処當時五十六匁位相場ニ候得者四十匁五十匁迄ニ候得ハ上酒壹匁五十五匁余六十匁余候得ハ壹匁式分七十匁ニ相成候得ハ壹匁四分ニ壳積リ相聞候前々相場書等有之長右衛門添置

一於御用席被仰渡候志水友三〔米拾俵去歳之通被下候今年方年々拾表宛每歳被下候旨被仰渡候大目付所へも申達ス友三呼出右之趣申渡候

一小性町瓜生原屋惣兵衛宿切手播州磨賀古郡古宮村久藏米買ニ罷越候宿仕候旨

十二月廿四日

一材木町平福屋嘉兵衛願戸川町松岡屋与惣持来古道具取壳私相讓申度旨ニ付私相勤申度奉存候請人家持新魚町〔屋伝右衛門相立申

候旨承届

一舟頭町舟本屋權右衛門所持旅人宿屋株当寅歳方午歳迄西新町并筒屋善助へ貸置申候右株撰州大坂天満六丁目針口直シ針口屋左兵衛近年罷越不申処右者親類播州網干横浜菊屋弥七郎小間物おろし壳ニ御出入仕度旨申越候左兵衛跡へ奉願候卯正月十七日願之通申付ル

一河合友益願出候私方三益儀去ル子八月御願申上京都西洞院中道端方ニ医学執行三年間遣候処又々来卯歳迄逗留仕度奉存候旨

一堺町根田屋庄兵衛北側家屋敷表口七間半裏行拾間壹尺御役三步壹厘八毛役也東隣へ作人善七西隣へ檜波屋半五郎右家代三百目相極桶屋町山北屋伊兵衛へ壳渡申渡旨承届ル

十二月廿五日

十二月廿六日

一米相場 御藏米五拾七匁 書付中買出ス 町米五拾四匁

一堺町山北屋伊兵衛宿切手京都祇園成就院使僧三位上下三人旦那廻り罷越宿仕候旨

十二月廿七日

十二月廿八日 御用場有之

一志水友三下御屋敷就御用夜中罷出御門出入も有之依之大文字合印挑灯付候事御免被成旨大目付市村番右衛門ヲ以被仰渡候右之趣友三呼出申渡ス

十二月廿九日

一舟頭町熊能屋理左衛門大村屋源右衛門と質家屋敷受取候旨出入相濟趣以書付申出候

一大村屋源右衛門家屋敷南側而表口三間式尺五寸裏行六間半但御役老間役也東隣作人四郎兵衛西隣者大村屋与助ニ而御座候右家屋敷町内五人組相談之上代銀札四百四拾匁相極熊野屋利左衛門売渡し申渡旨

一舟頭町取売安井屋きん願私儀先年古道具屋仲間相極り候後取売商売仕度旨願指上候所御聞届被遊難有奉存候然ル所年罷寄渡世得仕不申ニ付至極及難義依右株私姪そめへ相譲り取売為仕度奉存候旨願候再心遂吟味古道具株ニハ無之取売株斗ニ差免候

津山郷土博物館紀要第五号

津山松平藩町奉行日記二

平成五年三月三十一日 発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地

印刷 岡 印 刷 所

岡山県津山市平福五〇一六

